

IP OFFICE シリーズ

S/M/L タイプ
SII/MII/LII タイプ

取扱説明書

IP 多機能電話機編



- 本書は製品を安全にご使用いただくための注意事項が書かれています。ご使用になる前に必ずお読みください。
- ご使用になる間は、本書を製品の近くに保管していつでもご活用できるようにしてください。

このたびは、「IP OFFICE」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。

IP OFFICE では、用途と規模に応じて、以下の 3 つの機種を用意しております。

	IP OFFICE Sタイプ IP OFFICE SIIタイプ	IP OFFICE Mタイプ IP OFFICE MIIタイプ	IP OFFICE Lタイプ IP OFFICE LIIタイプ
総ポート 物理ポート数(論理ポート数)	22(26)	46(82)	384(768)
適用回線	デジタル回線(INS ネット64) アナログ回線 IP 電話回線 SIP 専用線	デジタル回線(INS ネット64) アナログ回線 IP 電話回線 SIP 専用線 OD 専用線 LD 専用線	デジタル回線(INS ネット64/1500) アナログ回線 IP 電話回線 SIP 専用線 OD 専用線 LD 専用線
総外線 物理ポート数(論理ポート数)	4(20)	12(44)	192(192)
総内線 物理ポート数(論理ポート数)	18(26)	34(82)	288(768)

※本書では、IP OFFICE を「主装置」と記載しています。

※総外線の論理ポート数は、IP 電話回線と SIP 専用線を含んだ外線の合計数です。

※総内線の論理ポート数は、IP 内線とデジタルコードレス電話機(UM)内線を含んだ内線の合計数です。

ご注意

- 本製品は、電話番号に代表される、個人情報情報の保存または保持可能な商品です。設置工事、保守、廃棄、譲渡および返却される際は、本製品内に保存または保持された個人情報情報を消去する必要があります。
- ご使用の際は、本書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、日本国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品を分解したり改造することは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 本製品を設置するための配線工事および修理は、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故の元になりますので、絶対におやめください。
- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店にお申しつけください。
- 本書の内容、外観については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- その他、本書に記載されている会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

免責事項

- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本装置の使用または使用不能から生じる付随的な損害(記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機会の喪失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 電話サービスを利用することによる金銭上の損害、および逸失利益について第三者からのいかなる請求についても当社はその責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

安全にお使いいただくために

必ずお読みください

本書には、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の説明

表示	説明
 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害(※2)を負う可能性が想定される内容および物的損害(※3)のみの発生が想定される内容を示しています。

※1： 重傷とは失明・けが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

※2： 傷害とは治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※3： 物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

表示	説明
 禁止	禁止(してはいけないこと)を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。
 強制	強制(必ずすること)を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実施してください。

⚠ 危険

 強制	<p>電池パックはプラス⊕・マイナス⊖の向きが決められています。コードレス電話機に接続するときは、プラス⊕、マイナス⊖の向きを確かめてください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 禁止	<p>電池パックを単体では充電しないでください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 禁止	<p>電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 禁止  分解禁止	<p>電池パックを分解・改造しないでください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 強制	<p>電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火の中に投入したり、加熱しない ・直接はんだ付けしない ・プラス⊕・マイナス⊖を針金などの金属類で接触させない ・水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない ・針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない
 強制	<p>電池パック内部の液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください</p>
 強制	<p>不要になったリチウムイオン電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うようにしてください</p> <p>電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。</p>

 **警告**

 禁止	<p>取付位置を変更しないでください 火災・感電・けがの原因となります。 配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>主装置の通風孔や電話機の開口部などから、金属類を入れないでください 火災・感電・故障の原因となります。万一、金属類が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。</p>
 禁止  ぬれ手禁止	<p>主装置をぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないでください 感電の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>万一、内部に水などが入った場合、そのまま使用しないでください すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>主装置、電話機の上や近くに液体の入った容器(花びん・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・小さな金属など)を置かないでください 液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電・故障の原因となります。万一、液体が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。</p>
 禁止  接触禁止	<p>雷が鳴り出したら、主装置・電源コードなどに触れないでください 感電の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>万一、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなどの異常状態が発生した場合、そのまま使用しないでください すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。なお、お客様による修理は危険ですからおやめください。</p>
 禁止	<p>一般のゴミとして放置しないでください 火災・けがの原因となります。 廃棄するときは、販売店にご相談ください。</p>
 禁止	<p>AC100V ± 10V の商用電源以外は、絶対に使用しないでください 火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止	<p>内線・外線の各端子をショートさせないでください 火災・故障の原因となります。</p>
 強制	<p>電源プラグを電源コンセントへ直接接続してください 延長コードは過熱・発火の危険があるので使わないでください。</p>

 **警告**

 禁止	<p>テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください 火災・過熱の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>主装置、電話機を傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないでください 落下・転倒により、けがの原因となります。万一、落下・転倒により破損したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止  ぬれ手禁止	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください 感電・けがの原因となります。</p>
 禁止  火気禁止	<p>主装置、電話機に火の気を近づけたり、加熱しないでください 鉛蓄電池(バッテリー)が液もれ・発熱・破裂し、火災・けがの原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>電源コードおよび電話機コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工しないでください コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだ場合は(芯線の露出、断線など)主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店に交換をご依頼ください。</p>
 禁止	<p>工事者以外は、装置の蓋などを開けないでください 感電、故障の原因となります。</p>
 強制	<p>電源プラグは電源コンセントの奥までしっかり差し込んでください 電源プラグの刃に、金属などが触れると火災・感電・故障の原因となります。</p>
 強制	<p>電源プラグの刃および刃の取付面に、ほこりが付着している場合は、よくふいてください 火災の原因となります。</p>
 強制  電源プラグを抜く	<p>主装置に鉛蓄電池(バッテリー)を使用する場合、寿命は(使用頻度にもよりますが)設置後2～3年(長寿命バッテリーの場合は6年)です。交換時期になりましたら、販売店にまとめて交換をご依頼ください 寿命が過ぎた鉛蓄電池(バッテリー)を使用し続けるとバッテリー内部の液もれの原因となります。万一、バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれることがあります。また、バッテリー内部の液もれが発生したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止	<p>機器で指定されていないバッテリーは使用しないでください。また、新しいバッテリーと古いバッテリーと混ぜての使用はしないでください 電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。</p>
 禁止  分解禁止	<p>分解・改造・修理しないでください 火災・感電・故障の原因となります。 電話機の改造は法令違反となります。故障のときは、販売店に修理をご依頼ください。</p>

 **警告**

 	強制 電源プラグを抜く	<p>万一異物が、本装置および電話機の内部に入った場合は、まず本装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。</p>
	強制	<p>主装置の内部の点検・修理は、販売店に依頼してください</p>
	禁止	<p>歩行中に電話機を操作したり見たりしないでください 転倒・交通事故などの原因となります。</p>
	禁止	<p>電話機を電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	禁止	<p>引火性ガスが発生する場所では、電話機を絶対に充電しないでください 火災の原因となります。</p>
 	禁止 電源プラグを抜く	<p>万一、充電器が落下したり、破損した場合は、そのまま使用しないでください 必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>
	禁止	<p>本装置を医療用電気機器（ペースメーカーなど）の近くで使用しないでください 電波により医療用電気機器に影響を与えることがあります。</p>
	禁止	<p>高精度な制御や、微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください 電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また、使用を制限された場所での使用はお控えください。 (ご注意ください。電子機器の例：補聴器・医療用電子機器・ペースメーカー・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など)</p>
	禁止	<p>充電器の開口部から金属類を入れないでください 万一、内部に異物が入った場合は、すぐに AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>充電端子を金属でショートさせないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	禁止	<p>充電端子に水滴のついたまま充電しないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	強制	<p>電池パックが液もれしたり、異臭がするときは、すぐに火気から遠ざけてください</p>
	強制	<p>所定の充電時間を越えても充電が完了しない場合には、すぐに充電をやめて、お買い求めの販売店にご連絡ください</p>
 	禁止 ぬれ手禁止	<p>ぬれた手で電池パックを交換したり、ぬれた手で充電器の AC アダプタを抜き差ししないでください 感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>付属の AC アダプタ、充電器以外を使用しないでください 火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。</p>
	強制	<p>AC アダプタ、充電器は指定の電源コンセントに接続してください それ以外の電源コンセントに接続すると火災・感電・故障の原因となります。</p>

 警告	
 強制	電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください
 禁止	LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを電源コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線 (ISDN)、PBX デジタル電話回線には接続しないでください 火災・感電・故障の原因となります。

 注意	
 強制	必ずアースを接続してください アース接続をしないで使用すると感電・故障の原因となることがあります。
 強制	主装置や電話機を壁掛けに変更するときは、販売店にご相談ください 配線工事を行うには資格が必要です。また、主装置や電話機の重みに耐える専用壁掛け金具を使用して適正な取り付けが必要です。
 禁止	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください 電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。
 禁止	振動・衝撃の多い場所に置かないでください 火災・感電・故障の原因となります。また落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
 禁止	主装置や電話機を上下逆さまの状態を設置しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	主装置、電話機の上に乗ったり、座ったりしないでください けがや故障の原因となることがあります。
 禁止	直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください 内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
 禁止	湿気やほこりの多い場所、潮風、腐食性ガスのかかる場所、化学反応を起こすような場所 (化学実験室など) には置かないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	調理台のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	電源コードおよび電話機コードを熱器具に近づけないでください コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	落下させるほどの強い衝撃を与えないでください
 強制	移動させる場合は、電源プラグを電源コンセントから抜き、回線コードや電話機コードなど外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	主装置や電話機の開口部をふさがないでください 開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

 禁止	<p>電気雑音を発生するものに近い場所に置かないでください 通話に雑音が入ったり、使用できなくなることがあります。</p> <p><電気雑音の原因としては></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車やオートバイが近くを通る場合 ・放送局や無線局(アマチュア無線、CB 無線など)の近くで使用する場合 ・テレビ・ラジオ・蛍光灯・OA 機器・電子レンジ・電気コタツなどの近くで使用する場合 ・高周波溶接機・高周波ミシン・電気溶接機・ワイヤカッタなどの工作機械の近くで使用する場合
 禁止	<p>強い磁界の発生源の近くに設置しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>火のそばや炎天下などの高温の場所で、充電はしないでください 高温になると危険を防止する保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れる原因となります。</p>
 強制	<p>電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください 誤飲、感電の原因となります。</p>
 強制	<p>長時間で使用にならないときは、安全のため必ず充電器の AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください 発火・故障の原因となります。 主装置については、常時電源を「ON」の状態にしておいても問題ありません。</p>
 強制	<p>AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず AC アダプタまたは電源プラグを持って抜いてください 電源コードを引っ張ると、電源コードが傷つき、火災・感電・断線の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>コードレス電話機のアンテナを持って持ち運んだり、アンテナを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください 故障の原因となります。</p>
 注意	<p>電話機等の底面には、ゴム製のスベリ止めを使用しています。ゴムとの接触面がまれに変色することがあります</p>
 注意	<p>コードレス電話機のアンテナを誤って目にささないようにしてください</p>
 注意	<p>アンテナなどの突起物を目や口などに入れないようにしてください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください</p>
 強制	<p>充電器をお手入れする際は、安全のため、あらかじめ AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください 感電の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>充電器の上に指輪、ネックレスなどの金属類を置かないでください 金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。</p>
 強制	<p>充電は周囲温度 5℃～35℃の範囲で行ってください 正常な充電ができなかったり、故障の原因となります。</p>
 強制	<p>お手入れの際は安全のために、本装置の電源スイッチを切ってから電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください</p>

 注意	
 強制	水滴がついた場合は、乾いた布でふき取ってください 本装置および電話機の内部に水滴が入ると、火災・故障の原因となることがあります。
 禁止	表面が熱に弱い家具の上などの表面が熱に弱い場所には、本装置および電話機を置かないでください 家具等の表面が変色・変形する場合があります。
 禁止	本装置および電話機の上に手をついたり、ものを載せないでください 火災や故障の原因となります。
 禁止	ぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールおよびシリコン系クリーナーなどでふかないでください 本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、柔らかい布でからぶきしてください。
 禁止	受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれている電話機コードを強く引っ張らないでください 故障の原因となることがあります。

IP 回線の特性について

- 下記のような場合には、IP 電話サービスの通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
 - ・ WAN(ブロードバンド)回線の接続状態によって十分な帯域がとれない場合
 - ・ インターネット上で十分な帯域がとれない場合
 - ・ 主装置に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- 相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。
 - ・ ADSL 回線をご利用の場合は、下りの伝送速度よりも上りの伝送速度のほうが低いため、通話中にインターネット上のサーバへ大きなファイルを送信したり、他拠点との間でファイルを転送することは避けてください。また、LAN 内に、インターネットにアクセスできる Web サーバ、FTP サーバなどを設置しないでください。

SIP 電話機および IP 多機能電話機の特性について

- 下記のような場合には、電話機の通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
 - ・ LAN の接続状態によって、十分な帯域がとれない場合
 - ・ LAN に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- 相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。

取扱上のお願い / 主装置、電話機、他

停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた逸失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください

本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください

本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります

テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります

放送局の近くや違法C/B無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、販売店にご相談ください

別売品の停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「ON」のまま、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください

バッテリーが放電してしまい、停電時に動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因となります。

コードレス電話機を設置するときは、親機から約3m以上離してください
親機にあまり近い場合は、コードレス電話機が正常に動作しないことがあります。

デジタルコードレス電話機(DC)の側面に取り付けられたゴムキャップを取り外さないでください
ゴムキャップがないまま、ぬれた手で使用すると、故障や感電の原因となります。

コードレス電話機は、防水対応ではありません

寒い戸外から急に暖かい室内にコードレス電話機を持ち込むと、急激な温度変化により、コードレス電話機内部に水滴(結露)がつくことがあります。結露が生じたときは電源を切って、水滴が蒸発するまでしばらく放置しておいてください

結露したまま使用すると、故障の原因となります。

コードレス電話機の通話は盗聴されにくくなっていますが、電波を利用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合があります。この点を十分に留意して使用してください

目次

安全にお使いいただくために	i
---------------	---

お使いになる前に	xvii
-----------------	-------------

取扱説明書の見かた	xvii
略図の説明	xviii
本書の構成	xix
構成図	xx
主装置についてのご注意	xxii

第 1 章 電話機の取り扱い	1
-----------------------	----------

1-1 電話機の各部の説明	2
各部の名称と説明	2
●正面の説明	2
●背面と底面の説明	3
ディスプレイ表示	4
●ディスプレイの見かた	4
●ディスプレイ画面の例	5
ランプ表示	6
音の種類一覧	7
システム管理電話機と一般ユーザ電話機	7
1-2 電話機の調節	8
電話機の角度調節	8
電話機のファンクションカバーの取り付け / 取り外し	9
音量の調節(電話機独自機能)	10
●受話音量を調節する	10
●スピーカの音量を調節する	11
●着信音量を調節する	11
●側音量を調節する	12
●ボタンを押したときの音を調節する	12
着信音の音色の選択	13
ディスプレイ表示の調整(電話機独自機能)	13
●ディスプレイの濃淡を調整する(LCD コントラスト調整)	13
●ディスプレイのバックライトタイマを調節する	14
●ディスプレイのバックライトの色を設定する	14
1-3 ディスプレイメニューの使いかた(電話機独自機能)	15
メニューを操作するボタンの使いかた	15
ディスプレイメニューの構成	16
1-4 文字入力方法(電話機独自機能)	18
●文字入力モードの切り替え	18
●文字の入力方法	19
●濁点・半濁点の入力方法	19
●文字入力ボタン一覧	20
●漢字の入力方法	21
●カナの入力方法	22
●文字の修正 / 挿入 / 削除方法	23

1-5 電話機への機能の登録	24
オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける	24
内線名称の登録	25
1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)	26
電話帳に登録する項目	26
電話帳グループ	26
電話帳に情報を登録する	27
●電話番号を入力して登録する	27
●発着信履歴から電話帳に登録する	28
電話帳を編集・削除する	29
●電話帳を編集する	29
●電話帳を削除する	29
1-7 その他の機能	30
保留音の設定	30

第2章 基本的な使いかた

31

2-1 外線にかける	32
電話番号をダイヤルしてかける	32
●外線ボタンを使ってかける(任意外線発信)	32
●発信ボタンを使ってかける(自動選局発信)	32
●受話器を上げてダイヤルするだけでかける(オフフック自動外線捕捉)	32
最後にかけた相手に再度かける(リダイヤル)	33
電話番号を確認してかける(プリセットダイヤル)	33
オートダイヤル機能を使ってかける(ワンタッチダイヤル)	34
電話帳を使って電話をかける(電話帳発信)(電話機独自機能)	35
発信履歴 / 着信履歴から電話する(履歴発信)(電話機独自機能)	36
2-2 内線にかける	37
内線番号をダイヤルしてかける(内線個別呼出(音声 / 信号))	37
電話番号を確認してかける(内線プリセット発信)	38
最後にかけた相手に再度かける(内線リダイヤル)	38
発信履歴 / 着信履歴から電話する(内線発着信履歴)(電話機独自機能)	39
2-3 外線からの電話を受ける	40
外線ボタンを押して受ける(任意外線着信応答)	40
受話器を上げるだけで受ける(オフフック外線自動応答)	40
DIL/DID 着信に応答する	41
2-4 内線からの電話を受ける	42
受話器を上げるだけで受ける	42
音声呼出に応答する	42
受話器を置いたままで音声呼出に応答する(内線ハンズフリー応答)	42
同じグループ内の別の電話を受ける(代理応答(コールピックアップ))	43
他のグループの電話を受ける(グループ指定代理応答)	43
2-5 通話を保留する	44
他の電話機で再応答できるように保留する(システム保留 / パーク保留)	45
他の電話機では再応答できないように保留する(自己保留)	46
2-6 通話を転送する(手動転送)	47
転送先に呼びかけて転送する(口頭転送)	47
転送先と通話してから転送する(ダイヤル転送)	48
転送先と通話しないで転送する(強制転送)	49
かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する(チェンジオーバー)	50

3-1 電話をかけるときの便利な使いかた	52
●受話器を上げずにダイヤルする(オンフックダイヤル)	52
●受話器を上げるだけでかける(オフフック自動ダイヤル)	52
外線にかけるとき	53
●指定した回線からかける(指定外線捕捉)	53
●指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する(方路選局発信)	53
●外線へのかけ直しを繰り返す(オートリピート)	54
●外線発信時に発番号の通知/非通知を切り替える	55
●指定した番号への発信を規制する(発信禁止番号登録)	56
●内線電話機から緊急ダイヤルへ電話をかける(緊急ダイヤル発信)	56
内線にかけるとき	57
●内線登録したオートダイヤルボタンでかける(内線ワンタッチコール)	57
●受話器を置かずに別の内線にかける(リセットコール)	57
●指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す(内線グループ音声呼出)	58
●指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す(内線 DGL 呼出)	59
●内線へのかけ直しを繰り返す(内線オートリピート)	60
●内線電話を予約する(内線キャンプオン)	60
3-2 電話を受けるときの便利な使いかた	61
外線を受けるとき	61
●通話中に外線から電話がかかってきたことがわかるようにする(話中着信音)	61
●外線ごとに着信音を選択する(外線別着信音種指定)	61
●外線ごとに鳴動電話機を指定する	61
●特定のグループへ着信した電話に応答する(DGL 着信/MSA 着信)	62
3-3 保留/転送操作時の便利な使いかた	63
●ワンタッチダイヤルボタンで内線に転送する	63
●外線からの着信を任意の外線に転送する(公一公接続)	64
3-4 通話中の便利な使いかた	65
●受話器を置いたままで通話する(ハンズフリー通話)	65
●相手の音声をスピーカで聞く(スピーカ受話)	66
●通話相手にこちらの音声を聞こえないようにする(送話ミュート)	66
●フックフラッシュ信号(フッキング信号)を送る(フックフラッシュ送出)	67
●プッシュホン信号を送る(PB エンド・ツー・エンド通信)	67
3-5 電話に応答できないときの便利な機能	68
外線からの着信を自動で転送する(外線自動転送)	69
●外線自動転送の設定	69
●外線自動転送モードを手動で ON/OFF する	71
●外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する(外線自動転送モード自動切替)	71
不在時にかかってきた電話を転送する(不在転送)	72
●不在 ON/OFF を設定する	72
●不在転送先を設定する(不在転送設定)	73
一定時間応答しないときに転送する(無応答転送)	76
一定時間応答しないときに転送する(一般系無応答転送)	76
3-6 通話中に着信があったときの便利な機能	77
通話中の着信相手に一時待ってもらう(着信ウェイトメッセージ)	77
通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)	78
3-7 外出先からの便利な機能	79
外出先から設定を変更する(転送リモコン)	79
●外出先から会社に電話をかけて転送リモコンを開始する	79
●外出先から外線自動転送モードを変更する	80
●外出先から不在設定の ON/OFF を切り替える	80

外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)	81
●外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する	81
●外出先から留守番モードを切り替える	82
●外出先から利用/切替できる留守番電話機能	83
外出先から電話して各種機能を利用する(付加番号 DID)	84
●外出先から直接内線に電話する	84
●外出先から直接電話できる着信先	84
外出先から会社のシステムを使って電話をかける(リモートコールバック)	85
●リモートコールバック応答後の電話のかけかた	85
3-8 便利な機能設定	86
時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)	86
●夜間モードを手動で切り替える	86
●夜間モードを自動で切り替える	87
1 台の電話機に着信させる(集中着信)	87
●集中着信モードの ON/OFF を切り替える	87
システムカレンダーを利用する	88
2 つの機能を 1 つの操作で設定できるようにする(W 機能セット)	89
●2 つの機能モードを同時に設定/解除する	89
3-9 便利なお知らせ機能	90
FAX に着信があったことを内線電話機で表示する(FAX 着信お知らせ)	90
●FAX 着信のお知らせを表示/確認する	90

第 4 章 その他の便利な機能

91

4-1 便利な機能を使いこなす	92
迷惑電話 / 非通知電話を拒否する	92
●通話中の相手の電話番号を迷惑電話番号として登録する	92
●電話番号を指定して迷惑電話番号として登録する	92
3 人以上で通話をする(多者通話)	93
●会議通話を招集する(会議通話)	93
●外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)	94
●他者の通話に割り込む(割込通話)	94
●話し中の相手の通話に割り込む(割込通話)	95
●他の電話の通話内容を聞く(通話モニタ)	95
自分が待機中であることを相手に知らせる	96
●呼出相手の電話操作が終わり次第、着信音を鳴らす(コールウェイティング)	96
●他者と通話中の相手にブザー音を鳴らして知らせる(トーンオーバーライド)	97
回線の使用を一時的に制限する	98
●外線 / 専用線からの着信を一時的に制限する(回線使用制限)	98
●外線の着信音を一時的に鳴らさない(外線着信鳴動拒否)	99
●DGL グループ電話機への着信呼数を制限する(DGL 呼数制限)	99
4-2 公衆網サービスの利用	100
アナログ外線サービスを利用する	100
●ナンバーディスプレイを利用する	100
●キャッチホンを利用する	101
●モデムダイヤルインを利用する	101
●ボイスワープを利用する	102
ISDN 外線サービスを利用する	103
●INS ナンバーディスプレイを利用する	103
●INS ボイスワープおよび INS ボイスワープセレクトを利用する	103
●転送元電話番号受信サービスを利用する	105
●i・ナンバーを利用する	105
●迷惑電話お断りサービスを利用する	106
4-3 外部ネットワークとの接続	107
VoIP 外線の各種サービスを利用する	107
●IP 電話サービスを利用する	107

ルータ機能を利用する	108
●LAN インターフェース接続	108
●WAN インターフェース接続	108
SIP 専用線を利用する	109
ビハインド接続時の便利な機能	110
●ポーズ信号を自動挿入する(オートポーズ)	110
●PBX 外線接続について(ビハインド)	110
4-4 インターネット機能の利用	111
インターネット機能を便利に使う	111
●外線転送結果をメールで送信する(外線転送メール送信)	111
●緊急地震速報を受信する(緊急地震速報)	111
4-5 外部機器との接続	112
外部機器を利用する	112
●状態表示盤(MBD)との接続	112
●構内放送装置との接続	113
●ドアホンとの接続	114
●ヘッドセットとの接続	116
●外部音源との接続	117
●コールスピーカとの接続	117
4-6 停電時の機能	118
停電時の対応機能について	118
●停電中に一定時間電話の機能を維持する	118
4-7 主装置の設定	119
主装置の各種設定について	119
●パソコンの Web ブラウザで Web 設定を利用する	119

第 5 章 ボイスメールの使いかた

121

5-1 お使いになる前に	122
ボイスメールのシステム概要	122
ボイスメールシステムを利用する機能	123
ボイスメールの取扱上のご注意	123
ボイスメールの用語と説明	124
ボイスメールで使用するボタン	125
メッセージの状態表示	126
ボタンとランプ動作一覧	127
5-2 基本的な使いかた	128
留守番機能	128
留守番機能の設定と使いかた(手動切替)	129
●手動で留守番モードを設定 / 解除する	129
●手動切替時の留守番機能の動作を設定する	132
留守番機能の設定と使いかた(自動切替)	134
●自動で留守番モードを設定 / 解除する(留守番モード自動切替)	134
●自動切替時の留守番機能の動作を設定する	134
留守番機能の設定と使いかた(共通)	134
●留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する	134
●留守番起動時間を設定する	134
●外出先から留守番モードや留守番機能を設定する	135
●留守番録音されたメッセージの有無を確認する	135
ワンショット留守番	136
●ワンショット留守番の動作を設定する	136
●ワンショット留守番機能で応答する	136
各種代行機能	137
●不在代行を設定する	137
●話中代行を設定する	139

●無応答代行を設定する	139
●外線着信代行を設定する	139
通話録音(通話メモ)	140
●通話を録音する	140
●自動で通話が録音されるように設定/解除する(自動通話録音)	143
メールボックス用電話帳を利用する	144
●メールボックス用電話帳からメールボックスを指定する	144
●メールボックスへの録音先や転送先をメールボックス用電話帳から指定する	145
メールサービスを利用する	146
●メールセンターへ接続してメールボックスにログオンする	147
●メールボックスからログオフしてメールセンターから切断する	148
●外出先からメールボックスを利用する	149
●録音されているメッセージを再生する	150
●再生したメッセージを他のメールボックスへ転送する (メールボックス間メッセージ転送)	151
●メッセージ再生中にできる操作と内容	152
●ボイスメールシステムの動作条件を設定する	153
メールボックスにメッセージを録音する	154
●メールボックスにメッセージを録音する(クイックメッセージ録音)	154
5-3 便利な使いかた	155
メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)	155
●メッセージ録音の電話での通知先を登録する(録音通知設定)	156
●メッセージ録音のEメールでの通知先を登録する(録音通知設定)	156
●各録音機能でメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する	157
録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)	158
●再生中のメッセージにコメントを付ける	158
録音メッセージを外部に保存する	159
●Web設定を利用してメッセージを保存/削除する(メッセージ外部保存(手動))	159
●外部FTPサーバへの自動保存を設定する(メッセージ外部保存(自動))	159

付録 A 161

A-1 用語説明	162
A-2 特番一覧	166
A-3 各種機能の初期設定値	169
A-4 機能特番の一覧	170
A-5 メロディー一覧	172
A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表	173

付録 B 177

B-1 故障かな?とお考えになる前に	178
●機能ランプをリセットするには	178

索引 179

操作早見表 185

IP 多機能電話機

お使いになる前に

取扱説明書の見かた

この取扱説明書は次のフォーマットをベースに記載してあります。

見出し

機能を示す見出し
タイトルです。

機能概要

機能の内容を簡単に
説明しています。

章タイトル

第2章
基本的な使いかた

補足説明

操作手順の補足的
な内容を説明して
います。

2-1 外線にかける

2-1 外線にかける

● 電話番号をダイヤルしてかける

外線ボタンを使ってかける(任意外線発信)

ランプが消灯している (外線) を押し、次に電話番号をダイヤルします。

- 1 受話器を上げる
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 ランプが消灯している (外線) を
押し
 - 外線とつながり、外線発信音に変わります。
 - (外線) ランプは点灯(緑)し、他の電話機
の (外線) ランプは、点灯(赤)します。
- 3 相手の電話番号をダイヤルする
相手が応答すると、通話できます。
- 4 通話が終了したら、受話器を置く
 (外線) ランプは、消灯します。

MEMO

- (外線) は初期設定で に登録されています。
- 方路を指定してかけることもできます(第3章の「指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する(方路選局発信)」(▶ P.53)を参照)。
- ISDN/VoIP 外線の場合は、相手の電話番号をダイヤルしたあと、 を押しすぐに発信できます。
- 相手に自分の電話番号を通知したくないとき、相手の電話番号をダイヤルする前に、1B4を押すことで、非通知発信になります。発信番号非通知の詳細については、第3章の「外線発信時に発信番号の通知/非通知を切り替える」(▶ P.55)を参照してください。

発信ボタンを使ってかける(自動選局発信)

- 1 受話器を上げる
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 (発信) を押し
外線とつながり、外線発信音に変わります。
- 3 相手の電話番号をダイヤルする
相手が応答すると、通話できます。
- 4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

(発信) の代わりに、自動選局特番(例えば)を押しても外線とつながります。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ に (発信) を登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)を参照してください。

受話器を上げてダイヤルするだけでかける(オフフック自動外線捕捉)

- 1 受話器を上げる(オフフック)
外線とつながり、外線発信音に変わります。
- 2 相手の電話番号をダイヤルする
相手が応答すると、通話できます。
- 3 通話が終了したら、受話器を置く(オフフック)

工事設定

この機能を使用するには、あらかじめオフフック自動ダイヤル番号に自動選局特番(例えば)を登録しておく必要があります。販売店にご相談ください。

MEMO

関連項目や注意点を
説明しています。

操作手順説明

操作や表示内容を
簡単に説明してい
ます。

工事設定

工事者による設定
が必要なため、販売
店にご相談いた
だきたいことを説明
しています。

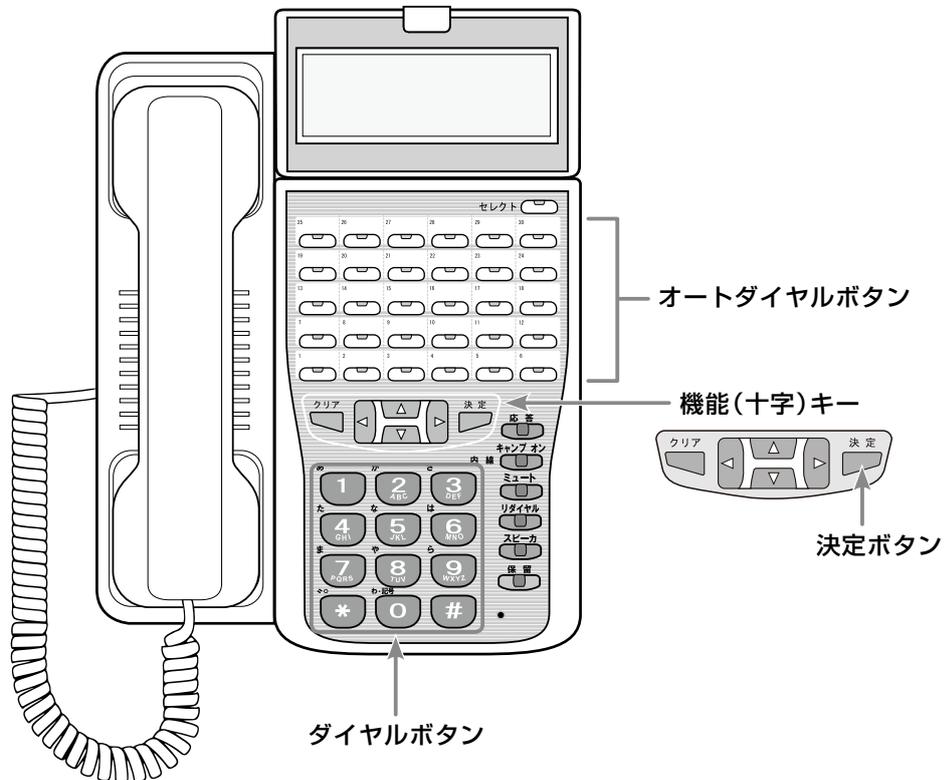
略図の説明

IP 多機能電話機

受話器を置いている状態を基本とします。

略図	説明
	ダイヤルボタン
	各機能名称のボタン/ランプ
	機能を割り付けられたオートダイヤルボタン/ランプ (XXX は機能名)

略図	説明
	機能(十字)キーの決定ボタン
	機能(十字)キーのクリアボタン
	機能(十字)キーの上下ボタン
	機能(十字)キーの左ボタン
	機能(十字)キーの右ボタン
	機能(十字)キーの上ボタン
	機能(十字)キーの下ボタン



- 各ボタンの操作の詳細やディスプレイの見かたについては、「1-1 電話機の各部の説明」(→ P.2)を参照してください。

本書の構成

安全にお使いいただくために

安全にお使いいただくための注意事項について、記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

お使いになる前に（本章）

本書の見かたと IP 多機能電話機編での表記の説明について、まとめてあります。

第 1 章 電話機の取り扱い

IP 多機能電話機の各部の名称やランプ表示、ディスプレイの見かたなど、本システムをご利用いただく上で必要な予備知識を説明しています。

また、電話機の角度、音量など、電話機の調節のしかたについても説明します。

さらに、電話機独自機能の使いかたや文字入力の方法、電話帳への登録方法についても説明します。

第 2 章 基本的な使いかた

電話のかけかた、受けかた、通話を保留して転送する方法など、IP 多機能電話機の基本的な操作方法を説明しています。

第 3 章 便利な使いかた（応用操作）

電話をかけるときや受けるとき、また通話中などに利用できる便利な機能、夜間や留守中など電話に出られない場合に利用できる便利な機能などを説明しています。

また、外出先から利用できる設定機能や、便利な設定やお知らせ機能についても説明します。

第 4 章 その他の便利な機能

会議通話や回線数の制限、公衆網や外部ネットワーク、インターネットとの接続など、さらに便利な機能について説明しています。また、構内放送装置などの外部機器を接続しているときの操作や、停電時の省電力機能、主装置の設定を行える「Web 設定」についても紹介しています。

第 5 章 ボイスメールの使いかた

音声のメッセージを利用できるボイスメールについて、機能と使いかたを説明しています。

留守や不在、通話中などで着信に回答できなかったときに、留守番電話のように代わりに回答してメッセージを録音できるような機能（留守番機能、代行機能）や、通話中の音声を録音できる機能、内線相手がいなかったときに、相手のメールボックスに音声メッセージを録音しておくことができる機能などについても、説明します。

付録 A

電話の操作で利用できる特番や機能特番、および電話に登録できる機能の一覧などを掲載しています。また、用語解説、特番や機能の初期設定の値についても掲載しています。

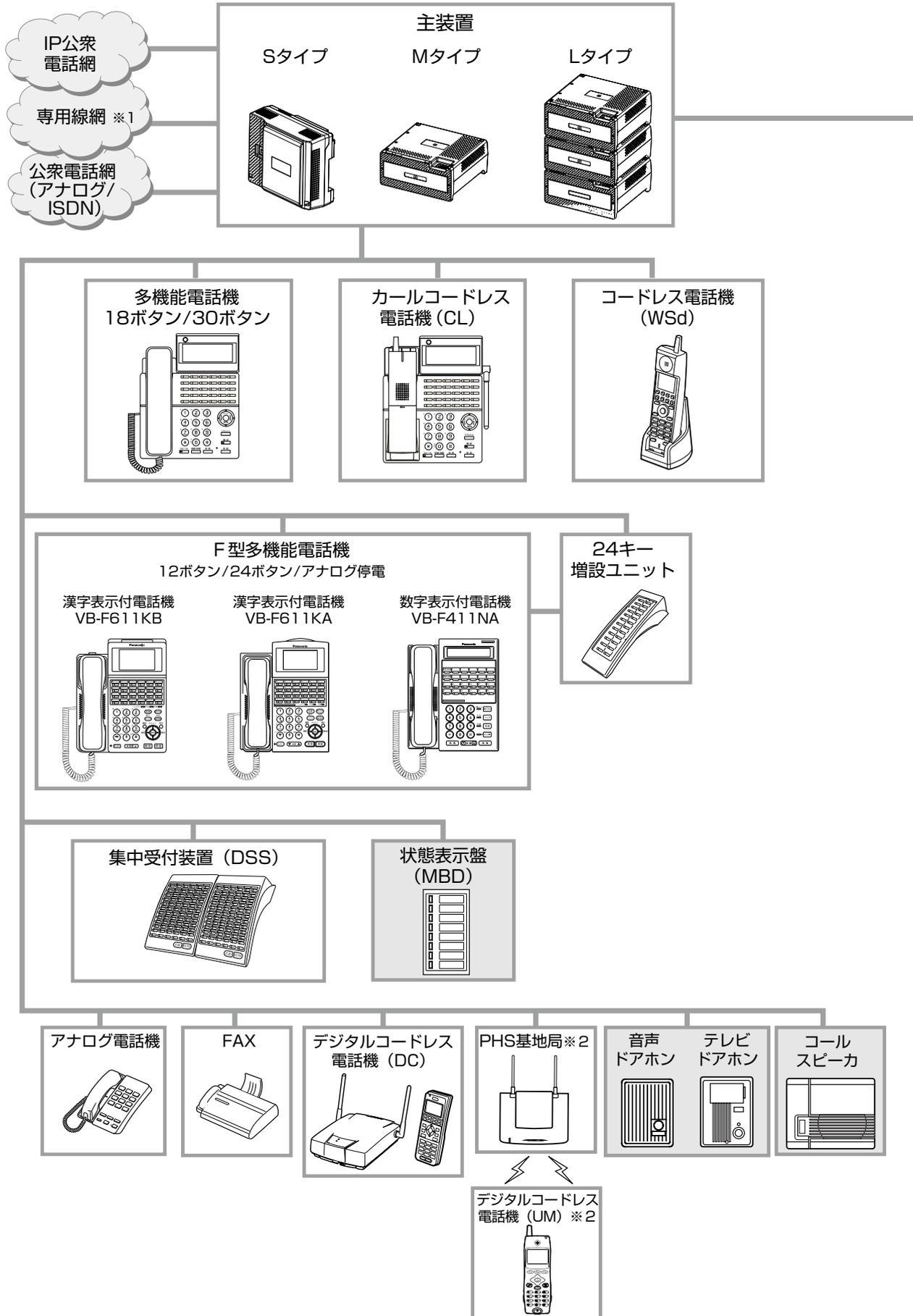
付録 B

電話がかけられなかったり、着信音が鳴らないなど、お困りのときに、故障とお考えになる前にご確認くださいことを説明しています。

操作早見表

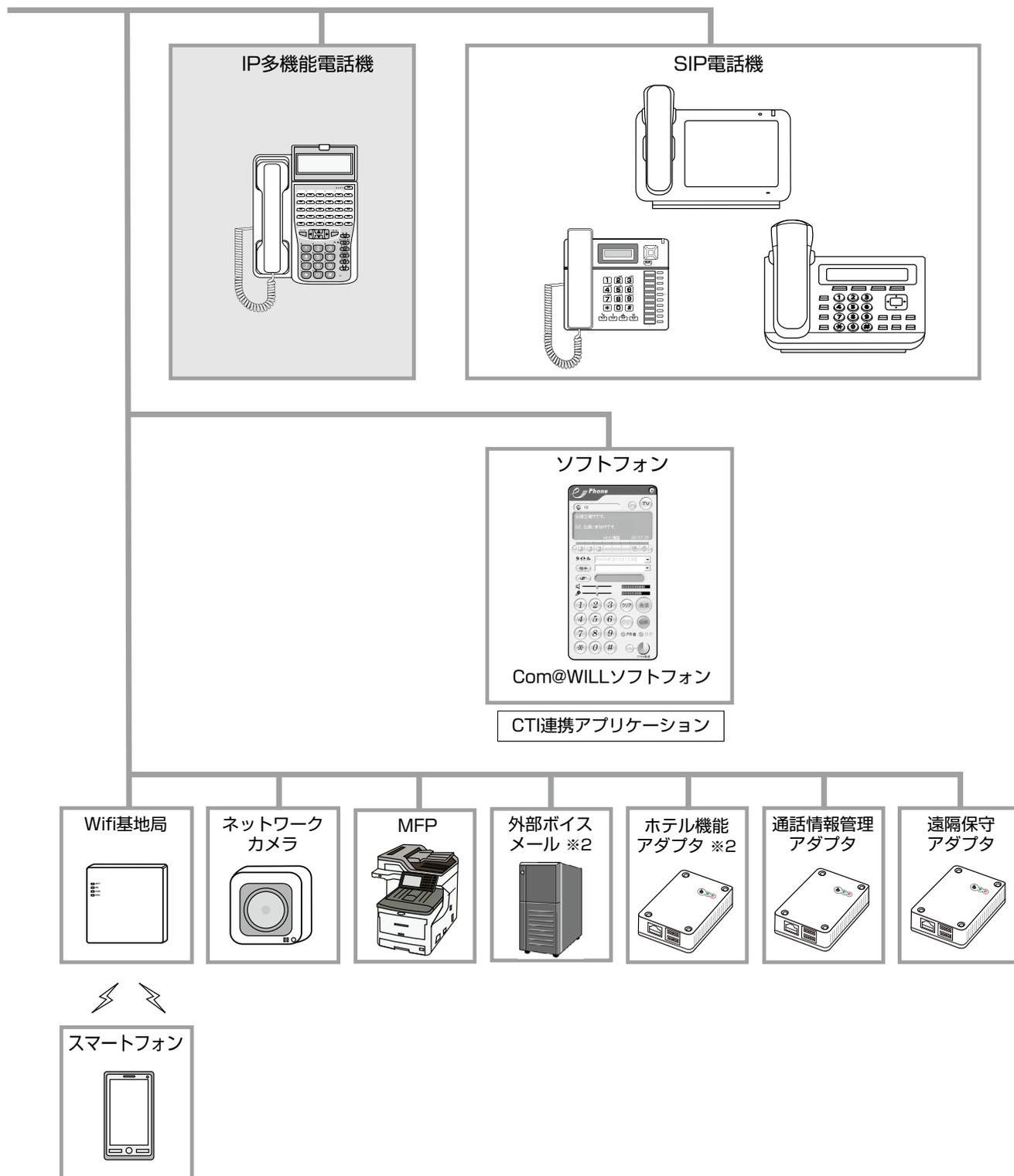
本システムで利用できる電話機ごとに、電話のかけかたや受けかた、保留・転送などの基本操作が一目で分かるような早見表を掲載しています。

構成図



お使いになる前に

※ 1: アナログ(OD/LD)専用線は、M/Lタイプ主装置でのみ利用できます。SIP専用線はS/M/Lタイプ主装置で利用できます。
 ※ 2: この端末は、M/Lタイプ主装置の場合のみ接続可能です。
 本書では、で囲んだ端末について説明しています。その他の端末については、各端末の取扱説明書を参照してください。



お使いになる前に

主装置についてのご注意

主装置の電源を OFF にする前に

長期休暇の前など、主装置の電源を OFF にする場合は、事前に、電話機からの操作で、主装置の設定データ（例えば、登録した電話帳データなど）を保存してから電源を OFF にしてください。
この操作は、多機能電話機（システム管理電話機）で行います。操作手順については『取扱説明書（多機能電話機編）』を参照してください。

注意

主装置の設定データの保存は、特定の周期ごとに実行されています。主装置の電源を OFF にする前には、必ずデータ保存操作を行ってください。この操作を行わずに電源を OFF にした場合は、設定データ保存周期の間に登録されたデータが消えてしまいます。

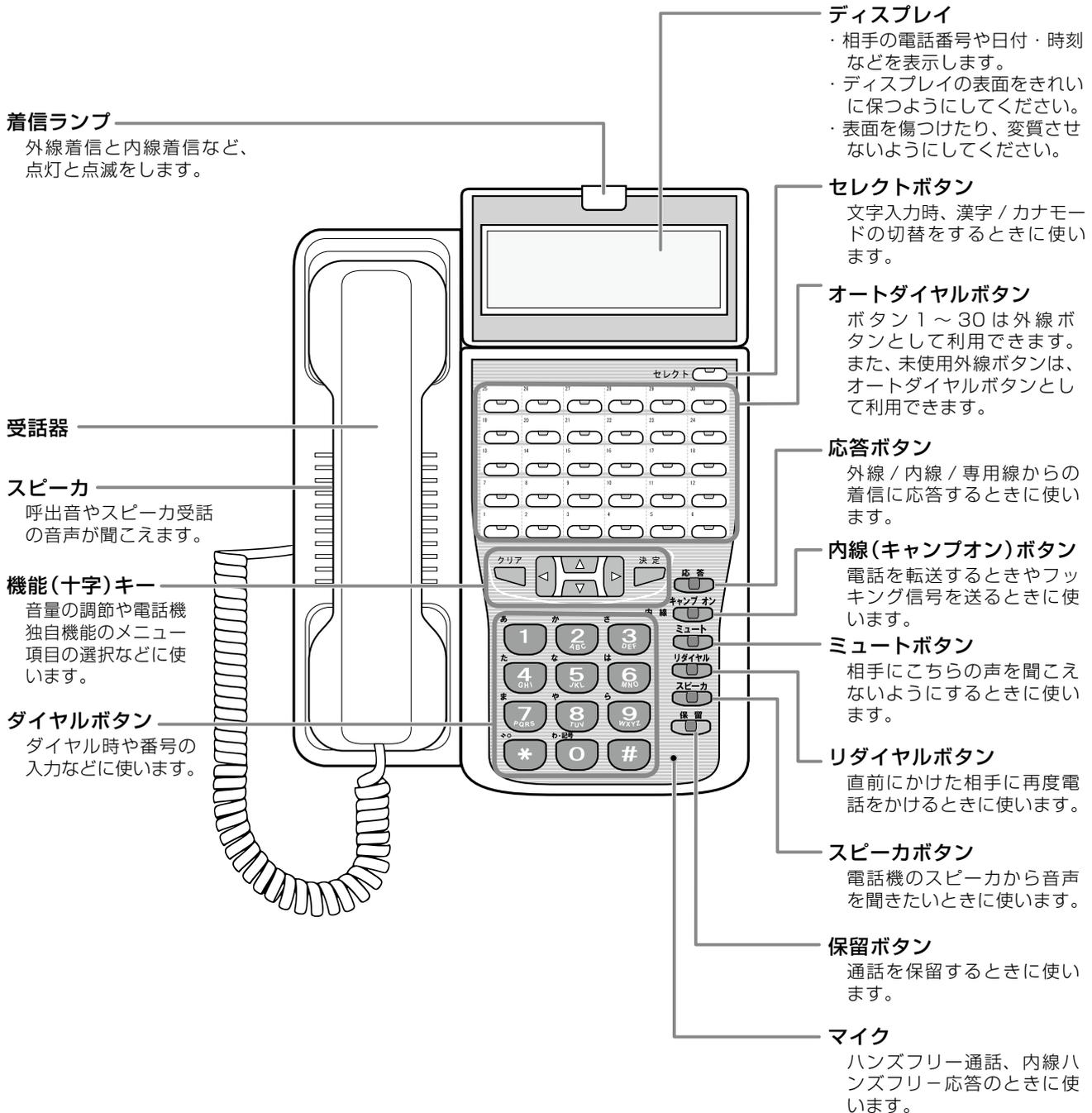
第 1 章 電話機の取り扱い

1-1 電話機の各部の説明	2
1-2 電話機の調節	8
1-3 ディ스플레이メニューの使いかた(電話機独自機能)	15
1-4 文字入力方法(電話機独自機能)	18
1-5 電話機への機能の登録	24
1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)	26
1-7 その他の機能	30

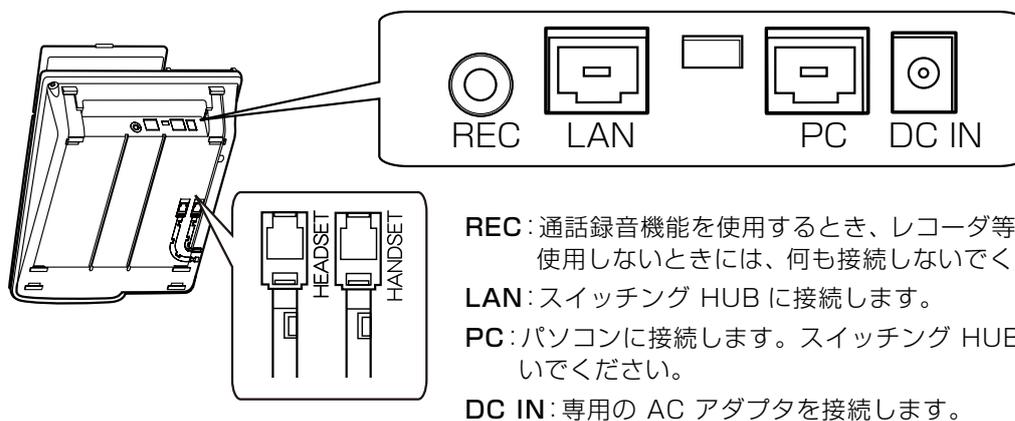
1-1 電話機の各部の説明

各部の名称と説明

正面の説明



背面と底面の説明



REC: 通話録音機能を使用するとき、レコーダ等を接続します。
使用しないときには、何も接続しないでください。

LAN: スイッチング HUB に接続します。

PC: パソコンに接続します。スイッチング HUB には接続しないでください。

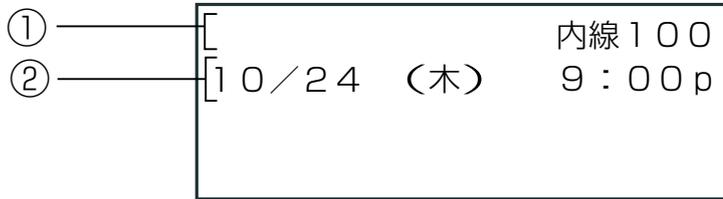
DC IN: 専用の AC アダプタを接続します。

HANDSET: 受話器(ハンドセット)が接続されています。

HEADSET: 別売のヘッドセットを接続します。ヘッドセットを使用しないときには、何も接続しないでください。

● ディスプレイ表示

ディスプレイの見かた



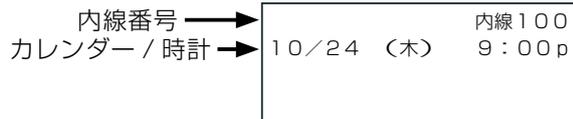
番号	表示例	内容
①	内線 100 (待機状態)	呼種別、通話時間、内線番号などが表示される
	留守録 A T 内線 100 (留守番状態)	留守番動作と留守番グループ名、切替方式(T:自動)、内線番号が表示される。 参照:「留守番機能の設定と使いかた(手動切替)」(▶P.129)
②	10/24 (木) 9:00p	カレンダー、時計が表示される。 Web 設定 または多機能電話機(システム管理電話機)を使用すると、システム共通のカレンダー/時計の年、月、日、時刻を変更することができます。 Web 設定の操作方法については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。 多機能電話機の操作方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)]を参照してください。

MEMO

待機表示の時刻表示を 24 時間制から 12 時間制に変更したり、月日の表示を英語大文字、英語小文字などに変更することができます。変更する場合は、多機能電話機(システム管理電話機)で行ってください。

ディスプレイ画面の例

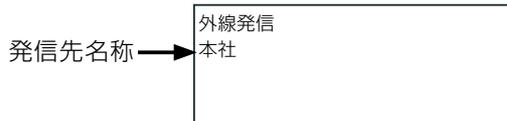
■ 通常表示(待機状態)



■ 外線ダイヤル入力中



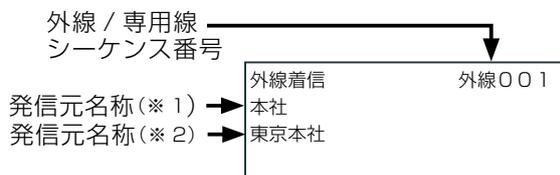
■ 外線発信中: 主装置の電話帳に名前の登録があるとき



■ 外線発信中: 電話帳に登録がないとき

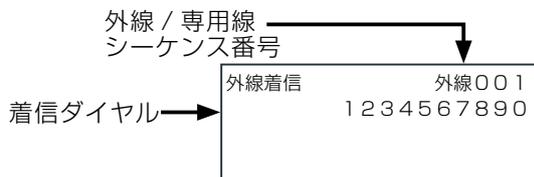


■ 外線着信中: 電話帳に名前の登録があるとき



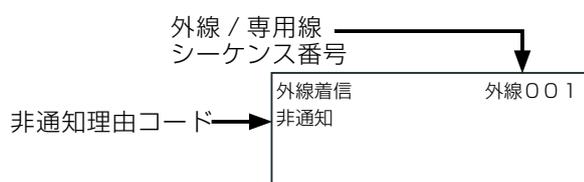
- ※1: 主装置の電話帳に登録されている名前
 ※2: 電話機で独自に持っている電話帳に登録されている名前

■ 外線着信中: 電話帳に名前の登録がないとき



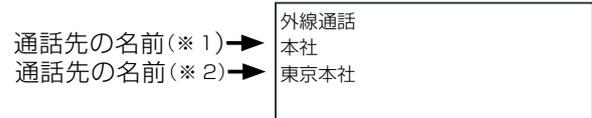
- ※電話会社が提供する番号表示サービス契約回線からの着信時は、相手の電話番号が「着信ダイヤル」として表示されます。

■ 外線着信中: 非通知のとき



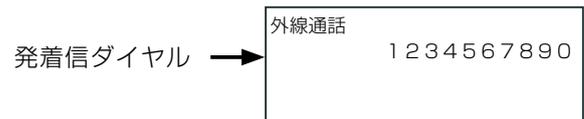
- ※非通知理由コードには、「表示圏外」「非通知」「公衆電話」のいずれかが表示されるか、コードなし(何も表示されない)場合があります。

■ 外線通話中: 電話帳に名前の登録があるとき



- ※1: 主装置の電話帳に登録されている名前
 ※2: 電話機で独自に持っている電話帳に登録されている名前

■ 外線通話中: 電話帳に名前の登録がないとき



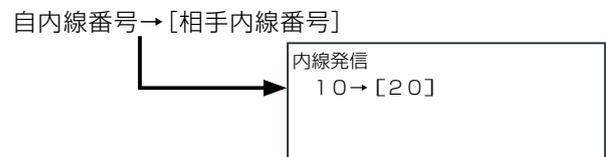
- ※条件によっては、2行目に通話時間が表示されることもあります。

■ 外線通話中: 非通知のとき



- ※条件によっては、2行目に通話時間が表示されることもあります。

■ 内線発信中: 相手内線に内線名称が登録されていないとき



■ 内線着信中: 相手内線に内線名称が登録されていないとき



■ 内線着信中: 相手内線に内線名称が登録されているとき



MEMO

- 内線名称の登録については「内線名称の登録」(▶ P.25)を参照してください。
- 電話帳(電話機が独自に持っている電話帳)の登録については「1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)」(▶ P.26)を参照してください。
- 非通知については第3章の「外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える」(▶ P.55)を参照してください。

ランプ表示

ランプの種類	ランプのつきかた(色)	ランプの意味(電話機の状態)
着信ランプ	速い点滅(赤)	以下のような着信あり ● 外線一般系着信 ● 外線個別着信 ● 専用線着信 ● 内線着信 ● ドアホン着信 ● 強制転送された着信あり
		緊急地震速報
	遅い点滅(赤)	FAX 着信(お知らせ)
	点灯(赤)	録音表示(ボイスメールメッセージありのとき) ハウラ音が鳴っている
外線ランプ	点灯(緑)	自分の電話機で使用中
	点灯(赤)	他の電話機で使用中、回線使用中、使用制限中
	速い点滅(赤)	外線着信中
	速い点滅(緑)	他の電話機で保留した通話あり。または、強制転送した通話あり(操作した電話機の表示)
		着信ウェイト中(応答操作していない電話機の表示)
	遅い点滅(赤)	秘話解除中
	速い交互点灯(緑橙)	保留警告音が鳴っている。または強制転送された着信あり
遅い交互点灯(緑橙)	着信ウェイト中(応答操作した電話機の表示)	
	自分の電話機で保留した通話あり	
スピーカランプ	点灯(赤)	スピーカ受話中

● 音の種類一覧

種類		音	発生源	
発信音	外線発信音	ツーー	受話器またはスピーカ	
	内線発信音	ツーツー…		
呼出音 (→P.165)	音声呼び	プー	受話器またはスピーカ	
	信号呼び	ブルルルル・・・ブルルルル…		
着信音	内線着信音	音声呼び	ピピッ	スピーカ
		信号呼び	ブルブル・・・ブルブル…	
	外線、PBX 経由外線	ブルルルル・・・ブルルルル…		
	DIL、DID、外線の強制転送 PBX 経由の DIL、DID	ブルブルブル・・・ブルブルブル…		
	PBX 経由内線、 内線の強制転送	ブルブル・・・ブルブル…		
通話中の外線、 通話中のドアホン	プー・・・プー…			
話中音		ツーツーツー…	受話器またはスピーカ	
登録完了音		ピ	受話器またはスピーカ	
保留音		メロディ♪	受話器またはスピーカ	
保留警告音		プー・・・プー…	スピーカ	
エラー音		ピーピー	受話器またはスピーカ	
付加番号 DID の内線発信音、 リモートコールバックの内線発信音		ブブブブブ…	外線に送出	
付加番号 DID の話中音		プップーッ (3 回繰り返し)		
付加番号 DID の呼出音		ブルルルル・・・ブルルルル…		

※上の表の「…」は、音の繰り返しを示しています。「・・・」は音が鳴っていない状態を示しています。

● システム管理電話機と一般ユーザ電話機

電話機は工事設定により、システム管理者が使用するシステム管理電話機と、それ以外の利用者が使用する一般ユーザ電話機に分かれています。

■ システム管理電話機

システム共通の設定や、データの表示・変更などができます。

■ 一般ユーザ電話機

自身の電話機についての設定やデータの表示・変更などができます。

※システム管理電話機の台数を増やしたい場合は、販売店にご相談ください。

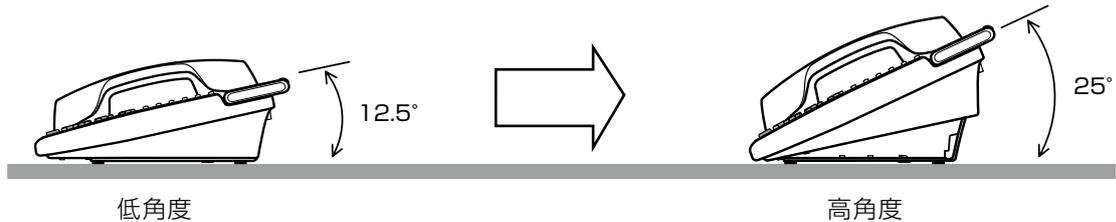
1-2 電話機の調節

ここでは、電話機の角度の調節や、ファンクションカバーの取り付け/取外し、音量や音色の調節、電話機のディスプレイ表示の調節について説明します。

電話機の角度調節

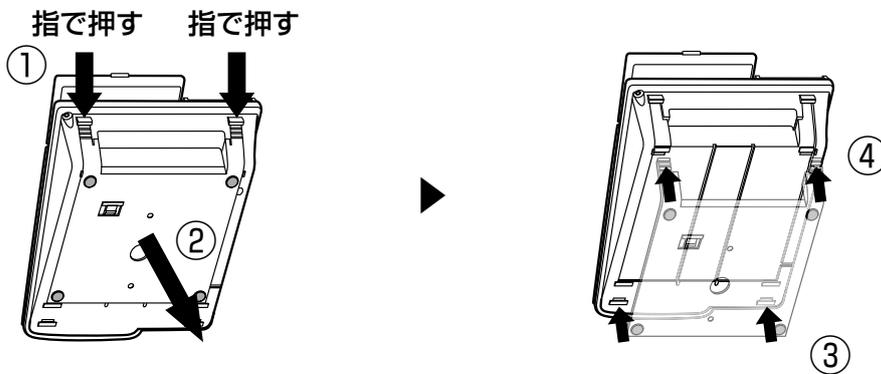
電話機本体の角度調節

IP 多機能電話機は、低角度と高角度の 2 段階で角度調節ができます。



■ 低角度から高角度に角度調節するには

1. 電話機を立て、電話機底面に付いているチルト台の上側 2 カ所のツメを指で押下げ (①)、チルト台を電話機から取り外します (②)。
2. チルト台の下側 2 カ所のツメ (③) を電話機の裏面の下側の溝に差し込みます。
3. 上側 2 カ所のツメ (④) を差し込みます。



ディスプレイの角度調節

ディスプレイの上側を持ってゆっくりと動かします。
カチッと音がするところで止めます (5 段階)。
※力を入れすぎないように注意してください。



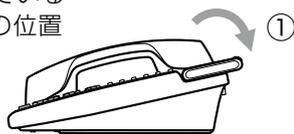
● 電話機のファンクションカバーの取り付け / 取り外し

電話機のボディカラーの好みに合わせて、ファンクションカードを交換できます。ファンクションカードを交換するときは、ファンクションカバーを外して交換してください。別のファンクションカードは、添付品です。

※ファンクションカードの交換の際は、ラインコードを抜いてから作業を行ってください。

ファンクションカバーの外しかた

1. ディスプレイを起こしている場合は、電話機と水平の位置に戻します(①)。



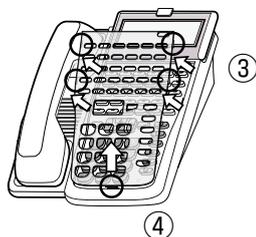
2. ファンクションカバーの上側中央の穴に先の細いものを差し込み(②)、ファンクションカバーを浮かすように持ち上げます。



注意

このとき、ディスプレイに力が加わらないように注意してください。

3. 4カ所の左右のツメを外れます(③)。



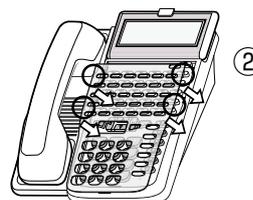
4. 1番下のツメを上方に引き抜き(④)、ファンクションカバーを取り外します。

ファンクションカバーの取り付けかた

1. 最初に下側中央のツメ(①)を溝に差し込みます。



2. 残りのツメ(②)を下側から順番に溝に差し込みます。



● 音量の調節(電話機独自機能)

ここでは、電話機の音量調節について、以下のことを説明します。

- 「受話音量を調節する」(→ P.10)
- 「スピーカの音量を調節する」(→ P.11)
- 「着信音量を調節する」(→ P.11)
- 「側音量を調節する」(→ P.12)
- 「ボタンを押したときの音を調節する」(→ P.12)

MEMO

電話機の音量は、電話機のメニュー(電話機独自機能)を使って調節できます。メニューの使いかたや構成については「1-3 ディスプレイメニューの使いかた(電話機独自機能)」(→ P.15)を参照してください。

受話音量を調節する

受話器から聞こえる音量を調節することができます(5段階)。お買い上げ時は「レベル3」です。

通話中に受話音量を調節するには

1 受話器で通話中

2

▲ ▼ を押して受話音量を調節する

- ▲ を押すと、受話器から聞こえる音声が大きくなります。
- ▼ を押すと、受話器から聞こえる音声が小さくなります。

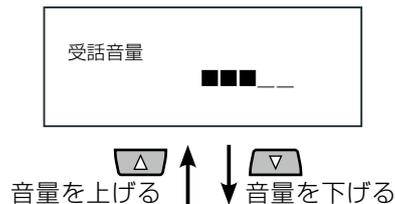
待受中に受話音量を調節するには

1 待受画面で、^{決定}を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

4

▲ ▼ を押して受話音量を調節する



▲ ▼ を押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。

2 ▲ ▼ で [音設定] を選択して、^{決定}を押す

メインメニュー
電話帳
通話履歴
>音設定

3 ▲ ▼ で [受話音量] を選択して、^{決定}を押す

音設定メニュー
着信音量
>受話音量
マルチライン着信音色

5

^{決定}を押す

受話音量が設定されます。

スピーカの音量を調節する

スピーカから聞こえる音量を調節することができます(8段階)。

スピーカから音声がかかっているときに 、 を押し、スピーカの音量を調整することができます。お買い上げ時は「レベル5」です。

- 大きくする場合は  を押します。
- 小さくする場合は  を押します。

着信音量を調節する

外線、内線、ドアホンなどからの着信音量を調節することができます(5段階)。お買い上げ時は「レベル4」です。

1 待受画面で、 を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で [音設定] を選択して、 を押す

メインメニュー
電話帳
通話履歴
>音設定

3 で [着信音量] を選択して、 を押す

音設定メニュー
>着信音量
受話音量
マルチライン着信音色

4 を押し、着信音量を調節する

着信音量 

 ↑ 音量を上げる ↓  音量を下げる

着信音量 

  を押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。

5 を押す

着信音量が設定されます。

MEMO

着信音が鳴っているときに   を押し、着信音量を調節することもできます。

MEMO

選択項目が多いメニューでは、  でカーソルを移動するとメニューがスクロールし、表示されていない項目を選択できます。先頭と最後の項目はつながってスクロール表示されます。電話機独自機能のメニューについては「ディスプレイメニューの構成」(▶ P.16)、「メニューを操作するボタンの使いかた」(▶ P.15)を参照してください。

側音量を調節する

側音量とは、通話中に自分の音声を受話器から自分の耳に入ってくる音のことです。側音量は3段階で調節することができます(OFFも含む)。お買い上げ時は「レベル1」に設定されています。

1 待受画面で、を押す
電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2   で [音設定] を選択して、 を押す

メインメニュー
電話帳
通話履歴
>音設定

3   で [側音] を選択して、 を押す

音設定メニュー
マルチライン着信音色
着信音色
>側音

4   を押して側音量を調節する

側音 

 ↑ ↓ 
音量を上げる 音量を下げる

側音 

 ↑ ↓ 
音量を上げる 音量を下げる

側音 OFF

  を押すごとに、音量が1段階ずつ変わります。

5  を押す
側音量が設定されます。

ボタンを押したときの音を調節する

ボタンを押したときの音を鳴らすか鳴らさないか、オン/オフで設定できます。お買い上げ時は「オン」です。

1 待受画面で、を押す
電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2   で [音設定] を選択して、 を押す

メインメニュー
電話帳
通話履歴
>音設定

3   で [キー操作音] を選択して、 を押す

音設定メニュー
着信音色
側音
>キー操作音

4   を押して、キー操作音の [オン] または、[オフ] を選択する

キー操作音
>オン
オフ

5  を押す
ボタンを押したときの音のオン/オフが設定されます。

● 着信音の音色の選択

電話がかかってきたときの呼出音(信号呼出のときの着信音)を変えることができます(8種類)。

IP多機能電話機では、主装置の設定で着信音の音色を変更します。着信音の音色の設定については、販売店にご相談ください。

MEMO

主装置の音源を使った着信音は、電話機の設定で「着信音色 1」の場合のみ鳴らすことができます。お買い上げ時は「着信音色 1」なので、変更しないでください。

工事設定

この機能を設定する場合は、販売店にご相談ください。

● ディスプレイ表示の調整(電話機独自機能)

ディスプレイの濃淡を調整する(LCDコントラスト調整)

電話機のディスプレイのコントラストを8段階で調節することができます。お買い上げ時は「レベル4」です。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で[サービス設定]を選択して、を押す

メインメニュー
通話履歴
音設定
>サービス設定

3 で[LCD濃度切替]を選択して、を押す

サービス設定メニュー
>LCD濃度切替
ヘッドセット切替
アドレス確認

4

を押して LCD 濃度を調整する



 ↑ ↓ 
濃くする ↑ ↓ 薄くする



  を押すごとに、濃度が1段階ずつ変わります。

5

を押す

ディスプレイの濃度が設定されます。

ディスプレイのバックライトタイマを調節する

ディスプレイのバックライトが点灯してから、消灯するまでの時間を変更することができます。以下のいずれかから選択できます。お買い上げ時の状態は、「無操作 5秒保持」です。

バックライトタイマの設定値	説明
無操作 5秒保持	操作終了後、5秒間点灯します。
無操作 10秒保持	操作終了後、10秒間点灯します。
無操作 30秒保持	操作終了後、30秒間点灯します。
即時消灯	操作終了後、すぐに消灯します。
常時消灯	使用中または待機中、常に消灯状態です。
常時点灯	使用中または待機中、常に点灯状態です。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で [サービス設定] を選択して、を押す

メインメニュー
通話履歴
音設定
>サービス設定

3 で [バックライトタイマ切替] を選択して、を押す

サービス設定メニュー
ROMバージョン確認
バックライトベース色切替
>バックライトタイマ切替

4 でバックライトタイマの設定値を選択する

「無操作 5秒保持」、「無操作 10秒保持」、「無操作 30秒保持」、「即時消灯」、「常時消灯」、「常時点灯」のいずれかを選択します。

バックライトタイマ切替
>無操作 5秒保持
無操作 10秒保持
無操作 30秒保持

5 を押す

バックライトタイマが、選んだ値に設定されます。

ディスプレイのバックライトの色を設定する

ディスプレイのバックライトの色を、グリーンとオレンジのどちらかに設定することができます。お買い上げ時の色はグリーンです。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で [サービス設定] を選択して、を押す

メインメニュー
通話履歴
音設定
>サービス設定

3 で [バックライトベース色切替] を選択して、を押す

サービス設定メニュー
端末ID確認
ROMバージョン確認
>バックライトベース色切替

4 でバックライトの色を選択する

バックライトベース色切替
>グリーン
オレンジ

5 を押す

バックライトの色が設定されます。

1-3 ディスプレイメニューの使いかた(電話機独自機能)

● メニューを操作するボタンの使いかた

電話機のディスプレイにメニューを表示して、電話機の音やディスプレイ表示の調節や、発信履歴、着信履歴の参照などを操作することができます(電話機独自機能)。メニューは、次のボタンを使用して操作できます。

ボタン	操作の タイミング	操作内容	説明
	待受状態	メインメニューの表示	メインメニューを表示します。
	メニュー操作中	設定・登録・変更の決定	設定・登録・変更の内容を決定します。 漢字入力の変換最終決定に使用します。
	待受状態	電話帳の表示	電話機で独自に持っている電話帳を表示します。
 	メニュー操作中	項目の選択	メニュー内の項目の選択とデータの検索に使用します。
	待受状態	発信履歴 / 着信履歴の表示	 ボタンを押すと電話機で独自に持っている発信履歴を表示します。  ボタンを押すと電話機で独自に持っている着信履歴を表示します。
	文字入力中	文字入力時のカーソル移動	文字入力時のカーソルの移動、変換対象の変更に使用します。
	文字入力中	文字の削除 変換のキャンセル	文字入力時に、入力した文字を 1 文字削除、またカーソル位置の 1 文字を削除するときに使用します。長押しで入力した文字をすべて削除することもできます。
	メニュー操作中	メインメニューへ戻る	1 つ前のメニュー画面に戻ります(メインメニューを除く)。
	文字入力中	入力切替	文字を入力するときに、入力モード(「漢字」「カタカナ」「英字(全角)」「数字(全角)」)の切り替えに使用します。 電話帳(電話機で独自に持っている電話帳)の登録内容を表示する場合、電話番号表示形式の切替(16桁表示 / 32桁表示)をします。

● ディスプレイメニューの構成

メインメニューおよびサブメニューのメニュー項目を以下に示します。
(ページは、詳細説明が記載されているページです。)

- 待受画面で  を押すと、メインメニューの画面が表示されます。
-  で後続の項目を、 で前の項目を表示します。また、 を押すと1つ前のメニュー項目画面に戻ります。
- 各メニューを選択するには、メニューから   で項目を選択して  を押します。
- 選択項目が多いメニューでは、  でカーソルを移動するとメニューがスクロールし、表示されていない項目を選択できます。先頭と最後の項目はつながってスクロール表示されます。

メインメニュー	サブメニュー	説明	参照先
電話帳	登録	電話帳(電話機で独自に持っている電話帳)に電話番号や名前を登録する画面が表示されます。	P.26
	表示	電話帳(電話機で独自に持っている電話帳)の検索画面が表示されます。	P.35
通話履歴	発信履歴	発信履歴を選択する画面が表示されます。	P.36
	着信履歴	着信履歴を選択する画面が表示されます。	P.36
音設定	着信音量	着信音量を調節する画面が表示されます。	P.11
	受話音量	受話器から聞こえる音量を調節する画面が表示されます。	P.10
	マルチライン着信音色	マルチライン着信時の着信音色を選択する画面が表示されます。	—
	着信音色	着信音の音色を選択する画面が表示されます。	P.13
	側音	受話器で自分が話した声が聞こえるときの音量を調節する画面が表示されます。	P.12
	キー操作音	電話機のボタンを操作したときに音を鳴らすかどうかを選択する画面が表示されます。	P.12
	音声呼出し予告音	音声呼出し予告音の有/無を切り替えます。	—
	送話音量	受話器(ハンドセット)/ヘッドセット送話音量を5段階に切り替えます。	—
	マイクミュート	内線ハンズフリー応答時のマイク有効/無効を切り替える画面が表示されます。マイクミュートオンに設定しておく、他の電話機から音声呼出を受けたときにマイクはミュート状態であるため、こちらの音声は伝わりません。ミュートキーを押下し、ミュートを解除することでこちらの音声を伝えることができます。音声呼出以外は、本設定は無効です。	—
	マイク音量	ハンズフリーのマイク音量を切り替えます。	—
	マイ e おと通話切替	マイ e おと 1/マイ e おと 2/OFF の3段階で切り替えます。	—
	マイ e おと切替キー設定	マイ e おと切替キーの ON/OFF を切り替えることができます。	—
	録音音量	録音音量を2段階で切り替えます。	—
	エコーキャンセラ	エコーキャンセラの有/無を切り替えることができます。 ※受話器(ハンドセット)の受話口から送話口に回り込む音をキャンセルする機能	—
	ローカルトーン音量	ローカルトーン(エラー音、確認音、音声呼出予告音、保留警告音、話中着信音)の音量を調節する画面が表示されます。	—

メインメニュー	サブメニュー	説明	参照先
サービス設定	LCD 濃度切替	電話機のディスプレイの濃度を調整する画面が表示されます。	P.13
	ヘッドセット切替	ヘッドセットと受話器(ハンドセット)を切り替える画面が表示されます。	P.116
	アドレス確認	設定 / 取得されている IP アドレスを確認することができます。	—
	VLAN 確認	VLAN-ID を確認することができます。	—
	CA 設定確認	接続する CA 設定の確認を行います。	—
	上位装置 ID 確認	主装置バージョンおよび CCU-ID の確認をすることができます。	—
	端末 ID 確認	本主装置では未サポート	—
	ROM バージョン確認	ファームウェア (IPL 部、運用部) の ROM バージョンを表示します。	—
	バックライトベース色切替	電話機のディスプレイのバックライトの色の選択画面が表示されます。	P.14
	バックライトタイマ切替	電話機のディスプレイのバックライトの点灯時間を選択する画面が表示されます。	P.14
	メモリリセット	電話帳情報および発信履歴情報・着信履歴情報をすべて削除します。	—
	電話帳転送	電話帳情報の PC への送信および PC からの受信を TFTP にて行います。	—

1-4 文字入力方法(電話機独自機能)

電話帳の名前を登録する場合など、電話機から文字入力が必要なときがあります。
ここでは、以下の漢字、カタカナ、英字、数字の文字入力の操作について説明します。

- 「文字入力モードの切り替え」(➡ P.18)
- 「文字の入力方法」(➡ P.19)
- 「濁点・半濁点の入力方法」(➡ P.19)
- 「文字入力ボタン一覧」(➡ P.20)
- 「漢字の入力方法」(➡ P.21)
- 「カナの入力方法」(➡ P.22)
- 「文字の修正 / 挿入 / 削除方法」(➡ P.23)

文字入力モードの切り替え

文字入力が必要な画面では、自動的に文字入力モードになります。
例えば電話帳の登録では、漢字名称を入力する画面は自動的に漢字モードになり、フリガナを入力する画面は自動的にカナモードになります。
もし漢字名称の中にアルファベットや数字を入力する必要がある場合は、入力モードを切り替えます。

MEMO

入力モードが切り替えられるのは、漢字モードの画面だけです。フリガナ入力(カナモード)や、パスワード入力(数字モード)の画面では入力モードを切り替えることはできません。

■ 電話帳登録の例

<漢字名称入力時>

自動的に漢字モードになる

[漢字]
名 前:
たろう

<フリガナ入力時>

自動的にカナモードになる

[カナ]
フリガナ:
タロウ

← 1 行目: 入力モード名が表示される

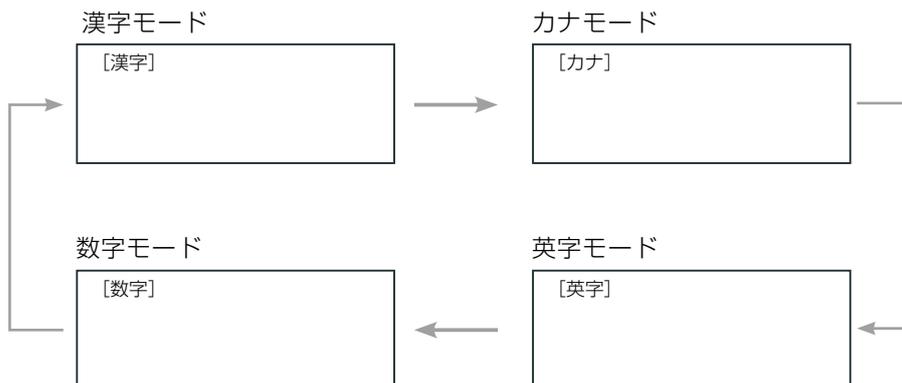
← 4 行目: 入力中の文字が表示される

上記画面の文字入力の概要

ダイヤルキーを押すと、画面の一番下の行にその文字が表示されます。

■ 入力モードの切り替え

入力モードを切り替えるときは、4 行目に確定前の文字を表示していない状態で、**セレクト**  を押します。
セレクト  を押すごとに、下図のように切り替わります。



文字の入力方法

文字を入力するには、入力画面で入力モードを選択し、ダイヤルボタンを押して文字を入力します。入力モードによって、入力できる文字が異なります。

同じ文字を続けて入力する場合は、を押してカーソルを右移動してから2文字目を入力します。

例：を押すたびに、文字が次のように順番に表示されます。

- 漢字モードの場合

1回目 2回目 3回目 4回目 5回目
さ → し → す → せ → そ

- カナモードの場合

1回目 2回目 3回目 4回目 5回目
サ → シ → ス → セ → ソ

- 英字モードの場合

1回目 2回目 3回目 4回目 5回目 6回目
d → e → f → D → E → F

- 数字モードの場合

数字モードの場合は、押した回数分同じ数字が入力されます。

1回目 2回目 3回目 4回目
3 → 33 → 333 → 3333

濁点・半濁点の入力方法

1つ前の入力文字に結合される濁点、半濁点を入力するには、を使います。

例：ば、ば

ば：  1回 →  1回

ば：  1回 →  2回

文字入力ボタン一覧

各ダイヤルボタンには、それぞれ複数の文字が割り当てられており、ボタンを押した回数により表示文字が切り替わります。また、入力モードによって、各ボタンで入力できる文字が変わります。

例：漢字モードで  を続けて押したときに表示される文字

押した回数 : 1回 → 2回 → 3回 → 4回 → 5回 → 6回……

表示される文字 : か → き → く → け → こ → か……

※文字はすべて全角で入力されます。

各ダイヤルボタンで入力できる文字と、文字入力時に使用するボタンについて、下表に示します。

ボタン	入力モード			
	漢字モード	カナモード	英字モード	数字モード
	あいうえおあいうえお	アイウエオアイウエオ	@. /_	1
	かきくけこ	カキクケコ	a b c A B C	2
	さしすせそ	サシスセソ	d e f D E F	3
	たちつてとっ	タチツテトツ	g h i G H I	4
	なにぬねの	ナニヌネノ	j k l J K L	5
	はひふへほ	ハヒフヘホ	m n o M N O	6
	まみむめも	マミムメモ	p q r s P Q R S	7
	やゆよやゆよ	ヤユヨヤユヨ	t u v T U V	8
	らりるれろ	ラリルレロ	w x y z W X Y Z	9
	わをんー、。?!「」 () { } []	ワヲンー、。?!「」 () { } []	. / + - = : ; ? ! < > () { } []	0
	無効	*
	候補確定(漢字モード時)、または無効			#
	文字候補からの変換 前の変換候補を表示	無効		
	文字候補からの変換 次の変換候補を表示	無効		
	入力位置を左へ移動 変換したい文字を左へ移動	入力位置を左へ移動		
	入力位置を右へ移動 変換したい文字を右へ移動	入力位置を右へ移動		
	入力候補の決定 変換候補の決定 入力文字の決定	入力文字の決定		
	入力文字の消去 変換のキャンセル	入力文字の消去		

MEMO

入力モードは  で切り替えます(漢字→カタカナ→英字→数字→漢字…)

漢字の入力方法

漢字を入力するときの操作を説明します。

ここでは、電話帳の登録画面を例に説明します。電話帳を登録するまでの操作は「1-6 電話帳の登録（電話機独自機能）」（→ P.26）を参照してください。

■入力例：「鈴木」と登録

1  を3回押して「す」を入力する

[漢字]
名 前:
す

2  を押してカーソルを移動する

[漢字]
名 前:
す

3  を3回押し、 を1回押して「ず」を入力する

[漢字]
名 前:
すず

4  を2回押して「き」を入力する

[漢字]
名 前:
すずき

5  を押して漢字に変換する
文節が漢字変換されます。

[漢字]
名 前:
鈴木

6 続けて  を押す

点滅部分の次候補が表示されます。

[漢字]
名 前:
鈴木

7   を押して文節を変更する

「す」、「すず」だけの候補を表示させたい場合は、  を押して変換する範囲（文節）を変更し、再度  を押します。

[漢字]
名 前:
すずき

8 希望する漢字が表示されたら  を押す
漢字が確定されます。

[漢字]
名 前:
鈴木

MEMO

-   で、変換する文字範囲を変更できます。
-  で文字入力モードを切り替えます。
- 入力できる文字については、「文字入力ボタン一覧」（→ P.20）を参照してください。
- 表示された候補の次候補を表示させたいときは  を押してください。

カナの入力方法

カナを入力するときの操作を説明します。

ここでは、電話帳の登録画面を例に説明します。電話帳を登録するまでの操作は「1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)」(→ P.26)を参照してください。

MEMO

電話帳の登録では、フリガナ登録の前に漢字名称の登録を行っているため、そのときの漢字のよみがながフリガナとして自動的に表示されます。

表示されたフリガナが正しくない場合だけ、修正が必要になります。

また、一度登録した漢字名称を修正した場合、その修正はフリガナには反映されませんので、そのような場合もフリガナを修正します。

■ 入力例：名前「桜塚(さくらづか)」を入力する際に「おう」「つか」と入力したためフリガナが「オウツカ」になってしまった。フリガナを「サクラヅカ」に入力し直す

1 フリガナを入力する画面を表示する

現在設定されているフリガナが表示されます。

[カナ]
フリガナ:
オウツカ

2 修正したい文字を削除する

ここでは、すべて削除するので  を4回押しします。

[カナ]
フリガナ:
■

3 正しいフリガナを入力する

- ①「サ」:  を1回押し
- ②「ク」:  を3回押し
- ③「ラ」:  を1回押し
- ④「ツ」:  を3回押し、 を1回押し
- ⑤「カ」:  を1回押し

[カナ]
フリガナ:
サクラヅカ

4 確定する場合は、 を押す

フリガナが確定されます。

[カナ]
フリガナ:
サクラヅカ

MEMO

-   でカーソルを移動し、カナを編集できます。
- ダイヤルボタンを押して、希望する文字が表示されたら、次の文字を入力する  を押し、その文字が採用されます。
- 入力できる文字については、「文字入力ボタン一覧」(→ P.20)を参照してください。

文字の修正 / 挿入 / 削除方法

■ 修正例：伊東一郎 → 伊藤一郎に修正

1   を押して文字を修正 / 挿入 / 削除する位置にカーソルを移動する

[漢字]
名 前:
伊東一郎

2  を押す
カーソルの部分の文字が削除されます。

[漢字]
名 前:
伊 郎

3 漢字を入力する
漢字の入力例で行った、漢字の文節変換、確定方法を使って、希望する漢字を入力します。

[漢字]
名 前:
伊藤一郎

4 確定する場合は、 を押す
入力が確定されます。

[漢字]
名 前:
伊藤一郎

MEMO

一度登録した漢字名称を修正した場合、その修正はフリガナには反映されませんので、必要な場合は「カナの入力方法」(→ P.22)を参照してフリガナを修正してください。

1-5 電話機への機能の登録

オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける

電話機ごとに、オートダイヤルボタン  に特定の機能や電話番号などを割り付けて使用することができます。オートダイヤルボタンへの機能や番号の割り付けは、**Web 設定**で行います。『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

初期設定では、オートダイヤルボタンの上段の一番右側に  (自己保留) が自動で割り付けられています。

オートダイヤルボタンには、以下のような機能や番号を割り付けることができます。

オートダイヤルボタンに割り付けられる主な項目	説明
各種機能	代理応答などの機能を登録することができます。
外線番号 / 内線番号 (ワンタッチ割付)	外線番号 / 内線番号を割り付けて、オートダイヤル発信することができます。
機能特番 (ワンタッチ割付)	機能特番を、オートダイヤルボタンにワンタッチダイヤルとして登録すると、ボタン 1 つで機能特番を操作できます。 ※  (機能) を押したあと、特定のダイヤル番号を押すと、対応する機能を操作することができます。これを機能特番といいます。使用できる機能特番については、「A-4 機能特番の一覧」(➡ P.170) を参照してください。
メールボックス	オートダイヤルボタンにメールボックス番号を登録しておくと、オートダイヤルボタンを押すことで、登録した番号のメールボックスにアクセスすることができます。また、メールボックスに新規メッセージがあるときは、  (メールボックス) ランプが遅い点滅 (緑) をするので、メールボックスに新規メッセージがあるかどうかを確認することができます。 ※メールボックスとは、電話の音声メッセージを録音して格納しておくことができる箱のようなものです。それぞれの箱には、番号(メールボックス番号)が付けられ、番号を指定して、メールボックス内のメッセージを再生したり、削除したりすることができます。メールボックスについての詳細は「第5章 ボイスメールの使いかた」(➡ P.121) を参照してください。
内線 DSS 機能	オートダイヤルボタンに内線番号を登録すると、内線相手の使用状態のわかる BLF (Busy Lamp Field) ランプとして、また登録された内線にワンタッチで電話をかけられる DSS (Direct Station Selection) ボタンとして使用することができます。

MEMO

- オートダイヤルボタンに登録できる機能や付加情報についての詳細は「A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表」(➡ P.173) を参照してください。
- 割付クリアを行うことによりオートダイヤルボタンへの機能の割り付けを解除することができます。操作方法については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。
- BLF ランプ表示の種類は以下のとおりです。

相手内線の状態	ランプの光りかた
待機状態	消灯
登録相手からの着信中	速い点滅 (赤)
使用中 / 不在設定中	点灯 (赤)
受話器を戻し忘れたとき (相手内線がアナログ電話機のと時のみ)	遅い点滅 (赤)

● 内線名称の登録

内線名称を登録しておくことで、内線への発着信時に相手の電話機のディスプレイに自分の内線名称を表示させることができます。また、相手内線に内線名称が登録されている場合は、発着信時に相手の内線名称が表示されます。

内線名称の登録は、**Web 設定**で行います。『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

管理ユーザレベルでは、すべての内線名称を登録 / 削除することができます。一般ユーザレベルでは、自内線名称のみ登録 / 削除できます。

1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)

相手の電話番号と名前を電話帳メモリに登録しておくと、電話をかけたいときに番号をダイヤルしなくても、かけたい相手の名前を検索して、電話をかけることができます。

MEMO

IP 多機能電話機は、電話帳を電話機に内蔵しています。

ここでは、以下について説明します。

- 「電話帳に登録する項目」(➡ P.26)
- 「電話帳グループ」(➡ P.26)
- 「電話帳に情報を登録する」(➡ P.27)
- 「電話帳を編集・削除する」(➡ P.29)

電話帳に登録する項目

電話帳には、相手の名前と電話番号を登録することができます。いったん登録した電話帳データを編集したり、削除することもできます。電話帳に登録できる件数は、最大 1000 件です。

電話帳に電話番号や名前を登録すると、登録先のメモリ番号が割り当てられます。電話帳のメモリ番号は、電話帳データを格納する領域 1 件ごとに割り付けられた番号です。

■ 電話帳 1 件(1 つのメモリ番号)に登録できる項目

項目	説明
名前	最大全角 12 文字: 全角(漢字・カナ・英文字・数字・記号)が入力可能
フリガナ	最大全角 12 文字: 全角(カナ・英字・数字・記号)が入力可能
番号	それぞれ最大 32 桁: 1 つのメモリ番号で最大 3 つの電話番号登録が可能(※注)
グループ番号	0 ~ 15 の範囲で入力
メモリ番号	000 ~ 999 の範囲で入力

(※注)

- 1 つのメモリ番号に 1 つの電話番号を登録した場合は、1000 メモリ分登録可能
- 1 つのメモリ番号に 2 つの電話番号を登録した場合は、500 メモリ分登録可能
- 1 つのメモリ番号に 3 つの電話番号を登録した場合は、333 メモリ分登録可能

MEMO

登録された電話帳データは、メモリ番号、グループ No、名前(カタカナ)で検索することができます。

電話帳グループ

電話帳は、グループ 0 ~ グループ 15 の 16 のグループに分けることができます(電話帳グループ)。電話帳 1 件ごとに、所属するグループ(電話帳グループ)を設定しておく、グループごとの操作を行うのに便利です。また、電話帳を用途や相手先に合わせてグループ分けしておく、電話帳を利用するときに便利です。電話帳グループの登録は、電話帳登録時に行います。

電話帳に情報を登録する

電話番号を入力して登録する

1 待受画面で、を押す
電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2  で[電話帳]を選択して、を押す

メインメニュー
> 電話帳
通話履歴
音設定

3  で[登録]を選択して、を押す

電話帳
> 登録
表示

4 名前を入力して、を押す

[漢字]
名 前 :
青木■

文字の入力方法については、「1-4 文字入力方法 (電話機独自機能)」(→P.18)を参照してください。

5 フリガナを確認または修正して、を押す

前の画面で入力した漢字の読みが、あらかじめカタカナで表示されます。修正しない場合は、を押します。修正したい場合は、「カナの入力方法」(→P.22)を参照して修正してからを押します。

[カナ]
フリガナ :
■オキ

6 電話番号を入力して、を押す

電話番号 1 :
9876543210

- 電話番号 1 を入力後に、を押すと、2 つ目の電話番号を入力できます。同様にして最大 3 番号まで登録できます。
- を押すと、電話番号 1 の入力画面に戻ります。

MEMO

16 桁以上表示される場合は、を押すと 32 桁表示に切り替えられます(再度、を押すと 16 桁表示に戻ります)。

7 グループ番号(0 ~ 15)を入力して、を押す

登録したい電話帳グループの番号を入力します。電話帳は最大 16 グループに分けられます。

グループ NO.

8 メモリ番号(000 ~ 999)を確認または変更して、を押す

空き登録メモリ番号が候補として表示されるので、確認または変更します。

メモリ NO.
10

以下の画面がしばらく表示されたあと、「電話帳」画面に戻ります。

登録しました
登録数 11件
残り 989件

電話帳に登録されます。

発着信履歴から電話帳に登録する

電話機で独自に持っている発着信履歴から電話帳に登録します。電話機に保存される発着信履歴は 20 件です。

1

待受画面で、  を押す

- 着信履歴を表示させるには、 を押します。
- 発信履歴を表示させるには、 を押します。
- 電話機に内蔵されている着信履歴または発信履歴が表示されます。

2

  で電話帳登録したい履歴情報を表示して、 を押す

発信履歴
10/24 12:30
9876543210

3

  で [電話帳登録] を選択して、 を押す

> 電話帳登録
この履歴を削除
発信履歴全削除

4

名前を入力して、 を押す

[漢字]
名 前:
青木■

文字の入力方法については、「1-4 文字入力方法 (電話機独自機能)」(→P.18)を参照してください。

5

フリガナを確認または修正して、 を押す

前の画面で入力した漢字の読みが、あらかじめカタカナで表示されます。修正しない場合は、 を押します。修正したい場合は、「カナの入力方法」(→P.22)を参照して修正してから  を押します。

[カナ]
フリガナ:
<input checked="" type="checkbox"/> オキ

6

電話番号を確認して、 を押す

電話番号 1:
9876543210

7

グループ番号 (0 ~ 15) を入力して、 を押す

登録したい電話帳グループの番号を入力します。電話帳は最大 16 グループに分けられます。

グループ NO.

8

メモリ番号 (000 ~ 999) を確認または変更して、 を押す

空き登録メモリ番号が候補として表示されるので、確認または変更します。

メモリ NO.
10

以下の画面がしばらく表示されたあと、「電話帳」画面に戻ります。

登録しました
登録数 11件
残り 989件

履歴が電話帳に登録されます。

電話帳を編集・削除する

いったん登録した電話帳データを編集したり、削除することができます。電話帳の編集、削除は、ディスプレイから行うことができます。

電話帳を編集する

- 1** 電話帳を検索して、電話帳画面から編集したい電話番号を選択して、を押す

電話帳の検索と表示方法は、第2章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）（電話機独自機能）」（➡ P.35）を参照してください。

- 2**   で[変更]を選択して、を押す

電話帳
>変更
削除



[漢字]
名前：
木

電話帳編集画面で名前などを編集します。
これ以降の操作は、電話帳の登録時の操作と同じです。「電話帳に情報を登録する」（➡ P.27）の操作手順を参照してください。

電話帳を削除する

電話帳を1件削除する

- 1** 電話帳を検索して、電話帳画面から編集したい電話番号を選択して、を押す

電話帳の検索と表示方法は、第2章の「電話帳を使って電話をかける（電話帳発信）（電話機独自機能）」（➡ P.35）を参照してください。

- 2**   で[削除]を選択して、を押す

電話帳
変更
>削除

- 3**   で[はい]を選択して、を押す

削除しますか？
>はい
いいえ



削除しました

選択した電話帳が一件削除され、「電話帳」メニュー画面が表示されます。

1-7 その他の機能

● 保留音の設定

保留音をメロディや外部音源の音に変更することができます。

保留音種にメロディを選択したい場合には、はじめに Web 設定 (管理ユーザレベル) で、保留メロディ 1 ~ 2 にお気に入りのメロディを登録してから、保留音種選択の操作をします。14 曲の保留メロディと外部音源 1 ~ 3 から選択します。

保留メロディ 1 ~ 2 へのメロディの登録については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

工事設定

保留音種の選択操作は、IP 多機能電話機以外のシステム管理電話機で操作するか、または工事者が行います。保留音をメロディや外部音源の音に変更する場合は販売店にご相談ください。

■ 保留メロディについて

- IP 多機能電話機が保留されたときは、「嘆きのセレナーデ」が流れます。
- IP 多機能電話機が保留した相手には、システム (主装置) に登録されている保留音が流れます。システムに登録できる保留メロディは以下のとおりです。

No	保留メロディ	作曲者名
1	愛の挨拶	ELGAR EDWARD
2	さくら	森山 直太郎
3	夏を抱きしめて	春畑 道哉
4	秋桜	さだ まさし
5	Everything	松本 俊明
6	花	ORANGE RANGE
7	世界に一つだけの花	槇原 敬之
8	ニューヨーク・シティ・セレナーデ	ALLEN PETER W
9	組曲「惑星」の木星	Gustav Holst
10	カノン	Johann Pachelbel
11	ユーザメロディ 1	—
12	ユーザメロディ 2	—
13	ユーザメロディ 3	—
14	ユーザメロディ 4	—

- 保留メロディ 1 の初期値は「愛の挨拶」、保留メロディ 2 の初期値は「さくら」です。
- ユーザメロディとして登録できるメロディは 4 つで、Web 設定から転送したメロディファイルをユーザメロディ 1 ~ 4 に格納することができます。それぞれに漢字名称、カナ名称を登録できます (全角 10 文字まで)。
- ユーザメロディとして登録されたメロディファイルは、保留音に設定することができます。
- Web 設定の使いかたについては、「パソコンの Web ブラウザで Web 設定を利用する」(▶P.119)および『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

■ 外部音源について

外部音源が選択されている場合は、外部音源を使用した保留音が流れます。

第2章 基本的な使いかた

2-1 外線にかける	32
2-2 内線にかける	37
2-3 外線からの電話を受ける	40
2-4 内線からの電話を受ける	42
2-5 通話を保留する	44
2-6 通話を転送する(手動転送)	47

2-1 外線にかける

● 電話番号をダイヤルしてかける

外線ボタンを使ってかける(任意外線発信)

ランプが消灯している  (外線) を押し、次に電話番号をダイヤルします。

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **ランプが消灯している  (外線) を押す**
 - 外線とつながり、外線発信音に変わります。
 -  (外線) ランプは点灯(緑)し、他の電話機の  (外線) ランプは、点灯(赤)します。
- 3 **相手の電話番号をダイヤルする**
相手が応答すると、通話できます。
- 4 **通話が終了したら、受話器を置く**
 (外線) ランプは、消灯します。

MEMO

-  (外線) は初期設定で  に登録されています。
- 方路を指定してかけることもできます(第3章の「指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する(方路選局発信)」(▶ P.53)を参照)。
- ISDN/VoIP 外線の場合は、相手の電話番号をダイヤルしたあと、**#** を押してすぐに発信できます。
- VoIP アダプタをアナログ回線で使用している場合も、相手の電話番号をダイヤルしたあと、**#** を押してすぐに発信できます。
- 相手に自分の電話番号を通知したくないとき、相手の電話番号をダイヤルする前に、184 を押すことで、非通知発信になります。発信番号非通知の詳細については、第3章の「外線発信時に発信番号の通知 / 非通知を切り替える」(▶ P.55)を参照してください。

工事設定

VoIP アダプタをアナログ回線で使用している場合、設定により、**#** を押さなくてもすぐに発信できるようになります。販売店にご相談ください。

発信ボタンを使ってかける(自動選局発信)

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 ** (発信) を押す**
外線とつながり、外線発信音に変わります。
- 3 **相手の電話番号をダイヤルする**
相手が応答すると、通話できます。
- 4 **通話が終了したら、受話器を置く**

MEMO

 (発信) の代わりに、自動選局特番(例えば **0**) を押しても外線とつながります。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ  に  (発信) を登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)を参照してください。

受話器を上げてダイヤルするだけでかける(オフフック自動外線捕捉)

- 1 **受話器を上げる(オフフック)**
外線とつながり、外線発信音に変わります。
- 2 **相手の電話番号をダイヤルする**
相手が応答すると、通話できます。
- 3 **通話が終了したら、受話器を置く(オンフック)**

工事設定

この機能を使用するには、あらかじめオフフック自動ダイヤル番号に自動選局特番(例えば 0)を登録しておく必要があります。販売店にご相談ください。

● 最後にかけた相手に再度かける(リダイヤル)

最後にかけた電話番号は、次に電話をかけるまで  に記憶されています。 を押すことで最後にかけた電話番号に再度かけることができます。また、最後にかけた電話番号を含む 20 件までの電話番号(発信履歴)を呼び出してかけることもできます(▶ P.39)。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 を押す

- 自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。
- ディスプレイ 2 段目に電話番号が表示されます。
-  を押す前に  (外線) を押すと、外線を指定して発信することができます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

 (外線) の代わりに  (発信) でも外線とつながります。

● 電話番号を確認してかける(プリセットダイヤル)

相手の電話番号をダイヤルし、次に発信操作をします。

1 電話番号をダイヤルする

- 入力した番号を間違えた場合は、 を押し待受状態に戻してから、あらためて入力してください。
-  (機能) でポーズを入力することができます。

2 (発信) を押すか、ランプが消灯している (外線) を押す

- ダイヤルした電話番号に電話をかけます。
- 相手の応答する声が  スピーカから聞こえます。
- 通話できる状態です。

3 受話器を上げる

通話します。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ  に、 (発信) と  (機能) を登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24) を参照してください。

● オートダイヤル機能を使ってかける(ワンタッチダイヤル)

相手先の電話番号(外線/内線/専用線)をあらかじめ☎に登録しておくことで、☎(ワンタッチボタン)を押すだけで相手に電話をかけられます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 ☎(ワンタッチボタン)を押す

- 電話番号がダイヤルされます。
- 相手が応答すると、通話できます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- ☎(ワンタッチボタン)には、あらかじめ電話番号を登録しておきます。
- 登録方法については、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。
- 第3章の「内線登録したオートダイヤルボタンでかける(内線ワンタッチコール)」(→P.57)も参照してください。

● 電話帳を使って電話をかける(電話帳発信)(電話機独自機能)

電話帳に電話番号や名前を登録しておくことで、電話帳から電話をかけることができます。

IP 多機能電話機では、電話機が独自に持っている電話機内蔵の電話帳を使用します。

電話帳についての詳細と登録方法については、「1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)」(▶P.26)を参照してください。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で [電話帳] を選択して、 を押す

メインメニュー
>電話帳
通話履歴
音設定

3 で [表示] を選択して、 を押す

電話帳
登録
>表示

4 で [名前] を選択して、 を押す

電話帳検索
>名 前
グループ NO.
メモリ NO.

5 検索する文字を入力する

[カナ]
検 索 :


6 該当する名前を選択して、 を押す

検索結果
>青木
青山
浅野

7 発信したい電話番号を表示する

NO.010 GRP00 1/2
青木
1234567890123456

MEMO

- 16桁以上表示される場合は、 を押すと 32桁表示に切り替えられます(再度、 を押すと 16桁表示に戻ります)。
- 右上に「1/2」や「1/3」のように表示される場合は、2つまたは3つの電話番号が登録されています。  を押すと表示を切り替えられます。
-  を押すと、手順6の検索結果画面に戻ります。

8 (外線にかける場合は) 自動選局特番(例えば0)を押す

表示された電話番号の先頭に番号(特番など)を追加する場合は、該当する番号を押します。

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶P.166)を参照してください。

付加ダイヤル
青木 0

9 受話器を上げる、または を押す 表示中の電話番号に発信します。

MEMO

自動選局特番が付加された状態で電話帳に登録されている場合は、手順8で自動選局特番を押す必要はありません。

発信履歴 / 着信履歴から電話する(履歴発信)(電話機独自機能)

かけた電話番号や、着信時に相手の電話番号を日時とともに、発信履歴 / 着信履歴として記録することができます。記録した発信履歴や着信履歴の電話番号で、電話をかけることができます。ただし、着信時は利用する回線で、電話会社が提供する番号表示サービスの契約が必要です。

MEMO

IP多機能電話機では、電話機が独自に発信履歴や着信履歴の電話番号を蓄積しています(最大20件)。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で[通話履歴]を選択して、を押す

```

メインメニュー
電話帳
>通話履歴
音設定
  
```

3 で[発信履歴]または[着信履歴]を選択して、を押す

```

通話履歴
>発信履歴
着信履歴
  
```

4 を押して、対象となる発信履歴または着信履歴を選択する

```

発信履歴
10/17 21:10
9876543210
  
```

5 (外線にかける場合は) 自動選局特番(例えば0)を押す

- 表示された電話番号の先頭に番号(特番など)を追加する場合は、該当する番号を押します。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。

6 受話器を上げる

7 相手と通話する

相手が応答すると、通話ができます。

8 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 手順1～3の代わりに、待受画面で以下の操作をそれぞれ履歴を表示できます。
 -  ボタンを押すと発信履歴を表示します。
 -  ボタンを押すと着信履歴を表示します。
- 自動選局特番が付加された状態で発信履歴に蓄積されている場合は、手順5で自動選局特番を押す必要はありません。

履歴を削除するには

1 待受画面で、 を押す

- 着信履歴を表示させるには、 を押します。
- 発信履歴を表示させるには、 を押します。
- 電話機に内蔵されている着信履歴または発信履歴が表示されます。

2 で削除したい履歴情報を表示して、を押す

```

発信履歴
10/24 12:30
9876543210
  
```

3 で[この履歴を削除]を選択して、を押す

```

電話帳登録
>この履歴を削除
発信履歴全削除
  
```

MEMO

- すべての発信履歴を削除する場合は、「発信履歴全削除」を選択してください。
- すべての着信履歴を削除する場合は手順1でを押して、手順3で「着信履歴全削除」を選択してください。

4 で[はい]を選択して、を押す

```

削除しますか?
>はい
いいえ
  
```

以下の画面がしばらく表示されたあと、「電話帳」画面に戻ります。

```

削除しました。
  
```

履歴が削除されます。

2-2 内線にかける

● 内線番号をダイヤルしてかける(内線個別呼出(音声 / 信号))

ここでは、受話器を上げたあと、内線番号をダイヤルして内線にかける、一般的な操作について説明します。内線にかけるときは、着信音を鳴らして相手呼び出す(信号呼出)以外に、音声で相手呼び出す(音声呼出)ことができます。倉庫内の内線電話や、1つの電話を数人で共有している場合などに、音声で呼び出すことにより、誰にかかってきた電話かがすぐにわかり便利です。

MEMO

- 内線電話をダイヤルしたときに、信号呼出になるか、音声呼出になるかは、初期設定によって異なります。音声呼出 / 信号呼出の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(▶ P.169)を参照してください。
- オフフック自動外線捕捉またはオフフック自動ダイヤルが設定されているときは、以下の操作で受話器を上げる前に  を押してください。

工事設定

- オフフック自動外線捕捉またはオフフック自動ダイヤルを使用するには工事設定が必要です。販売店にご相談ください。
- 信号呼出 / 音声呼出の初期設定の値を電話機ごとに切り替えることができます。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 相手の内線番号をダイヤルする

受話器から相手呼び出す音が聞こえます。

3 (初期設定以外の方法で呼び出したい場合) * を押す

- 例えば、初期設定が信号呼出のときに音声呼出をしたい場合や、逆に初期設定が音声呼出のときに信号呼出をしたい場合は、この操作で切り替えます。
- 音声呼出と信号呼出は、* を押すたびに交互に切り替えることができます。ただし、呼出先がアナログ電話機、デジタルコードレス電話機(DC)、SIP電話機の場合は、音声で呼び出すことはできません。

4 (音声呼出の場合) 受話器に向かって呼びかける

- 受話器に向かって、音声で相手呼び出します。例えば「田中さん、田中さん」と呼ぶと、相手の電話機の  スピーカから音声流れます。
- 信号呼出の場合は、相手の電話機の  スピーカから着信音が流れます。

5 相手と通話する

相手が応答すると、通話ができます。

6 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 内線発信時や通話中の電話機のディスプレイ表示については、第1章の「ディスプレイ表示」(▶ P.4)を参照してください。
- 内線発信でダイヤルを操作しないで、一定時間経過するとハウラ音が鳴り、着信ランプが点灯(赤)します。画面には「受話器はずれ」と表示されます。

● 電話番号を確認してかける(内線プリセット発信)

相手の内線番号をダイヤルしてから、発信操作をします。

1 相手の内線番号をダイヤルする

入力した番号を間違えた場合は^{保留}を押して待受状態に戻してから、あらためて入力してください。

2 ^{スピーカ}を押す

- ダイヤルした内線番号に電話がかかります。
- 相手の応答する声がスピーカから聞こえます。
- 通話できる状態です。

3 受話器を上げる

通話します。

4 通話が終了したら、受話器を置く

● 最後にかけた相手に再度かける(内線リダイヤル)

最後にかけた電話番号が内線番号だった場合は、^{リダイヤル}を押すことで最後にかけた内線番号に再度かけることができます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 ^{リダイヤル}を押す

- 自動的にダイヤルをはじめます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 内線リダイヤルは、内線呼出中や内線通話中、外線通話中などの状態からは行えません。
- ^{リダイヤル}の代わりに、リダイヤル特番を押しても同じ操作が行えます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。

● 発信履歴 / 着信履歴から電話する(内線発着信履歴)(電話機独自機能)

内線へかけた電話番号や着信した内線電話番号を日時とともに、発信履歴 / 着信履歴として記録することができます。記録した発信履歴や着信履歴の内線番号で、電話をかけることができます。

MEMO

IP 多機能電話機では、電話機が独自に発信履歴や着信履歴の電話番号を蓄積しています(最大 20 件)。

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で[通話履歴]を選択して、を押す

メインメニュー
電話帳
>通話履歴
音設定

3 で[発信履歴]または[着信履歴]を選択して、を押す

通話履歴
>発信履歴
着信履歴

4 を押して、対象となる発信履歴または着信履歴を選択する

発信履歴
10/17 21:10

9876543210

5 受話器を上げる

6 相手と通話する

相手が応答すると、通話ができます。

7 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

手順 1 ~ 3 の代わりに、待受画面で以下の操作をするとそれぞれの履歴を表示できます。

-  ボタンを押すと発信履歴を表示します。
-  ボタンを押すと着信履歴を表示します。

履歴を削除するには

1 待受画面で、を押す

- 着信履歴を表示させるには、を押します。
- 発信履歴を表示させるには、を押します。
- 電話機に内蔵されている着信履歴または発信履歴が表示されます。

2 で削除したい履歴情報を表示して、を押す

発信履歴
10/24 12:30

9876543210

3 で[この履歴を削除]を選択して、を押す

電話帳登録
>この履歴を削除
発信履歴全削除

MEMO

- すべての発信履歴を削除する場合は、[発信履歴全削除]を選択してください。
- すべての着信履歴を削除する場合は手順 1 で  を押して、手順 3 で [着信履歴全削除] を選択してください。

4 で[はい]を選択して、を押す

削除しますか?
>はい
いいえ

以下の画面がしばらく表示されたあと、「電話帳」画面に戻ります。

削除しました。

履歴が削除されます。

2-3 外線からの電話を受ける

● 外線ボタンを押して受ける(任意外線着信応答)

かかってきた外線が割り当てられている  (外線) を押すだけで、外線着信に応答することができます。

1

着信音が鳴る

- 外線着信音が鳴ります。
- かかってきた外線の  (外線) ランプは速い点滅(赤)します。

2

速い点滅(赤)している (外線) を押して、受話器を上げる

- 通話ができる状態になります。
-  (外線) ランプは点灯(緑)に変わります。

3

通話が終了したら、受話器を置く

-  (外線) ランプは、消灯します。

MEMO

 (外線) は初期設定で  に登録されています。

工事設定

電話番号ごとに着信音を指定することができます(識別着信)。販売店にご相談ください。

着信音は、電話機の設定で「着信音色 1」の場合のみ鳴らすことができます。お買い上げ時は「着信音色 1」なので、変更しないでください。

● 受話器を上げるだけで受ける(オフフック外線自動応答)

受話器を上げるだけで外線着信に応答することができます。

1

着信音が鳴る

- 外線着信音が鳴ります。
- かかってきた外線の  (外線) ランプは速い点滅(赤)します。

2

受話器を上げる

- 通話ができる状態になります。
-  (外線) ランプは点灯(緑)に変わります。

3

通話が終了したら、受話器を置く

-  (外線) ランプは、消灯します。

工事設定

着信音が鳴らない設定になっている電話機(非鳴動電話機)で  (外線) ランプは点滅、受話器を上げるだけで電話を受けられる(オフフック外線自動応答)ようにするには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

DIL/DID 着信に应答する

以下の機能を利用すると、特定の外線電話機に外線電話を直接着信させるように設定することができます。

No.	機能名	説明
1	外線別個別着信 (DIL)	外線着信時の呼出先内線を指定することで、内線に個別着信させる方法です。
2	着番号 DID	外線着信時に受信した着番号 (ダイヤルイン番号) によって、着信先の内線電話を指定する方法です。この機能を利用する場合は、契約回線に対して、着番号が通知されて着信する必要があります。
3	モデムダイヤルイン	アナログ外線の着信時に受信したダイヤルイン番号によって、着信先を指定することができます。この機能を利用する場合は、アナログ外線のダイヤルイン契約が必要です。
4	付加番号 DID	指定外線の着信に自動応答し、外線からの PB 信号 (内線番号) を受信することにより内線に直接着信させます。

このような電話がかかってきたときでも、以下のような通常の操作で電話を受けることができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 着信音が鳴る

- 外線着信音が鳴ります。
- 電話機のディスプレイの上段に「個別着信」と表示されます。

個別着信	外線 001
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

かかってきた外線の  (外線) ランプは、速い点滅 (赤) します。

2 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

手順 2 で、、 (外線)、 のいずれかを押ししても応答することができます。

2-4 内線からの電話を受ける

● 受話器を上げるだけで受ける

自分にかかってきた電話は、受話器を上げるだけで応答することができます。

- 1 **着信音が鳴る**
内線着信音が鳴ります。
- 2 **受話器を上げる**
通話ができる状態になります。
- 3 **通話が終了したら、受話器を置く**

● 音声呼出に応答する

スピーカから音声で呼出しを受けた場合に、受話器を上げるだけで電話を受けることができます。

- 1 **音声呼出が聞こえる**
 スピーカから呼びかけられます。
- 2 **受話器を上げる**
通話ができる状態になります。
- 3 **通話が終了したら、受話器を置く**

● 受話器を置いたままで音声呼出に応答する(内線ハンズフリー応答)

スピーカから音声で呼出しを受けた場合に、応答操作を行わずにマイクとスピーカで通話することができます。この機能を利用するには、あらかじめマイクをオン状態にしておきます。

- 1 **マイクをオン状態にしておく**
 -  ランプが消灯していることを確認します。
 -  ランプが点灯(赤)している場合は、受話器を置いたままで、 を押します。 ランプは消灯します。
- 2 **音声呼出が聞こえる**
 スピーカから呼びかけられます。
- 3 **マイクに向かって話す**

MEMO

-  ランプが消灯していると、マイクはオン状態です。
- ハンズフリーでの通話中に受話器を上げると、通常の受話器による通話になります。受話器による通話からマイクによる通話には戻れません。
- 内線グループ音声呼出のときは、ハンズフリーで応答することはできません。

● 同じグループ内の別の電話を受ける(代理応答(コールピックアップ))

同じグループ内の別の電話機にかかってきた着信を受けることができます。

1 別の電話機の着信音が鳴る
別の内線電話機から着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる
受話器から内線発信音が聞こえます。

3  (代理応答) を押す

-  (代理応答) の代わりに、代理応答特番を押しても電話を受けられます。
- 通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

-  (代理応答) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24) を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166) を参照してください。

工事設定

ここでのグループは「代理応答グループ」です。グループ設定については販売店にご相談ください。

● 他のグループの電話を受ける(グループ指定代理応答)

他のグループの電話機にかかってきた着信を受けることができます。

1 他のグループの電話機で着信音が鳴る
他のグループの内線電話機から着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる
受話器から内線発信音が聞こえます。

3 グループ指定代理応答特番を押す
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166) を参照してください。

4 着信中のグループ番号をダイヤルする

- グループ番号は、00～99の番号です。
-  を押すと全グループ、 を押すと同じグループへの着信を代理応答することができます。
- 通話ができる状態になります。

5 通話が終了したら、受話器を置く

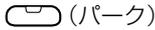
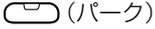
工事設定

この機能を利用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

また、ここでのグループは「代理応答グループ」です。代理応答グループは最大 100 グループ(00～99)です。全内線の所属グループ番号は初期設定では 00 です。グループ設定については販売店にご相談ください。

2-5 通話を保留する

通話相手に一時お待ちいただく場合は、保留機能を使用します。保留には、以下のような種類があります。状況に応じて使い分けてください。

保留の種類	保留操作で使用するボタン	再応答(保留解除)で使用するボタン	説明
システム保留		 (外線)  (専用線)  (MSA)	システム内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します(外線通話のみ)。 保留操作は、  で行います。  (外線)、  (専用線)、  (MSA)が割り付けられている電話機であれば、システム内のすべての電話機で応答可能です。
パーク保留	 	 (パーク)	パークグループ内の他の電話機からでも再応答(保留解除)できるように保留します。  または  (パーク)を押すことで、内線外線通話をパーク保留状態にすることができます。 同じグループ内で同じパーク番号のボタンを割り当てることによってグループ内共有の保留として使用できます。 同じパーク番号の  (パーク)が割り付けられている電話機であれば、パークグループ内のすべての電話機で応答可能です。
自己保留	 (自己保留) 	 (自己保留)	保留したのと同じ電話機からのみ再応答(保留解除)できるように保留します。  (自己保留)または  を押すことで、内線外線通話を自己保留状態にすることができます。 自分の電話機でのみ、再応答ができます。
一時保留		—	 (自己保留)を割り付けられていない電話機でも、  を押して、通話を自己保留(一時保留)状態にすることができます。 一時保留の場合は、いったん受話器を置いたあとの呼び返しに応答することで再応答(保留解除)することができます。

● 他の電話機で再応答できるように保留する(システム保留 / パーク保留)

システム内やパークグループ内の他の電話機で保留の再応答ができるように、通話を保留することができます。

を押すと、 (外線)、 (専用線)、 (MSA)が割り付けられている電話機のあるシステムでは、システム保留になります。システム保留にならない場合は、パーク保留となり、 (パーク)がない場合は自己保留になります。

ただし、システム保留できるのは外線通話のみです。

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
-  (パーク)はあらかじめに登録しておきます。登録方法は販売店にご相談ください。

MEMO

同じ番号の (パーク)がに割り付けられた電話機どうしでパーク保留を共有できます。課内、グループなど共有したいグループ単位で同一のパーク番号を割り付けることで効果的に運用できます。

通話を保留する

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
-  (外線) ランプ、 (パーク) ランプ、 (自己保留) ランプのいずれかが遅い交互点灯(緑橙)します。

保留したのと同じ電話機で再応答する

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 遅い交互点灯(緑橙)している (外線)、 (パーク)、 (自己保留)のいずれかを押す

- 通話ができる状態になります。
-  (外線)を押した場合、ランプは点灯(緑)に変わります。
-  (パーク)、 (自己保留)を押した場合、ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

点灯していたランプは消灯します。

他の電話機で保留を再応答する

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 速い点滅(緑)している (外線)、または (パーク)を押す

- 通話ができる状態になります。
-  (外線)を押した場合、ランプは点灯(緑)に変わります。
-  (パーク)を押した場合、ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

点灯していたランプは消灯します。

MEMO

- 保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、 (外線) ランプを速い交互点灯(緑橙)にして知らせます(長時間保留警報)。
- 最終保留応答特番を押すことで再応答することもできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.166)を参照してください。

● 他の電話機では再応答できないように保留する(自己保留)

保留した電話機以外では、保留の再応答ができないようにすることができます。

通話を保留する

1 通話中の相手に保留することを伝える

2 (自己保留) を押す

- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
-  (自己保留) ランプは遅い交互点灯 (緑橙) します。

3 受話器を置く

MEMO

-  (自己保留) は初期設定で  に登録されています。
- 保留時間が長すぎると、スピーカから警告音が鳴り、 (自己保留) ランプを速い交互点灯 (緑橙) にして知らせます。

保留したのと同じ電話機で再応答する

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 遅い交互点灯 (緑橙) している (自己保留) を押す

- 通話ができる状態に戻ります。
-  (自己保留) ランプは消灯します。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

最終保留応答特番を押すことで再応答することもできます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→P.166) を参照してください。

2-6 通話を転送する(手動転送)

● 転送先に呼びかけて転送する(口頭転送)

外線を保留してから転送先に呼びかけます。転送先は内線電話のみです。

転送する側

- 1 通話中の相手に転送することを伝える
- 2 を押す
 - 受話器は内線発信音に変わります。
 - 保留の相手には、保留音が流れます。
 - 保留した  (外線) ランプは遅い交互点灯 (緑橙) します。
- 3 転送先に呼びかける
例えば、「田中さん、5 番にお電話です。」と呼びかけます。
- 4 受話器を置く

MEMO

- 転送先が一定時間内に応答しない場合は、スピーカから警告音が鳴ります。この場合は、ランプが速い交互点灯 (緑橙) している  (外線) を押し、保留が解除され相手との通話に戻ることができます。
- 手順 2 で、 の代わりに  (パーク) を押し、保留解除され相手との通話に戻ることができます。その場合は、口頭で転送先にパーク番号を伝えてください。
- 内線通話はシステム保留できません。内線通話を口頭転送する場合は、パーク保留を利用してください ( の代わりに  (パーク) を押し、保留解除され相手との通話に戻ることができます。

転送される側

- 1 呼びかけられた人が受話器を上げる
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 速い点滅 (緑) している  (外線) を押す
 - この場合は、呼ばれた田中さんは  (外線) を押し、保留が解除され相手との通話に戻ることができます。
 - 通話ができる状態になります。
 -  (外線) ランプは点灯 (緑) に変わります。
- 3 通話が終了したら、受話器を置く
 (外線) ランプは消灯します。

MEMO

- 呼びかけられた人の電話機が、受話器を上げると自動的に登録された番号にダイヤルする設定 (オフフック自動ダイヤル) をしている場合は、 (外線) を押し、受話器を上げます。
- 転送する側が、 (パーク) を押し、保留解除され相手との通話に戻ることができます。その場合は、口頭で転送先にパーク番号を伝えてください。

● 転送先と通話してから転送する（ダイヤル転送）

転送先の電話番号をダイヤルして、相手が応答してから転送します。

転送する側

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 を押す

- 通話が保留されます。
- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。
- （外線）ランプは遅い交互点灯（緑橙）に変わります。

3 転送先の電話番号をダイヤルする

- 転送先が外線の場合は、（外線）を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 転送先が応答します。

4 転送先に用件を伝える

例えば、「・・・から電話が入っています」と伝えます。

5 を押す

- 通話が転送されます。
- 転送した外線の（外線）ランプは点灯（赤）に変わります。

6 受話器を置く

転送される側

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

転送する側と通話します。

転送する側がを押すと、自動的に転送されます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 転送先が電話に出なかったときは、（外線）、（パーク）、（自己保留）、（MSA）のいずれか遅い交互点灯（緑橙）しているボタンを押すと、再度元の相手と通話することもできます。
- 設定によっては、手順5で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(▶ P.169)を参照してください。

● 転送先と通話しないで転送する(強制転送)

通話を保留して、転送先に転送することを伝えずに転送します。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送する側

1 通話中の相手に転送することを伝える

2 を押す

- 通話が保留されます。
- 受話器は内線発信音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れません。

3 転送先の内線番号をダイヤルする

外線には転送できません。

4 転送先が応答する前に を押す

- 通話が自動的に転送されます。
-  (外線) ランプは速い点滅(緑)に変わります(元の相手が外線の場合)。
-  (自己保留) ランプは速い点滅(緑)に変わります(元の相手が内線の場合)。

5 受話器を置く

MEMO

- 受話器を置いたあと、転送した相手が応答すると、 (外線) ランプは速い点滅(緑)から点灯(赤)に変わります。 (自己保留) ランプは消灯します。
 - 転送操作のあと、一定時間待っても転送先が電話に出なかったときは、転送元に呼び返しがあり、着信音が鳴ります(強制転送警報)。 (外線) ランプは遅い交互点灯(緑橙)に変わり、 (自己保留) ランプも遅い交互点灯(緑橙)に変わります。
- 受話器を上げると、元の相手と通話できます。呼び返しまでの秒数は設定により異なります。
- 呼び返しを待たずに、 (外線) ランプ、 (パーク) ランプ、 (自己保留) ランプ、 (MSA) ランプのいずれかが点滅しているボタンを押すと、再度元の相手と通話することもできます。

転送される側

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げる

通話が自動的に転送され、相手と通話できます。

3 転送された相手と通話する

4 通話が終了したら、受話器を置く

● かかってきた相手と取次ぎ先を交互に切り替えて通話する(チェンジオーバー)

電話をかけてきた人と、転送先(取次ぎ先)の人と交互に通話することができます(内線 / 外線 / 専用線との通話中)。

MEMO

チェンジオーバー機能を使用する場合は、 (自己保留)の付加情報(動作指定)として、「チェンジオーバー」を選択してください(初期設定では付加情報として「乗り換え」が設定されています)。オートダイヤルボタンの登録方法および付加情報については、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)および「A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表」(▶P.173)を参照してください。

チェンジオーバーを使用するときは、通話をまず自己保留(一時保留)した状態で、他の相手(取次ぎ先)と通話を開始します。 (自己保留)を押すことで双方の相手と交互に切り替えて話すことができます。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に待っていただくよう伝える

2  (自己保留)を押す

- 受話器は内線発音音に変わります。
- 保留の相手には、保留音が流れます。

3 取次ぎ先の電話番号をダイヤルする

- 取次ぎ先が外線の場合は、 (外線)を押したあと、電話番号をダイヤルします。
- 取次ぎ先が応答します。

4 取次ぎ先に用件を伝える

例えば、「・・・から電話が入っています」と伝えます。

5  (自己保留)を押して、かかってきた相手と再び通話する

例えば、「申し訳ありません。・・・はただ今、電話に出ることができません。ご用件をお聞かせください。」と伝えます。ご用件を伺ったあと、再度待っていただくよう伝えます。

6  (自己保留)を押して、取次ぎ先との通話を再開して用件を伝える

- 保留の相手には、保留音が流れます。
- 以降も (自己保留)を押す操作を繰り返すことで、取次ぎ先とかかってきた相手と交互に通話ができます。

7 かかってきた相手と取次ぎ先で話してもらう場合は、 (内線キャンフオン)を押す

かかってきた相手と取次ぎ先がつながります(転送)。

8 受話器を置く

取次ぎ先の人への操作

1 着信音が鳴る

着信音が鳴ります。

2 受話器を上げて用件を聞く

3 たとえば、発信元にどのような用件か聞いて欲しいと返答する

電話を受けた人が (自己保留)を押すと、保留音が流れる。

4 保留が解除され、電話がつながるので、用件を聞く

電話を受けた人が内線 を押すと、かかってきた相手(発信元)と自動的につながります(転送)。

5 発信元と通話する

6 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 取次ぎ先が電話に出なかったときは、遅い交互点灯(緑橙)している (自己保留)を押すと、再度元の相手と通話することができます。
- 通話録音中の場合はチェンジオーバーできません。取次ぎ先との通話中に (自己保留)を押した時点で乗り換え(▶P.164)となり、取次ぎ先との通話は終了します。その後、かかってきた相手との間で通話録音を再開できます。
- 設定によっては、手順7で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(▶P.169)を参照してください。また、チェンジオーバー中に転送するときの操作はダイヤル転送(▶P.48)と同じです。

第3章 便利な使いかた（応用操作）

3-1 電話をかけるときの便利な使いかた	52
3-2 電話を受けるときの便利な使いかた	61
3-3 保留 / 転送操作時の便利な使いかた	63
3-4 通話中の便利な使いかた	65
3-5 電話に応答できないときの便利な機能	68
3-6 通話中に着信があったときの便利な機能	77
3-7 外出先からの便利な機能	79
3-8 便利な機能設定	86
3-9 便利なお知らせ機能	90

3-1 電話をかけるときの便利な使いかた

受話器を上げずにダイヤルする(オンフックダイヤル)

受話器を上げずに外線、内線に電話をかけることができます。相手が応答したら、受話器を上げて通話することができます。

1 待受状態で、を押す

スピーカーから内線発信音が聞こえます。

2 外線または内線の電話番号をダイヤルする

- 電話帳を使用する場合は、共通電話帳特番または個別電話帳特番を押したあと、電話帳メモリ番号を入力します。
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 外線にかける場合は、 (発信) またはランプが消えている  (外線) を押してから、電話番号をダイヤルします。
または、電話番号の先頭に、自動選局特番(例えば ) をダイヤルしてかけることもできます。
- 相手の声が  スピーカから聞こえます。

3 受話器を上げる

通話をします。

4 通話が終了したら、受話器を置く

受話器を上げるだけでかける(オフフック自動ダイヤル)

受話器を上げるだけで、あらかじめ登録した電話番号に自動でダイヤルして電話をかけることができます。

工事設定

- この機能を使用するには、あらかじめオフフック自動ダイヤル番号に電話番号を登録しておく必要があります。販売店にご相談ください。
- オフフック自動ダイヤル開始タイムの初期値は0秒です。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 自動的にダイヤルされるのを待つ

- 指定されている時間(オフフック自動ダイヤル開始タイム)が経過すると、登録されている電話番号に電話がかかります。
- オフフック自動ダイヤル開始タイムが0秒に指定されているときは、受話器を上げるとすぐにダイヤルされます。
- 相手が応答すると、通話できます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- オフフック自動ダイヤル開始タイムが経過する前に電話番号をダイヤルすれば、登録した以外の電話番号に電話がかけられます。
- 受話器を上げる代わりに、 を押した場合は、自動ダイヤルは使用できません。

● 外線にかけるとき

指定した回線からかける(指定外線捕捉)

この機能を利用すると、オートダイヤルボタンに☎(外線)を割り付けなくても、指定した回線を使って外線に電話をかけることができます。

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **指定外線捕捉特番を押す**
指定外線捕捉特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 3 **外線/専用線シーケンス番号(→ P.162)を押す**
- 4 **相手の電話番号をダイヤルする**
相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

指定した回線を捕捉して外線発信するほかに、以下の操作を行うことができます。

- ①システム保留中の回線を捕捉して、保留再応答する
- ②着信中の回線を捕捉して、応答する
- ③外線秘話解除中の回線を捕捉して、会議通話に参加する(第4章の「外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)」(→ P.94)を参照)

工事設定

外線/専用線シーケンス番号は、工事設定により異なります。販売店にお問い合わせください。

指定した方路のうち空いている回線を自動捕捉して発信する(方路選局発信)

指定した方路のなかで、空いている外線/専用線を自動的に捕捉して発信することができます。

例えば、電話番号によって電話料金が安い方路が用意されているような場合や、専用線にかけるためだけにオートダイヤルボタンを割り当てたくないような場合に便利です。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
☎(方路発信)をあらかじめ☎に登録する必要があります。

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **☎(方路発信)を押す**
☎(方路発信)に付加情報として設定されている方路番号の空き回線につながり、外線発信音に変わります。
- 3 **相手の電話番号をダイヤルする**
相手が応答すると、通話できます。

4 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

手順2で、☎(方路発信)を押す代わりに、方路選局特番を押すこともできます。方路選局特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。

外線へのかけ直しを繰り返す(オートリピート)

外線発信した相手先が話し中のときなどに、一定時間ごとに自動的にかけ直すことができます。

1 受話器を上げて、外線に電話をかける

2 相手が他の電話と通話中

相手が他の電話と通話中のときは話中音が受話器から聞こえます。

3 を押す

- オートリピートがセットされ、一定時間ごとに、手順 1 と同じ電話番号にダイヤルされます。
- ランプが点灯(赤)します。

4 を押したあと、受話器を置いて、相手の応答を待つ

を押す前に受話器を置くと、オートリピートがキャンセルされます。

5 相手の応答する声が聞こえる

- 相手の声が スピーカから聞こえます。
- ランプが消灯します。

6 受話器を上げて、通話する

7 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 呼出中に を押しても、オートリピートをセットできません。
- オートリピートの回数は初期設定で 15 回です(5 秒間隔)。1 ~ 15 回の間で変更可能です。変更したい場合は、販売店にご相談ください。
- 点灯(赤)している を再度押すとオートリピートが解除されます。
- オートリピート待ち中に、該当の回線に着信が入った場合は、着信を優先しオートリピートを終了します。

外線発信時に発番号の通知 / 非通知を切り替える

外線に電話をかけるときに、自分の電話番号を相手に知らせないか(発番号非通知)知らせるか(発番号通知)を選ぶことができます。

発着信履歴や電話帳からの発信のように、電話機のディスプレイで電話番号を確認してからかける(確かめダイヤル)ときと、外線ボタンなどを押して電話をかけるときは、操作が異なります。

発着信履歴からの発信の場合(電話機独自機能)

1 待受画面で、を押す
電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2   で[通話履歴]を選択して、を押す

メインメニュー
電話帳
>通話履歴
音設定

3   で[発信履歴]または[着信履歴]を選択して、を押す(発信履歴を選択した場合)

通話履歴
>発信履歴
着信履歴

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

4   を押して、対象となる発信履歴を選択して、自動選局特番+付加番号をダイヤルする(184:非通知、186:通知)

発信履歴
10/17 21:10
9876543210

5 受話器を上げる、または  を押す

- 選択した履歴の電話番号の相手に、こちらの電話番号を非通知または通知した状態で、発信されます。
- 相手が応答すると、通話ができます。

6 相手と通話する
相手が応答すると、通話ができます。

7 通話が終了したら、受話器を置く、または  を押す

MEMO

手順1～3の代わりに、待受画面で、を押すと発信履歴が表示されます。を押すと着信履歴が表示されます。

外線ボタンを使用した発信の場合

1 受話器を上げる
受話器から外線発信音が聞こえます。

2 ランプが消灯している  (外線) を押す

- 外線とつながり、外線発信音に変わります。
-  (外線) ランプは点灯(緑)し、他の電話機の  (外線) ランプは、点灯(赤)します。

3  を押す
電話機のディスプレイに[非通知]と表示され、発番号非通知の状態になります。

外線発信 発信者番号: 非通知

4 相手の電話番号をダイヤルする
相手が応答すると、通話できます。

5 通話が終了したら、受話器を置く
 (外線) ランプは、消灯します。

MEMO

- 手順3で、 を押すたびに[非通知]→[通知]→[契約]に切り替わります。[契約]を選択したときの発番号の通知は、回線契約時の条件に従います。
- 手順4で電話番号が登録されている  (ワンタッチボタン) を押した場合、 (ワンタッチボタン) に通知/非通知設定が登録されていなくても、発番号通知または非通知で電話をかけることができます。

指定した番号への発信を規制する(発信禁止番号登録)

テナントごとに、発信を禁止する電話番号を登録して、特定の電話番号への発信を規制することができます。発信禁止番号として登録された電話番号で外線 / 専用線へ発信すると、電話機のディスプレイに「Error」と表示されます。

発信禁止番号としての電話番号の登録は、同じテナント内の多機能電話機(システム管理電話機)から行ってください。操作方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。

内線電話機から緊急ダイヤルへ電話をかける(緊急ダイヤル発信)

緊急ダイヤル発信は、警察や消防 / 救急などへすばやく電話をかけるのに便利な機能です(警察や消防 / 救急などの電話番号を緊急ダイヤルと呼びます)。

この機能を利用すると、外線発信操作をしなくても、登録されている緊急番号をダイヤルするだけで、緊急番号に発信できます。

工事設定

緊急ダイヤルの電話番号は、工事者が登録作業を行います。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。また、登録されている緊急ダイヤルについては、販売店またはシステム管理者にお問い合わせください。最大16件登録することができます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

内線発信
20→[■]

2 緊急ダイヤル番号をダイヤルする

受話器から相手を呼び出す音が聞こえます。

外線発信
110

相手が応答すると、通話ができます。

3 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- 緊急ダイヤルをオートダイヤルボタンに登録しておく
とオートダイヤルボタンを押すだけで発信することができます。また、電話帳に登録しておく
と、必要なときに検索して発信することができます。
- 緊急ダイヤル発信での通話中は、以下の機能を行うことはできません。
 - ・ 通話中からの保留操作
(自己保留、パーク保留、回線保留)
 - ・ 秘話解除(→ P.94)、会議通話(→ P.93)
 - ・ 外線乗り換え(→ P.164)

● 内線にかけるとき

内線登録したオートダイヤルボタンでかける(内線ワンタッチコール)

内線番号を登録したオートダイヤルボタンを押すだけで、ワンタッチで電話をかけることができます(第2章の「オートダイヤル機能を使ってかける(ワンタッチダイヤル)」(→P.34)も参照してください)。

1 (ワンタッチボタン)、 (DSS)のいずれかを押す

内線に電話がかかります。

2 受話器を上げる

相手が応答すると通話ができます。

3 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

 (ワンタッチボタン)、 (DSS)は、あらかじめ  に登録しておきます。 には内線番号を登録します。登録方法については、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。

受話器を置かずに別の内線にかける(リセットコール)

内線電話をかけた相手が話し中のときなど、受話器を置かずにそのまま別の内線番号をダイヤルして、別の内線相手に電話をかけることができます。最初の相手呼び出しの間でも、別の内線番号をダイヤルできます。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を押す

受話器から呼出音または話中音が聞こえます。

3 相手が応答する前に、別の内線番号を押す

- 受話器から呼出音が聞こえます。
- 相手が応答したら通話します。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

相手が応答して通話したあとは、この機能は無効になります。

指定したグループの内線電話を音声で一斉に呼び出す(内線グループ音声呼出)

内線グループ番号を指定することにより、グループごと(一斉呼出も含む)に音声呼出ができます。内線グループ内の内線電話が一斉呼出を受けた場合は、グループ内のどの電話機でも応答できます。

工事設定

グループ番号については、販売店にお問い合わせください。

呼び出す側

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **内線グループ音声呼出特番を押す**
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 3 **内線グループ番号(000 ~ 127)を押す**
指定したグループに所属する内線電話が一斉に呼び出されます。初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。
- 4 **相手に呼びかける**
相手が応答したら、通話ができる状態になります。

応答する側

- 1 **グループ内の電話機から一斉に音声呼出が聞こえる**
 スピーカから呼びかけられます。
- 2 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 3 **内線グループ音声呼出応答特番を押す**
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 4 **内線グループ番号(3桁)を入力する**
 - 呼び出されているグループ番号がディスプレイに表示されます。
 - 呼び出されているグループの番号を入力します。
 - 通話ができる状態になります。
- 5 **通話が終了したら受話器を置く**

- 5 **通話が終了したら受話器を置く**

MEMO

- 内線グループ呼出中の音声 / 信号の切替はできません。
- 外線 / 専用線からの内線グループ音声呼出はできません。

指定したグループの内線電話を着信音で一齐に呼び出す(内線 DGL 呼出)

DGL グループ番号を指定することにより、グループごとに一齐に着信音で呼び出すことができます。

工事設定

- DGL グループの設定と  (DGL) の登録は、工事設定で行います。この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 着信音を鳴らす / 鳴らさない電話機を昼夜モードごとに切り替えることもできます。設定については販売店にご相談ください。また、昼夜モードについては第 3 章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(▶ P.86) を参照してください。

呼び出す側

- 1 受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 DGL グループ呼出特番を押す**
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166) を参照してください。
- 3 DGL グループ番号(2桁または3桁)を押す**
相手が応答したら、通話ができる状態になります。
- 4 通話が終了したら受話器を置く**

MEMO

音声呼出への切替はできません。

応答する側

- 1  (DGL) ランプが速い点滅(赤)する**

内線着信	DGL01
内線10	
田中	

電話機のディスプレイには DGL グループ番号と相手の内線番号が表示されます。
※ DGL グループの名称や、相手内線名称が登録されている場合は、番号の代わりに名称が表示されます。
- 2 速い点滅(赤)している  (DGL) を押す**
- 3 受話器を上げる**
通話ができる状態になります。
- 4 通話が終了したら受話器を置く**

内線へのかけ直しを繰り返す(内線オートリピート)

内線電話した相手が話し中のときなどに、一定時間ごとに自動的にかけ直すことができます。

1 受話器を上げて、内線に電話をかける

2 相手が話し中

相手が話し中のときは、受話器から話中音が聞こえます。

3 を押す

- オートリピートがセットされ、一定時間ごとに、手順 1 と同じ電話番号にダイヤルされます。
- ランプが点灯(赤)します。

4 を押したあと、受話器を置いて、相手の応答を待つ

を押す前に受話器を置くと、オートリピートがキャンセルされます。

5 相手の応答する声が聞こえる

- 相手の声が スピーカから聞こえます。
- ランプが消灯します。

6 受話器を上げて、通話する

7 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

受話器を置いた状態で、点灯(赤)している または を再度押すとオートリピートが解除されます。

工事設定

オートリピートの回数は初期設定で 15 回です(5 秒間隔)。1 ~ 15 回の間で変更可能です。変更したい場合は、販売店にご相談ください。

内線電話を予約する(内線キャンプオン)

内線電話した相手が話し中のとき、相手先の内線を予約(内線キャンプオン)しておくとし、相手の通話が終わったときに空いたことを知らせる着信音が鳴り、受話器を上げると相手呼び出すことができます。

1 受話器を上げて、内線に電話をかける

2 相手が話し中

相手が話し中のときは、受話器から話中音が聞こえます。

3 (内線予約) を押す

-  (内線予約) の代わりに、内線予約特番を押すこともできます。
-  (内線予約) が赤点灯し、手順 1 でかけた内線が予約されます。

4 受話器を置いて、相手の通話が終わるのを待つ

(相手の通話が終わり受話器を置きます。)

5 呼び返しの着信音が聞こえる

スピーカから呼び返し音(着信音)が聞こえ、着信ランプが点滅します。

6 受話器を上げる

- 手順 1 と同じ相手に自動的に電話がかかり、受話器から相手呼び出す音が聞こえます。
-  (内線予約) が消灯し、内線キャンプオンが解除されます。

7 相手が応答したら、通話する

8 通話が終了したら、受話器を置く

MEMO

- この操作の前に、あらかじめ  (内線予約) を  に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶P.166)を参照してください。
- 相手が話し中の間に、再度  (内線予約) または内線予約特番を押すと、内線キャンプオンが解除されます。
- 相手先内線にコールウェイトング(▶P.96)が設定されている場合は、コールウェイトングが優先されます。

3-2 電話を受けるときの便利な使いかた

● 外線を受けるとき

通話中に外線から電話がかかってきたことがわかるようにする(話中着信音)

通話中に外線から着信(一般系着信)があったとき、通常よりも小さな着信音(話中着信音)を鳴らして着信がわかるようにできます。話中着信音のオン/オフは、外線ごとに指定することができます(初期設定はオン)。

※この機能が使用できる着信は、一般着信、DGL 着信、MSA 着信、ドアホン着信です。

MEMO

電話機の設定で「鳴動無し」や「鳴動拒否」が設定されている外線では、話中着信音は鳴りません。

工事設定

話中着信音のオン/オフの設定は、工事者が行います。販売店にご相談ください。

外線ごとに着信音を選択する(外線別着信音種指定)

外線ごとに着信音を変えることができます。また、発信者番号により、着信音を変えることができます。

IP 多機能電話機では、主装置の設定で着信音の音色を変更します。着信音の音色の設定については、販売店にご相談ください。第 1 章の「着信音の音色の選択」(▶ P.13)も参照してください。

MEMO

主装置の音源を使った着信音は、電話機の設定で「着信音色 1」の場合のみ鳴らすことができます。お買い上げ時は「着信音色 1」なので、変更しないでください。

工事設定

この機能を設定する場合は、販売店にご相談ください。

外線ごとに鳴動電話機を指定する

外線ごとに外線着信音が鳴動する電話機を指定することができます。

外線着信音が鳴動しない指定の電話機に着信があった場合でも、 (外線)ランプは点滅しますので、着信を知ることができます。

工事設定

外線ごとに鳴動電話機を指定する場合は、販売店にご相談ください。

特定のグループへ着信した電話に応答する(DGL 着信 /MSA 着信)

外線 / 専用線からの着信を、特定のグループ (DGL グループや MSA グループ) の電話機に着信させることができます。

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 着信音を鳴らす / 鳴らさない電話機を昼夜モードごとに切り替えることができます。設定については販売店にご相談ください。また、昼夜モードについては第 3 章の「時間帯により着信形式を切り替える (夜間モード切替)」(→ P.86)を参照してください。

DGL グループ(→P.162)やMSAグループ(→P.162)は、テナントとは別の着信グループです。テナント内で組織を細分化し、着信先を選択するような場合に便利です。DGL グループや MSA グループへの着信 / 応答は、外線の着信テナントに関係なく行うことができます。

ここでは、特定のグループにかかってきた電話に応答する操作について説明します。

1 着信音が鳴る

-  (DGL) ランプまたは  (MSA) ランプが速い点滅 (赤) します。
- LCD ディスプレイの 1 段目に「DGLnn」または「MSAnn」と表示されます (nn はグループ番号)。

(DGL グループ 01 への外線着信時の表示例)

外線着信	DGL01
	0123456789

電話機のディスプレイには DGL グループ番号と相手の外線番号が表示されます。

- ※ DGL グループの名称が登録されている場合や、相手の名称が電話帳に登録されている場合は、番号の代わりにそれぞれの名称が表示されません。

2 速い点滅 (赤) している (DGL) または (MSA) を押す

3 受話器を上げる

通話ができる状態になります。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

-  (DGL) または  (MSA) はあらかじめ  (オートダイヤル) に登録しておきます。登録方法は販売店にご相談ください。
-  (DGL) または  (MSA) が登録されていない場合は、鳴動していれば受話器を上げるだけで応答できます。
- DGL/MSA 表示の着信は不在転送できません。

3-3 保留 / 転送操作時の便利な使いかた

ワンタッチダイヤルボタンで内線に転送する

外線との通話中に、内線番号を登録したオートダイヤルボタンを押すだけで、ワンタッチで登録した内線へ電話を転送することができます。

第2章の「オートダイヤル機能を使ってかける(ワンタッチダイヤル)」(▶P.34)や「転送先と通話してから転送する(ダイヤル転送)」(▶P.48)、本章の「内線登録したオートダイヤルボタンでかける(内線ワンタッチコール)」(▶P.57)も参照してください。

転送する側

- 1 通話中の相手に転送することを伝える
- 2  (ワンタッチボタン) または  (DSS) を押す
 - 受話器は呼出音に変わり、通話は保留されます。
 - 保留の相手には、保留音が流れます。
 - 保留されると同時に、押したボタンに登録されている内線番号にダイヤルされます。
- 3 転送先が応答したら、転送先に用件を伝える

例えば、「・・・から電話が入っています」と伝えます。
- 4  を押す

通話が自動的に転送されます。
- 5 受話器を置く

MEMO

- この機能を使用するには、あらかじめ内線番号を  (ワンタッチボタン) /  (DSS) に登録しておきます。登録方法については、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
- 設定によっては、手順4で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(▶P.169)を参照してください。
- 転送先が電話に出なかったときは、 (自己保留) (遅い交互点灯(緑橙)しているボタン)を押すと、再度元の相手と通話することもできます。遅い交互点灯(緑橙)しているボタンがない場合(一時保留の場合)は、 を押して、再度元の相手と通話できます。

転送される側

- 1 着信音が鳴る

内線着信音が鳴ります。
- 2 受話器を上げる

転送する側と通話します。

転送する側が  を押すと、自動的に転送されます。
- 3 転送された相手と通話する
- 4 通話が終了したら、受話器を置く

外線からの着信を任意の外線に転送する(公一公接続)

外線との通話中に、通話を任意の外線へ転送し、外線と外線を接続することができます(手動転送)。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

転送の操作方法については、第2章の「転送先と通話してから転送する(ダイヤル転送)」(→P.48)を参照してください。

MEMO

外線からの着信を自動的に任意の外線に転送する設定については、本章の「外線からの着信を自動で転送する(外線自動転送)」(→P.69)を参照してください。

3-4 通話中の便利な使いかた

受話器を置いたままで通話する(ハンズフリー通話)

受話器を使わずに電話機内蔵のマイクとスピーカで通話できます(ハンズフリー通話)。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

かかってきた電話に受話器を置いたままで応答する

- 1 **着信音が鳴る**
内線着信音が鳴ります。
- 2 **スピーカを押す**
 スピーカから相手の音声聞こえます。
- 3 **電話機のマイクに向かって話す**
マイクとスピーカを使って、通話ができます。
- 4 **通話が終了したら、スピーカを押す**


MEMO

- ハンズフリー通話の状態、 を押すと、送話ミュートの状態になります(→ P.66)。
- ハンズフリーを利用して電話をかけるには、電話番号をダイヤルしたあと、受話器を上げずに  を押します。

相手の音声をスピーカで聞く(スピーカ受話)

相手との通話中に、相手の音声を電話機のスピーカを通して聞こえるように、切り替えることができます(受話器での通話からスピーカでの受話への切替)。

- 1 通話中に  を押す
- 2 受話器を置く
相手の声が  スピーカから聞こえます。
- 3 (スピーカ受話から通常の通話に戻す場合)
受話器を上げる
受話器を上げるとスピーカ受話が解除され、通常の受話器による通話に戻ります。

MEMO

- スピーカ受話中は   を押して、スピーカの音量が調節できます。
- マイクがオンの状態でスピーカ受話を行うとハンズフリー通話状態となります。詳細は「受話器を置いたまま通話する(ハンズフリー通話)」(▶P.65)を参照してください。
- スピーカ受話中に  を押すと、通話は切断されます。

通話相手にこちらの音声を聞こえないようにする(送話ミュート)

受話器での通話中またはハンズフリーでの通話中に、相手にこちらの音声を聞こえないように切り替えることができます。

- 1 通話中、 を押す
 - 送話ミュートがオンになり、こちらの音声が相手に聞こえなくなります。
 -  ランプが点灯(赤)します。
- 2 解除する場合は、再度  を押す
 - 送話ミュートがオフになり、こちらの音声が相手に聞こえるようになります。
 -  ランプが消灯します。
 -  を押すたびに、送話ミュートのオン/オフが切り替えられます。

フックフラッシュ信号(フッキング信号)を送る(フックフラッシュ送出)

アナログ回線で通話中に内線  を押すことでフックフラッシュ信号(フッキング信号)を外線に送出することができます。アナログ回線のみ送出可能です。他回線では操作無効です。

アナログ回線のキャッチホンサービスを受けるとき、通話中の回線に対しフッキング信号を送出することができます。そのほか、構内交換機(PBX)に内線電話が接続されている場合に、PBXのサービスを利用するときに使用します。

1 通話中に内線 を押す

MEMO

- PB 信号または DP 信号の送出中は、この操作は無効です。
- フックフラッシュ信号を送出できる回数に制限はありません。
- 最終保留があるときに内線  を押すと、転送機能が優先されます。転送できなかった場合はエラー音が鳴ります。転送機能の詳細については、第 2 章の「転送先と通話してから転送する(ダイヤル転送)」(▶P.48)を参照してください。

プッシュホン信号を送る(PB エンド・ツー・エンド通信)

外線 / 専用線 / 内線通話中に、手動でプッシュホン(PB)信号を送出できるモード(PB 送信モード)を ON に切り替えることができます(PB 信号手動切替)。これにより、ダイヤル回線でもプッシュホン(PB)信号を送ることができるようになり、銀行の残高照会などのプッシュホンサービスを受けられます。

1 通話中

2 (PB 信号)を押す

- PB 送信モードが ON になり、PB 信号を送ることができるようになります。
- 電話機のディスプレイには、「PB」と表示されません(2 行目左側)。
- アナログ外線、アナログ専用線の場合は、 +  を押しても同じ操作ができます。

3 PB 送信を解除したい場合は、再度 (PB 信号)を押す

- PB 送信モードが OFF になります。
-  +  では、PB 送信モードを OFF にすることはできません。

MEMO

- 外線にこちらから電話をかけたときは、相手が応答した時点で自動的に PB 送信モードが ON になるため(PB 信号自動切替)、手動で切り替える必要はありません。ただし、外線以外は初期設定が「PB 信号自動切替なし」に設定されています。販売店にご相談ください。
-  (PB 信号)は、あらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
-  +  のダイヤル操作による PB 送信モード ON の切り替えは、 がダイヤルされてから  のダイヤルが有効な時間は、10 秒間です。
- 外線 / 専用線通話中(PB 送信モード ON 切替後)に、番号種別が「外線」「PBX」「方路指定」で登録されているワンタッチボタンを押すと、ワンタッチのダイヤルを PB 送信します(通話録音中を除く)。
- 電話帳登録、ワンタッチダイヤル登録時、PB 信号切替コード「P」を入れることができます。PB 信号切替コード「P」は外線 / 専用線のみ挿入可能です。内線に対しては行えません。

3-5 電話に回答できないときの便利な機能

席を外しているときや、手が離せないとき、出勤時間外など、電話がかかってきても回答できないようなときがあります。

ここでは、いろいろな場面で電話に回答できないときに利用できる便利な機能について説明します。

■留守番機能

留守番モードを設定しておくことで、かかってきた電話にメッセージを流したり、留守番電話のようにメッセージ(ボイスメール)を録音してもらうことができます。この機能はテナントごとに設定します。

この機能は例えば、事務所に全員がいない時間帯(出勤時間外)などにかかってくる電話に便利です。

参照: 第5章の「留守番機能」(➡ P.128)

■代行機能(外線着信代行、不在代行、無応答代行、圏外代行、話中代行)

自動転送の1つの種類です。代行設定をしておくことで、かかってきた電話にメッセージを流したり、留守番電話のようにメッセージ(ボイスメール)を録音してもらうことができます。この機能は内線電話ごとに設定できます。

参照: 第5章の「各種代行機能」(➡ P.137)

■自動転送

自動転送設定をしておくことで、かかってきた電話を自動的に他へ転送することができます。

転送先として、他の内線電話や外出先で使用する携帯電話などを選択することができます。また、転送先としてボイスメールを選択すると、代行機能として動作します。この機能は内線電話ごとに設定できます。

この機能は例えば、席を外しているときや、手が離せないときなどにかかってくる電話に便利です。

自動転送には、次のような種類があります。

種類	説明箇所
外線自動転送	「外線からの着信を自動で転送する(外線自動転送)」(➡ P.69)
不在転送	「不在時にかかってきた電話を転送する(不在転送)」(➡ P.72)
無応答転送	「一定時間応答しないときに転送する(無応答転送)」(➡ P.76)
圏外転送	—
話中転送	「通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)」(➡ P.78)

以降では、自動転送の各機能について説明します。留守番機能と代行機能については、第5章の「留守番機能」(➡ P.128)、「各種代行機能」(➡ P.137)を参照してください。

MEMO

自動転送(外線自動転送、無応答転送、不在転送、圏外転送)により外線着信を外線転送したとき、転送元と転送先に、以下のような固定ガイダンスまたは録音したガイダンスを流すことができます。

- 転送元へのガイダンス: 「電話を転送します。そのままお待ちください。」(繰り返し: 2回)
- 転送先へのガイダンス: 「転送電話です。電話を転送します。」(繰り返し: 2回)

転送ガイダンスはテナントごとに、他のシステム管理電話機(多機能電話機など)から設定できます。多機能電話機での操作については『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。

● 外線からの着信を自動で転送する(外線自動転送)

外線からの一般着信、DGL/MSA 着信時に、あらかじめ登録していた転送先に着信を自動的に転送することができます(外線自動転送)。

外線自動転送は、外線自動転送モードが ON に設定されているテナントに着信したときに行われます。外線自動転送モードの ON/OFF は、手動または自動で行うことができます。

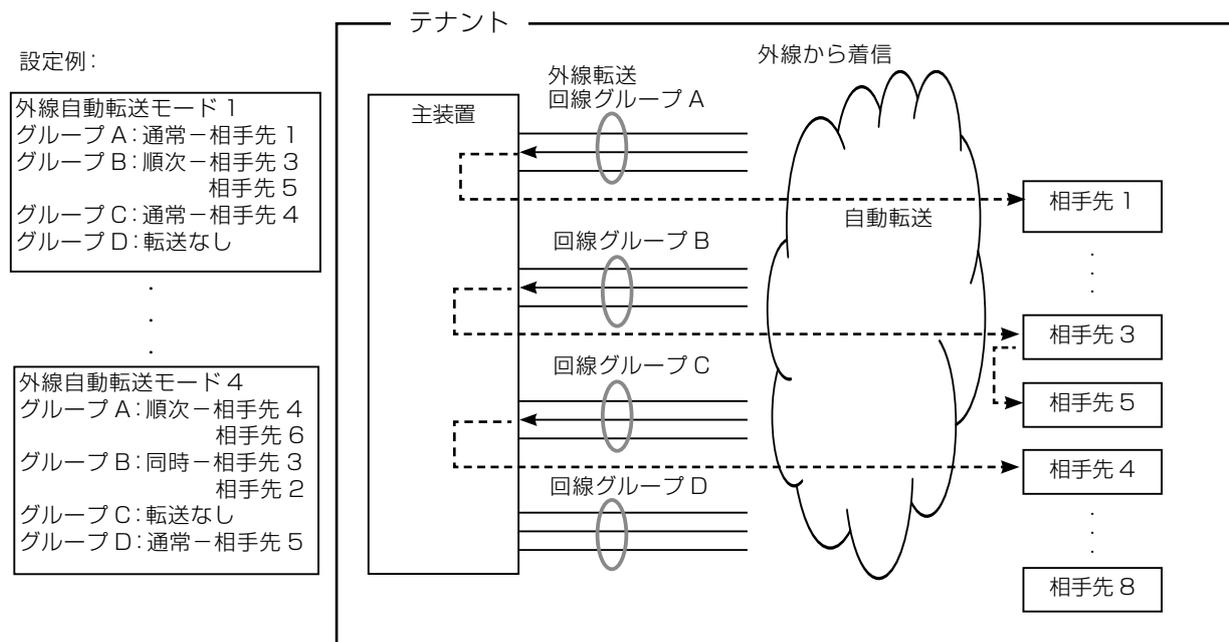
外線自動転送の設定

外線自動転送の転送方法(転送種別)には、「通常」転送(1:1 転送)、「順次」転送(順次 2 箇所呼び出し)、「同時」転送(同時 2 箇所呼び出し)、または「転送無し」(着信継続)の 4 パターンがあります。

テナント内の回線をグループ A ~ D にグループ分けして(工事設定)、グループ A の回線は通常転送、グループ B の回線は同時 2 箇所呼びなど、回線のグループごとに転送方法が別になるように設定できます。グループごとに転送方法を設定するときは、あらかじめ登録しておいた転送先の電話番号(相手先)も指定します。

また、グループ A ~ D の転送方法の組み合わせを「外線自動転送モード」として 4 つ登録しておくことができます。外線自動転送モード 1 ~ 4 を登録して、それぞれ  (外線転送 1) ~  (外線転送 4) に割り付けておくと、ボタンを押しただけで、各外線自動転送モードの ON/OFF が切り替えられ(手動切替)、各回線グループの転送方法と相手先も、指定した外線自動転送モードに登録されたものに切り替えることができます。タイマ連動設定(スケジュール設定)を行うと、外線自動転送モードの ON/OFF を自動切替することもできます。1 つのテナントで、複数の外線自動転送モードを ON にすることはできません。

※オートダイヤルへの機能の割り付けについては第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24)を参照してください。



外線自動転送の設定は、**Web 設定**を使用して操作することができます(管理ユーザレベル)。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

外線自動転送で設定する項目は以下のとおりです。

設定項目	説明
相手先 1 ~ 8	転送相手先の電話番号を設定します。
外線転送回線グループ A ~ D	テナント内の回線をグループ A ~ D にグループ分けして(工事設定)、グループ A の回線は通常転送、グループ B の回線は同時 2 箇所呼びなど、回線のグループごとに転送方法が別になるように設定できます。
転送種別 (4 パターン)	転送動作の種別を以下の 4 パターンから選択できます。 ①「通常」転送: 1 箇所呼び : 1 箇所の転送先へ転送します。 ②「順次」転送: 2 箇所順次呼び : 2 箇所の転送先へ順次転送を行います(1 箇所目の相手が話中や無応答の場合に、1 箇所目を放棄して 2 箇所目へ発信します)。 ③「同時」転送: 2 箇所同時呼び : 2 箇所の転送先へ同時転送を行います。先に応答を検出した回線に接続します。 ④「転送なし」: 着信継続
外線自動転送モード 1 ~ 4	転送条件、転送動作、相手先を設定します。グループ A ~ D の転送方法の組み合わせを「外線自動転送モード」として 4 つ登録しておくことができます。
転送中着信鳴動	転送先の外線と着信先(着信設定に従った着信先)の内線を同時に呼び出すかどうかを選択します。

以下の順に Web 設定で設定してください。

- 「転送先の電話番号を登録・変更 / 削除する(相手先登録)」
- 「回線グループの転送設定を外線自動転送モードに登録する(転送先指定)」
- 「外線自動転送の起動時間を設定する(外線転送起動時間)」
外線着信の検出から転送を起動するまでの時間を設定します(テナントごと)。

必要な場合は以下も設定します。

- 「外線自動転送中に転送先と着信先(着信設定に従った着信先)を同時に呼び出す(転送中着信鳴動)」
「鳴動する」/ 「鳴動しない」のどちらかを選択します。転送先のみ呼び出す場合は(内線が)「鳴動しない」を選択します(テナントごと)。

MEMO

- 「転送中着信鳴動」の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(➡ P.169)を参照してください。
- 「転送中着信鳴動」を「鳴動する」に設定していても、転送元ガイダンスが「あり」の場合は、転送開始とともに着信先(着信設定に従った着信先)の内線の着信音は鳴り止みます。
- 着信先(着信設定に従った着信先)の内線が呼び出されたとき、着信ウェイト(➡ P.77)やワンショット留守番(➡ P.136)などを使用することもできますが、その場合は外線(転送先)への自動転送は停止します。

設定後は、以下のようにして転送モードを ON/OFF します。

- 「外線自動転送モードを手動で ON/OFF する」(➡ P.71)
- 「外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する(外線自動転送モード自動切替)」(➡ P.71)

外線自動転送モードを手動で ON/OFF する

Web 設定で登録した外線自動転送モード 1～4 を、それぞれ  (外線転送 1)～ (外線転送 4) に割り付けておくと、ボタンを押しただけで、外線自動転送モードが ON に設定され、指定した外線自動転送モードに合わせて各外線グループの転送方法および相手先が設定されます。

ボタンを押すたびに外線自動転送モードの ON/OFF がトグル式に切り替わります。外線自動転送の ON/OFF は、システム管理電話機と一般ユーザ電話機の両方で操作でき、テナントごとに設定されます。

※オートダイヤルへの機能の割り付けについては第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24) を参照してください。

外線自動転送モードを ON にする

1 待受状態で、 (外線転送 1)～ (外線転送 4) のいずれかを押す

- 押したボタンに登録されている外線自動転送モードが ON になり、電話機のディスプレイには「自動転送 1」～「自動転送 4」のいずれかが表示されます。
「自動転送 1」～「自動転送 4」は、それぞれ、外線自動転送モード 1～外線自動転送モード 4 に対応しています。
- 押したボタンのランプは点灯(赤)します。

( (外線転送 1) を押した場合の例)

自動転送 1	11
10/24 (木)	9:00a

外線自動転送モードを解除(OFF)する

1 転送モードを解除するには、点灯(赤)している (外線転送) を押す

- 電話機のディスプレイから「自動転送 1」～「自動転送 4」の表示が消えます。
- | | |
|-----------|-------|
| | 内線 11 |
| 10/24 (木) | 9:00a |
- 押したボタンのランプは消灯します。

MEMO

同時に複数の外線自動転送モードを起動することはできません。あとから起動した外線自動転送モードが有効になります。

例えば、モード 1 が ON のときにモード 2 を ON すると、モード 1 は OFF となり、モード 2 が ON となります。

外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する(外線自動転送モード自動切替)

タイマ連動設定(スケジュール設定)を利用すると、外線自動転送モードの ON/OFF が曜日と時間帯により自動的に切り替わるように設定できます。

タイマ連動設定では、日～土と休日 / 祝祭日のそれぞれに対して、1 日を 1～10 の時間帯に分けて、時間帯ごとに動作を設定します。

タイマ連動設定は、**Web 設定**、または他のシステム管理電話機(多機能電話機など)から設定できます。

Web 設定については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。多機能電話機での操作については『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。

MEMO

祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」(→ P.88) を参照してください。

● 不在時にかかってきた電話を転送する(不在転送)

席を外しているときに、外線 / 専用線または内線からの個別着信があったとき、あらかじめ設定した転送先に転送することができます。転送先として、ボイスメールを選択すると、留守番電話のように使用することもできます(不在代行)。この機能を利用するには、まず不在転送設定で転送先を設定してから、実際に不在になるときに「不在 ON」(▶ P.72)に切り替えます。

転送先は、電話機(特番)または Web 設定から内線電話機ごとに設定します。

- Web 設定では、一般ユーザレベルでは自内線のみ、管理ユーザレベルでは自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。
- 電話機(特番)からは、自内線の転送先のみ設定できます(操作手順は「不在転送先を設定する(不在転送設定)」(▶ P.73)を参照)。

不在 ON/OFF を設定する

内線電話を不在設定状態(不在 ON)または不在設定解除状態(不在 OFF)にする操作を説明します。内線電話機ごとに設定します。

不在 ON にするときには、不在理由も選択します。選択した不在理由は自内線の電話機のディスプレイ、および電話をかけてきた相手の電話機のディスプレイにも表示されます。

不在設定状態(ON)にする

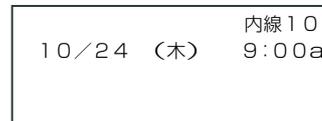
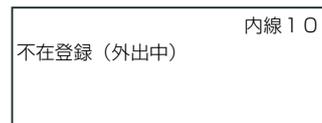
1 待受状態で、消灯している  (不在) を押す

2 不在理由の番号を押す

- 不在理由は、9 種類(1: 外出中、2: 会議中、3: 来客中、4: 食事中、5: 出張中、6: 休暇中、7: 帰宅、8: 直帰、9: 直行直帰)の中から選択できます(初期設定の場合)。
- 登録完了音が鳴り、不在設定状態(不在 ON)となります。
-  (不在) ランプは点灯(赤)します。
- 電話機のディスプレイの 2 行目に、時計表示の代わりに不在理由が「不在登録(外出中)」と表示されます。不在理由を設定していない場合は「不在登録(不在)」と表示されます。

不在設定解除状態(OFF)にする

1 待機状態で、点灯(赤)している  (不在) を押す



- 登録完了音が鳴り、不在解除状態(不在 OFF)となります。
-  (不在) ランプは消灯します。

MEMO

- あらかじめ  (不在) を  に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)を参照してください。
- 特番で操作する場合は、不在設定を ON にするときは、受話器を上げて不在特番を押したあと、不在理由(1 ~ 9)を押します。不在設定を解除(OFF)するときは、受話器を上げて不在特番を押したあと、 を押します。不在特番については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166)を参照してください。
- 不在理由(1: 外出中、2: 会議中、3: 来客中、4: 食事中、5: 出張中、6: 休暇中、7: 帰宅、8: 直帰、9: 直行直帰)の名称は編集することができます。不在理由に使用できる文字は、全角文字(漢字、カナ、英字、数字)では 10 文字まで、半角文字(カナ、英字、数字)では 20 文字までです。詳細は『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

【初期設定値】

不在理由 1	外出中
不在理由 2	会議中
不在理由 3	来客中
不在理由 4	食事中
不在理由 5	出張中

不在理由 6	休暇中
不在理由 7	帰宅
不在理由 8	直帰
不在理由 9	直行直帰

- 外出先から不在設定を ON/OFF することもできます。詳細は、「外出先から設定を変更する(転送リモコン)」(▶ P.79)を参照してください。

不在転送先を設定する(不在転送設定)

不在時の転送先は、着信回線の種別ごとに設定します。ここでは、電話機(特番)を使った操作について説明します。特番では自内線の不在転送先のみ設定できます。不在転送先の登録・変更の操作は、「不在 ON」の間でも可能です。

※他内線の転送先を設定したい場合は、Web 設定に管理ユーザレベルでログオンして設定してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から、内線発信音が聞こえます。

2 不在転送登録特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166)を参照してください。

3 着信回線種別(0 ~ 4)を押す

一括登録の場合は(0)、内線着信の場合は(1)、外線着信の場合は(2)、専用線着信の場合は(3)、発番号別の場合は(4)を押します。

4 転送先の各設定項目を選択する

「不在転送の設定項目と入力する番号」(▶ P.74)に従って、各設定項目の番号と区切り文字(*)を入力します。

5 最後の区切り文字(*)を押す

登録完了音が鳴り、操作した電話機の不在転送先が登録されます。

6 受話器を置く

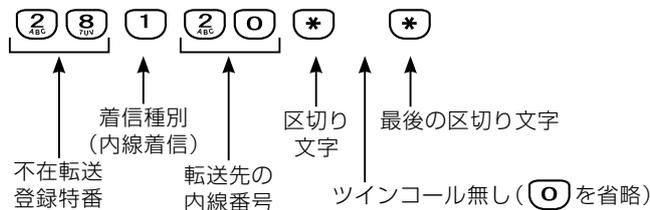
MEMO

プリセットダイヤルのように、受話器を上げずに入力して、最後に^{スピーカ}()を押しても登録できます。

入力例

■入力例 1:

不在転送登録特番が 28 で、内線着信を内線番号 20 に転送する場合(ツインコール無し)



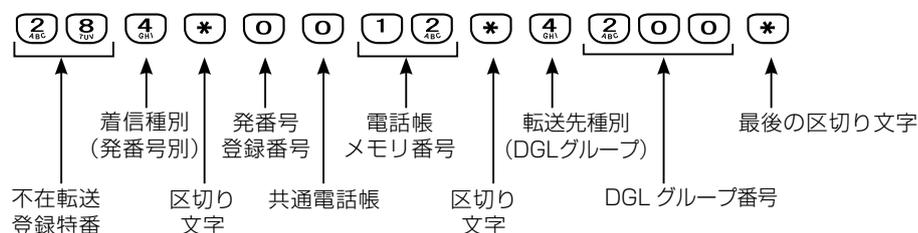
■入力例 2:

不在転送登録特番が 28 で、外線着信を外線(123456789)に転送する場合(ツインコールあり)



■入力例 3:

不在転送登録特番が 28 で、特定の電話番号の相手(共通電話帳のメモリ番号 12 [2 桁設定の場合] に登録されている電話番号)からの着信を DGL グループ(グループ番号 200)に転送する場合



不在転送の設定項目と入力する番号

不在転送登録特番を押したあと、設定項目に従い、以下の表の左から右へ順に番号を入力します。

■ 着信種別が内線着信、外線着信、専用線着信、一括登録の場合

着信種別	区切り文字	転送先		区切り文字	ツインコールの有無(省略可) 省略した場合は「なし」	最後の区切り文字	備考	
		転送先種別	転送先番号					
① (内線着信) / ② (外線着信) / ③ (専用線着信) / ④ (一括登録)	—	— (内線)	内線番号	*	④ / ① (なし / あり)			
	*	① (外線)	相手先番号					
		① (外線:特番展開)	特番 + 相手先番号					
		② (外線:PBX)	相手先番号					
		③ (外線:方路指定)	方路番号 + 相手先番号					
		④ (DGLグループ)	DGLグループ番号					
			⑤ (MSAグループ) ※外線着信時のみ	MSAグループ番号			*	※転送先がMSAグループの場合はこの部分は不要です。
			⑥ (内線代表転送)	※転送先が内線代表の場合はこの部分は不要です。				
			⑦ (一般着信) ※外線着信時のみ	※転送先が一般着信の場合はこの部分は不要です。				
			⑧ (ガイダンス応答録音) ※外線着信時 / 専用線着信時のみ	応答ガイダンス種別+ガイダンス番号* ¹ → * 終了ガイダンス種別+ガイダンス番号* ² → * MBX番号* ³ → * 録音通知の有無* ⁴ ※「メッセージ録音無し」(応答ガイダンスのみを流す)を設定する場合は、「MBX番号」と「録音通知の有無」の両方(および2つの間の区切り文字)を省略してください。 ※ガイダンス応答録音(不在代行)の詳細は第5章の「不在代行を設定する」(→P.137)を参照してください。				
		⑨ (転送無し)	④ / ① / ② (<切断> / <着信継続> 鳴動なし / 鳴動あり) ※省略可(省略した場合は<切断>) ※一括登録時はこの部分は入力不可					

*¹: 応答ガイダンス種別には、④(固定ガイダンス1) / ①(固定ガイダンス2) / ②(ユーザガイダンス)のいずれかを入力します。②(ユーザガイダンス)のときはガイダンス番号(00～99)を入力します。
 *²: 終了ガイダンス種別には、④(固定ガイダンス)、①(ユーザガイダンス)のいずれかを入力します。①(ユーザガイダンス)のときはガイダンス番号(00～99)を入力します。
 *³: MBX番号には、代行録音先のメールボックス番号を入力します。
 *⁴: 録音通知の有無には、④(通知無し) / ①(電話呼出) / ②(Eメール通知) / ③(電話呼出+Eメール通知)のいずれかを入力します。

■ 着信種別が発番号別の場合

着信種別	区切り文字	発番号			区切り文字	転送先		区切り文字	ツインコールの有無(省略可) 省略した場合は「なし」	最後の区切り文字	
		登録番号	電話帳種別	電話帳メモリ番号		転送先種別	転送先番号				
④ (発番号別)	*	① ～ ⑨	① (共通電話帳) / ① (個別電話帳)	電話帳メモリ番号	*	— (内線)	内線番号	*	① / ① (なし / あり)	*	
						① (外線)	相手先番号				
						① (外線:特番展開)	特番 + 相手先番号				
						② (外線:PBX)	相手先番号				
						③ (外線:方路指定)	方路番号 + 相手先番号				
						④ (DGLグループ)	DGLグループ番号				※転送先がDGLグループの場合はこの部分は不要です。
						⑤ (MSAグループ)	MSAグループ番号				※転送先がMSAグループの場合はこの部分は不要です。
						⑥ (内線代表転送)	※転送先が内線代表の場合はこの部分は不要です。				
						⑦ (一般着信)	※転送先が一般着信の場合はこの部分は不要です。				
						⑧ (ガイダンス応答録音)	応答ガイダンス種別+ガイダンス番号* ¹ → * 終了ガイダンス種別+ガイダンス番号* ² → * MBX番号* ³ → * 録音通知の有無* ⁴ ※「メッセージ録音無し」(応答ガイダンスのみを流す)を設定する場合は、「MBX番号」と「録音通知の有無」の両方(および2つの間の区切り文字)を省略してください。 ※ガイダンス応答録音(不在代行)の詳細は第5章の「不在代行を設定する」(→P.137)を参照してください。				
⑨ (転送無し)	① / ① / ② (<切断>/<着信継続>鳴動なし/鳴動あり) ※省略可(省略した場合は<切断>)										

*¹: 応答ガイダンス種別には、①(固定ガイダンス1)/①(固定ガイダンス2)/②(ユーザガイダンス)のいずれかを入力します。②(ユーザガイダンス)のときはガイダンス番号(00～99)を入力します。

*²: 終了ガイダンス種別には、①(固定ガイダンス)、①(ユーザガイダンス)のいずれかを入力します。①(ユーザガイダンス)のときはガイダンス番号(00～99)を入力します。

*³: MBX番号には、代行録音先のメールボックス番号を入力します。

*⁴: 録音通知の有無には、①(通知無し)/①(電話呼出)/②(Eメール通知)/③(電話呼出+Eメール通知)のいずれかを入力します。

● 一定時間回答しないときに転送する(無応答転送)

外線 / 専用線または内線からの着信に一定時間回答しなかったとき、あらかじめ設定した転送先へ転送することができます(無応答転送)。ここでは、個別着信への無応答転送の設定について説明します。一般系着信(一般着信、DGL 着信、MSA 着信)への無応答転送については、「一定時間回答しないときに転送する(一般系無応答転送)」を参照してください。

無応答転送の設定では、転送先と、着信後に無応答転送されるまでの時間(無応答タイマ)を設定します(内線電話機ごと)。

無応答転送の設定は、**Web 設定**で設定します。一般ユーザレベルでは自内線のみ設定でき、管理ユーザレベルでは自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

- [転送先種別]は初期設定では、[転送無し<着信>]が選択されていて、無応答時でも転送せずに着信します。
- 無応答時に留守番電話のようにボイスメールが応答(無応答代行)するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールアドレスを入力します。詳細は第5章の「各種代行機能」(→ P.137)を参照してください。

● 一定時間回答しないときに転送する(一般系無応答転送)

外線 / 専用線または内線からの着信に一定時間回答しなかったとき、あらかじめ設定した転送先へ転送することができます(一般系無応答転送)。ここでは、一般系着信(一般着信、DGL 着信、MSA 着信)への無応答転送の設定について説明します。個別着信への無応答転送については、「一定時間回答しないときに転送する(無応答転送)」を参照してください。

無応答転送の設定では、転送先と、着信後に無応答転送されるまでの時間(無応答タイマ)を設定します。

無応答転送の設定は、着信の種類によって、以下の単位で設定します。

- 一般着信 → 外線ごと(一般着無応答転送設定)
- DGL 着信 → DGL グループごと(DGL 無応答転送設定)
- MSA 着信 → MSA グループごと(MSA 無応答転送設定)

一般系無応答転送の設定は、他のシステム管理電話機(多機能電話機など)から設定できます。多機能電話機での操作については『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。

MEMO

- [転送先種別]は初期設定では、[転送無し<着信>]が選択されていて、無応答時でも転送せずに着信します。
- 無応答時に留守番電話のようにボイスメールが応答(無応答代行)するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールアドレスを入力します。詳細は第5章の「各種代行機能」(→ P.137)を参照してください。

3-6 通話中に着信があったときの便利な機能

● 通話中の着信相手に一時待ってもらう(着信ウェイトメッセージ)

通話中に他の外線 / 専用線からの着信があったとき、通話中の電話機でボタンを押すことにより、ガイダンスを送ってその相手に一時待ってもらうようにして保留状態にしておき、通話終了後にその相手の電話に応答することができます(着信ウェイトメッセージ)。

この機能が使用できる着信は、外線 / 専用線からの一般着信、DGL 着信、MSA 着信です。

通話中に着信が入ると、着信ランプが点滅し、話中着信音が鳴ります。

着信ウェイトガイダンスのあと、システム保留、またはパーク保留状態になります。

ここでは、外線 1 の相手と通話中に外線 2 への一般着信があった場合の例で説明します。

1 外線 1 の相手と通話中
 (外線 1) ランプは点灯(緑)しています。

2 外線 2 に着信

-  (外線 2) ランプと着信ランプが速い点滅(赤)します。
-  スピーカから話中着信音が聞こえます。

3  (着信ウェイト) を押す
 (着信ウェイト) ランプが点灯(赤)します。

4 速い点滅(赤)している  (外線 2) を押す

-  (外線 2) ランプは遅い交互点灯(緑橙)になります。
-  (着信ウェイト) ランプが消灯します。
- かかってきた外線の相手には、着信ウェイトメッセージ(例:「ただいま大変電話が混み合っております。順番におつなぎしますので、そのままお待ちください」)が流れたあと、保留メロディが流れます。

5 外線 1 の相手との通話が終了したら、いったん受話器を置く

6 再度、受話器を上げて、 (外線 2) を押す

- 保留している外線 2 の相手と通話ができる状態になります。
-  (外線 2) ランプは点灯(緑)に変わります。

7 通話が終了したら受話器を置く
 (外線 2) ランプは消灯します。

MEMO

-  (着信ウェイト) は、あらかじめ  に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
 - DGL 着信、MSA 着信のときは、 (外線 2) の代わりに、それぞれ  (DGL)、 (MSA) を押します。
 - 手順 4 で、 (外線 2) の代わりに  を押しても同じ操作が行えます。
 - 点灯(緑)などのランプ表示については、第 1 章の「ランプ表示」(▶P.6)を参照してください。
 - 通話中の着信だけでなく、待受状態のときの着信に対しても、同じ操作で着信ウェイトメッセージを流して保留することができます。
 - 話中着信音のオン / オフの設定については、「通話中に外線から電話がかかってきたことがわかるようにする(話中着信音)」(▶P.61)を参照してください。
 - 保留時に流れる保留音や保留メロディの設定については、第 1 章の「保留音の設定」(▶P.30)を参照してください。
 - 着信ウェイトメッセージ(ガイダンス)には、固定ガイダンスやユーザが録音したガイダンスを指定することができます。また、着信ウェイトメッセージを流さず、直接、保留音や保留メロディだけを流すようにすることもできます。
- 着信ウェイトメッセージの設定は、他のシステム管理電話機(多機能電話機など)から行うことができます。多機能電話機での操作については『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。

● 通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)

通話中に外線 / 専用線または内線からの個別着信があったとき、あらかじめ設定した転送先へ転送することができます(話中転送)。

話中転送の設定(内線電話機ごと)は、**Web 設定**から設定します。一般ユーザーレベルでは自内線のみ設定でき、管理ユーザーレベルでは自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

- メニュー操作中の着信も話中転送の対象となります。
- 通話中に着信したときに、留守番電話のようにボイスメールが応答(話中代行)するように設定するには、転送先種別として「ガイダンス応答録音」を選択し、着信時に流す応答ガイダンスを選択したあと、「録音あり」を選択して録音先のメールアドレスを入力します。詳細は第5章の「各種代行機能」(▶ P.137)を参照してください。

3-7 外出先からの便利な機能

● 外出先から設定を変更する(転送リモコン)

外出先から、外線自動転送モード(➡ P.71)や不在設定のON/OFF(➡ P.72)を変更することができます。この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

外出先から会社に電話をかけて転送リモコンを開始する

1 外出先から会社に電話をかける

- この機能が使用できる電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながったあとは、それぞれ場合により以下の手順へ進んでください。

電話の状態	操作手順
付加番号 DID ガイダンス中	手順 2 へ
着サブ DID 外線別個別着信(DIL) モデムダイヤルイン / ナンバー 一般系着信に一定時間無応答(➡ P.76) (外線自動転送モードが OFF の場合) 発番号 DID	手順 3 へ

※上の電話機の状態の詳細については、「A-1 用語説明」(➡ P.162)のそれぞれの項を参照してください。

2 転送リモコン特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.166)を参照してください。
- 特番を押すと、転送リモコンが開始され、「内線番号を入力してください。」というガイダンスが流れます。

3 (自分の)内線番号をダイヤルする

- 先頭の「0」は無効です。
- **[*]**を押すと、入力したダイヤル番号を取り消して、再度ダイヤルすることができます。
- **[#]**を押すと、転送リモコンを終了して、電話が切れます。
- 転送リモコン用暗証番号が設定されていない場合は、内線番号の最後の桁のダイヤルが終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。手順 5 へ進んでください。
- 転送リモコン用暗証番号が設定されている場合は、「暗証番号を入力してください」というガイダンスが流れます。手順 4 へ進んでください。

MEMO

発番号 DID のときは、転送リモコン用暗証番号を入力する必要はありません。手順 5 へ進んでください。

4 転送リモコン用暗証番号(4桁)を入力する

- 転送リモコン用暗証番号はテナントごとに設定されています(0~9の4桁の番号)。
- 最後の桁の入力が終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。

5 各サービスを選択して操作する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

サービス番号	操作
0	外線自動転送モードの選択(➡ P.80)
1	不在モードON/OFFの選択(➡ P.80)
2~9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
[*]	内線番号の入力に戻り、ガイダンスが流れます。
[#]	転送リモコンを終了します。

工事設定

- 初期設定では、転送リモコン用暗証番号は設定されていません。設定する場合は、販売店にご相談ください。テナントごとに転送リモコン用暗証番号を持つことができます。暗証番号により他テナントの人が無断で、外出先から操作を行うのを防ぐことができます。
- 暗証番号が分からなくなった場合は、初期化することができます。初期化は工事者が行います。販売店にご相談ください。

外出先から外線自動転送モードを変更する

1 外出先から会社へ電話をかけて、転送リモコンを開始する

「外出先から会社へ電話をかけて転送リモコンを開始する」(▶ P.79)の手順 1～4 を操作します。

2 **[0]** を押す (外線自動転送モード切替)

外線自動転送モード選択のためのガイダンス「番号を入力してください」が流れます。

3 外線自動転送モードの番号を入力する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

番号	操作
0	外線自動転送モードが解除されます。
1～4	外線自動転送モードをモード 1～4 に切り替えます。
5～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
[*]	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
[#]	転送リモコンを終了します。

番号を入力すると、確認音が鳴ります。

4 操作を終了する場合は、**[#]** を押す

選択した設定は保存され、転送リモコンを終了して、電話が切れます。

MEMO

転送リモコンで変更できる外線自動転送モードは、リモコン開始時に指定した内線が所属するテナントのモードになります。外線自動転送を行うには外線自動転送設定(▶ P.69)が必要です。

外出先から不在設定の ON/OFF を切り替える

1 外出先から会社へ電話をかけて、転送リモコンを開始する

「外出先から会社へ電話をかけて転送リモコンを開始する」(▶ P.79)の手順 1～4 を操作します。

2 **[1]** を押す (不在モード切替)

不在モード選択のためのガイダンス「番号を入力してください」が流れます。

3 不在モード選択の番号を入力する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

番号	操作
0	不在モードを OFF に設定します。
1～9	不在モードを ON を設定すると同時に、不在理由 1～9 を指定します。
[*]	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
[#]	転送リモコンを終了します。

番号を入力すると、確認音が鳴ります。

4 操作を終了する場合は、**[#]** を押す

選択した設定は保存され、転送リモコンを終了して、電話が切れます。

MEMO

- 不在転送設定は転送リモコンで設定することはできません。「不在転送先を設定する(不在転送設定)」(▶ P.73)を参照して設定してください。
- 不在理由 1～9 は、初期設定では、1: 外出中、2: 会議中、3: 来客中、4: 食事中、5: 出張中、6: 休暇中、7: 帰宅、8: 直帰、9: 直行直帰です。

● 外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)

外出先から、留守番モードの切替や、留守番で指定したメールボックスのメッセージの再生 / 削除ができます。この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する

1 外出先から会社に電話をかける

留守番モードになっている外線電話番号に電話してください。

留守番モードの設定は、社内の多機能電話機または **Web 設定** から行います。第5章の「留守番機能」(➡ P.128)を参照してください。

※留守リモコンを使用すると、外出先からでも留守番モードを設定 / 解除することができます(サービス番号 1)。

2 電話がつながったら、留守番ガイダンスが流れている間に **[*]** を押す

留守リモコンが開始され、「留守番設定モードです。内線番号を入力してください。」というガイダンスが流れます。

3 (自分の)内線番号をダイヤルする

- 先頭の「0」は無効です。
- **[*]** を押すと、入力したダイヤル番号を取り消して、再度ダイヤルすることができます。
- **[#]** を押すと、留守リモコンを終了して、電話が切れます。
- 留守リモコン用暗証番号が設定されていない場合は、内線番号の最後の桁のダイヤルが終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。手順 5 へ進んでください。
- 留守リモコン用暗証番号が設定されている場合は、「暗証番号を入力してください」というガイダンスが流れます。手順 4 へ進んでください。

4 留守リモコン用暗証番号(4桁)を入力する

- 留守リモコン用暗証番号はテナントごとに設定されています(0～9の4桁の番号)。
- 最後の桁の入力が終わると、「サービス番号をどうぞ」というガイダンスが流れます。

5 各サービスを選択して操作する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

サービス番号	操作
1	留守番モード変更(➡ P.82)
2	応答ガイダンス変更(➡ P.83)
3	終了ガイダンス変更(➡ P.83)
4～7	留守番グループA～Dの動作選択(➡ P.83)
8	メッセージ録音通知の有無と録音通知方法(➡ P.83)
9	留守番録音用メールボックスへのアクセス(➡ P.83)
0	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
[*]	内線番号の入力に戻り、ガイダンスが流れます。
[#]	留守リモコンを終了します。

工事設定

- 初期設定では、留守リモコン用暗証番号は設定されていません。設定する場合は、販売店にご相談ください。テナントごとに留守リモコン用暗証番号を持つことができます。暗証番号により他テナントの人が無断で、外出先から操作を行うのを防ぐことができます。
- 暗証番号が分からなくなった場合は、初期化することができます。初期化は工事者が行います。販売店にご相談ください。

MEMO

手順 2 で、会社の電話が留守番モードではなく、以下のような状態だった場合は、それぞれの操作手順へ進んでください。

電話の状態	操作手順
付加番号 DID ガイダンス中	留守リモコン特番を押したあと、手順 3 へ
着サブ DID 外線別個別着信(DIL) モデムダイヤルイン / i・ナンバー 発番号 DID	手順 3 へ

- 電話の各状態の詳細については、「A-1 用語説明」(➡ P.162)のそれぞれの項を参照してください。
- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(➡ P.166)を参照してください。
- 発番号 DID のときは、留守リモコン用暗証番号を入力する必要はありません。手順 3 で内線番号をダイヤルしたあと、手順 5 へ進んでください。

外出先から留守番モードを切り替える

在宅モード、留守番モードを切り替えます。

1 外出先から会社に電話をかけて、留守リモコンを開始する

「外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する」(▶ P.81)の手順 1 ~ 4 を操作します。

2 サービス番号 **1** を押す (留守番モード変更)

留守番モード選択のためのガイダンス「番号を入力してください」が流れます。

3 留守番モードの番号を入力する

入力する番号によって以下のような操作を行うことができます。

番号	操作
1	在宅モードにします。
2	留守番モードにします。
0、3~9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
*	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
#	留守リモコンを終了します。

番号を入力すると、確認音が鳴ります。

4 操作を終了する場合は、**#** を押す

選択した設定は保存され、留守リモコンを終了して、電話が切れます。

MEMO

- 留守リモコンで変更できる留守番モードは、リモコン開始時に指定した内線が所属するテナントのモードになります。
- 留守リモコンで指定した内線番号が未登録だったり、暗証番号の入力誤り、無効のサービス番号を指定した場合は、エラー音が鳴り、それぞれの入力待ち状態に戻ります。3回入力に失敗すると、その時点で回線が切断されます。入力に成功すると、失敗回数は初期化されます。

外出先から利用 / 切替できる留守番電話機能

留守リモコンでは、留守番モードの切り替えのほかに、以下のようなサービス機能を利用できます。各機能を利用するには、「外出先から会社に電話をかけて留守リモコンを開始する」(▶P.81)の手順1～4を操作したあと、以下のそれぞれのサービス番号と機能番号を入力します。

■ 応答ガイダンス変更(サービス番号 :2)

留守番応答(応答録音 / 応答専用共通)時の応答ガイダンスを変更します。

機能番号	操作
1	固定ガイダンス 1 に変更します。
2	固定ガイダンス 2 に変更します。
3	ユーザ録音ガイダンスの選択をします。 (ガイダンス番号の入力待ちとなります)
0、 4～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
✳	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
＃	留守リモコンを終了します。

■ 終了ガイダンス変更(サービス番号 :3)

録音終了時の終了ガイダンスを変更します。

機能番号	操作
1	なしにします。
2	固定ガイダンスにします。
3	ユーザ録音ガイダンスの選択をします。 (ガイダンス番号入力待ちとなります)
0、 4～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
✳	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
＃	留守リモコンを終了します。

■ 留守番録音用メールボックスへのアクセス(サービス番号 :9)

留守番録音用メールボックスにアクセスします。

留守リモコンからメールボックスへアクセスする場合は、テナント内で共通に利用できる「共通メールボックス」に直接アクセスします(クイックログオン)。メールボックス番号は指定する必要はありません。共通メールボックス番号としてシステムで指定されています。

メールボックスへ接続したあとの操作については、第5章の「メールサービスを利用する」(▶P.146)を参照してください。

MEMO

留守リモコンからメールアクセスを選択したあとは、留守リモコンに戻ることはできません。

■ 留守番グループ A～D の動作選択

(サービス番号 :4～7)

留守番グループ A～D の動作(なし / 応答録音 / 応答専用)をそれぞれ変更します。

機能番号	操作
1	なし(在宅)にします。
2	応答録音にします。
3	応答専用にします。
0、 4～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
✳	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
＃	留守リモコンを終了します。

■ メッセージ録音通知の有無と録音通知方法

(サービス番号 :8)

メッセージ録音通知の有無と録音通知方法を指定します。

機能番号	操作
1	なしにします。
2	電話呼出にします。
3	Eメール通知にします。
4	電話呼出・Eメール両方通知にします。
0、 5～9	無効。操作ガイダンス「番号を入力してください」が再度流れたあと、番号入力待ちとなります。
✳	サービス番号の入力に戻り、ガイダンス「サービス番号をどうぞ」が流れます。
＃	留守リモコンを終了します。

● 外出先から電話して各種機能を利用する(付加番号 DID)

着信形式として「付加番号 DID」が設定されていると、外出先から、指定された電話番号に電話をかけると、自動応答してダイヤル入力を促すガイダンスが流れます。

ガイダンスが流れたあと、内線番号や各種特番をダイヤル入力して、外出先から直接社内に着信先を選ぶことができます(ダイヤルイン着信)。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

外出先から直接内線に電話する

外出先から、指定された電話番号に電話をかけて、内線番号をダイヤルすることにより、内線を直接呼び出すことができます。この機能を使うときに使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

1 外出先から会社へ電話をかける

- この機能が使用できる電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。

- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

例：『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』

2 内線番号をダイヤルする

相手が電話に出ると、通話できる状態になります。

MEMO

- 一定時間以内に内線番号をダイヤルしなかった場合は、以下のようなリトライガイダンスが流れます。
例 1：「別の内線番号をダイヤルしてください」
例 2：「もう一度ダイヤルしてください」
- ダイヤル先の内線番号の相手が、一定時間、電話に出なかった場合は、設定により以下のいずれかになります。
 - ・リトライガイダンスが流れる
 - ・無応答転送(➡ P.76)が動作し、電話が転送される
 - ・電話が切れる

外出先から直接電話できる着信先

付加番号 DID 機能を使用すると、内線以外にも、外出先から以下のような着信先に電話することができます。

着信先	自動応答後にダイヤルする番号
内線	内線番号
外線 / 専用線(閉番号)	閉番号、迂回閉番号(専用線のみ)
外線 / 専用線(開番号)	方路選局特番+相手番号、迂回方路選局+相手番号(専用線のみ) 共通電話帳特番+共通電話帳メモリ番号(SIP 専用線は対象外) 参照：『取扱説明書(Web 設定編)』
DGL グループ	DGL グループ呼出特番+ DGL グループ番号 参照：「指定したグループの内線電話を着信音で一斉に呼び出す(内線 DGL 呼出)」(➡ P.59)
MSA グループ	MSA グループ呼出特番+ MSA グループ番号
ボイスメールシステム	メールアクセス特番 参照：第 5 章の「メールサービスを利用する」(➡ P.146)
リモコン	各種リモコン特番 参照： ● 「外出先から設定を変更する(転送リモコン)」(➡ P.79) ● 「外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)」(➡ P.81)
外部スピーカ	外部スピーカ呼出特番+外部スピーカ番号 参照：第 4 章の「構内放送装置との接続」(➡ P.113)

※上記の各特番については、「A-2 特番一覧」(➡ P.166)を参照してください。

※自動応答後のダイヤル番号として、**[*]**を押した場合はリトライ、**[#]**を押した場合は着信テナントへの一般着信となります。

● 外出先から会社のシステムを使って電話をかける(リモートコールバック)

外出しているときでも、会社のシステム(主装置)を使って電話をかけることができます。これにより自分の携帯電話での課金を避けることができます。

この機能を利用するには、以下の操作を順に行います。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

1. 共通電話帳グループの設定で、リモートコールバック機能を「利用する」に設定します(Web 設定)。
2. 外出先で利用する携帯電話の電話番号を共通電話帳に登録しておきます(Web 設定)。
登録時は 1 でリモートコールバック機能を「利用する」に設定したグループを選択してください。
3. 登録した携帯電話で外出先から会社に電話をかけて、すぐに切ります(ワン切り)。
4. 会社のシステム(主装置)は、登録された携帯電話の電話番号からの着信が途中で放棄(ワン切り)されたことを検知すると、折り返し携帯電話に発信します(リモートコールバック)。
5. 携帯電話で応答したあと、プッシュ信号(PB 信号)で電話番号をダイヤルします(次の項目を参照)。
これで、会社のシステム(主装置)を使って電話をかけることになります。

Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

リモートコールバック応答後の電話のかけかた

外出先で携帯電話でリモートコールバックに応答したあとは、プッシュ信号(PB)で電話番号をダイヤルします。以下の表に示すような操作を行うと、社内から電話をかけるのと同じように「内線呼出」、「DGL 呼出」、「MSA 呼出」、「外線 / 専用線発信」、「一般着信」を行うことができます。

機能	ダイヤルする番号	動作
内線呼出	内線番号	内線を呼び出します。
DGL 呼出	DGL グループ呼出特番 + グループ番号	DGL グループを呼び出します。
MSA 呼出	MSA グループ呼出特番 + グループ番号	MSA グループを呼び出します。
外線 / 専用線発信	方路選局特番 + 電話番号	指定した方路から外線 / 専用線へ発信します。
一般着信	#	着信テナントへ一般着信します。
キャンセル	* + *	リモコン操作をキャンセルします。
リモコン終了	* + #	リモコン操作を終了します。

- ※ 外出先からの操作のことを「リモコン」と記載しています。
- ※ 各特番については、「A-2 特番一覧」(➡ P.166)を参照してください。

MEMO

- リモートコールバックに応答すると、リモートコールバックであることを伝えるガイダンス「会社からのコールバックです。続けて内線番号を入力してください。」が流れ、そのあと、リモートコールバックの内線発信音が聞こえてプッシュホン信号(PB)待ちとなります。
- リモートコールバック応答後は、外線 / 外線 / 専用線にかけることができます。

3-8 便利な機能設定

● 時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)

昼休みや夜間などの特定の時間帯に、着信先を切り替えたり、着信音を鳴らす電話機 / 鳴らさない電話機を指定することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

この機能を利用するには、「昼間」「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」の 5 種類のモード(昼夜モード)にそれぞれ着信形式や着信鳴動指定などを指定します(着信先の設定・切替などは工事者が行います)。

各モードの切替方法には、特定の時間帯で切り替わるようにスケジュールリングで設定する自動切替と、機能を登録したオートダイヤルボタンを押すことによって切り替える手動切替があります。各モード中はそれぞれの設定に従って着信します。

昼夜モードは、テナントごとに切り替えることができます。

夜間モードがセットされると、 (夜間切替)ランプが点灯(赤または緑)します。自テナント以外の (夜間切替)ランプも、テナントのモードに連動し点灯します。

モード	 (夜間切替)ランプ
昼間	消灯
夜間 A-1、夜間 A-2、夜間 A-3	点灯(赤)
夜間 B	点灯(緑)

夜間モードを手動で切り替える

夜間モードの手動切替は、 (夜間切替)を押すことにより行います。 (夜間切替)が割り付けてある、どの電話機からでも切り替え可能です。また、自テナント以外の夜間モードを切り替えることもできます。

MEMO

この機能を使う前に、あらかじめ (夜間切替)を に登録しておきます。「夜間切替」を に割り付けるとき、付加情報 1 に対象のテナント(テナント番号 00 ~ 99)を登録し、付加情報 2(ワンタッチ切替)にボタンを押したときの動作(「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」のいずれか)を登録します(登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(➡ P.24)を参照)。

ワンタッチで切り替える

- (夜間モードに切り替えるには)**
消灯している (夜間切替)を押す
 -  (夜間切替)に登録されている夜間モードに切り替わります。
 -  (夜間切替)ランプは点灯(赤または緑)します。

- (昼間モードに戻すには)**
点灯している (夜間切替)を押す
 - 昼間モードに切り替わります。
 -  (夜間切替)ランプは消灯します。

MEMO

スケジュールに設定されている現在の時間帯のモードとこの操作で設定したモードに相違があっても、切替時間が来るまでは、選択したモードが保たれます。その後、スケジュールに設定された切替時間になったとき、昼夜モードの切替設定が「自動優先」に設定されている場合は、スケジュールに従ったモードに切り替わります(「夜間 B」を除く)。

モード番号を選択して切り替える(ワンタッチ切替なし)

-  (夜間切替)を押す**
電話機のディスプレイに、現在選択されている夜間モードが表示されます。



- 指定したい夜間モードの番号を入力する**
指定できる番号は以下のとおりです。

1: 昼間モード	4: 夜間 A-3 モード
2: 夜間 A-1 モード	5: 夜間 B モード
3: 夜間 A-2 モード	*: スケジュールに従う

「スケジュールに従う」を選択した場合は、「手動優先」でもスケジュールに従います。

夜間モードを自動で切り替える

あらかじめ昼間モードと夜間モードの切替時間をスケジュール設定しておくことにより、曜日と時間帯により夜間モードが自動的に切り替わるように設定できます。

スケジュール設定では、日～土と休日 / 祝祭日のそれぞれに対して、1日を1～10の時間帯に分けて、時間帯ごとに動作を設定します。

昼間 / 夜間モードの切替時間(夜間自動切替時間帯)スケジュールについては、販売店にご相談ください。

工事設定

昼夜モードの切替設定(自動優先 / 手動優先)の初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(▶P.169)を参照してください。設定変更については、販売店にご相談ください。

MEMO

- 祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」(▶P.88)を参照してください。
- 夜間 B は手動切替専用モードです。自動切替は行えません。

1 台の電話機に着信させる(集中着信)

1台の内線電話に、すべての一般系着信(一般着信、DGL/MSA 着信、ドアホン着信)を着信させることができます(集中着信モード)。集中着信モードとなった内線電話では、同一テナントグループ(▶P.163)内へのすべての一般系着信に、受話器を上げるだけで応答できます。

工事設定

テナントグループの設定については販売店にご相談ください。

この機能は、例えば、すべての従業員が退社したあとかかってくる電話に、守衛室で応答できるようにしたい場合などに便利です。

※集中着信モードが設定されていても、本来の着信先の電話は鳴動します。

集中着信モードの ON/OFF を切り替える

1 (集中着信モードを ON するには) 消灯している (集中着信) を押す

- ボタンを押した内線電話が、集中着信モード ON(登録)になります。
-  (集中着信) ランプは点灯(赤)します。

2 (集中着信モードを OFF するには) 点灯(赤)している (集中着信) を押す

- ボタンを押した内線電話が、集中着信モード OFF(解除)になります。
-  (集中着信) ランプは消灯します。

MEMO

- この機能を使う前に、あらかじめ  (集中着信) を  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
-  (集中着信) を押す代わりに、集中着信特番を押して集中着信モードの ON/OFF を切り替えることができます。受話器を上げたあと、「集中着信特番」+  (ON) または  (OFF) を押して、集中着信モードの ON/OFF ができます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶P.166)を参照してください。
- 集中着信モードの内線で応答すると、内線が所属するテナントの共通着信履歴に蓄積されます。

システムカレンダーを利用する

会社や部門ごとの営業形態に合わせ、特定の日にちや曜日を休日としてカレンダーに登録できます。さらに、会社の創立記念日など、特定の日を祝祭日として登録することもできます。祝祭日の設定も、毎年固定の日付にするか、第一月曜日など、変動する形式にするかを選ぶことができます。

祝祭日(祝祭日登録)はシステム単位、休日(特定日登録(➡P.163))はテナント単位で設定します。これにより、着信設定や自動転送などを動作させると、任意の日や曜日を休日モードまたは平日モードとして動作させることができます。

また、タイマ連動機能(スケジュール設定)を利用すると、着信設定や夜間モード、留守モードなど、以下の各種機能の動作を曜日(および休日/祝祭日)と時間帯により自動で切り替えることができます。

祝祭日登録や特定日登録、休日/平日パターンの登録(システムカレンダーの設定)、タイマ連動機能の設定は、**Web 設定**から設定できます。Web 設定での操作については『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。

■ システムカレンダーとタイマ連動設定を利用して自動切替できる機能

	機能名	参照先
①	留守番モード自動切替	第5章の「自動で留守番モードを設定/解除する(留守番モード自動切替)」(➡P.134) および、『取扱説明書(Web 設定編)]
②	外線自動転送モード自動切替	「外線自動転送モードを自動で ON/OFF するように設定する(外線自動転送モード自動切替)」(➡P.71) および、『取扱説明書(Web 設定編)]
③	夜間モード切替(自動/手動)	「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(➡P.86)
④	サービスクラス切替(自動/手動)	—

MEMO

- 祝祭日(固定日登録)、祝祭日(変動日登録)、特定日登録(固定日指定)、特定日登録(曜日指定)で同じ日が登録されている場合は、以下の優先順位で祝日/休日/平日として扱われます。
高 <-----> 低
特定日登録(固定日指定) 祝祭日(固定日登録) 祝祭日(変動日登録) 特定日登録(曜日指定)
- システム全体で8パターンの平日/休日の組み合わせを登録することができます。平日/休日パターンは、テナントごとに設定します。平日/休日パターンの登録については、販売店にご相談ください。
- 指定した日付を休日または平日として、年間で最大64日まで登録できます。日付は64の登録エリア(00~63)に登録することができます。
- 初期設定では、日曜日は休日として設定されています。日曜日が営業日の場合は、休日設定を変更してください。
- 祝祭日が休日の場合は、翌日が振り替え休日に設定され休日設定となります。日曜日を営業日に変更すると、日曜日が祝祭日の場合でもその翌日は振り替え休日になりませんので、ご注意ください。
- 祝祭日は、年間で最大64日まで登録できます。国民の祝日などはあらかじめ初期設定値として登録されています。ただし、春分の日と秋分の日は、年により日付が前後するので登録し直す必要があります。
- 振替休日は、登録した祝祭日に応じて自動的に設定されます。振替休日が特定日設定と重なった場合は、特定日設定が優先されます。
- うるう年でも自動的に日付が更新されます。

● 2つの機能を1つの操作で設定できるようにする(W機能セット)

2つの機能モードを同時に設定したり解除することができます。

W機能で組み合わせができるのは以下の機能です。以下の組み合わせの機能が登録されたW機能特番または、 (W機能)を押すことで、登録された2つの機能を同時に設定/解除することができます。

W機能種別	設定できる2つの機能
外線自動転送&留守番	・外線自動転送モード(1~4) ・留守番モード
外線自動転送&手動夜間設定	・外線自動転送モード(1~4) ・手動夜間設定(1~5)
留守番&手動夜間設定	・留守番モード ・手動夜間設定(1~5)
着信鳴動拒否&不在モード	・外線着信鳴動拒否設定 ・不在設定(不在モード)(1~9)

2つの機能モードを同時に設定/解除する

1 (設定する場合) 消灯している (W機能)を押す

登録されている2つの機能モードが設定状態になり、 (W機能)ランプは点灯(赤)します。

※留守番や外線転送など、モードを設定する際に必要な設定が行われていない場合は、エラー音が鳴り、設定状態になりません。

2 (解除する場合) 遅い点滅(橙)中または点灯(赤)中の (W機能)を押す

登録されている2つの機能が解除され、 (W機能)ランプは消灯します。

MEMO

- この機能を使う前に、あらかじめ (W機能)に登録しておきます。W機能ボタンを登録する場合は、付加情報として2機能を指定します。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)、付加情報については「A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表」(→P.173)を参照してください。
-  (W機能)を押す代わりにW機能特番を使用することもできます。「A-4 機能特番の一覧」(→P.170)を参照してください。
- オートダイヤルボタンに、機能特番を登録してワンタッチダイヤルとして使用することもできます。登録方法は、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。
- W機能に登録されている2つの機能のうちの片方が設定状態(W機能以外の操作またはスケジュールにより)になった場合は、 (W機能)ランプは遅い点滅(橙)します。

3-9 便利なお知らせ機能

FAX に着信があったことを内線電話機で表示する(FAX 着信お知らせ)

FAX に外線着信があったことを、内線電話機のボタンのランプ表示、ディスプレイ表示、着信ランプ表示でお知らせするように設定することができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

FAX 着信お知らせのタイミングは、内線ごとに指定した FAX が外線着信に応答したときです。テナントごとの FAX 転送先に指定された FAX とは関係なく、内線ごとに指定した FAX が応答した場合に、お知らせ表示を行います。

この機能を利用する前に、内線ごとに、使用する FAX を指定しておく必要があります。内線電話機ごとに、使用する FAX を 2 台まで指定できます。FAX の指定については、販売店にご相談ください。

FAX 着信のお知らせを表示 / 確認する

FAX へ着信があったとき、電話機のボタンランプ、着信ランプ、ディスプレイに表示されるように、設定することができます。

第3章 便利なお知らせ機能

1

FAX に着信する

- 電話機の  (FAX) ランプは、以下のように点灯 / 点滅します。
着信中: 速い点滅(赤) → 点灯(赤)
通信後: 遅い点滅(緑)
- 着信ランプは、遅い点滅(赤)します。
- 電話機のディスプレイには、以下のように表示されます。



※ FAX2 への着信時は「FAX 2」が表示されます。

2

(FAX お知らせ表示を確認 / 終了するには) 待受状態で、遅い点滅(緑)している (FAX) を押す

ランプおよびディスプレイ表示が消えて、通常の待受状態に戻ります。

※待受状態ではなく、通話中に  (FAX) を押した場合は、FAX 転送動作となります。

MEMO

- この機能を使う前に、自分の内線電話機で使用する FAX (FAX1、FAX2 の 2 台まで) を設定しておく必要があります。設定については、販売店にご相談ください。
- 内線電話機で使用する FAX を指定したあと、この機能を使う前に、あらかじめ  (FAX) を  に登録しておきます。登録時に付加情報として、FAX (FAX1 または FAX2) を割り付けます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(⇒P.24) を参照してください。付加情報については「A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表」(⇒P.173) を参照してください。

(FAX) ボタンのランプ表示とボタンを押したときの動作

ボタンのランプ表示	ランプ表示の意味	ボタンを押したときの動作(待受中)	ボタンを押したときの動作(通話中)
消灯	FAX 空き状態	FAX 内線呼出動作(※)	FAX 転送動作
遅い点滅(緑)	FAX 空き状態(FAX 着信お知らせ表示中)	お知らせ確認動作	FAX 転送動作
速い点滅(赤)	FAX から内線へ内線個別呼出中	着信応答動作(※)	着信応答動作(通話呼は保留される)(※)
点灯(赤)	FAX 使用中 / 不在設定中	FAX 内線呼出動作(ビジー状態となる)(※)	FAX 転送動作(ビジー状態となる)

※お知らせ確認操作と FAX 転送操作以外は、 (DSS) (⇒P.162) と同様の動作となります。 (DSS) の詳細は、第 1 章の「1-5 電話機への機能の登録」(⇒P.24) を参照してください。

第 4 章 その他の便利な機能

4-1 便利な機能を使いこなす	92
4-2 公衆網サービスの利用	100
4-3 外部ネットワークとの接続	107
4-4 インターネット機能の利用	111
4-5 外部機器との接続	112
4-6 停電時の機能	118
4-7 主装置の設定	119

4-1 便利な機能を使いこなす

迷惑電話 / 非通知電話を拒否する

あらかじめ迷惑電話として登録されている電話番号から電話がかかってきた場合や、非通知で電話がかかってきた場合に、着信を拒否することができます。

迷惑電話として登録する電話番号は、テナントごとに以下の方法で登録できます。

- 「通話中の相手の電話番号を迷惑電話番号として登録する」(▶ P.92)
- 「電話番号を指定して迷惑電話番号として登録する」(▶ P.92)

迷惑電話に登録した電話番号は、必要に応じていつでも変更、削除することができます。

工事設定

- この機能を利用するには、電話会社が提供する番号表示サービスの契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。
- 非通知電話の着信拒否については、販売店にご相談ください。
- 迷惑電話に登録された電話番号から電話がかかってきたときや非通知電話がかかってきたときに、ガイダンスを流すかどうかを設定できます。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

登録できる電話番号は、発信禁止番号と合わせて10,000件、最大桁数は20桁です。発信禁止番号の登録は第3章の「指定した番号への発信を規制する(発信禁止番号登録)」(▶ P.56)を参照してください。

通話中の相手の電話番号を迷惑電話番号として登録する

1 通話中

2 (着信拒否) を押す

設定完了音が聞こえます。

MEMO

 (着信拒否) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)を参照してください。

電話番号を指定して迷惑電話番号として登録する

1 待受画面で、 (着信拒否) を押す

2 着信拒否する電話番号を入力する

市外局番から入力します。

3

を押す

設定完了音が聞こえます。

MEMO

 (着信拒否) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)を参照してください。

● 3人以上で通話をする(多者通話)

電話機は通常 1 対 1 の通話で、他人が聞くことができない秘話モードになっています。秘話モードを解除することで、3 人以上で通話できるようになります(多者通話)。多者通話には、以下の機能が用意されています。

- 「会議通話を招集する(会議通話)」(⇒ P.93)
- 「外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)」(⇒ P.94)
- 「他者の通話に割り込む(割込通話)」(⇒ P.94)
- 「話し中の相手の通話に割り込む(割込通話)」(⇒ P.95)
- 「他の電話の通話内容を聞く(通話モニタ)」(⇒ P.95)

会議通話を招集する(会議通話)

外線または内線で通話中に電話をかけ、他者を通話に加えて 3 人以上で同時に通話できます。会議通話には、最大 4 人まで参加できます。

1 通話相手に会議通話を始めることを伝え (自己保留) を押す

 (自己保留) ランプが遅い交互点灯(緑橙)します。

2 会議召集する相手の外線または内線の電話番号をダイヤルする

3 応答した相手に会議通話に加わるように伝える

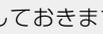
例えば、「今○○の件で田中さんと話しています。山田さんも加わってください。」のように伝えます。

4 了解を得てから (会議) を押す

- 電話機のディスプレイの 1 段目に、「会議通話」と表示されます。
-  (会議) ランプが点灯(赤)します。
- 3 者で会議通話することができます。

5 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

-  (自己保留) は初期設定で  に登録されています。
-  (会議) は  に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(⇒ P.24) を参照してください。
- SIP 電話機は会議に参加することはできませんが、会議を招集することはできません。
- 3 人で会議通話を行っているときに、手順 1～4 の操作を再度行くと、4 人による会議通話ができます。
- 他の参加者が外線または専用線の場合に、自分だけが会議から抜けるには、内線  を押します。すべての通話を終了するには、受話器を置きます。
- 他に内線の参加者がいる場合に受話器を置くと、自分だけが会議から抜け、他の通話は継続されます。

外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)

外線通話中に、他の内線を割り込ませることができます。

割り込まれる側

1 外線通話中の相手に内線通話を割り込ませることを伝え (会議) を押す

-  (会議) ランプが遅い点滅(橙)し、秘話モードが解除されます。
- もう一度  (会議) を押すと、通話中の外線が秘話モードに戻ります。

割り込む内線側

1 遅い点滅(赤)している (外線) または (専用線) を押す

- 外線通話に割り込むことができます。
-  (会議ランプ) を割り付けている場合には  (会議) ランプが遅い点滅(橙)し、  (外線) ランプが点灯(緑)します。

MEMO

-  (会議) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24) を参照してください。
- 外線秘話解除モードで通話できるのは 3 人までです。4 人目が割り込むと、秘話解除モードが解除されます。

他者の通話に割り込む(割込通話)

他の電話の通話に割り込んで、通話に加わることができます。

工事設定

この機能を使用するには工事設定が必要です。割り込みができる内線は特定の内線だけです。販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線割り込み通話特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166) を参照してください。

3 内線番号を押す

- 通話中の 2 人には、通話割り込み音が聞こえます。
-  (会議) ランプが点灯(赤)し、2 人の通話に加わることができます。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

- 手順 3 で  (DSS) または  (ワンタッチボタン) を押しても割り込むことができます。
- 割り込み先が通話録音中のときは、割り込むことができません。
- ご自分の通話を終了しても、割り込み先の通話は継続されます。

話し中の相手の通話に割り込む(割込通話)

受話器から話中音(ビジートーン)が聞こえ、かけた相手が話し中であることに気づいたあとでも、かけ直さずに通話に割り込んで、相手の通話に加わることができます。

工事設定

この機能を使用するには工事設定が必要です。また、割り込みができる内線は特定の内線だけです。販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 内線番号を押す

受話器から話中音が聞こえます(相手が他者と通話中)。

3 内線割り込み通話特番を押す

- 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 通話中の2人には、通話割り込み音が聞こえます。
-  (会議) ランプが点灯(赤)し、2人の通話に加わることができます。

4 通話が終了したら受話器を置く

MEMO

- この機能は、SIP 電話機からは使えません。
- 割り込み先が通話録音中のときは、割り込むことができません。
- ご自分の通話を終了しても、割り込み先の通話は継続されます。

他の電話の通話内容を聞く(通話モニタ)

指定した内線や外線、専用線の通話を聞くことができます。通話モニタ中は、相手に自分の声は聞こえません。

内線通話を聞く

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 (通話モニタ)を押す

 (通話モニタ) ランプが遅い点滅(赤)します。

3 内線番号を押す

 (通話モニタ) ランプが点灯(赤)し、指定した内線の通話内容が聞こえます。

4 モニタが終了したら、受話器を置く

外線 / 専用線の通話を聞く

1 受話器を上げる

受話器から内線発信音が聞こえます。

2 (通話モニタ)を押す

 (通話モニタ) ランプが遅い点滅(赤)します。

3 (外線)または (専用線)を押す

-  (通話モニタ) ランプが点灯(赤)し、 (外線) ランプが点灯(緑)します。
- 指定した外線または専用線の通話内容が聞こえます。

4 モニタが終了したら、受話器を置く

工事設定

通話モニタができる内線は特定の内線だけです。この機能を使用するには、販売店にご相談ください。

MEMO

-  (通話モニタ) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24)を参照してください。
- 通話モニタ中に  (会議) を押すと、会議通話に切り替わり、通話に割り込むことができます。

● 自分が待機中であることを相手に知らせる

内線呼出している相手が電話機を使用している場合、ご自分が待っていることを知らせることができます。以下の2つの機能が用意されています。

- 「呼出相手の電話操作が終わり次第、着信音を鳴らす(コールウェイティング)」(➡ P.96)
- 「他者と通話中の相手にブザー音を鳴らして知らせる(トーンオーバーライド)」(➡ P.97)

呼出相手の電話操作が終わり次第、着信音を鳴らす(コールウェイティング)

内線呼出している相手が電話機を使用している場合、そのまま待っているだけで、相手の電話操作が終わり次第、自動的に呼び出しが始まる機能です。

MEMO

- この機能を使用する場合は、あらかじめ相手側内線の話中転送設定が「転送無し(コールウェイティング)」になっている必要があります。設定方法は、第3章の「通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)」(➡ P.78)を参照してください。
- 内線呼出している相手が以下の状態の場合に、コールウェイティング機能が働きます。
内線通話中、外線通話中、電話機の設定中、ボイスメール利用中など

呼び出す側

- 1 受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
 - 2 内線番号を押す**
内線相手が通話中の場合、話中音が聞こえます。
 - 3 そのまま待っていると**
内線相手が通話終了後、話中音も同時に終わり、呼出音が聞こえます。
- 相手が応答したら通話します。

呼び出される側

- 1 通話中**
- 2 通話が終了し受話器を置くと、着信音が鳴る**
 - 電話機の使用が終わると着信音が鳴ります。
 - 着信ランプが速い点滅(赤)します。
- 3 受話器を上げる**
受話器を上げると、内線相手と通話できます。

他者と通話中の相手にブザー音を鳴らして知らせる(トーンオーバーライド)

内線呼出している相手が通話中の場合、通話中の相手に特別なブザー音を鳴らし、ご自分が待っていることを知らせることができます。呼び出された相手は、通話中の電話を一時的に保留にし、応答することができます。

呼び出す側

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **内線番号を押す**
受話器からの音が話中音に変わります。
- 3 **トーンオーバーライド特番を押す**
 - 特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166)を参照してください。
 - 相手が  (自己保留) を押すか、またはフッキング操作によって応答すると、通話することができます。

呼び出される側

- 1 **通話中にトーンオーバーライド音が鳴る**
10秒ごとにトーンオーバーライド音が聞こえます(初期設定の場合)。
- 2 **通話中の相手に保留することを伝えて、 または  を押す**
 - かかってきた内線電話とつながります。
 - 通話中だった相手には、保留音が流れます。
- 3 **呼び出した相手と通話する**
- 4 **前の相手に戻る場合は、 (自己保留) を押す**
現在の通話が切断され、前の相手との通話に戻ります。

工事設定

トーンオーバーライド機能を利用できる内線は特定の内線だけです。この機能を使用するには、販売店にご相談ください。

MEMO

- この機能を使用する場合は、あらかじめ相手側内線の話中転送設定が「転送無し(コールウェイティング)」になっている必要があります。設定方法は、第3章の「通話中にかかってきた電話を転送する(話中転送)」(▶ P.78)を参照してください。
-  (自己保留) は初期設定で  に登録されています。
- SIP 電話機に対して、トーンオーバーライド機能は利用できません。

● 回線の使用を一時的に制限する

指定した外線や専用線からの着信を一時的に制限できます。着信を制限せずに、外線からの着信音を一時的に鳴らないように設定することもできます。また、特定のグループ(MSA(→P.162)またはDGL(→P.162))の電話機への着信を一時的に制限することもできます。

工事設定

昼夜モードごとに、回線の使用を一時的に制限する対象を指定することができます。設定については販売店にご相談ください。また、昼夜モードについては、第3章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(→P.86)を参照してください。

外線 / 専用線からの着信を一時的に制限する(回線使用制限)

指定した外線、専用線からの着信、またはMSAグループの電話機への着信を一時的に制限できます。

1 待受状態で、 (機能) を押してから、回線使用制限機能特番 () を押す

 (機能) ランプが遅い点滅(赤)します。

2 着信を制限する (外線) または (専用線) を押す

- MSAグループへの着信を制限する場合は  (MSA) を押します。
- 登録完了音が鳴り、着信が制限された回線に対応するボタン(押したボタン)が点灯(赤)します。
-  (外線) / (専用線) / (MSA) を押すたびに設定 / 解除が切り替わります。設定が解除されると対象のボタンが消灯します。

3 (機能) を押す

-  (機能) ランプが消灯します。
- この状態で制限した回線からの着信、またはMSAグループ電話機への着信があると、発信者側には話中音が聞こえます。

MEMO

- 回線の使用制限を解除するには、手順1～3と同じ操作を行います。
- この設定を行う場合、あらかじめ  (機能) を  に登録する必要があります。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。
- 使用制限の対象回線は、ISDN回線、VoIP回線、ひかり電話、SIP専用線のみです。アナログ外線、アナログ専用線は対象外になります。
- モデム契約(ナンバーディスプレイ / ダイヤルイン)のアナログ外線以外では、MSAの使用制限を設定しないでください。
- 機能特番については、「A-4 機能特番の一覧」(→P.170)を参照してください。

外線の着信音を一時的に鳴らさない(外線着信鳴動拒否)

外線から電話がかかってきても、着信音を一時的に鳴らないようにすることができます。

MEMO

外線着信鳴動拒否の対象は、一般着信(→P.162)のみです。

オートダイヤルを使って登録する

1 待受状態で、 (サイレント) を押す

- 外線着信鳴動拒否モードが設定され(ONになり)、 (サイレント) ランプが点灯(赤)します。
- 登録完了音が聞こえます。
- もう一度 (サイレント) を押すと、外線着信鳴動拒否モードが解除(OFF)され、 (サイレント) ランプが消灯します。

MEMO

 (サイレント) はあらかじめ に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。

DGL グループ電話機への着信呼数を制限する(DGL 呼数制限)

指定した DGL グループの電話機に着信させる呼数をあらかじめ設定されている呼数に制限できます。DGL グループごとに着信個数を制限することで、制限を超えた場合、着信させないように設定できます。あらかじめ設定されている着信呼数を一時的に減らすこともできます。

着信呼数を制限する

1 待受画面で、着信呼数を制限する DGL グループ番号が登録されている (DGL 呼数制限) を押す

- 登録完了音が鳴り、指定したグループへの着信呼数が制限されます。
-  (DGL 呼数制限) ランプが点灯(赤)します。
- DGL 呼数制限特番 +  + DGL グループ番号を押すことでも設定できます。
- もう一度 (DGL 呼数制限) を押すと、設定が解除され、 (DGL 呼数制限) ランプが消灯します。DGL 呼数制限特番 +  + DGL グループ番号を押すことでも解除できます。

工事設定

DGL グループ番号は 2 桁(00 ~ 99)または 3 桁(000 ~ 254)に設定されています。DGL グループ番号については、販売店にお問い合わせください。

MEMO

- あらかじめ DGL グループごとに  (DGL 呼数制限) を  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。
- DGL 呼数制限特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→P.166)を参照してください。

着信呼数制限時の呼数を変更する

着信呼数が制限された DGL グループへの着信呼数を一時的に変更できます。

1 待受画面で、 (機能) を押して、DGL 一時呼数変更機能特番 () を押す

2 DGL グループ番号を入力する

例えば、グループ番号が 000 のときは、   を入力します。

3 着信呼数(0 ~ 255)を入力する

例えば、呼数を 5 に変更したいときは、   を入力します。

4 (機能) を押す

登録完了音が聞こえます。

MEMO

- あらかじめ  (機能) を  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。
- 機能特番については、「A-4 機能特番の一覧」(→P.170)を参照してください。

4-2 公衆網サービスの利用

アナログ外線サービスを利用する

NTT が提供する各種アナログ外線サービスを利用できます。

ナンバーディスプレイを利用する

アナログ回線への着信時に、電話をかけてきた相手の電話番号や非通知理由などをディスプレイで確認できます。

発番号ダイヤルインについて

共通電話帳に登録された相手から電話がかかってきた場合、電話番号ごとに着信形式を設定することで、着信先を夜間モード(昼、夜間 A1 ~ A3、夜間 B)ごとに選択できます。共通電話帳への電話番号や着信形式の登録については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。

発番号ダイヤルインでは、以下の着信形式を設定できます。

- ① 無し(設定内容に従う)
- ② 内線
- ③ DGL グループ
- ④ MSA グループ
- ⑤ 閉番号
- ⑥ 付加番号 DID
- ⑦ 着信代行
- ⑧ 転送リモコン
- ⑨ 留守リモコン
- ⑩ 一般着信

※電話番号の登録は、市外局番から登録してください。

発番号別着信音について

共通電話帳または個別電話帳に登録された相手から電話がかかってきた場合、電話番号ごとに着信音を選択できます。識別着信音無し、トーン、メロディ、外部音源の中から選択できます。

ナンバーディスプレイ情報について

アナログ回線から通知される発信者の電話番号が着信先の電話機に表示されます。

工事設定

- このサービスを利用するには、NTT ナンバーディスプレイの契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。
- 表示指定は、電話機ごとに設定できます。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- 個別電話帳に登録された内容は、個別着信時に表示されます。
- 電話帳に名称が登録されている相手から電話がかかってきた場合は、登録された電話帳名称が優先的に表示されます。

キャッチホンを利用する

通話中の外線に別の着信が入ったときに、通話を保留して着信に応答することができます。また、ボタン操作で通話相手を切り替えることもできます。

1 外線通話中にキャッチホン着信音が聞こえる

キャッチホン着信音が聞こえます。

2 を押す

通話相手が切り替わります。

工事設定

キャッチホンを利用するには、NTT とのキャッチホン契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

転送するために相手を保留し、転送先の外線と通話中にキャッチホンがきた場合、 を押すと、転送機能が優先されます。転送機能については、「2-6 通話を転送する(手動転送)」(▶ P.47)を参照してください。

モデムダイヤルインを利用する

モデムダイヤルインは、NTT の交換機から構内交換機 (PBX) に着信先の電話番号を通知するサービスです。NTT とのダイヤルイン契約を行うことで、内線でアナログ外線電話を直接受けられるようになります。

工事設定

モデムダイヤルインを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- ダイヤルイン番号として登録できる電話番号は 1 ～ 20 桁です。
- 緊急電話番号 (110、118、119) からの着信はサービス対象外で、一般着信として扱われます。

ボイスワープを利用する

NTT とのボイスワープ契約を行うことで、アナログ回線でもボイスワープサービスが利用できます。ボイスワープを利用すると、転送条件ごとに、あらかじめ登録されている電話番号に電話を転送できます。

転送サービスの開始

1 待受画面で、ボイスワープ契約している  (外線) を押す

-  (外線) ランプが点灯(緑)します。
-  ランプが点灯(赤)します。

2 ボイスワープサービス番号    を押す3 ガイダンスに従って、転送開始特番  を押す4  を押す

-  (外線) ランプが消灯します。
-  ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが始まります。

工事設定

ボイスワープを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

転送サービスの停止

1 待受画面で、ボイスワープ契約している  (外線) を押す

-  (外線) ランプが点灯(緑)します。
-  ランプが点灯(赤)します。

2 ボイスワープサービス番号    を押す3 ガイダンスに従って、転送停止特番  を押す4  を押す

-  (外線) ランプが消灯します。
-  ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが停止します。

MEMO

ボイスワープでは以下のサービスが利用できます。操作方法については、NTT のホームページを参照してください。

- ①無条件転送
転送元の電話を呼び出さずに、かかってきた電話を転送先へ直接転送します。
- ②無応答転送
転送元の電話を呼び出し、電話にでない場合に転送先へ転送します。
- ③応答後転送
着信に応答したあと、転送先へ転送します。
- ④セレクト機能
あらかじめ登録されている電話番号から着信があった場合に転送先へ直接転送します。
また、あらかじめ登録されている電話番号を転送せずに着信させることもできます。
- ⑤リモートコントロール
外出先の電話から、転送の開始 / 停止、転送先の変更を行うことができます。この機能を使うときは、プッシュ信号 (PB) を送ることができる電話機を使用してください。

● ISDN 外線サービスを利用する

INS ナンバーディスプレイを利用する

INS ナンバーディスプレイは、かけてきた相手の電話番号や非通知の理由を電話機のディスプレイに表示する NTT のサービスです。

サービスの内容はアナログ外線サービスのナンバーディスプレイと同じです。詳しくは、「ナンバーディスプレイを利用する」(→ P.100)を参照してください。

工事設定

INS ナンバーディスプレイを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

INS ボイスワープおよび INS ボイスワープセレクトを利用する

NTT との INS ボイスワープまたは INS ボイスワープセレクト契約を行うことで、ISDN 外線でボイスワープサービスを利用し、あらかじめ網サービスに登録した電話番号に電話を転送できます。

※転送先の電話番号の登録については、NTT のホームページを参照してください。

工事設定

INS ボイスワープまたは INS ボイスワープセレクトを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

■ 自動転送機能

転送サービスの開始

1 待受画面で、INS ボイスワープ契約している (外線) を押す

-  (外線) ランプが点灯(緑)します。
-  ランプが点灯(赤)します。

2 転送サービス番号 を押し、転送特番を押す

転送特番は以下のとおりです。

-  : 無条件転送特番
-  : 無応答転送特番
-  : 話中時転送特番
-  : 無応答時および話中時転送特番

3 を押す

回線からガイダンスが聞こえます。

4 を押す

-  (外線) ランプが消灯します。
-  ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが始まります。

転送サービスの終了

1 待受画面で、INS ボイスワープ契約している (外線) を押す

-  (外線) ランプが点灯(緑)します。
-  ランプが点灯(赤)します。

2 転送サービス番号 を押す

3 を押す

回線からガイダンスが聞こえます。

4 を押す

-  (外線) ランプが消灯します。
-  ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが停止します。

■ セレクト機能

INS ボイスワープセレクト契約を行うと、特定の相手(電話番号)からかかってきた電話のみを転送(または着信)させるサービス(セレクト機能)が追加されます。ここでは、セレクト機能の開始と終了の操作について説明します。転送または着信させる電話番号の登録については、NTT のホームページを参照してください。

セレクト機能の開始

1 待受画面で、INS ボイスワープセレクト契約している (外線) を押す

-  (外線) ランプが点灯(緑)します。
-  ランプが点灯(赤)します。

2 セレクト機能の開始番号 を押す

3 回線からガイダンスが聞こえたら、 を押す

4 または を押す

-  : 登録番号転送
登録した電話番号からかかってきた電話だけを転送し、登録していない電話番号からかかってきた電話については着信します。
-  : 登録番号着信
登録した電話番号からかかってきた電話はそのまま着信し、登録していない電話番号からかかってきた電話についてはすべて転送します。

回線からガイダンスが聞こえ、開始の登録が完了します。

5 を押す

-  (外線) ランプが消灯します。
-  ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが始まります。

セレクト機能の終了

1 待受画面で、INS ボイスワープセレクト契約している (外線) を押す

-  (外線) ランプが点灯(緑)します。
-  ランプが点灯(赤)します。

2 セレクト機能の停止番号 を押す

3 回線からガイダンスが聞こえたら、 を押す

回線からガイダンスが聞こえ、停止の登録が完了します。

4 を押す

-  (外線) ランプが消灯します。
-  ランプが消灯します。
- しばらくすると、サービスが停止します。

MEMO

INS ボイスワープでは以下のサービスが利用できます。操作方法については、NTT のホームページを参照してください。

- ①無条件転送
かかってきた呼を転送元の電話を呼び出さずに転送先へ直接転送します。
- ②無応答転送
最初に転送元の電話を呼出、電話に出ない場合に転送先へ転送します。
- ③話中時転送
ISDN 回線利用中に別の着信があった場合、その着信を転送先へ転送します。
- ④セレクト機能(INS ボイスワープセレクトのみの機能です)
あらかじめ登録されている電話番号から着信があった場合に転送先へ直接転送します(転送せずに着信させることも可能です)。
- ④リモートコントロール
外出先の電話から、転送の開始 / 停止、転送先の変更を行うことができます。

転送元電話番号受信サービスを利用する

転送元電話番号受信サービスは、INS ボイスワープと一緒に利用するサービスです。INS ボイスワープによる転送の着信を受けたときに、転送元の電話番号と転送理由を受信して、通常の着信なのか、転送された電話なのかを電話機のディスプレイで確認できます。

ただし、IP 多機能電話機では、転送理由を受信できません。

工事設定

転送元電話番号受信サービスを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

転送元電話番号と転送理由は以下の条件を満たしている場合に受信できます。

- 転送先が ISDN 回線で転送元電話番号受信サービスを契約している場合
- INS ボイスワープで「転送元案内トーキ」が設定されているか、または転送元番号常時通知サービスを契約している場合
- INS ボイスワープによる転送がある場合

i・ナンバーを利用する

i・ナンバーは、契約回線番号を含め、最大 3 つの電話番号を利用できる NTT のサービスです。NTT との i・ナンバー契約を行うことで、ISDN 回線からの着信時、ポート番号ごとに着信先を指定することができます。

工事設定

i・ナンバーを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- i・ナンバーのポート番号ごとに異なる着信音を設定できます。設定方法は、第 3 章の「外線ごとに着信音を選択する（外線別着信音種指定）」（▶ P.61）を参照してください。
- 緊急電話番号（110、118、119）からの着信はサービス対象外で、一般着信として扱われます。

迷惑電話お断りサービスを利用する

迷惑電話お断りは、迷惑電話を受けている最中または直後に、電話機から登録操作を行い、以降同じ電話番号からかかってきたときに自動アナウンスで応答できる NTT のサービスです。

工事設定

迷惑電話お断りサービスを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

かかってきた相手を着信拒否リストに登録する

■ 通話中に登録（相手終話後に登録）

- 1 通話中または終話後に （機能）を押してから、キーパッドファシリティ切替機能特番（）を押す
（キーパッド）ランプが点灯（赤）します。
- 2 迷惑着信拒否特番     を押す
- 3  を押す
- 4 受話器を置く
 - （外線）ランプと （キーパッド）ランプが消灯します。
 - サービスが始まります。

■ 終話後の登録

- 1 通話が終了して1分以内に、待受画面で、（外線）を押す
（外線）ランプが点灯（緑）し、 ランプが点灯（赤）します。
- 2 迷惑着信拒否特番     を押す
- 3  を押す
回線からガイダンスが聞こえます。
- 4  を押す
 - （外線）ランプと  ランプが消灯します。
 - サービスが始まります。

MEMO

- あらかじめ （機能）を  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(⇒ P.24)を参照してください。
- 手順1で、（機能）+  の代わりに （キーパッド）を使用することもできます。（キーパッド）はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(⇒ P.24)を参照してください。
- 機能特番については、「A-4 機能特番の一覧」(⇒ P.170)を参照してください。

登録を解除する

- 1 （外線）を押す
（外線）ランプが点灯（緑）し、 ランプが点灯（赤）します。
- 2 登録解除要求番号    を押し、以下の特番を押す
 -  : 最新の登録を解除します。
 -  : すべての登録を解除します。
- 3  を押す
回線からのガイダンスが聞こえます。
- 4  を押す
（外線）ランプと  ランプが消灯します。

MEMO

手順2で確認特番     を押し、 を押すと、当月と前月のサービス対応件数がアナウンスされます。

4-3 外部ネットワークとの接続

VoIP 外線の各種サービスを利用する

VoIP (Voice over Internet Protocol) は、音声をパケット化し、データ系ネットワークで電話が利用できるデジタル通信技術です。

本システムは VoIP 機能に対応しています。VoIP 機能を使って、各事業者から提供されている IP 電話サービスを利用できます。

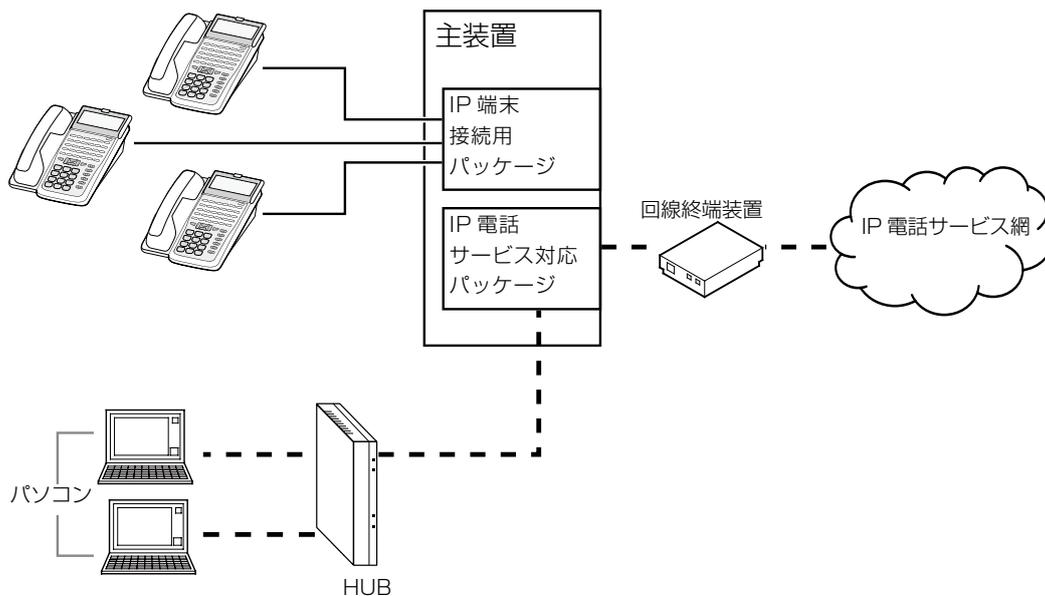
工事設定

IP ネットワークの構築にはルータが必要な場合があります。詳しくは販売店にご相談ください。

IP 電話サービスを利用する

接続構成例

主装置に IP 電話サービス対応パッケージを接続することで、IP ネットワーク上で音声通話を行うことができ、通信コストを削減できます。



MEMO

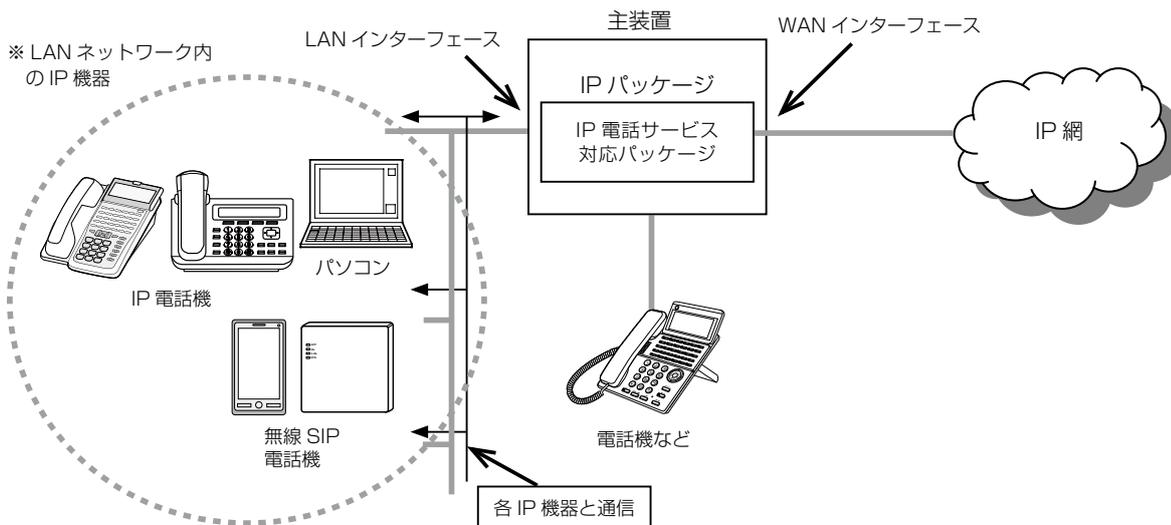
- 発信時、32 桁を超えるダイヤルを行った場合、33 桁以降の番号は削除して発信します。
- 発信時、IP 電話網からの応答がない場合は話中音となります。
- 発信時、相手ダイヤル桁数不足の場合は話中音となります。
- 発信時、先頭に * をつけた場合は話中音となります。
- 上記以外で接続できない場合は誤操作音となります。

ルータ機能を利用する

ルータ機能の LAN 側と WAN 側の 2 つのインターフェースを介し、それぞれ異なるネットワークに接続することができます。

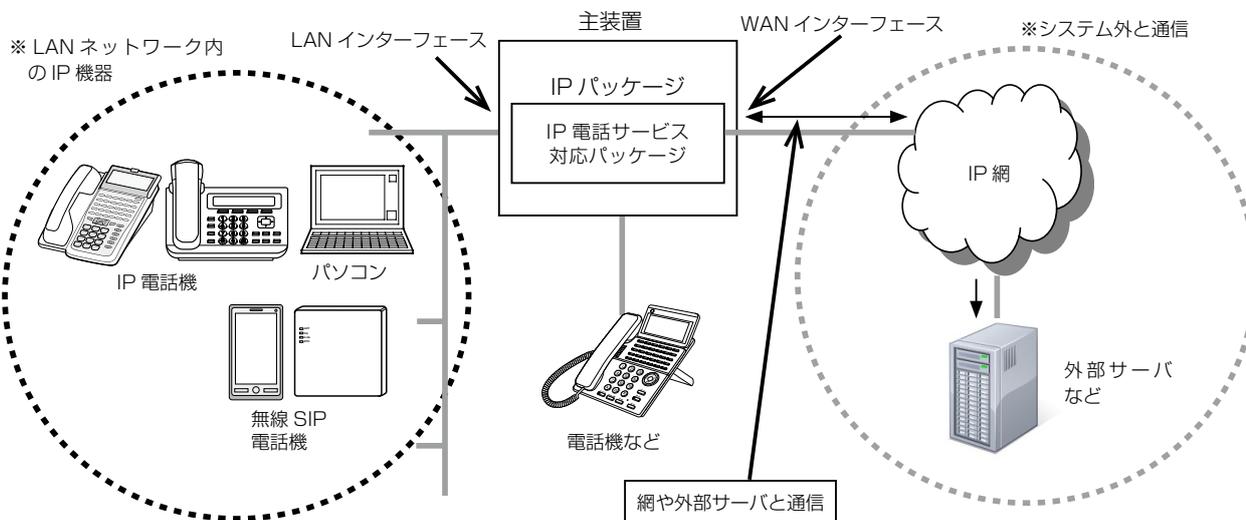
LAN インターフェース接続

LAN インターフェースを介し、パソコンや IP 電話機、SIP 電話機など、LAN ネットワーク内の IP 機器と通信することができます。LAN ネットワーク内の機器、および主装置との通信は IPv4 のみとなります。



WAN インターフェース接続

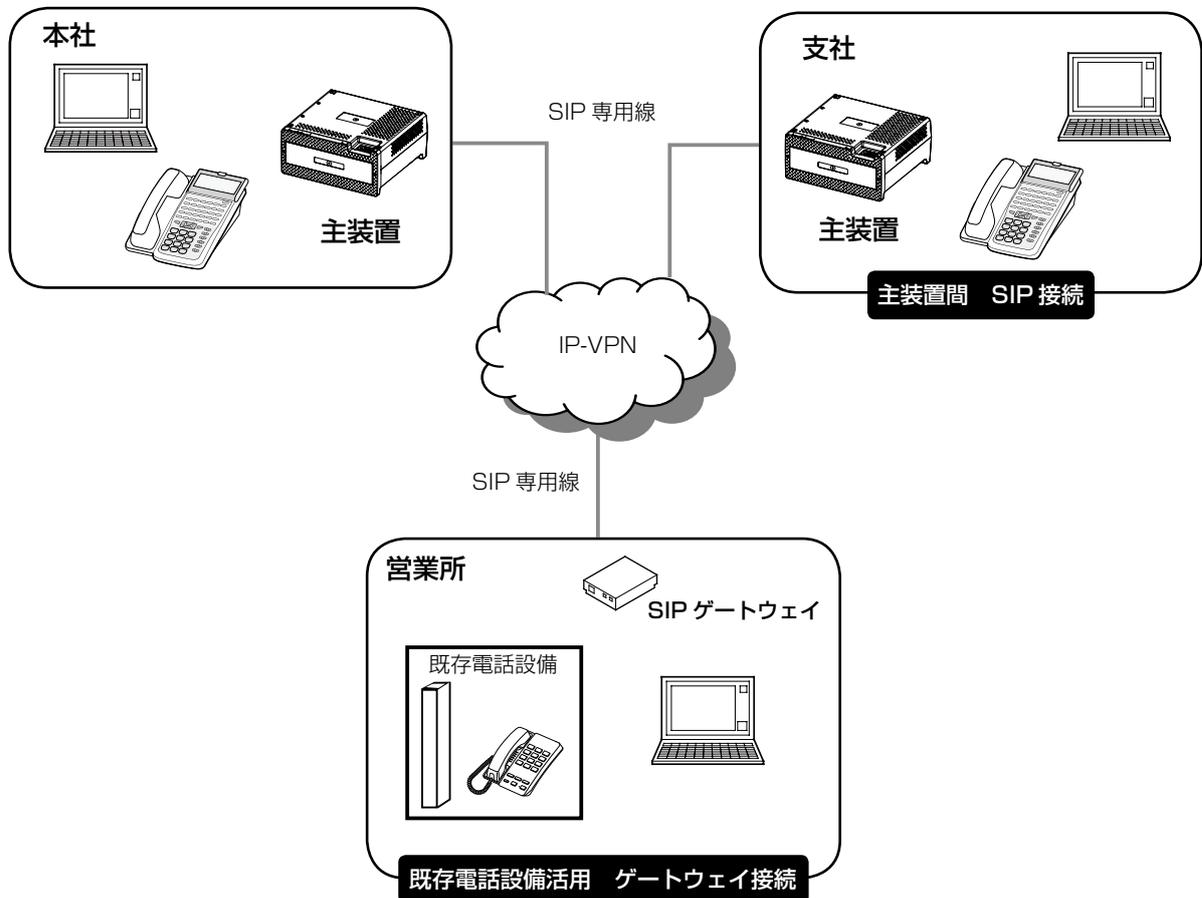
WAN インターフェースを介し、システム外のネットワーク機器や IP 網と通信することができます。WAN ネットワーク内の機器、および主装置との通信は IPv4 および IPv6 の通信に対応できます。



SIP 専用線を利用する

キャリアが提供する IP-VPN などのサービスを利用し、本社、支社、営業所などの拠点間を接続することで内線通話網を構築でき、通信コストの削減を実現します。

※ IP-VPN を利用するためには、別途、提供キャリアとの契約が必要になります。



MEMO

SIP 専用線接続では、相手局の内線に対して以下の機能を利用できます。

- 内線音声呼出(➡ P.37)
- 発信者の名前を相手に通知できる「自ネーム情報表示」機能

● ビハインド接続時の便利な機能

ポーズ信号を自動挿入する(オートポーズ)

主装置に接続されている電話機で外線に発信する場合、自動的にポーズ信号が入るシステムになっています。わざわざ外線とつながるまでの間にポーズ(一定の時間を空けてからダイヤルを送出する)を入れる必要はありません。

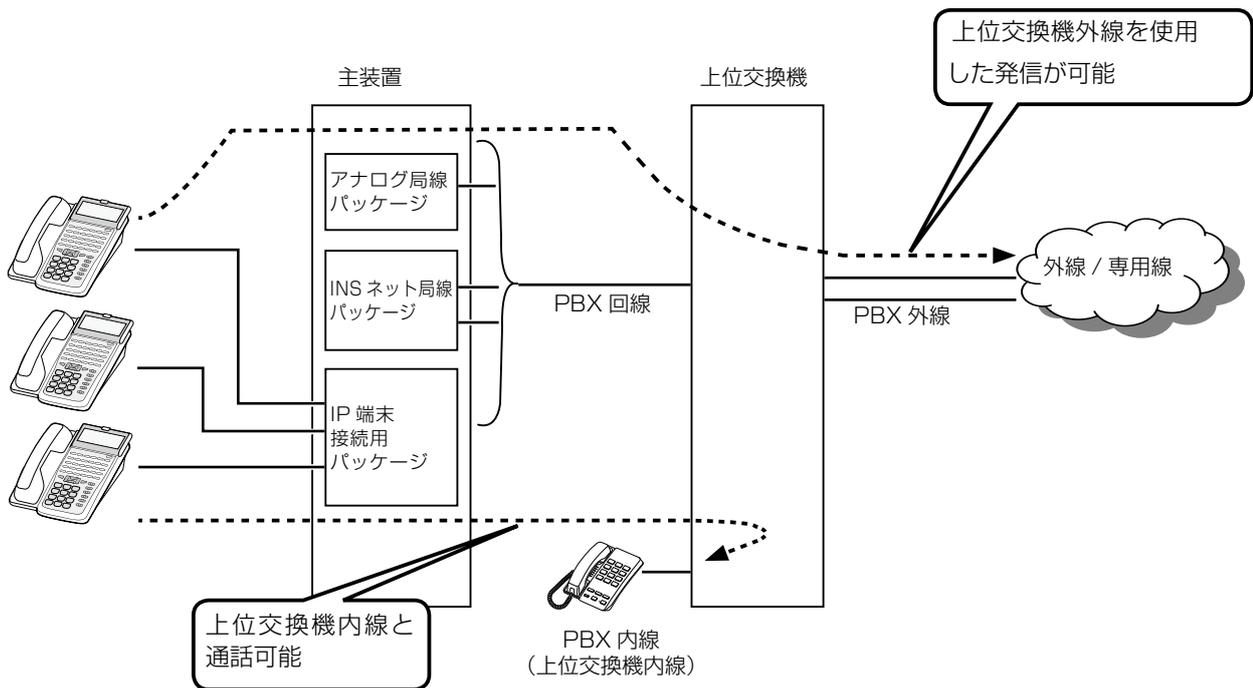
MEMO

- オートポーズはアナログ回線でのみ機能します。
- 電話帳やオートダイヤルに登録された番号に電話をかける際に、PBX 回線が使用された場合、PBX から外線に出される特番とポーズが自動的に挿入されます。

PBX 外線接続について(ビハインド)

ご利用のシステム内の内線を別のシステムの外線に接続し、内線通話や外線通話を行えるようにすることをビハインド接続といいます。

ビハインド接続で主装置を上位交換機に接続することで、PBX 回線が利用できるようになります。これにより、上位交換機内の内線と通話したり、上位交換機の PBX 外線や専用線を使って外線に発信したりすることができます。



4-4 インターネット機能の利用

インターネット機能を便利に使う

インターネット経由で、本システムが提供するネットワーク機能を利用できます。ここでは、代表的な「外線転送メール送信」、「緊急地震速報」機能を紹介します。

外線転送結果をメールで送信する(外線転送メール送信)

外線自動転送の結果(成功 / 失敗 / 内線応答 / システム応答)をあらかじめ登録してある E メールアドレスに通知する機能です。

- 通知先メールアドレスは、システムで 20 件まで登録できます。
- 通知先メールアドレスは、外線転送の相手先(1 ~ 8)ごとに設定できます。複数のメールアドレスを登録した場合、登録されたすべてのメールアドレスに、外線転送メールが送信されます。
- 外線転送メールには、送信対象のテナント番号が含まれます。

工事設定

外線転送メール送信を利用するには、インターネット接続環境のほかに、メール送信サーバ情報の設定と E メール機能利用の設定が必要です。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

- 通知先の E メールアドレス編集の詳細については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。
- 外線自動転送中に着信設定に従った着信先の内線も呼出す設定については、第3章の「外線自動転送の設定」(▶ P.69)を参照してください。
- 外線自動転送中に着信設定に従った着信先の内線が呼び出されたとき、留守番や代行などの自動応答機能が設定されていると、システムが応答してガイダンスを流します。そのような場合には「システムが応答した」という結果がメールで送信されます。

緊急地震速報を受信する(緊急地震速報)

インターネット上の配信サーバから緊急地震速報を受信する機能です。主装置に緊急地震速報配信システムを接続することにより、電話機のディスプレイおよび外部スピーカから緊急地震速報(高度利用者向け緊急地震速報)を確認することができます。

緊急地震速報機能をご利用される場合は、別途「緊急地震速報セット」(オプション)のご購入が必要となります。詳しくは販売店までお問合せください。

工事設定

緊急地震速報を利用するには、インターネットの常時接続環境が必要です。また、ルータに対してインターネット側(配信サーバ)から主装置へ UDP パケット通信ができるように設定する必要があります。詳しくは販売店にご相談ください。

MEMO

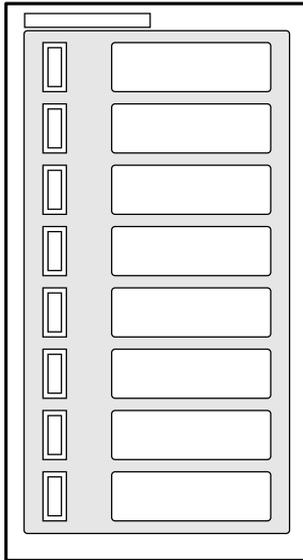
- 緊急地震速報が流れた場合は以下のように動作します。
- 外線着信があった場合、地震速報が優先され、地震速報中の電話機の着信音は鳴りません。ただし、外線からの着信を受け付けることはできません。
 - 電話機は使用中の状態になります。そのため、個別着信(内線 / 外線 / 専用線)は受けられません。
 - 外線発信など、電話機を操作している場合、その操作が優先され、地震速報動作が停止します。ただし、未操作の電話機では緊急地震速報動作が継続します。また地震速報中に受話器を置いた場合は地震速報動作が再開しますが、緊急地震速報ガイダンスの再生は途中から始まります。
 - 地震速報夜間時動作が「無し」に設定されていても、夜間モード切替時に地震速報動作は停止しません。
 - 電話機の着信ランプが速い点滅(赤)します。

4-5 外部機器との接続

外部機器を利用する

状態表示盤(MBD)との接続

主装置の端末接続パッケージに状態表示盤(MBD)を接続し、MBDのランプで外線の使用状況や着信を確認できます。



工事設定

MBDの接続については、販売店にご相談ください。

MEMO

- 1回線に対し、MBDの基本ユニット1台(8ランプ)と増設ユニット2台まで利用できます(最大24ランプ)。
- MBDには多機能電話機と同様に、あらかじめ  (外線)と  (専用線)を  に登録する必要があります。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24)を参照してください。
- MBDと同じ回線に別の装置(メッセージボードなど)を接続した場合、MBDのランプの状態は保持されません。

構内放送装置との接続

構内放送装置を接続し、電話機からの音声や着信音を外部スピーカから流すことができます。構内放送装置は6台(Sタイプ主装置では2台)まで接続できます。構内放送装置との接続は販売店にご相談ください。

工事設定

構内放送機器の接続については、販売店にご相談ください。

構内放送で呼び出す

電話機からの操作で、構内放送から呼び出しを行います。

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **外部スピーカ呼出特番を押す**
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 3 **放送装置番号を押す**
 - **0** : 一斉放送
 - **1** ~ **6** : 放送装置番号
(Sタイプ主装置の場合は、**1** ~ **2**)
 - チャイム音が聞こえます。
- 4 **受話器で呼びかける**
例えば「〇〇さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた声が流れます。

相手が応答すると通話することができます。

- 5 **放送を終わるときは受話器を置く**

呼び出しに応答する(構内放送呼出応答)

構内放送の呼び出しを電話機から受けることができます。

- 1 **外部スピーカから、呼び出された音声
が聞こえる**
- 2 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 3 **外部スピーカ応答特番を押す**
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。
- 4 **放送装置番号を押す**
 - **1** ~ **6** : 放送装置番号
(Sタイプ主装置の場合は、**1** ~ **2**)
 - 構内放送した相手とつながり、通話することができます。
 - 一斉放送に応答する場合は、**0** ~ **6** (Sタイプ主装置の場合は、**0** ~ **2**)のいずれかで応答できます。
- 5 **通話が終了したら受話器を置く**

MEMO

外部スピーカ呼出特番と装置番号**0**~**6**を☎に登録することができます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24)を参照してください。

ドアホンとの接続

主装置にドアホン/テレビドアホンを接続し、電話機を使ってドアホンとやり取りすることができます。

ドアホンを接続するパッケージには3台までドアホンを接続できます。

M/Lタイプ主装置では、パッケージはシステムで3つまで接続できるため、最大9台のドアホンを接続できます。Sタイプ主装置では、接続できるパッケージは1つのため、最大3台のドアホンを接続できます。

ただし、一度に通話できる台数は、1つのパッケージにつき1台のみです。

工事設定

ドアホンの接続については、販売店にご相談ください。

ドアホンからの呼び出しを受ける(ドアホン着信応答)

ドアホンからの呼び出しに対して着信音を鳴らし、呼び出しに電話機で応答することができます。

1 ドアホンの着信音が鳴る

- ドアホンのチャイムが聞こえます。
-  (ドアホン) ランプが速い点滅(赤)し、着信ランプが速い点滅(赤)します。

2 受話器を上げるか、ランプが速い点滅(赤)している (ドアホン) を押す

-  (ドアホン) ランプが点灯(緑)します。
- ドアホンと通話できます。
- ドアホンのチャイムが鳴り始めてから約25秒以内に受話器を上げてください。

3 通話が終了したら、受話器を置く

工事設定

- ドアホンの音量や呼出回数、着信音、着信先などを変更することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。
-  (ドアホン) はあらかじめ  に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/Lタイプ主装置の場合は、1～9、Sタイプ主装置の場合は1～3を登録できます。
- ドアホンとの通話を録音することができます。詳細は第5章の「通話録音(通話メモ)」(▶P.140)を参照してください。

MEMO

あらかじめドアホンに対応させて名前を登録しておく、ドアホン着信またはドアホンモニタ時に登録されている内容が表示されます。登録方法は、『取扱説明書(Web設定編)』を参照してください。

ドアホン名を表示する(ドアホン名称設定)

あらかじめドアホンに対応させて名前を登録しておく、ドアホン着信時やドアホンモニタ時に登録した名称が表示されます。

ドアホン名の登録は、**Web設定**から行います。登録操作については、『取扱説明書(Web設定編)』を参照してください。

MEMO

ドアホン名称が登録済みの場合には着信時、2行目にドアホン名称が表示されます。

ドアホン通話
正面入り口

ドアホンを呼び出す(ドアホンモニタ)

電話機からドアホンを音声で呼び出すことができます。また呼び出したあと、ドアホンの周辺音をモニタすることができます。

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 **呼び出す  (ドアホン) を押す**
 - ドアホンの周辺音が聞こえます。
 - 扉の外の人とドアホンで通話することができます。
- 3 **ドアホンとの通話またはモニタが終了したら、受話器を置く**

工事設定

-  (ドアホン) はあらかじめ  に登録しておきます。登録については、販売店にご相談ください。ドアホン番号は、M/L タイプ主装置の場合は、1～9、S タイプ主装置の場合は 1～3 を登録できます。
- ドアホンモニタを録音することができます。詳細は第5章の「通話録音(通話メモ)」(▶P.140)を参照してください。

MEMO

- 手順2で  (ドアホン) の代わりにドアホンアクセス特番を押して  ~  (呼び出すドアホン番号) を押しても、ドアホンを呼び出すことができます。特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶P.166)を参照してください。
- マイクがオンになっている場合、ドアホンとハンズフリーで通話できます。

電気錠を解錠する(ドアロックリリース)

電気錠を接続して、ドアホン通話中または内線使用中にドアロックを解錠することができます。

- 1 **受話器を上げる**
受話器から内線発信音が聞こえます。
- 2 ** (機能) を押して、ドアロック指定解錠機能特番 ( ) を押す**
- 3 **解錠する電気錠番号を押す**
電気錠番号には、 ~  (M/L タイプ主装置の場合)、または  ~  (S タイプ主装置の場合) を指定できます。
指定した番号の電気錠が解除されます。

工事設定

電気錠の接続については、販売店にご相談ください。

- 4 **電気錠が解錠されたら、受話器を置く**

MEMO

-  (機能) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
- 手順1で受話器を上げる代わりに  を押しても操作できます。その場合は、手順4で受話器を置く代わりに  を再度押します。
- ドアロック(電気錠)は自動的に施錠されます。
- 機能特番については、「A-4 機能特番の一覧」(▶P.170)を参照してください。

ヘッドセットとの接続

受話器の代わりにヘッドセットを接続して、受話器を置いたままで応答することができます。

MEMO

ヘッドセットモードでご使用中の場合は、受話器(ハンドセット)を電話機の所定の位置に置いておいてください。

工事設定

接続できるヘッドセット製品と選択する項目については、販売店にご相談ください。

ヘッドセットと接続する(電話機独自機能)

1 待受画面で、を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

2 で [サービス設定] を選択して、を押す

メインメニュー
通話履歴
音設定
>サービス設定

3 で [ヘッドセット切替] を選択して、を押す

サービス設定メニュー
LCD濃度切替
>ヘッドセット切替
アドレス確認

4 を押して [ヘッドセット1] または [ヘッドセット2] を選択して、を押す

現在設定されているモードの前に「>」が表示されます。

ヘッドセット切替
ハンドセット
>ヘッドセット1
ヘッドセット2

5 を押す

ヘッドセットが設定されます。

ヘッドセットを使用して電話をかける

■ 内線にかける場合

- 1  を押す
 -  ランプが点灯(赤)します。
 - あとは、通常の電話のかけかたと同じです。「2-2 内線にかける」(▶ P.37)を参照してください。
- 2 通話が終了したら、 を押す
 ランプが消灯します。

■ 外線にかける場合

- 1  (外線) を押す
 -  (外線) ランプが点灯(緑)し、 ランプが点灯(赤)します。
 - あとは、通常の電話のかけかたと同じです。「2-1 外線にかける」(▶ P.32)を参照してください。
- 2 通話が終了したら、 を押す
 (外線) ランプと  ランプが消灯します。

ヘッドセットを使用して電話を受ける

■ 内線を受ける場合

- 1 着信音が鳴る
- 2  を押す
 ランプが点灯(赤)します。
- 3 通話が終了したら、 を押す
 ランプが消灯します。

■ 外線を受ける場合

- 1 着信音が鳴る
 (外線) ランプが速い点滅(赤)します。
- 2  (外線) または  を押す
 ランプが点灯(赤)し、 (外線) ランプが点灯(緑)します。
- 3 通話が終了したら、 を押す
 (外線) ランプと  ランプが消灯します。

工事設定

 を押して外線を受けることもできます。販売店にご相談ください。

外部音源との接続

主装置にオーディオプレイヤーなどの機器を接続して、内蔵メロディの代わりに音楽やメッセージを保留音として使用することができます。

外部音源の機器との接続については、販売店にご相談ください。

コールスピーカとの接続

騒音がある場所でお使いの場合、主装置にコールスピーカを接続し、着信音や音声呼出をコールスピーカから流すことができます。コールスピーカとの接続については、販売店にご相談ください。

4-6 停電時の機能

● 停電時の対応機能について

停電中に一定時間電話の機能を維持する

オプションのバッテリーを主装置内に接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりすることができます。通常の使用状態で、内蔵バッテリーの場合、Sタイプ主装置では約12分、M/Lタイプ主装置では約26分、電話の機能を維持することができます。

停電中(停電バッテリーに切り替わったとき)は、電話機のディスプレイに「バッテリー駆動中」と表示されます。また、に (停電)を登録しておくと、 (停電)ランプが点滅(赤)します(第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照)。

AC電源が復旧すると、電話機のディスプレイから「バッテリー駆動中」の表示が消え、 (停電)ランプも消灯します。

MEMO

停電中にIP多機能電話機を使用するときは、ネットワーク機器(LANスイッチなど)を含め、UPS(無停電電源装置)でバックアップする必要があります。

4-7 主装置の設定

主装置の各種設定について

パソコンの Web ブラウザで Web 設定を利用する

Web ブラウザを使用して、LAN 接続されたパソコンから主装置にアクセスすることで、内線の設定を変更したり、電話帳など各種情報を利用することができます (Web 設定)。

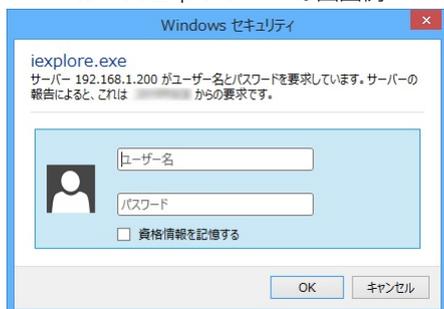
Web 設定での操作については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

1 主装置の IP アドレスを URL に入力する

- 主装置の IP アドレスについては、販売店にご相談ください。
- Web 設定のログイン画面が表示されます。

2 ユーザ名とパスワードを入力する

<Internet Explorer 11 の画面例>



- ユーザ名には、内線番号を入力します。
- パスワードは初期設定で「0000」が設定されています。Web 設定で変更できます。
- システム管理電話機の内線番号を入力すると、管理ユーザレベルとしてログインできます。
- 一般ユーザ電話機の内線番号 (自内線番号) を入力すると、一般ユーザレベルとしてログインします。
- 管理ユーザレベルと一般ユーザレベルでは、ブラウザで設定できる項目が異なります (ユーザレベルは、ログインのときのユーザ名で決定されます)。

対象画面	管理ユーザ	一般ユーザ
パスワード変更	○	◎
時計設定	○	×
カレンダー設定	○	×
内線一覧	○	△ (ドアホン名称 設定不可)
電話帳		
共通電話帳	○	△ (参照のみ)
個別電話帳	○	◎
電話帳転送	○	×
ボイスメール	○	△ (外部保存 設定不可)
留守番	○	×
ユーザガイダンス転送	○	×
電話機の各種転送		
不在転送	○	◎
話中転送	○	◎
無応答転送	○	◎
圏外転送	○	◎
外線転送	○	×
オートダイヤル登録	○	◎
メロディ転送	○	×
ですく deRSS	○	○
タイム連動	○	○
Web カメラ	○	×
アドレス登録	○	×
MFP	○	×

○: 操作可能 △: 管理ユーザのみの機能あり
×: 操作不可 ◎: 自内線のみ操作可能

第5章 ボイスメールの使いかた

5-1 お使いになる前に	122
5-2 基本的な使いかた	128
5-3 便利な使いかた	155

5-1 お使いになる前に

● ボイスメールのシステム概要

ボイスメール機能を利用すると、相手のメールボックスに電話で音声のメッセージを送ることができます。Eメールのように相手が不在のときもメッセージを送っておくこと(留守番機能、代行機能)や、一度に複数の人にメッセージを送ることもできます。その他にも、通話を録音したり(通話録音)、外出先から自分のメールボックスを確認する(留守リモコン)など便利な機能があります。

メールボックスとは、音声のメッセージを録音して格納しておくことができる箱のようなものです。それぞれの箱には、番号(メールボックス番号)が付けられ、番号を指定して、メールボックス内のメッセージを再生したり、削除したりすることができます。

メールボックスには、**内線メールボックス**と**共通メールボックス**の2種類があります。

- 内線メールボックスは、各内線電話の利用者が留守番電話のように利用できるメールボックスで、メールボックス番号は内線番号と同じです。
- 共通メールボックスは、テナント内で共通に利用できるメールボックスで、メールボックス番号は共通メールボックス番号として指定された番号です。

MEMO

各メールボックス番号の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶P.166)で、「内線番号特番」と「共通メールボックス番号特番」を参照してください。

■ 特徴

- 外線 / 専用線 / 内線またはドアホンとの通話中、あるいは通話モニタ中に、電話機からのボタン操作により、通話内容を録音することができます(通話録音機能)。
- メッセージの録音 / 再生などのサービスを受けることができます(メールサービス)。
- 録音データは、主装置本体のフラッシュメモリ、またはUSBメモリのどちらか一方に保存します(データ設定で切り替えます)。
- 総録音時間は、主装置本体のフラッシュメモリの場合は約60分、4GBのUSBメモリの場合は約125時間です。
- システム全体の総メールボックス数は、500個までです。
- 1つのメールボックスには、最大1,000件録音することができます。
- システム全体の総録音件数は、10,000件までです。
- 録音メッセージ1件あたりの録音最大時間は255分です(1~255分で指定)。

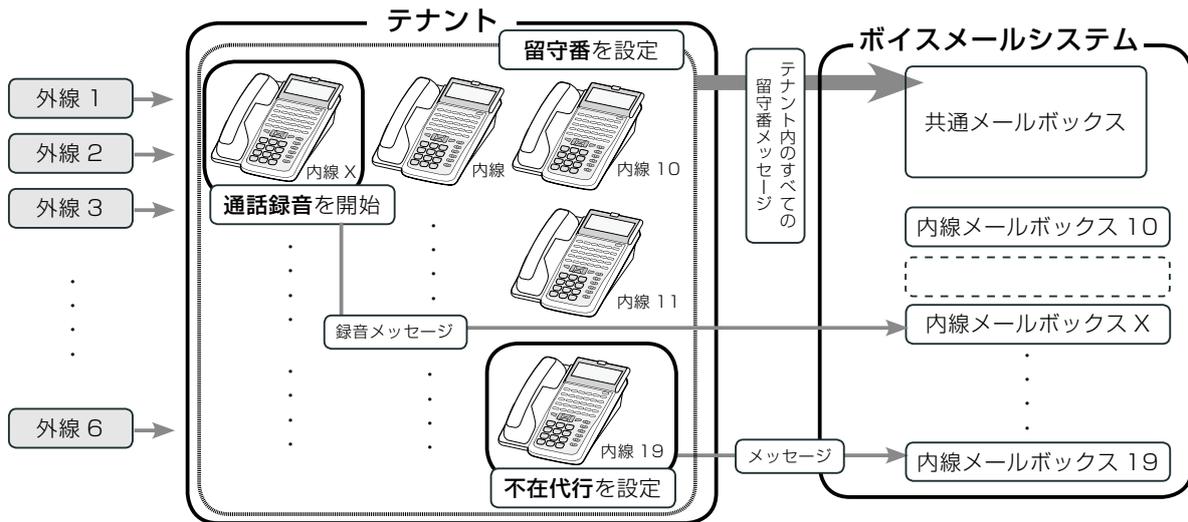
MEMO

USBメモリは特性上、繰り返し書き込んだり経年劣化によって読み出しや書き込みができなくなります。大切なファイルは定期的にパソコンなどにバックアップしてください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

● ボイスメールシステムを利用する機能



	ボイスメールシステムを利用する主な機能		
	留守番機能	代行機能	通話録音
設定範囲	テナント一括	電話機ごとに設定	通話中に電話機ごとに設定
メッセージを保存するメールボックス	テナントごとに、あらかじめ指定される共通メールボックス	内線メールボックス、または、共通メールボックス	内線メールボックス (共通メールボックスや他のメールボックスに変更できます)
参照ページ	P.128	P.137	P.140

● ボイスメールの取扱上のご注意

主装置内蔵のボイスメールシステムは標準搭載です。

- **録音されているメッセージについて**
本製品で万一故障が発生した場合、録音されているメッセージが再生できないことがありますのでご了承ください。
- **無断で通話録音しないこと**
通話録音は、必ず相手の了解を得てから録音をはじめてください。個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の了解を得られない場合は、[通話録音]をしないでください。
- **外出先からはプッシュホンでかける**
外出先からメールセンターに接続する場合は、プッシュ信号 (PB) に切り替えられる電話機をお使いください。
- **メールボックスの指定は忘れずに**
工事設定で自分のメールボックスが設定されていないときは、通話録音時にメールボックスの指定を忘れないでください。
- **1つのメールボックスに、同時に2人以上のログオンすることはできません。ただし、メッセージ録音では複数の利用者から1つのメールボックスに対する録音操作が可能です**
- **ボイスメールは、同時に13人以上では使用できません**
ボイスメールは、12人が使用中の場合、その他の人は使用できません。
- **録音時間は多機能電話機 (システム管理電話機) から設定できる**
1メッセージあたり、初期設定で6分間録音できます。メニューから1分単位に録音時間を変更できます。多機能電話機のメニューからは、自動消去指定、自動再生指定、再生順序指定、連続再生指定なども変更できます。
- **メールボックスはスリムに**
メールボックス1つには、最大1,000件のメッセージが録音できます。録音時間は、主装置本体のフラッシュメモリの場合は60分、USBメモリの場合は約125時間 (容量: 4GB) です。新しいメッセージがいつでも録音できるように、「聞き終わって不要になったメッセージは、すぐ削除する」などのルールを決めて運用することをお勧めします。

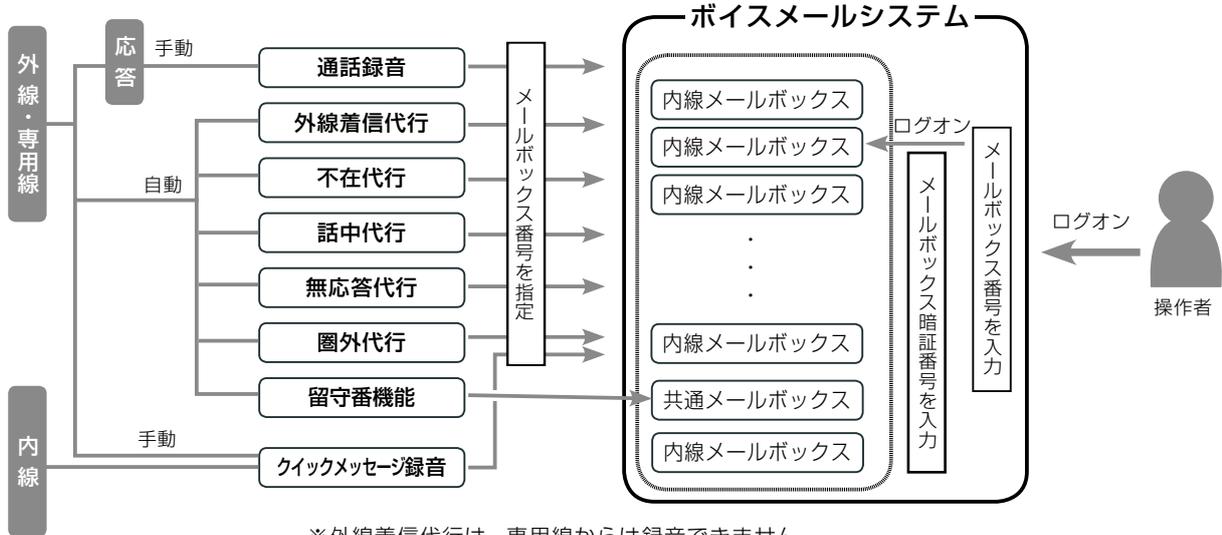
工事設定

メッセージ自動削除機能を利用して、指定した件数を超えると古いメッセージから順に自動削除するように設定することができます。販売店にご確認ください。

ボイスメールの用語と説明

ここでは、ボイスメールで利用される主な用語と機能について、概念図とともに説明します。

■ 概念図



※外線着信代行は、専用線からは録音できません

■ 通話録音(⇒ P.140)

ボタン操作により通話を録音できます。

■ 外線着信代行(⇒ P.139)

外線着信にシステムが応答し、応答メッセージを流したあと、メッセージをメールボックスに録音します。

■ 不在代行(⇒ P.137)、話中代行(⇒ P.139)、無応答代行(⇒ P.139)、圏外代行

それぞれの転送先をガイダンス応答録音にしてメールボックスを指定することで、システムが応答し、応答メッセージを流したあと、メッセージをメールボックスに録音します。

■ 留守番機能(⇒ P.128)

留守ガイダンスを流したあと、メッセージを共通メールボックスに録音します。

■ クイックメッセージ録音(⇒ P.154)

指定したメールボックスにメッセージを録音します。

■ メールボックス

メールボックスは、メッセージの録音 / 再生 / 消去ができる管理領域です。メールボックスを使用して、ボイスメール機能を提供します。メールボックスには内線メールボックスと共通メールボックスの2種類あります(両方合わせて500個)。内線メールボックスの番号は内線番号と同じです。共通メールボックスの番号は共通メールボックス番号として、システムで指定されています。

その他にも次のような便利な機能があります。

- メッセージ録音通知(⇒ P.155)
- メールボックス用電話帳(⇒ P.144)
- ワンショット留守番(⇒ P.136)

■ メールボックスにログオン(⇒ P.147)

内線 / 外線 / 専用線からボイスメールを利用するには、メールセンターに接続したあと、メールボックス番号を入力して、メールボックスにログオンします。これにより、1つのメールボックスに対して複数の操作者が同時にログオンすることを規制します。あらかじめ☎(メールボックス)にメールボックス番号を登録しておく、内線からは☎(メールボックス)を押すだけで、メールセンターへの接続とメールボックスへのログオンを同時に行うことができます(クイックログオン)。

■ メールボックス暗証番号

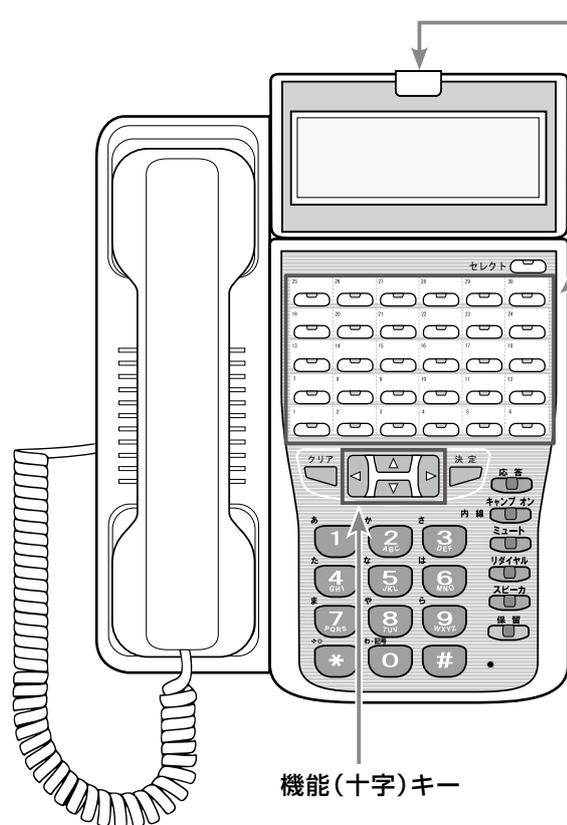
メールボックスに暗証番号を登録することで、ログオン時に暗証番号入力が必要となり、他の人が無断でログオンすることを制限できます。暗証番号を設定しなくてもボイスメールを利用できます。

MEMO

暗証番号の登録や変更については、多機能電話機(システム管理電話機)から設定できます。

ボイスメールで使用するボタン

メールボックスに録音されたメッセージの再生などの操作は、 (メールボックス) を使用します。メッセージ再生中は、機能(十字)キーで音量を調節できます。そのほかにも、以下のようなボタンを利用できます。



着信ランプ

自内線メールボックスにメッセージがあるとランプが点灯または遅い点滅(赤)します(「ボタンとランプ動作一覧」(→P.127)を参照)。

(オートダイヤル)

■ 設定例

- ①  (通話録音) ボタン・ランプ
通話録音の開始 / 取消のときや、クイックメッセージ録音のときに使います。ランプは通話録音の状態を示します。
- ②  (メールボックス) ボタン・ランプ
通話録音内容の録音先指定、メールボックスの再生 / 消去に使います。ランプは録音されているメッセージの状況を示します。
- ③  (メールアクセス) ボタン
メールセンターへのワンタッチ接続に使います。
- ④  (夜間切替) ボタン・ランプ
夜 A-1 ~ A-3、夜 B の切り替えに使います。また夜 A-1 ~ A-3、夜 B に外線着信代行を起動するときに使います。
- ⑤  (不在) ボタン・ランプ
不在代行するときに使います。ランプは不在設定状況を示します。
- ⑥  (録音終了) ボタン
通話録音を終了するときに使います。
- ⑦  (一時停止) ボタン
通話録音を一時停止するときに使います。
- ⑧  (留守番) ボタン・ランプ
留守番モードの ON/OFF に使います。ランプは留守番設定状況を示します。
- ⑨  (ワン留守) ボタン
ワンショット留守番機能を起動するときに使います。
- ⑩  (用件操作) ボタン
録音メッセージの再生中に使います。前後のメッセージの再生、一時停止、早送り、巻戻しなどの操作ができます。詳細は「メッセージ再生中にできる操作と内容」(→P.152)を参照してください。

■ メッセージ再生中

	音量を大きくする
	音量を小さくする

MEMO

 (通話録音) などのボイスメール関連機能は、あらかじめ  に登録しておきます。登録方法は、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→P.24)を参照してください。

● メッセージの状態表示

メールセンターに接続してメールボックスにログオンすることにより、録音内容を再生したり消去したりすることができます。ログオン後は、録音件数を表示してから、そのメッセージの詳細を表示します。



■ 1行目

①メッセージ番号

②着信情報

メッセージを録音した相手の情報を示します。

内線のと看: 内線番号または内線名称を表示します。

外線のと看: 外線番号を表示します。

ドアホンのと看: ドアホン番号またはドアホン名称を表示します。

③メッセージ状態

新規: 未再生メッセージです。

保存: 保存指定したメッセージです。

消去: 消去指定したメッセージです (ログオフ時に消去します)。

■ 2行目

④録音日時

録音開始の日時を表示します。

■ 3行目~4行目

表示されません。

ボタンとランプ動作一覧

■ (メールボックス)ボタンとランプ

メールボックスに録音されているメッセージの状態を (メールボックス)ランプの表示で確かめることができます。

メールボックスの録音メッセージの状況	(メールボックス)ランプのつきかた(色)
録音メッセージあり (新規メッセージあり)	遅い点滅(緑)
録音メッセージあり (新規メッセージなし)	点灯(赤)
録音メッセージなし	消灯

MEMO

(メールボックス)ランプは、新規メッセージ(まだ聞いていないメッセージ)がある場合は、遅い点滅(緑)します。聞いていないメッセージがない場合でも、メールボックスに録音メッセージが残っている間は、点灯(赤)しています。メールボックスにメッセージが何も入っていない状態になると、消灯します。

■ 着信ランプ

メールボックスに録音されているメッセージの状態を着信ランプの表示で確かめることができます。

着信ランプは、自内線の内線メールボックスに登録されているメッセージの状況を示します。

メッセージが録音されているときの着信ランプのつきかたの初期設定については、「A-3 各種機能の初期設定値」(➡ P.169)を参照してください。なお、着信が入っている場合には、速い点滅(赤)です。

工事設定

着信ランプのつきかたを変更したい場合は、販売店にご相談ください。

■ (通話録音)ボタンとランプ

(通話録音)ランプの点灯状態と色を示します。

(通話録音)ランプのつきかた(色)	動作状態		
	録音状態	録音先メールボックス指定	備考
消灯	録音していないとき	—	通話録音開始不可の場合も含む
点灯(赤)	録音中	未指定	メールボックス番号入力待ち
点灯(緑)		指定済	

※特番により、「自動通話録音あり」に設定しているときは、(通話録音)ランプは、録音していないときでも点灯(緑)します。

5-2 基本的な使いかた

ボイスメールシステムをご利用いただくときの基本的なサービス（留守番機能、通話内容の録音、メッセージの録音、再生）と、その使いかたについて説明します。

■ 留守番機能(➡ P.128)

- 「留守番機能の設定と使いかた(手動切替)」(➡ P.129)
- 「留守番機能の設定と使いかた(自動切替)」(➡ P.134)
- 「留守番機能の設定と使いかた(共通)」(➡ P.134)
- 「ワンショット留守番」(➡ P.136)
- 「各種代行機能」(➡ P.137)

■ 通話内容の録音

- 「通話録音(通話メモ)」(➡ P.140)

■ メッセージの録音、再生

- 「メールボックス用電話帳を利用する」(➡ P.144)
- 「メールサービスを利用する」(➡ P.146)
- 「メールボックスにメッセージを録音する」(➡ P.154)

留守番機能

留守番機能を利用すると、外線 / 専用線からの着信に自動応答して、応答ガイダンスを流したあと、発信者にメッセージを録音してもらうことができます。また、「ご利用ありがとうございました。」などのガイダンスを流したあと、回線を切断することも、ガイダンスを流さずに切断することもできます。

この機能は、テナントごと一括して設定します。録音されたメッセージは、共通メールボックスに保存されます。外出先から留守番モードを設定したり、メールボックスに録音されたメッセージを聞くこともできます。

工事設定

テナントごとの共通メールボックス番号および回線切断前にガイダンスを流す / 流さないの設定については、販売店にご確認ください。

留守番機能を利用するには、留守番モードに手動または自動で切り替えます。留守番モードへの切り替え方法と、留守番モード中の各動作の設定については以下のとおりです。

■ 留守番モードへの切替

留守番モードへの切り替えは、以下の方法で行うことができます。

-  (留守番) を押して手動で切り替える
参照: 「手動で留守番モードを設定 / 解除する」(➡ P.129)
- 切替時刻を設定して自動で切り替える(留守番タイマ連動)
参照: 「自動で留守番モードを設定 / 解除する(留守番モード自動切替)」(➡ P.134)
- 外出先から手動で留守番モードに切り替える
参照: 「外出先から留守番モードや留守番機能を設定する」(➡ P.135)

■ 留守番モード中の各動作の設定

留守番モード中の各動作は、手動切り替え時 / 自動切り替え時のそれぞれに対して設定します。留守番起動時間や留守番グループの動作、留守番モニタの有無、応答 / 終了ガイダンスの種類、録音通知の有無などを設定できます。

- 手動切り替え時の動作設定
参照: 「手動切替時の留守番機能の動作を設定する」(➡ P.132)
※手動切替時には  (留守番) を押すたびに、ガイダンスの種類や動作が切り替わります。
- 自動切り替え時の動作設定(各曜日の時間帯ごとに設定)
参照: 「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」(➡ P.134)
- その他の設定項目
参照: 「留守番起動時間を設定する」(➡ P.134)
参照: 「留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する」(➡ P.134)

■ 留守番録音の確認

留守番モード中に録音されたメッセージは以下の方法で確認できます。録音通知を設定しておく、留守番録音されたときに通知を受け取ることができます。

参照: 「留守番録音されたメッセージの有無を確認する」(➡ P.135)

参照: 「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(➡ P.155)

留守番機能の設定と使いかた(手動切替)

ここでは、手動で留守番モードに切り替えるときの操作と設定について説明します。

手動で留守番モードを設定 / 解除する

手動で留守番モードを設定 / 解除するには、 (留守番)を押します。留守番モードはテナントごとに設定 / 解除されます。 (留守番)を押したときの動作は、このボタンに登録されている動作指定により異なります。

- **動作指定が「設定に従う」の場合：**
留守番モードの動作は、グループ(A～D)に指定されている留守番動作に従います。
- **動作指定が「ユーザ選択方式」の場合：**
ボタンを押すたびに留守番モードの動作(留守録 / お知らせ、ガイダンス 1～3)を切り替えられます。

MEMO

-  (留守番)は、あらかじめに登録しておきます。登録するとき、付加情報 1 に対象のテナント(テナント番号 00～99)を登録し、付加情報 2 (留守番動作指定)にボタンを押したときの動作(「設定に従う」または「ユーザ選択方式」)を登録します。登録方法と付加情報については、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)、「A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表」(▶P.173)を参照してください。
- 留守番モードへの切替は、留守番グループ A～D のいずれか 1 グループの留守番動作の選択が、「応答録音」または「応答専用」の場合に有効です。留守番動作の選択については「留守番モード中に着信があったときの動作の選択(留守番グループごと)」(▶P.132)を参照してください。

留守モードの設定： (留守番)の動作指定が「設定に従う」の場合

1 待受画面で、 (留守番)を押す

完了音が鳴り、留守番グループ A に指定されている留守番動作により、以下のいずれかの画面が表示されます。

「応答録音」が指定されている場合：

留守録 A / ガイダンス 1
あと 1000 件録音できます

「応答専用」が指定されている場合：

お知らせ A / ガイダンス 1

2 数秒間、そのまま待つ

待受画面が表示され、1 行目に「留守録 A」または「お知らせ A」が表示されます。

留守録 A	内線 10
10 / 24 (木)	9:00a

留守番モードが設定され、同じテナントに所属するすべての電話機の待受画面に同じ留守番動作が表示されます。

また、留守番グループ A～D に指定されている留守番動作が各グループの外線で有効になります。

MEMO

留守番モード中に、たとえば留守番グループ B に所属する外線から着信があった場合は、留守番グループ B に指定されている留守番動作に従います。「応答録音」(留守録)の場合は、応答録音ガイダンスが流れたあと、メッセージを録音します。「応答専用」(お知らせ)の場合は、応答専用ガイダンスが流れます。

なお、「設定に従う」の場合はガイダンス 1 に設定したガイダンスが使用されます。ガイダンスの設定については、「応答ガイダンスの選択(テナントごと)」(▶P.132)を参照してください。

留守モードの解除：☎ (留守番)の動作指定が「設定に従う」の場合

■ 録音メッセージのない場合

1 待受画面で、☎ (留守番)を押す

留守録A	内線10
10/24 (木)	9:00a

完了音が鳴り、留守番モードが解除されます。

↓

	内線10
10/24 (木)	9:00a

待受画面の1行目に表示されていた「留守録A」が消えます。

■ 録音メッセージのある場合

1 待受画面で、☎ (留守番)を押す

留守録A	内線10
10/24 (木)	9:00a

完了音が鳴り、留守番モードが解除されて、自動的にメールセンターに接続されます。

↓

メールサービス	MBX: 80
件数	1件/新規 1件

↓ (件数読み上げの
ガイダンス終了後)

0001:内線11	新規
10/24 (木)	9:00a

再生終了後にガイダンスが流れます。メールセンターから切断すると、待受画面に戻ります。

留守モードの設定：☎ (留守番)の動作指定が「ユーザ選択方式」の場合

1 待受画面で、☎ (留守番)を押す

完了音が鳴り、以下のような画面が表示されます。

<表示例>

留守録A/ガイダンス1
あと1000件録音できます

2 (ほかの留守番動作に切り替えたい場合) 再度、☎ (留守番)を押す

完了音が鳴り、以下のような画面が表示されます。

<表示例>

お知らせA/ガイダンス1

☎ (留守番)を押すたびに、留守番モードの動作パターン(留守番動作とガイダンス)が以下のように切り替わります。

留守録A/ガイダンス1→留守録A/ガイダンス2
→留守録A/ガイダンス3→お知らせA/ガイダンス1
→お知らせA/ガイダンス2→お知らせA/ガイダンス3
→解除

※ガイダンス1～3にそれぞれ応答録音ガイダンスが設定されている場合は「留守録」、応答専用ガイダンスが設定されている場合には「お知らせ」が表示されます。

※ガイダンスが設定されていない場合はスキップされます。たとえば、ガイダンス1の応答専用ガイダンスが「なし」の場合は「お知らせA/ガイダンス1」がスキップされます。ガイダンスの設定については、「応答ガイダンスの選択(テナントごと)」(▶P.132)を参照してください。

MEMO

この機能を使用する場合は、留守番グループAの留守番動作の指定を「応答録音」または「応答専用」にしてください。留守番モードへの切替は、留守番グループA～Dのいずれか1グループの留守番動作が「応答録音」または「応答専用」の場合であれば有効ですが、留守番グループAが「在宅」の場合は、電話機のディスプレイに留守番動作(「留守録A」「お知らせA」)が表示されません。

3 選択したい動作パターンが表示されたときに、数秒間、そのまま待つ

待受画面が表示され、選択した動作パターンに応じて、1行目に「留守録 A」または「お知らせ A」が表示されます。

お知らせ A	内線 10
10/24 (木)	9:00a

留守番モードが設定され、同じテナントに所属するすべての電話機の待受画面に同じ留守番動作が表示されます。

また、ここで選択した留守番動作(およびガイダンス)が、同じテナント内のすべての留守番グループの外線で有効になります。

MEMO

留守番グループ A ~ D に指定されている留守番動作(「応答録音」または「応答専用」)よりも、手順 3 で選択した留守番動作のほうが優先されます。たとえば、留守番グループ B の留守番動作に「応答録音」が指定されている場合でも、手順 3 で「お知らせ A/ガイダンス 1」を選択すると、留守番グループ B の外線への着信時には応答専用ガイダンスが流れます。

ただし、留守番動作が「在宅」と指定されている留守番グループの外線には留守番モードが設定されないため、手順 3 での選択が「留守録」または「お知らせ」でも、外線着信時には留守応答できません。

留守モードの解除：☎(留守番)の動作指定が「ユーザ選択方式」の場合

■ 録音メッセージのない場合

1 待受画面で、☎(留守番)を押す

☎(留守番)を押すたびに、完了音が鳴り、留守番モードの動作パターン(留守番動作とガイダンス)が切り替わります。

留守録 A	内線 10
10/24 (木)	9:00a

留守録 A/ガイダンス 2
あと 1000 件録音できます

☎(留守番)

☎(留守番)

お知らせ A/ガイダンス 3

☎(留守番)

	内線 10
10/24 (木)	9:00a

留守番モードが解除されるまで ☎(留守番)を数回押してください。

留守番モードが解除されると、待受画面の 1 行目に表示されていた「留守録 A」が消えます。

■ 録音メッセージのある場合

1 待受画面で、☎(留守番)を押す

留守録 A	内線 10
10/24 (木)	9:00a

完了音が鳴り、留守番モードが解除されて、自動的にメールセンターに接続されます。

メールサービス	MBX: 80
件数	1 件/新規 1 件

(件数読み上げのガイダンス終了後)

0001:内線 11	新規
10/24 (木)	9:00a

再生終了後にガイダンスが流れます。メールセンターから切断すると、待受画面に戻ります。

手動切替時の留守番機能の動作を設定する

留守番機能の各種設定や動作はテナントごとに設定します。この設定は、他のシステム管理電話機（多機能電話機など）または **Web 設定**（管理ユーザレベル）から操作できます。『取扱説明書（多機能電話機編）』または『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

以下の 4 項目のうち必要な項目を選んで設定してください。

項目	説明
「留守番モード中に着信があったときの動作の選択（留守番グループごと）」	留守番モード中に着信があったときの動作を、留守番グループ(A～D)ごとに設定することができます。
「応答ガイダンスの選択(テナントごと)」	留守番モード中に着信があったとき、相手に流すガイダンスを選択します。 ※電話機のサービスメニューから選択できるのは、ガイダンス 1 のみです。ガイダンス 2、3 の設定は Web 設定 で行います。
「終了ガイダンスの選択(テナントごと)」	留守番モード中、相手がメッセージを録音しているとき、録音時間の制限で切断する際に、相手に流すガイダンスを選択します。
「留守モード中のメッセージ録音通知の有無と録音通知方法の選択」	留守番モード中に留守録にメッセージが録音されたことを通知するかどうかと、通知する場合の通知方法(電話/Eメール)を選択します。

留守番モード中に着信があったときの動作の選択(留守番グループごと)

テナント内の回線を留守番グループ A～D にグループ分けして(工事設定)、留守番グループ(回線のグループ)ごとに、留守番モード中に着信があったときの留守番機能の動作(動作種別)を選択することができます。

グループごとに、留守番機能の動作(動作種別)として、以下の 3 つのいずれかの動作を選択できます。例えば、グループ A の回線は「応答録音」、グループ B の回線は「応答専用」のように選択できます。

- そのまま着信する(「在宅」)
- 応答ガイダンスを流したあと、着信相手に録音してもらう(「応答録音」)
- 応答ガイダンスを流したあと、回線を切断する(「応答専用」)

工事設定

- この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。
- 応答後や録音後に回線を切断するかしないか、工事設定で選択することができます。販売店にご確認ください。

応答ガイダンスの選択(テナントごと)

留守番モード中に着信があったとき、相手に流すガイダンスを選択します。

応答録音ガイダンス、応答専用ガイダンスの各ガイダンスの再生内容は以下のとおりです。

ガイダンスの種類	応答録音ガイダンス	応答専用ガイダンス
固定ガイダンス 1	ただ今留守にしています。発信音の後にメッセージをお話してください。	ただ今、留守にしています。しばらくしてからおかけ直してください。
固定ガイダンス 2	お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを承ります。ピーという発信音の後に、お名前とご用件をお話してください。	お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。のちほど、お電話いただきますようお願いいたします。
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00～99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。ユーザガイダンスの録音については、『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。	
なし※	(応答ガイダンスが流れず、応答直後に録音開始告知音が「ピー」と鳴ります)	(応答ガイダンスが流れず無音のまま、PB 信号入力待ちになります)

※上記は、 (留守番)の付加情報(留守番動作指定)が「設定に従う」の場合の動作です。

 (留守番)の付加情報(留守番動作指定)が「ユーザ選択方式」の場合は、ガイダンス 1～3 の応答録音ガイダンスまたは応答専用ガイダンスの中から「なし」が設定されていないものが選択できるようになります(すべて「なし」の場合は留守番モードを設定できません)。詳細は『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

終了ガイダンスの選択(テナントごと)

留守番モード中、相手がメッセージを録音しているとき、録音時間の制限で切断する際に、相手に流すガイダンスを選択します。

終了ガイダンスの各ガイダンスの再生内容は以下のとおりです。

ガイダンスの種類	再生内容
なし	(再生するガイダンスはなく、終了告知音のみとなります)
固定ガイダンス	制限時間になりましたので、録音を終了します。
ユーザガイダンス	ユーザガイダンス 00 ~ 99 ※ユーザガイダンスを選択する場合は、事前に、ガイダンスを録音しておいてください。

留守モード中のメッセージ録音通知の有無と録音通知方法の選択

留守モード中に、留守録にメッセージが録音されたことを通知するかどうかと、通知する場合の通知方法を選択します。録音通知方法は、以下のいずれかから選択します。通知先はあらかじめ設定しておきます。

- 電話での通知(電話呼出)
- Eメールでの通知(Eメール通知)
- 電話とEメールの両方での通知(電話呼・Eメール通知)

MEMO

- この設定は、Web設定で行います。詳細については『取扱説明書(Web設定編)』を参照してください。
- 通知先の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(▶P.155)を参照してください。

留守番機能の設定と使いかた(自動切替)

自動で留守番モードを設定 / 解除する(留守番モード自動切替)

指定した曜日、時間に在宅モードと留守番モードを自動的に切り替えるように設定することができます。この設定は、テナントごとに、他のシステム管理電話機(多機能電話機など)または **Web 設定**(管理ユーザレベル)から行います。『取扱説明書(多機能電話機編)』または『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

- 自動切替設定は、設定した時点から有効となります。したがって、現在時刻が開始時間を超えている場合はモードが切り替えられ、指定された動作パターンで動作します。
- 在宅自動応答時間(「留守番起動時間を設定する」(➡P.134)を参照)を過ぎても応答しないでいると、在宅モードでも留守番応答し、留守モードに切り替わります(在宅自動応答)。

自動切替時の留守番機能の動作を設定する

留守番モード自動切替(留守番タイマ連動)の設定では、8 曜日(日～土と休日 / 祝祭日)のそれぞれに対して、1 日を 1 ～ 10 の時間帯に分けて、時間帯ごとに動作を設定します。祝祭日 / 休日の設定については、「システムカレンダーを利用する」(➡P.88)を参照してください。

各時間帯の設定項目は、手動切替時と同じです。ただし、自動切替時の設定項目にはガイダンス 2、3 はありません。

留守番機能の設定と使いかた(共通)

ここでは、留守番機能の手動切替と自動切替の両方に関連する機能や使い方について説明します。

- 「留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する」(➡P.134)
- 「留守番起動時間を設定する」(➡P.134)
- 「外出先から留守番モードや留守番機能を設定する」(➡P.135)
- 「留守番録音されたメッセージの有無を確認する」(➡P.135)

留守番モードの自動切替と手動切替の優先順位を指定する

留守番モード切替の動作について手動切替 / 自動切替のどちらを優先するかを選択します。

この設定は、テナントごとに、他のシステム管理電話機(多機能電話機など)または **Web 設定**(管理ユーザレベル)から行います。『取扱説明書(多機能電話機編)』または『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

留守番起動時間を設定する

在宅モード / 留守番モードで自動応答するまでの時間を指定します。在宅モードは在宅自動応答時間、留守番モードは留守番自動応答時間となります。

この設定は、テナントごとに、他のシステム管理電話機(多機能電話機など)または **Web 設定**(管理ユーザレベル)で行います。『取扱説明書(多機能電話機編)』または『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

外出先から留守番モードや留守番機能を設定する

外出先からテナントの電話機の留守番モードを設定したり、留守番機能を変更したりできます。詳細については、第3章の「外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)」(▶P.81)を参照してください。

留守番リモコンで変更できる留守番モードは、リモコン起動時に指定した内線が所属するテナントのモードになります。変更した内容は、手動切替時の動作に反映されます。

留守番録音されたメッセージの有無を確認する

留守番モードをONにすると、それ以降の外線着信はボイスメールシステムで応答します。かけてきた相手には応答ガイダンスを流して、メッセージを録音してもらうことができます。留守モードでの録音メッセージは共通メールボックスに保存されます。

動作は、「手動切替時の留守番機能の動作を設定する」(▶P.132)または「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」(▶P.134)での設定に従います。

在宅モード/留守番モードの状態とテナント内の電話機のランプ表示は次のようになります。

状態	 (留守番)ランプ
留守番モード ON (新規メッセージあり)	遅い点滅(橙)
留守番モード ON (新規メッセージなし)	点灯(赤)
留守モード OFF(在宅モード)	消灯

留守番モード中に録音された新規メッセージを聞くには、遅い点滅している  (留守番)を押します。

MEMO

- 留守モードOFF(在宅モード)のときや、新規でない留守番メッセージを聞く場合は、メールセンターに接続して、留守番メッセージが保存されている共通メールボックスにログオンすれば、再生することができます。操作方法は「メールサービスを利用する」(▶P.146)を参照してください。
-  (留守番)は、あらかじめ  に登録しておきます。登録方法は、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。付加情報については「A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表」(▶P.173)を参照してください。

■録音可能残り件数が0件のとき:

- メッセージ録音できないため、留守番モード中の動作種別は自動的に「応答専用」になります。
- メッセージ録音のできない状態のとき、動作種別が「応答録音」の留守番モードがONになると、ディスプレイの2行目に「これ以上録音できません」と表示されます。
- 留守番モード中に録音できる状態に戻ると、動作種別が「応答専用」から「応答録音」に戻ります。

工事設定

メッセージ自動削除機能を利用すると、録音可能な状態を保つことができます。設定については、販売店にご確認ください。

ワンショット留守番

留守番応答可能な着信中に、 (ワン留守) を押すことにより、強制的に留守番応答を起動します。テナント内の留守番応答可能な着信すべてに対して、留守番応答できます。ワンショット留守番での録音先は自動応答での録音先と同じです。

MEMO

- ワンショット留守番で応答する着信は、先着順となります。
- 操作する内線が通話中でも、着信中の外線があるとワンショット留守番を起動することができます。
- 設定については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

ワンショット留守番の動作を設定する

留守番応答可能な着信中に、 (ワン留守) を押すことにより、強制的に留守番応答を起動できることを**ワンショット留守番**と呼びます。ここでは、ワンショット留守番機能で応答するときの応答ガイダンスの指定と、留守録にメッセージが録音されたときに通知する機能(メッセージ録音通知)を設定します。

この設定は、**Web 設定** (管理ユーザレベル) から操作できます。Web 設定については『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

ワンショット留守番機能で応答する

1 外線 2 に着信中



 (外線 2) ランプが速い点滅 (赤) します。

2 (ワン留守) を押す

-  (外線 2) ランプが点灯 (赤) します。
-  (ワン留守) ランプが点灯 (赤) します。
- 着信ランプが消灯します。
- 外線 2 の相手に次のような応答メッセージが 1 回アナウンスされたあと、用件録音を開始します。

『ただいま、留守にしています。発信音のあとにメッセージをお話してください。』

3 発信者の用件録音が終了する

-  (外線 2) ランプが消灯します。
-  (ワン留守) ランプが消灯します。

MEMO

この機能を使う前に、ワンショット留守番機能をあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24) を参照してください。

ワンショット留守番機能で応答するときの各応答ガイダンスの再生内容は以下のとおりです。

ガイダンスの種類	再生内容
固定ガイダンス 1	ただいま留守にしています。発信音のあとにメッセージをお話してください。
固定ガイダンス 2	お電話ありがとうございます。申し訳ございませんが、本日の業務は終了いたしました。メッセージを承ります。ピーという発信音のあとに、お名前とご用件をお話してください。

各種代行機能

かかってきた電話に応答できないときの設定として利用する**自動転送**(不在転送、無応答転送、話中転送)の転送先として、ボイスメールシステムを指定しておく(転送先種別に「ガイダンス応答録音」を指定する)、留守番電話と同じように、相手にメッセージを録音してもらうことができます。この機能を**代行機能**と呼びます(不在代行、無応答代行、話中代行)。ただし、代行機能が利用できるのは、外線/専用線からの着信のみです。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

代行機能で録音されたメッセージは、メールボックスにログオンして、通常のボイスメールのメッセージと同じように社内または社外から聞くことができます。ボイスメールのメッセージの操作については、「メールサービスを利用する」(▶ P.146)を参照してください。

代行機能では、留守番メッセージの録音通知機能と同様に、メッセージが録音されると自動的に自分の携帯電話に着信やEメールが届くように設定することもできます(「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(▶ P.155)を参照)。

代行以外の自動転送(不在転送、無応答転送、話中転送)の設定については、「3-5 電話に応答できないときの便利な機能」(▶ P.68)を参照してください。

不在代行を設定する

外出などで不在になるときに、着信相手にガイダンスを流して、自分のメールボックスにメッセージを残してもらうように設定することができます。

この機能を利用するには、まず不在転送設定で転送先をボイスメールに設定(転送先種別に「ガイダンス応答録音」を選択)してから、実際に不在になるときに「不在 ON」に切り替えます。不在モードの ON/OFF については、第3章の「不在 ON/OFF を設定する」(▶ P.72)を参照してください。

MEMO

不在転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機で特番を利用するか、または Web 設定から設定できます。

- 電話機で特番を利用した場合は内線のみ設定できます。
- Web 設定で設定する場合、一般ユーザレベルでは内線のみ設定でき、管理ユーザレベルでは自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。

ここでは電話機で設定する方法について説明します。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

- 1 受話器を上げる**
受話器から、内線発信音が聞こえます。
- 2 不在転送登録特番を押す**
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(▶ P.166)を参照してください。
- 3 着信種別(2~4)と区切り文字[*]を押す**
 - 外線着信の場合は $\textcircled{2}$ 、専用線着信の場合は $\textcircled{3}$ を押し、区切り文字[*]を押したあと、手順5へ進みます。
 - 発番号別の場合は $\textcircled{4}$ を押し、区切り文字[*]を押したあと、手順4へ進みます。

- 4 (「発番号別」を選択した場合) 転送元の電話番号を指定する**
電話帳に登録されている番号を「発番号」として登録することで、転送元の電話番号として指定できます。発番号は10件まで登録できます。
以下の番号を順に入力したあと、区切り文字[*]を入力します。
 - 発番号登録番号($\textcircled{0}$ ~ $\textcircled{9}$)
 - 転送元の電話番号が登録されている電話帳種別:
 $\textcircled{0}$ (共通電話帳)/ $\textcircled{1}$ (個別電話帳)
 - 転送元の電話番号が登録されている電話帳メモリ番号
- 5 $\textcircled{8}$ を押して、転送先種別に「ガイダンス応答録音」を選択する**

6 応答ガイダンス種別などを選択する

以下の番号と区切り文字 ***** を順に入力します。

応答ガイダンス種別 → ガイダンス番号 → 区切り文字

0 (固定ガイダンス 1)	※ユーザガイダンス のときのみ	* * * * * *
1 (固定ガイダンス 2)		
2 (ユーザガイダンス)		

→ 終了ガイダンス種別 → ガイダンス番号 → 区切り文字

0 (固定ガイダンス)	※ユーザガイダンス のときのみ	* * * *
1 (ユーザガイダンス)		

→ MBX 番号 (※ 1) (※ 2) → 区切り文字 (※ 2)

0 0 ~ 9 9 (代行録音先の メールボックス番号)	* * * *
--	------------------

→ 録音通知の有無 (※ 2)

0 (通知無し)
1 (電話呼出)
2 (Eメール通知)
3 (電話呼出 + Eメール通知)

(※ 1) : MBX 番号の値の範囲は設定されている桁数により異なります (左記は 2 桁に設定されている場合の例)。

(※ 2) : 「メッセージ録音無し」(応答ガイダンスのみを流す)を設定する場合は、「MBX 番号」と「録音通知の有無」の両方(および 2 つの間の区切り文字)を省略してください。

7 最後の区切り文字 ***** を押す

登録完了音が鳴り、操作した電話機の不在代行機能が登録されます。

8 受話器を置く

MEMO

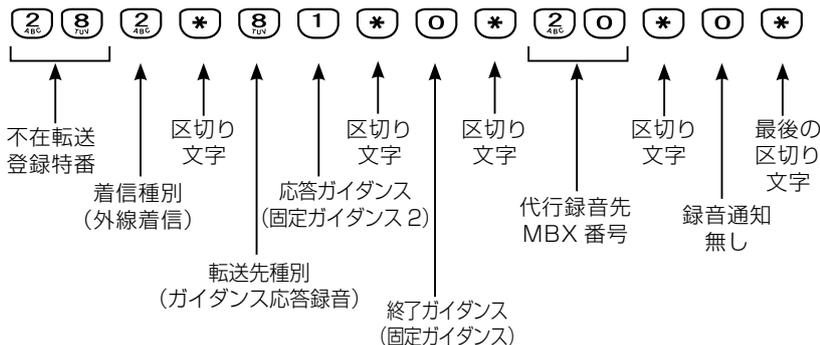
- プリセットダイヤルのように、受話器を上げずに入力して、最後に **スピーカ** を押しても登録できます。
- 各ガイダンスの詳細については、「応答ガイダンスの選択(テナントごと)」(▶ P.132)、「終了ガイダンスの選択(テナントごと)」(▶ P.133)を参照してください。
- メッセージ録音通知の機能を使用する場合は、メールボックスごとに通知先を登録する必要があります。メッセージ録音通知の詳細については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(▶ P.155)を参照してください。

入力例

■ 入力例 1 :

不在転送登録特番が 28 のときに、外線着信の不在代行を次のように設定する場合

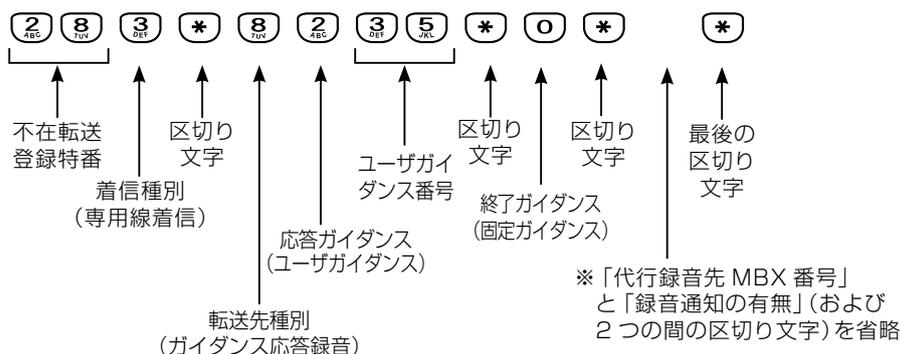
- 応答ガイダンス「固定ガイダンス 2」
- 終了ガイダンス「固定ガイダンス」
- 代行録音の保存先 MBX 番号 20
- 録音通知「無し」



■入力例 2:

不在転送登録特番が 28 のときに、専用線着信の不在代行を次のように設定する場合

- 応答ガイダンス「ユーザガイダンス」、ガイダンス番号 35
- 終了ガイダンス「固定ガイダンス」
- メッセージ録音無し（応答ガイダンスのみ流す）



話中代行を設定する

話中代行を設定すると、通話中にかかってきた電話に回答できないときに、相手を待たせずにメッセージを録音してもらうことができます。

MEMO

話中転送の設定は内線電話機ごとに設定します。Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

無応答代行を設定する

かかってきた電話に一定時間回答しなかったとき、相手に自分のメールボックスにメッセージを残してもらうことができます。

無応答代行の設定では、着信後に転送(代行)されるまでの時間(無応答タイマ)も設定します。無応答タイマの設定については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

無応答転送の設定は内線電話機ごとに設定します。Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。Web 設定での操作については、『取扱説明書 (Web 設定編)』を参照してください。

外線着信代行を設定する

昼休みや夜間など特定時間帯の外線からの電話をメールボックスに着信するように指定すると、着信に自動応答してガイダンスを流したり、相手にメッセージを録音してもらうことができます。

この機能を利用するには、「昼間」「夜間 A-1」「夜間 A-2」「夜間 A-3」「夜間 B」の 5 種類のモード(昼夜モード)に対して、それぞれ着信先の設定を行います(工事が行います)。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

各モードの切替方法には、特定の時間帯で切り替わるようにスケジュールリングで設定する自動切替と、機能を登録したオートダイヤルボタンを押すことによって切り替える手動切替があります。

昼夜モードは、テナントごとに切り替えることができます。

昼夜モードの切り替え操作については、第 3 章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(→P.86)を参照してください。

● 通話録音(通話メモ)

外線 / 専用線 / 内線またはドアホンとの通話中、あるいは通話モニタ中に、電話機のボタン操作で通話内容の録音を開始することができます。

録音した内容はあとからメールボックスにログオンして再生することができます。

また、通話録音用の共通メールボックスをあらかじめ設定しておく、または共通メールボックスに通話を録音しておき、電話の内容により必要な場合のみ、特定の内線(担当者)のメールボックスに保存(録音)できます。

そのときメッセージ録音通知機能を使用することで、重要な通話をメールボックスに録音したことを担当者に自動通知(電話またはEメール)することができます。

工事設定

- 内線 / ドアホンの通話録音を使用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。
- 通話録音用の共通メールボックスの設定については、販売店にご相談ください。

注意

相手に無断で通話録音すると、個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の方にお断りの上、通話録音するようにお願いします。

MEMO

- この機能を使う前に、 (通話録音)、 (一時停止)、 (録音終了)、 (PB信号)をあらかじめに登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
- 通話録音中に、 (一時停止)、 (録音終了)、を押して、一時停止 / 再開、録音終了の操作をすることができます。

通話を録音する

外線 / 専用線 / 内線またはドアホンとの通話中、あるいは通話モニタ中に、電話機のボタンを押して、通話内容を録音します。

自内線のメールボックスまたはあらかじめ設定されているメールボックスに録音する

1 通話中に、相手に録音することを伝えながら、 (通話録音)を押す

- 受話器で通話録音開始音が鳴り、録音が始まります。また、 (通話録音)ランプが点灯(緑)します。
- 録音開始時は、自内線のメールボックス、または設定されている場合は、通話録音用メールボックスに録音されます。
- ドアホン通話録音用メールボックスが設定されている場合は、ドアホンの通話録音はドアホン通話録音用メールボックスに録音されます。

工事設定

- 初期設定では、通話録音用メールボックス / ドアホン通話録音用メールボックス(通話録音用の共通メールボックス)は設定されていません。販売店にご相談ください。
- 初期設定では、 (通話録音)を押した時点から録音されますが、通話の先頭から録音されるように設定することもできます。販売店にご相談ください。

2 (用件の録音を終了して電話を切る場合) 受話器を置く

- 指定したメールボックスに録音内容が保存されます。
-  (通話録音)ランプは消灯し、画面には「通話終了」と表示されます。

<外線通話録音終了時の画面例>

通話終了
03' 03"

- 数秒経過すると、待受画面に戻ります。
- 録音先のメールボックス番号が登録された (メールボックス)ランプが遅い点滅(緑)し、自内線メールボックスに録音した場合は、自内線の電話機の着信ランプが点灯(赤)します(「ボタンとランプ動作一覧」(▶P.127)を参照)。

MEMO

- 録音を終了したときに、電話を切りたくない場合は、手順2で受話器を置く代わりに、 (録音終了)を押します。通常の通話の状態に戻れます。
- 最大録音時間の設定については、「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」(▶P.153)を参照してください。

他のメールボックスに録音する

1 通話中に、相手に録音することを伝えてから、 (通話録音) を押す

- 受話器で通話録音開始音が鳴り、録音が始まります。また、 (通話録音) ランプが点灯 (緑) します。
- 録音開始時は、自内線のメールボックス、または設定されている場合は、通話録音用メールボックスに録音されます。
- ドアホン通話録音用メールボックスが設定されている場合は、ドアホンの通話録音はドアホン通話録音用メールボックスに録音されます。

工事設定

- 初期設定では、通話録音用メールボックス / ドアホン通話録音用メールボックス (通話録音用の共通メールボックス) は設定されていません。販売店にご相談ください。
- 初期設定では、 (通話録音) を押した時点から録音されますが、通話の先頭から録音されるように設定することもできます。販売店にご相談ください。

2 (PB 送信モードが ON のとき)
 (PB 信号) を押す

- PB 送信モードが OFF になります。
- PB 送信モードについての詳細は第 3 章の「ブッシュホン信号を送る (PB エンド・ツー・エンド通信)」(▶ P.67) を参照してください。

3 録音先 (保存先) のメールボックス番号を入力する

<外線通話録音中の画面例>

通話録音: 1 2	—
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	

※内線通話録音中は、画面の 2 行目に内線通話中と同じ内容 (互いの内線番号) が表示されます。
例: 10 = [11]

MEMO

- メールボックス番号の入力の途中で  を押すと、入力途中のメールボックス番号をクリアして前の状態に戻ります。
- 手順 2 と手順 3 の代わりに、録音先のメールボックス番号が登録された  (メールボックス) を押すこともできます。
- 外線 / 専用線の通話録音の場合は、手順 3 の代わりにメールボックス用電話帳 (▶ P.144) で検索して、メールボックス番号を指定することもできます。

4 (用件の録音を終了して電話を切る場合)
受話器を置く

- 指定したメールボックスに録音内容が保存されます。
-  (通話録音) ランプは消灯し、画面には「通話終了」と表示されます。

<外線通話録音終了時の画面例>

通話終了	03' 03"
------	---------

- 数秒経過すると、待受画面に戻ります。
- 録音先のメールボックス番号が登録された  (メールボックス) ランプが遅い点滅 (緑) します (「ボタンとランプ動作一覧」(▶ P.127) を参照)。

MEMO

- 録音を終了したときに、電話を切りたくない場合は、手順 4 で受話器を置く代わりに、 (録音終了) または  +  (PB 送信モードが OFF の場合) を押します。通常の通話の状態に戻れます。
- 最大録音時間の設定については、「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」(▶ P.153) を参照してください。

MEMO

- ドアホン以外の通話録音中の通話を、 (保留)、 (パーク)、 (自己保留) で保留することができます (システム保留 / パーク保留 / 一時保留 / 自己保留)。再応答の操作をすると、通話録音を再開できます。
- 保留したのと同じ電話機で再応答した場合、通話録音の保存先は再応答後も保留前と同じメールボックスになります。メッセージ録音通知の設定も、保留の前後で同じ設定のまま保たれます。
- 他の電話機で再応答の操作をした場合、再応答後の通話録音の保存先は「通話録音保留応答時の MBX 切替指定」で指定されているメールボックスに切り替わります。メッセージ録音通知の設定も、保存先のメールボックスで設定されている通知設定に切り替わります。「通話録音保留応答時の MBX 切替指定」の初期設定については「A-3 各種機能の初期設定値」(▶ P.169) を参照してください。

工事設定

「通話録音保留応答時の MBX 切替指定」の設定を変更したい場合は、販売店にご相談ください。

通話録音の録音通知の有無を一時的に切り替える

メッセージ録音通知は、メールボックスへの録音があったことを、指定した電話番号や E メールアドレスへ通知する機能です。

通話録音中は、現在録音中または一時停止中のメッセージ(通話)に対して録音通知をするかしないか(録音通知の有無)を一時的に切り替えることができます。

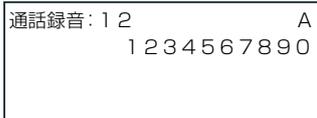
※この方法では、通知先を切り替えることはできません。通知先の変更には、工事設定が必要です。

※録音通知の有無と通知先の初期設定は、それぞれ「通知無し」「電話呼出」です。

1 通話録音中、 (録音通知) を押す

メッセージ録音通知の有無の設定が切り替わります。

<外線通話録音中の画面例>



電話機のディスプレイ画面の1行目右端の表示が「-」のときは「録音通知無し」(通知しない)、「A」のときは「録音通知有り」(通知する)を示しています。

工事設定

メッセージ録音通知の通知方法として、電話への通知、Eメールでの通知、電話とEメールの両方での通知の3つから選択することができます。初期設定では、電話への通知(電話呼出)が選択されています。他の通知方法を選択したい場合は、販売店にご相談ください。

MEMO

-  (録音通知) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
- メッセージ録音通知機能の詳細や通知先(電話番号/Eメールアドレス)の登録については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(▶P.155)を参照してください。

通話録音にコメントを付ける(コメント登録)

通話録音中、現在録音中のメッセージにあらかじめ登録しておいたコメントを付けることができます。

例えば、お客様から問い合わせがあったときなどに、「問い合わせ」というコメントをその場で付けておくと、あとでパソコン上で **Web 設定** を使ってメッセージを検索するときに便利です。

Web 設定でのボイスメール管理については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

1 通話録音中、 (コメント n) を押す

- nはコメント番号(1~50)です。
-  (コメント n) ランプが点灯(赤)します。

MEMO

-  (コメント n) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
-  (コメント n) の登録時には、付加情報としてコメント番号(1~50)を選択します。各コメント番号にはあらかじめ、コメント文を登録しておきます。コメント文の登録は **Web 設定** で行います。『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。
- 通話録音中に、点灯している  (コメント n) を再度押すと、メッセージからコメントを削除できます。
- ほかのコメントが登録されている  (コメント n) を押すと、コメントを変更できます。最後に押されたボタンに登録されているコメントが優先されます。
- 保存されている録音メッセージにコメントを追加することもできます。「録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)」(▶P.158)を参照してください。

※ n は 1 ~ 50 のいずれかの数字を示しています。

自動で通話が録音されるように設定 / 解除する(自動通話録音)

あらかじめ自動通話録音を設定しておく、外線 / 専用線 / 内線またはドアホンと通話したとき、あるいは通話モニタを開始したとき、自動的に通話録音を開始されるようになります。

工事設定

内線 / ドアホンの通話録音を使用するには、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

1 受話器を上げる

2 自動録音特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。

3 ① (設定) または ② (解除) を押す

登録完了音が鳴ります。

4 受話器を置く

MEMO

- 自動通話録音を設定されている状態で、同じ操作を行うと、設定が解除されます。
- 通話録音開始後の操作については、「通話を録音する」(→ P.140)を参照してください。

MEMO

自動通話録音を設定されると、 (通話録音) ランプが点灯(緑)し、解除されると消灯します。

● メールボックス用電話帳を利用する

メールボックス用電話帳に、録音先のメールボックス番号と名前を登録しておく、録音したいときや再生したいときにメールボックス番号をダイヤルしなくても、登録した名前をメールボックス用電話帳から検索して、保存先や再生先を指定することができます。

IP 多機能電話機では、メールボックス用電話帳は、電話機が独自に持っている電話帳の一部として登録します。「電話番号」にはメールボックス番号(内線番号または共通メールボックスの番号)を登録し、「名前」にはメールボックスの持ち主の名前(例えば「開発田中さんの MBX」「開発部門共通 MBX」など)や、特定の製品名(お客様からのコメントなどを録音する場合など)を登録します。

また、電話帳を登録するときのグループ分けとして、メールボックス用電話帳を 1 つのグループとして作成しておく、電話帳を利用するとき便利です(例えば、グループ番号 0 をメールボックス用電話帳専用しておくなど)。

電話帳への電話番号と名前の登録、および所属するグループの登録については、「1-6 電話帳の登録(電話機独自機能)」(→ P.26)を参照してください。

ここでは、登録したメールボックス用電話帳を利用する方法について、説明します。

メールボックス用電話帳からメールボックスを指定する

外線 / 専用線の通話録音で録音先を指定するとき、メールボックス番号を入力する代わりに、メールボックス用電話帳で検索して、指定することができます。

MEMO

メールボックス用電話帳は、外線 / ドアホンの通話録音では利用できません。

1 通話録音を開始する(→ P.140)

2 メールボックス番号を入力する画面、または録音中の画面で、を押す

例: 「MBX10」のメールボックスへ通話録音中の画面

通話録音: 1 0	—
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	

MEMO

- PB 送信モードが ON になっている場合(初期設定)はメールボックス番号を押す前に (PB 信号)を押して、PB 送信モードを OFF にしてください。PB 送信モードについての詳細は第 3 章の「プッシュホン信号を送る(PB エンド・ツー・エンド通信)」(→ P.67)を参照してください。
- この機能を使う前に、 (PB 信号)をあらかじめに登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24)を参照してください。

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

3 で [電話帳] を選択して、 を押す

メインメニュー
> 電話帳
サービス設定

4 で [グループ NO.] を選択して、 を押す

電話帳検索
名前
> グループ NO.
メモリ NO.

5 メールボックス用電話帳として作成された電話帳グループのグループ番号を入力して、 を押す

グループ NO.	10
----------	----

6 録音先として指定したいメールボックス(例えば担当者 B)を選択して、 を押す

検索結果
> 担当者 B
部門 1
部門 2

7 電話帳に登録された内容を確認して、を押す

NO. 003 GRP00 1/1
担当者B 14

↓ 

通話録音: 14 -
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
担当者B

録音先のメールアドレスが指定または変更されます。

8 録音が終わったら、受話器を置く

ランプ表示などの詳細は、「ボタンとランプ動作一覧」(⇒P.127)を参照してください。

メールボックスへの録音先や転送先をメールボックス用電話帳から指定する

メッセージ録音で録音先を指定するとき、メールボックス番号を入力する代わりに、メールボックス用電話帳で検索して、指定することができます。

1 メールボックスへのログオン操作中(⇒P.147)、メールボックスへの録音操作中(⇒P.154)、またはメールボックスへの転送操作中(⇒P.151)

2 メールボックス番号を入力する画面で、を押す

メールサービス
録音先MBX:-----

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます(電話機独自機能)。

3 で [電話帳] を選択して、を押す

メインメニュー
>電話帳
サービス設定

4 で [グループ NO.] を選択して、を押す

電話帳検索
名前
>グループ NO.
メモリ NO.

5 メールボックス用電話帳として作成された電話帳グループのグループ番号を入力して、を押す

グループ NO. 10

6 録音先として指定したいメールボックス(例えば担当者B)を選択して、を押す

検索結果
>担当者B
部門1
部門2

メールボックスが指定されます。

7 電話帳に登録された内容を確認して、を押す

NO. 003 GRP00 1/1
担当者B 14

↓ 

メールサービス
録音先MBX:14
担当者B

録音先のメールアドレスが指定または変更されます。

8 メールボックス指定後のそれぞれの操作をする

以下のそれぞれの操作のメールボックス指定後の操作をします。

- メールボックスへのログオン操作(⇒P.147)
- メールボックスへの録音操作(⇒P.154)
- メールボックスへの転送操作(⇒P.151)

MEMO

メールアクセス中にメールボックスを指定する場合は、必ずメールボックス指定待ちの状態でおこなってください。

メールサービスを利用する

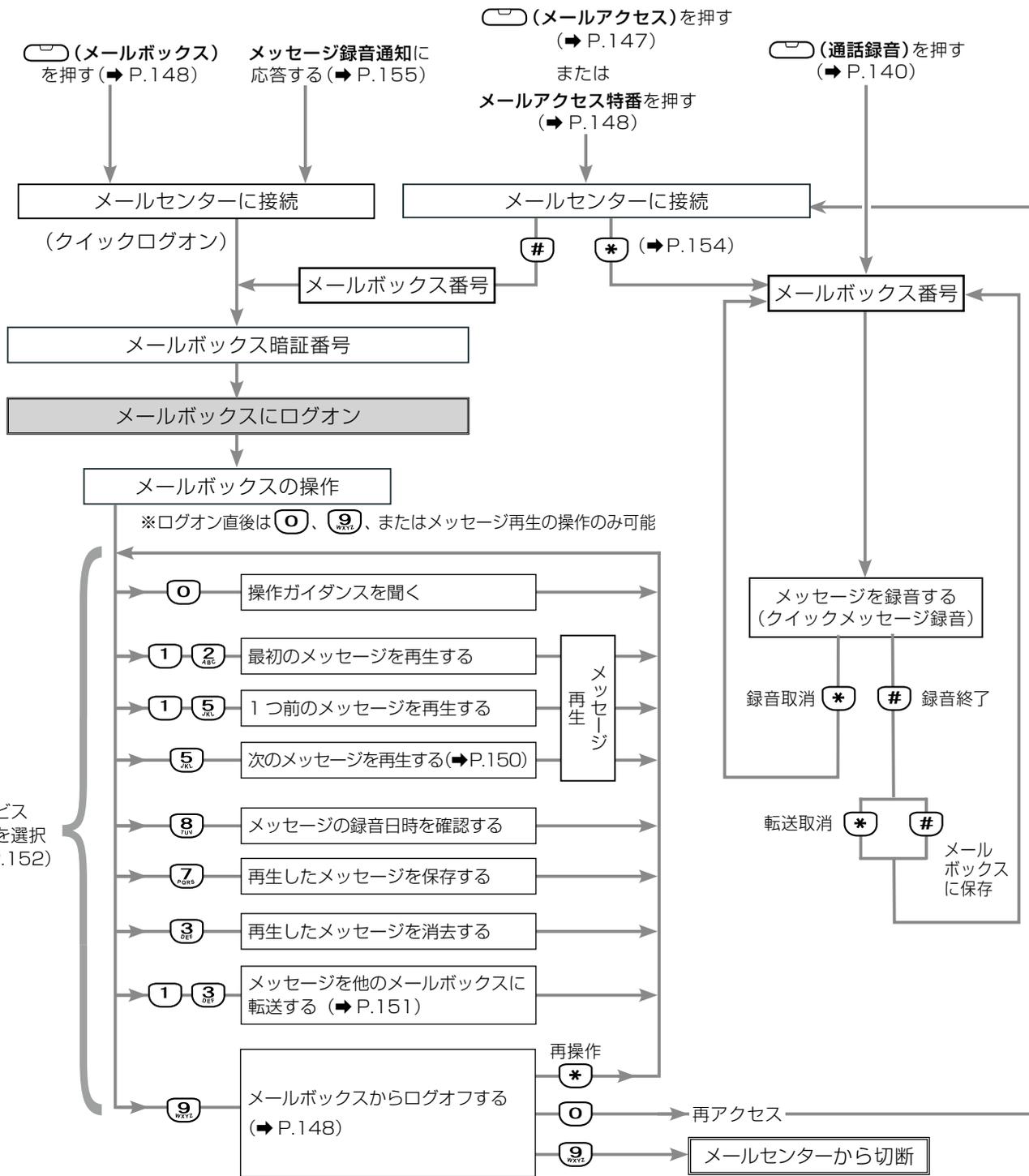
メールセンターに接続してメールボックスにログオンすることにより、録音内容の再生 / 消去、または他のメッセージボックスへの転送を行うことができます。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

MEMO

社外からメールセンターに接続する場合は、会社に電話したあと、メールアクセス特番を押してからガイダンスに従ってメールボックス番号、暗証番号を押すと、メールボックスにログオンできます(➡ P.149)。



MEMO

- メッセージ再生中のメールボックスの操作については、「メッセージ再生中にできる操作と内容」(➡ P.152)を参照してください。
- メールボックス暗証番号は、多機能電話機(システム管理電話機)から設定できます。『取扱説明書(多機能電話機編)』を参照してください。

サービス番号を選択 (➡ P.152)

メールセンターへ接続してメールボックスにログオンする

メールセンターに接続してメールボックスにログオンすることにより、録音内容の再生 / 消去などを行うことができます。

☎ (メールアクセス) でログオンする

1 ☎ (メールアクセス) を押して、受話器を上げる

メールセンターへの接続画面が表示され、次のようなガイダンスが受話器から流れます。

『こちらは、メールセンターです。相手のメールボックスに、直接メッセージを録音したいときは **(*)** を、あなたのメールボックスをご利用するときは **(#)** を押してください。』

2 **(#)** を押す

メールサービス
* : MBX録音 # : MBX選択

次のようなガイダンスが流れます。
『メールボックス番号を押してください。』

3 メールボックス番号を入力する

- メールボックス番号が登録された ☎ (メールボックス) を押すこともできます。
- メールボックス用電話帳 (→ P.144) で検索して指定することもできます。

メールサービス
MBX選択: -----

次のようなガイダンスが流れます。
『暗証番号を押してください。』

4 暗証番号を入力する

メールサービス MBX: 11
暗証番号: ****



メールサービス MBX: 11
件数 1件 / 新規 1件

メールボックスにログオンし、次のようなガイダンスが流れます。

『メッセージが xx 件あります (xx = メールボックスの総録音件数)。』

※録音用件が 0 件の場合は、『お伝えするメッセージはありません。』というガイダンスが流れます。

MEMO

- ☎ (メールアクセス) は、あらかじめ ☎ に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24) を参照してください。
- 暗証番号を登録していない場合は、手順 3 でメールボックス番号を入力すると「録音件数表示」画面が表示されます。

5 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します (→ P.146)。

MEMO

メールボックスにログオンしたとき、メールボックスの状態により次のようなガイダンスが流れます。

メッセージの状態		ガイダンス内容
未再生メッセージ	保存メッセージ	
なし	なし	『お伝えするメッセージはありません。』 『サービス番号を押してください。』 (このとき、[0:ヘルプ] [9:終了]のダイヤル操作のみ可能)
あり	なし	『メッセージが、xx 件あります。』 ※自動再生指定「あり」の場合は、ガイダンス再生終了後、録音内容を自動的に再生します。 ※自動再生指定「なし」の場合は、続けて『サービス番号を押してください。』というガイダンスが流れます。
なし	あり	
あり	あり	

メールアクセス特番でログオンする

1 受話器を上げる

2 メールアクセス特番を押す
特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。

3 **#**を押す

4 メールボックス番号を入力する

5 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

6 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します(→ P.146)。

MEMO

暗証番号を登録していない場合は、手順4のあとメールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。手順6へ進んでください。

(メールボックス)でログオンする(クイックログオン)

1 待受画面で、 (メールボックス)を押す

2 暗証番号を入力する
メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

3 ログオンしたメールボックスの操作をする
操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します(→ P.146)。

MEMO

-  (メールボックス)は、あらかじめに登録しておきます。メールボックス番号を割り付けます。登録方法については、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(→ P.24)を参照してください。
- 暗証番号を登録していない場合は、手順1のあとメールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。手順3へ進んでください。

メールボックスからログオフしてメールセンターから切断する

操作が完了したら、メールボックスからログオフして、メールセンターから切断します。

1 メールボックスの操作中
操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します(→ P.146)。

2 すべての操作が完了したら、サービス番号  (終了)を押す
次のようなガイダンスが流れたあと、メールボックスからログオフします。
『終了するときには、もう一度  を、最初からサービスを選択するときには  を押してください。』

3 サービス番号  (切断)を押す
次のようなガイダンスが流れたあと、メールセンターから切断します。
『ご利用ありがとうございました。』

4 受話器を置く

外出先からメールボックスを利用する

社外から電話をかけて、メールボックスにログオンすることにより、録音内容の再生 / 消去などを行うことができます。以下の2つの方法があります。

MEMO

外出先から使用する電話機は、プッシュ信号(PB)を送ることができるものを使用してください。

工事設定

この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

ダイヤルイン番号に電話をかけてメールアクセス特番を押す

1 外出先から会社に電話をかける

- 着信形式に付加番号 DID が設定されている電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

例：『こちらはダイヤルイン電話です。プッシュホンでおかけの方は続けて内線番号をダイヤルしてください。ダイヤルでおかけの方はしばらくお待ちください。』

2 メールアクセス特番を押す

特番の初期設定については、「A-2 特番一覧」(→ P.166)を参照してください。

3 #を押す

メールセンターに接続します。

4 メールボックス番号を入力する

5 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

6 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します(→ P.146)。

MEMO

- 一定時間以内にメールアクセス特番を押さなかった場合は、以下のようなリトライガイダンスが流れます。
例 1: 「別の内線番号をダイヤルしてください」
例 2: 「もう一度ダイヤルしてください」
- ダイヤル先の内線番号の相手が、一定時間、電話に出なかった場合は、設定により以下のいずれかになります。
 - ・リトライガイダンスが流れる
 - ・無応答転送(→ P.76)が動作し、電話が転送される
 - ・電話が切れる
- その他の付加番号 DID の使いかたについては第3章の「外出先から電話して各種機能を利用する(付加番号 DID)」(→ P.84)を参照してください。
- 暗証番号を登録していない場合は、手順4のあとメールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。手順6へ進んでください。

留守番電話(留守番 / 代行)の応答メッセージを利用する

1 外出先から会社に電話をかける

- 代行機能または留守番機能が設定されている電話番号に電話してください。電話番号の設定は、工事者が行います。販売店にお問い合わせください。
- 電話がつながると、自動応答して次のようなガイダンスが流れます。

例：『ただいま留守にしています。メッセージを承ります。』

2 #を押す

それぞれ以下のメールボックスにアクセスします。

- 代行機能で録音されたメッセージが保存されているメールボックス
- 留守番メッセージが保存されている共通メールボックス

3 暗証番号を入力する

メールボックスにログオンし、録音件数のガイダンスが流れます。

4 ログオンしたメールボックスの操作をする

操作ガイダンスに従って、ダイヤルボタンで操作します(→ P.146)。

録音されているメッセージを再生する

メールボックスに録音されているメッセージを再生します。再生したあとは、そのメッセージを削除するか、保存するかを選択することができます。

1 メールボックスにログオンする(⇒P.147)

2 サービス番号  (再生) または  (用件操作(次メッセージ)) を押す

録音されているメッセージが再生されます。

再生が終わると、保存 / 消去のガイダンスが流れます。

再生したメッセージを保存したり、削除する場合は、ガイダンスが流れている間に手順 3 へ進んでください。

そのまま終了する場合は、手順 4 へ進んでください。その場合は、「メッセージ自動消去指定」の設定に従います(⇒ P.153)。

3 サービス番号  (消去) または  (保存) を押す

再生したメッセージを削除する場合は、 または  (用件操作(消去)) を押します。保存する場合は、 または  (用件操作(保存)) を押します。

メッセージを削除または保存することを示すガイダンスが流れます。

4 メールボックスからログオフする(⇒ P.148)

MEMO

-  (用件操作) には、あらかじめ使用する機能(次メッセージ、前メッセージ、頭出し、消去、保存など)を登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(⇒ P.24)を参照してください。
- 再生中のメッセージを削除、保存したり、巻き戻しや早送りをすることもできます。メッセージ再生中にできる操作については、「メッセージ再生中にできる操作と内容」(⇒ P.152)を参照してください。なお、メッセージ再生中は、ディスプレイにメッセージの詳細情報が表示されます。
-  (次のメッセージを再生) または  (用件操作(次メッセージ))、  (1 つ前のメッセージを再生) または  (用件操作(前メッセージ)) を押して、録音されている順に再生することもできます。

再生したメッセージを他のメールボックスへ転送する(メールボックス間メッセージ転送)

メールボックスに登録されたメッセージを再生中、再生一時停止中、または再生したあと、他のメールボックスに転送することができます。

1 メールボックスにログオンして、録音メッセージを再生する(⇒P.150)

録音されているメッセージが再生されます。

2 (メッセージの再生中または再生後) サービス番号 ① ③ (メールボックスへ転送) または (用件操作(メッセージ転送)) を押す

3 転送先のメールボックス番号を入力する

- 転送先のメールボックス番号が登録された (メールボックス) を押すこともできます。
- メールボックス用電話帳(⇒P.144)で検索して指定することもできます。

メッセージ転送	MBX選択: ----
---------	-------------

4 # を押す

転送を取り消す場合は * を押します。

メッセージ転送	MBX: 12
*: 転送取消 # : 実行	

- 録音件数表示画面が表示されます。
- 転送を実行した場合には、内線 12 にメッセージが転送され、内線 12 の (メールボックス) ランプが遅い点滅(緑)します。

5 メールボックスからログオフする(⇒P.148)

MEMO

- (用件操作(メッセージ転送)) は、あらかじめ () に登録しておきます。登録方法は第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(⇒P.24)を参照してください。
- (用件操作(メッセージ転送)) には付加情報 2 として、転送先のメールボックス番号を登録することもできます。転送先が未登録の (用件操作(メッセージ転送)) を押した場合は、メールボックス番号を選択する画面が表示されます。
- 転送された録音内容のタイムスタンプは、メッセージが転送された日時ではなく、録音された日時となります。
- 転送された録音内容は未再生の新規メッセージとして扱われます。転送元メッセージの状態(新規/保存/消去)は転送されません。
- 転送元で消去指定した録音内容でも、ログオフするまではメッセージ転送できます。

工事設定

- 転送先メールボックスへのメッセージの転送が完了したとき、指定した電話番号や E メールアドレスへ通知されるように設定することができます(メッセージ録音通知)。販売店にご相談ください。
- メッセージ録音通知機能の詳細については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(⇒P.155)を参照してください。転送されたメッセージは転送先メールボックスで、新規メッセージとして扱われます。

メッセージ再生中にできる操作と内容

以下の操作は、メッセージ再生中、停止中、一時停止中に操作できます。

操作	使用するボタン	動作
前メッセージ再生	1 + 5  (用件操作(前メッセージ))	1 つ前のメッセージを再生します。 ※最初のメッセージから操作した場合は、操作ガイダンスが流れます。
	5  (用件操作(次メッセージ))	次のメッセージを再生します。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージを再生します。 また、最後のメッセージから操作した場合は、操作ガイダンスが流れます。
頭から再生	1 + 2  (用件操作(頭出し))	再生中のメッセージを頭から再生します。
	3  (用件操作(消去))	再生中、または直前に再生したメッセージを消去します。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージを消去します。
メッセージ保存	7  (用件操作(保存))	再生中、または直前に再生したメッセージを保存します。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージを保存します。
	1 + 1  (用件操作(一時停止))	再生中のメッセージを一時停止します。一時停止した状態で、もう一度押すと再開します。
メッセージ早送り	6  (用件操作(早送り))	再生中のメッセージをメッセージ再生スキップタイマで指定された秒数分、先へ進めます。 ※メッセージ再生スキップタイマについては「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」(▶ P.153)を参照してください。
	4  (用件操作(巻戻し))	再生中のメッセージをメッセージ再生スキップタイマで指定された秒数分、戻します。 ※メッセージ再生スキップタイマについては「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」(▶ P.153)を参照してください。
他のメールボックスへ転送	1 + 3  (用件操作(メッセージ転送))	再生中のメッセージを他のメールボックスに転送することができます。 ※メッセージ転送の詳細は「再生したメッセージを他のメールボックスへ転送する(メールボックス間メッセージ転送)」(▶ P.151)を参照してください。
	 (コメント)	再生中のメッセージにコメントを付けることができます。 ※詳細は「録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)」(▶ P.158)を参照してください。
日時確認	8 	再生中、または直前再生したメッセージの録音日時をアナウンスします。 ※メッセージ検索直後の場合は、そのメッセージの録音日時がアナウンスされます。 ※操作時にメッセージ再生中(または一時停止中)だった場合は、録音日時をアナウンスしたあと、そのメッセージの先頭から再生されます。
ボリュームアップ	1 + 7 	再生中の音量が大きくなります。
ボリュームダウン	1 + 8 	再生中の音量が小さくなります。
ヘルプ	0	操作ガイダンスが流れます。
再生停止	#	メッセージの再生を停止します。
サービス終了	9 	メールボックスからログオフします。

MEMO

上記の操作の前に、 (用件操作)にそれぞれの付加情報(前メッセージ、次メッセージ、頭出し、消去、保存、一時停止、早送り、巻戻し、メッセージ転送など)を登録しておきます。登録方法は、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)を参照してください。

ボイスメールシステムの動作条件を設定する

ボイスメールシステムの動作条件を設定できます。設定できる項目は次のとおりです。

- 自動再生(自動再生する / 自動再生しない)
- 自動消去(自動消去する / 自動保存する)
- 再生順(新しい順 / 古い順)
- 連続再生(連続再生する / 連続再生しない)
- メッセージ録音最大時間(1 ~ 255 分)
- メッセージ録音最小時間(3 ~ 255 秒)
- メッセージ再生スキップタイマ(5 ~ 60 秒)

MEMO

- ボイスメールシステムの動作条件の設定については、多機能電話機(システム管理電話機)を参照してください。
- メール属性の項目はボイスメールシステムを一括して設定されます。メールボックスごとに変更することはできません。
- ボイスメール属性メニューでは、次の項目を選択できます。各項目の設定範囲は次のとおりです。初期値については「A-3 各種機能の初期設定値」(▶ P.169)を参照してください。

番号	項目	設定範囲
1	自動再生指定	自動再生する / 自動再生しない
2	自動消去指定	自動消去する / 自動保存する
3	再生順序指定	新しい順 / 古い順
4	連続再生指定	連続再生する / 連続再生しない
5	メッセージ録音最大時間	1 ~ 255 分
6	メッセージ録音最小時間	3 ~ 255 秒
7	メッセージ再生スキップタイマ	5 ~ 60 秒

工事設定

ボイスメール属性メニューで「自動消去する」を設定すると、再生したメッセージが自動的に消去されます。この機能とは別に、指定した件数を超えると古いメッセージから順に削除されるように設定することもできます(メッセージ自動削除機能)。メッセージ自動削除機能は工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

メールボックスにメッセージを録音する

メールボックスにメッセージを録音する(クイックメッセージ録音)

メールボックスを指定して、そのメールボックスにメッセージを録音することができます。内線 / 外線 / 専用線から個人にメッセージを送るにはクイックメッセージ録音が便利です。外線からの場合は、付加番号 DID を利用して社内に電話したあと、メールアクセス特番を押してください。「外出先からメールボックスを利用する」(▶P.149)を参照してください。

1 (メールアクセス) を押して、受話器を上げる

メールセンターへの接続画面が表示され、次のようなガイダンスが受話器から流れます。

『こちらは、メールセンターです。相手のメールボックスに、直接メッセージを録音したいときは ***** を、あなたのメールボックスをご利用するときは **#** を押してください。』

メールサービス
* : MBX録音 # : MBX選択

2 ***** を押す

メールボックスへの録音操作が選択され、次のようなガイダンスが流れます。

『メールボックス番号を押してください。』

メールサービス
録音先MBX : -----

3 録音先のメールボックス番号を入力する

- 録音先のメールボックス番号が登録された (メールボックス) を押すこともできます。
- メールボックス用電話帳(▶P.144)で検索して指定することもできます。

メールサービス
録音先MBX : 10

4 メッセージを録音して、**#** を押す

メッセージ録音 MBX : 12
* : 録音取消 # : 録音終了

を押すと録音終了になり、次のようなガイダンスが流れます。

『メッセージを送信してよければ **#** を押してください。メッセージを消去するときは ***** を押してください。』

(録音を取り消す場合は、***** を押します)

5 **#** を押す

録音したメッセージが、指定したメールボックスへ転送されます。

(転送を取り消す場合は、***** を押します)

メッセージ録音 MBX : 12
* : 転送取消 # : 実行



メールサービス
録音先MBX : -----

メールボックス番号入力待ちの画面(手順3の画面)に戻ります。

6 終了する場合は、受話器を置く

メールセンターから切断され、待受画面に戻ります。

MEMO

- (メールアクセス) は、あらかじめ (メールアクセス) に登録しておきます。登録方法は、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶P.24)を参照してください。
- 録音先として指定できるメールボックスは、1つの録音につき1メールボックスです。
- メッセージ録音後、該当する (メールボックス) ランプは遅い点滅(緑)します。
- 手順1で (メールアクセス) の代わりにメールアクセス特番を押すこともできます。
- 内線から待受状態中に操作する場合、手順1~2の代わりに (通話録音) を押しても同じ操作ができます。

工事設定

- 外線 / 専用線からメールボックスにメッセージが録音されたとき、指定した電話番号やEメールアドレスへ通知されるように設定することができます(メッセージ録音通知)。販売店にご相談ください。
- メッセージ録音通知機能の詳細については、「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(▶P.155)を参照してください。

5-3 便利な使いかた

ここでは、ボイスメールを利用するときに便利な以下の機能について説明します。

- 「メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)」(➡ P.155)
- 「録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)」(➡ P.158)
- 「録音メッセージを外部に保存する」(➡ P.159)

● メッセージが録音されたことを通知する(メッセージ録音通知)

留守番や各種代行、通話録音などでメールボックスにボイスメール(メッセージ)が録音されたとき、指定したアドレスへ E メールでお知らせしたり、指定した電話番号へ決まった時間帯に電話でお知らせするように設定することができます。

この機能を使用するには、通知先や通知時間帯をあらかじめ登録しておき、留守番機能(➡ P.128)や代行機能(➡ P.137)、通話録音機能(➡ P.140)などで録音通知方法を次のいずれかから選択します。

- 電話での通知(電話呼出)
- E メールでの通知(E メール通知)
- 電話と Eメールの両方での通知(電話呼・Eメール通知)

設定が完了すると、新着メッセージが録音されると同時に、指定した通知先に自動的に電話または E メールが発信され、新着メッセージが録音されたことを知らせます。

外出先で電話呼出による通知を受けた場合、通知後は自動的にボイスメールにクイックログオンします。ボイスメールからのガイダンスに従って操作することで、メッセージを再生することができます。クイックログオン後の操作については、「メールサービスを利用する」(➡ P.146)を参照してください。

Eメール通知の場合は、録音されたメッセージの情報を示すメールが送信されます。

工事設定

Eメールでのお知らせ(Eメール通知)を使用するにはインターネット接続環境、およびEメール機能利用情報やメール送信/受信サーバ情報などの設定が必要です。販売店にご相談ください。

MEMO

- メッセージ再生終了後に未再生メッセージが残っていても、新たにメッセージ録音されるまでは、メッセージ録音通知は行われません。
- 通知のみに応答してメッセージを再生しなかった場合でも、すでに通知したとみなされ、新たにメッセージが録音されるまでは、メッセージ録音通知は再送されません。

ここでは、以下の操作について説明します。

- 「メッセージ録音の電話での通知先を登録する(録音通知設定)」(➡ P.156)
- 「メッセージ録音の Eメールでの通知先を登録する(録音通知設定)」(➡ P.156)
- 「各録音機能でメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する」(➡ P.157)

MEMO

- メッセージ録音通知の設定は Web 設定でメールボックスごとに行います。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。
- 一般ユーザで Web 設定にログインした場合は、ご自分の内線または自テナントに指定された共通メールボックスのメッセージ録音通知について設定できます。
- 管理ユーザで Web 設定にログインした場合は、全メールボックスのメッセージ録音通知について設定できます。

メッセージ録音の電話での通知先を登録する(録音通知設定)

メールボックスごとに、メッセージが録音されたときの通知先の電話番号と時間帯を登録します。また、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合には今回の新たなメッセージ録音で電話への通知(再通知)が行われないように、設定することができます([再通知しない]を選択)。これにより、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合の再通知(リトライ)と、新たにメッセージが録音されたときの通知が重複しないようにすることができます。

この設定は、Web 設定(一般ユーザまたは管理ユーザ)で行います。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

- [再通知しない] を選択した場合、新たにメッセージが録音されても、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合は、メッセージ録音通知は行われません。
- [再通知する] を選択した場合、新たにメッセージが録音されると、前回の録音通知で通知先が不応答 / 使用中だった場合でも、メッセージ録音通知が行われます(初期設定)。
- [再通知しない] を選択した場合でも、メールボックス内に残っているすべての未再生メッセージを再生したあとであれば、メッセージ録音通知が行われます。

工事設定

通知先の電話が不応答 / 使用中でメッセージ録音通知が失敗したときには、新たにメッセージが録音されなくても、再度、メッセージ録音通知が行われます(リトライ)。リトライの有無やリトライ回数設定は工事者が行います。販売店にお問い合わせください。

メッセージ録音の E メールでの通知先を登録する(録音通知設定)

メールボックスごとに、メッセージが録音されたときの通知先の E メールアドレスを登録します。

通知先 E メールアドレスは、Web 設定(一般ユーザまたは管理ユーザ)で登録します。Web 設定での操作については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

MEMO

- E メールでの通知の場合、メッセージが録音されると即座に通知(メール送信)されます。通知する時間帯の設定はできません。
- E メールでの通知がメールサーバへの送信に失敗した場合は、E メールは破棄されます。リトライ送信は行われません。

< E メール通知で送信されるメールの例 >

タイトル: 【MBX11】新規メッセージがありました
本文:
【MBX11】に新規録音がありました。
(メッセージを聴取するには、電話番号「XXXXXXXXXX」にかけてください。)
件数 3 件 / 新規 2 件
最新 1 件メッセージの情報は下記の通りです。
「相手名称」 ○○太郎
「相手番号」 XXXXXXXXXXX
「メモ」 ○○○株式会社
「着信情報」 外線 001
「録音日時」 4 月 13 日(水) 午後 10:15
「録音時間」 0 分 50 秒

各録音機能でメッセージ録音通知の有無と録音通知方法を選択する

メッセージ録音通知機能を使用するには、通知先を登録したあと、以下の各録音機能でそれぞれ、録音通知の有無と以下のいずれかの録音通知方法を選択する必要があります。

- 電話での通知(電話呼出)
- Eメールでの通知(Eメール通知)
- 電話とEメールの両方での通知(電話呼・Eメール通知)

※ P.156 で登録したメッセージ録音の通知先は、以下のすべての機能で使用されます。

録音機能	録音通知の有無と通知方法を選択する操作	参照先
留守番機能	—	—
応答録音(留守録) (留守番モード自動切替時)	留守番機能の動作設定として選択します。 Web 設定で設定できます。	「自動切替時の留守番機能の動作を設定する」(▶ P.134)
応答録音(留守録) (留守番モード手動切替時)	留守番機能の動作設定として選択します。 Web 設定で設定できます。	「留守モード中のメッセージ録音通知の有無と録音通知方法の選択」(▶ P.133)
ワンショット留守番	留守番機能の動作設定として選択します。 Web 設定で設定できます。	「ワンショット留守番」(▶ P.136)
各種代行機能	—	「各種代行機能」(▶ P.137)
外線着信代行	販売店による工事設定が必要です。	「外線着信代行を設定する」(▶ P.139)
不在代行	不在代行の動作設定として選択します。 電話機から特番を利用して、または Web 設定で設定できます。	「不在代行を設定する」(▶ P.137)
無応答代行	無応答代行の動作設定として選択します。 Web 設定で設定できます。	「無応答代行を設定する」(▶ P.139)
話中代行	話中代行の動作設定として選択します。 Web 設定で設定できます。	「話中代行を設定する」(▶ P.139)
通話録音機能	—	—
通話録音(通話メモ)	録音通知の有無は、初期設定で「通知無し」に設定されています。初期設定を変更するには工事設定が必要ですが、通話録音中に  (録音通知) を押すことで、現在録音中の通話に対する録音通知の有無を切り替えることができます。 録音通知方法は、初期設定「電話呼出」です。変更する場合は販売店による工事設定が必要です。 ※通話録音中の通話を保留した場合、再応答後の録音通知の設定は、録音メッセージの保存先メールボックスで設定されている通知設定に切り替わります。	「通話を録音する」(▶ P.140)
自動通話録音	通話録音(通話メモ)と同じです。	「自動で通話が録音されるように設定 / 解除する(自動通話録音)」(▶ P.143)
公・公転送自動通話録音	販売店による工事設定が必要です (初期設定:通知無し)。	外線着信を共通電話帳に登録されている番号と一致する番号へ自動転送して、相手が応答したとき、自動的に通話録音を開始する機能です。 この機能を使用する場合は販売店にご相談ください。
クイックメッセージ録音	販売店による工事設定が必要です (初期設定:通知無し)。 ※外線 / 専用線からのメッセージの録音時のみ通知することができます。	「メールボックスにメッセージを録音する(クイックメッセージ録音)」(▶ P.154)
メールボックス間メッセージ転送	販売店による工事設定が必要です (初期設定:通知無し)。	「再生したメッセージを他のメールボックスへ転送する(メールボックス間メッセージ転送)」(▶ P.151)

● 録音メッセージにコメントを追加する(コメント登録)

メールボックスに保存されている録音メッセージに、コメントを付けることができます。

メッセージにコメントを付けておくと、パソコン上で **Web 設定** を使ってメッセージを検索するときに、キーワード(検索条件)として利用できるのが便利です。例えば、折り返し電話が必要なお客様からの録音メッセージに、「折り返し電話する」というコメントを付けておくことができます。

保存されているメッセージにコメントを付けるには、以下の2つの方法があります。

(1) メッセージ再生中に  (コメント n) を押す

(2) **Web 設定** のボイスメール管理画面で、対象のメッセージのコメントを選択する

ここでは、(1)の電話機での操作について説明します。(2)の **Web 設定** でのボイスメール管理については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

通話録音中のメッセージにその場でコメントを付けることもできます。「通話録音にコメントを付ける(コメント登録)」(➡ P.142)を参照してください。

MEMO

-  (コメント n) はあらかじめ  に登録しておきます。登録方法は第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(➡ P.24)を参照してください。
-  (コメント n) の登録時には、付加情報としてコメント番号(1～50)を選択します。各コメント番号にはあらかじめ、コメント文を登録しておきます(全角10文字まで)。コメントの登録は **Web 設定** で行います(最大50個)。コメントの登録方法については、『取扱説明書(Web 設定編)』を参照してください。

※ n は 1～50 のいずれかの数字を示しています。

再生中のメッセージにコメントを付ける

1 録音されているメッセージを再生する
(➡ P.150)

2 メッセージ再生中、 (コメント n) を押す

- n はコメント番号(1～50)です。
-  (コメント n) ランプが点灯(赤)します。

MEMO

- 点灯している  (コメント n) を再度押すと、メッセージからコメントを削除できます。
- ほかのコメントが登録されている  (コメント n) を押すと、コメントを変更できます。最後に押されたボタンに登録されているコメントが優先されます。

録音メッセージを外部に保存する

外部保存設定で、自動保存を設定すると、録音メッセージを一括で外部の FTP サーバへ転送することができます。また、**Web 設定**を利用して、手動で録音メッセージを個別または一括で自席のパソコンに保存したり、主装置内から削除することができます。

MEMO

- FTP サーバやパソコンに録音メッセージを転送・保存すると、「メールボックス番号+録音日時+管理番号.WAV」のような名前の wav 形式のファイルとして転送・保存されます(例:MBX80_201301260118_0007.WAV)。
- wav 形式ファイルは、Windows Media Player 等を使用してパソコン上で再生することができます。

Web 設定を利用してメッセージを保存 / 削除する(メッセージ外部保存(手動))

Web 設定のボイスメール管理メニューから、メールボックスごとに録音一覧を表示することができます。一覧表示画面から、任意の録音メッセージを選択して、個別または一括で取得してパソコンへ保存したり、削除することができます。

詳細については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。

※録音メッセージのパソコンへの保存 / 削除は電話機からは操作できません。

MEMO

- 外部取得(自動)が動作している間は「メールボックス処理中です」が表示され、内蔵ボイスメール管理を使用できません。
- 内線 / テナントに割り付けられていないメールボックスは、手動によるアクセス制限を設けられません。

外部 FTP サーバへの自動保存を設定する(メッセージ外部保存(自動))

Web 設定の外部保存設定メニューから、外部 FTP サーバへの保存の有無や自動保存する時間の設定、FTP アカウントや URLなどを設定します。

指定された日時になると、内蔵ボイスメールの録音内容が LAN 経由で FTP サーバへ転送されます。

詳細については、『取扱説明書(Web 設定編)]を参照してください。

※ FTP サーバへの自動保存では、システム内の録音メッセージが一括で転送されます。

MEMO

- 外部 FTP サーバへ転送・保存できた録音メッセージファイルは「送信済」として管理されます。未保存の録音メッセージファイルが 1 件もない場合は、外部 FTP サーバへの自動保存は動作しません。
- 外部保存メッセージの自動削除は、システム一括での指定となり、メッセージボックスごとには指定できません。
- 自動転送中のメールボックスにログオンすることはできません(アクセス不可ガイダンスが流れます)。また、ログオン中のメールボックスは、自動転送対象外となります。

付録 A

A-1 用語説明	162
A-2 特番一覧	166
A-3 各種機能の初期設定値	169
A-4 機能特番の一覧	170
A-5 メロディー一覧	172
A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表	173

A-1 用語説明

英数字

ACR(LCR)	ダイヤルされた内容によって、最適なキャリア(通信網を提供している会社)を選択して発信できる機能。
DGL、DGL グループ (Direct Group Line)	着信の 1 つの形式で、内線を例えば組織ごとにグループ化し、発信者はそのグループを指定して発信することで、グループ内の内線すべてを呼び出せる機能。 着信は 1 つの DGL ボタンに先着順でキューイングされます。 ※キューイングとは、着信を先着順に並べて管理する手法のこと。人間でいうと行列に相当します。
DSS(ボタン) 内線 DSS (Direct Station Selection)	相手の内線電話をワンタッチのボタン操作で直接呼び出す機能。オートダイヤルボタンに DSS 機能を割り付け、そのボタンに登録された内線をワンタッチで呼び出すことができます。割り付けたボタンのランプの状態で、相手の電話機が使用中かどうかを知ることができます。 参照: 第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(▶ P.24)
DSS コンソール	▶集中受付装置(DSS)
MSA、MSA グループ (Multi-Station Access)	着信の 1 つの形式で、内線を例えば組織ごとにグループ化し、発信者はそのグループを指定して発信することで、グループ内の内線すべてを呼び出せる機能。着信は 1 つのボタンに対し 1 つ割り当てられます。MSA ボタンを使用して発信や保留もできます。いくつボタンを割り付けるかは、工事が設定します。
SIP 電話機	SIP プロトコルに準拠した、VoIP 電話機。
VoIP	音声を IP プロトコル上に載せてパケットで通信するプロトコル。 VoIP 外線は、IP 電話サービスで通話できる外線のことで、例えば、ひかり電話などがあります。
Web 設定	Web ブラウザを使用して、各種の設定がユーザでできる機能。Web ブラウザでの設定はユーザが設定できるもののみになります。ログイン時のユーザレベル(一般ユーザレベル、システム管理者レベル)により、設定できる項目が異なります。
W 機能セット、 W 機能特番	特番またはボタン操作で指定された 2 つのモードを同時に設定 / 解除ができる機能。

あ

一般系着信、一般着信	複数の電話機に同時に着信する着信方法の総称。外線着信(一般系)、DGL/MSA 着信、などが該当します。
一般ユーザ電話機	一般ユーザレベルの操作が行える内線電話機。 システム管理電話機からサービスメニューで、電話機をシステム管理電話機に設定できます。また、システム管理電話機を一般ユーザ電話機に変更できます。
いらっしやいまセンサ	いらっしやいまセンサモードにすると、人感センサで来客を検知すると、電話機のディスプレイに「いらっしやいませ」という表示や、外部機器からのガイダンス送出ができる機能。無人の受付などで利用します。 参照: 『取扱説明書(セーフティ機能編)』
オフフック状態	電話機の手話器を電話機から上げた状態。
オンフック状態	電話機の手話器が電話機に置かれた状態。

か

会議通話	外線または内線で通話中に電話をかけ、他者を通話に加えて 3 人以上で同時に通話できる機能。会議通話には、最大 4 人まで参加できます。 参照: 第 4 章の「会議通話を招集する(会議通話)」(▶ P.93)
外線 / 専用線シーケンス 番号	テナントごとに外線に割り付けた番号のこと。

キーボード キーボードモード	ISDN 外線と通話中にキーボードファシリティ情報を外線に送出できる状態。 ボイスワープなどの登録で使います。 参照:第 4 章の「迷惑電話お断りサービスを利用する」(➡ P.106)
共通メールボックス	テナントなどにくくりつけられた内蔵ボイスメールシステム用のメールボックス。 複数内線で共通に使えます。主に、留守番機能で使います。メールボックス番号は 4 桁までになります(➡内線メールボックス) 参照:第 5 章の「ボイスメールのシステム概要」(➡ P.122)
クイックログイン	メールアクセス時、メールボックスを指定しないでアクセスできる機能。ログイン先のメールボックスがわかっている場合に適用される機能です。 メールボックスボタンを押した場合、メールボックスボタンに割り付けられたメールボックスにアクセスします。メールアクセス特番+メールボックス番号の操作をメールボックスボタンの 1 操作で実現できるため、クイックログインと呼んでいます。
コールウェイトニング	話中の内線にかけた場合、相手が空き状態になるまで待っていると、自動的に相手呼び出す機能。
個別系着信、個別着信	1 つの指定した電話機に着信する方法の総称。DIL、DID、内線着信などが相当します。
さ	
サービスクラス	内線ごとに、どこまでの発信を許容するかを指定するデータ。
最終保留	一番最近に保留した呼(システム保留、パーク保留、自己保留、一時保留)のこと。 最終保留された保留呼は続けて、発信操作をすることで着信した内線にダイヤル転送ができます。
システム管理電話機	システム全体(自テナント)に関連する操作が可能な内線電話機。 システム管理電話機からサービスメニューで、電話機をシステム管理電話機に設定できます。また、システム管理電話機を一般ユーザ電話機に変更できます。
自動選局	入力したダイヤルを分析して、発信できる外線を自動的に捕捉して発信する機能。
集中受付装置(DSS)	オートダイヤルボタンを増やすための装置。
専用線	企業で独占的に借りている回線のこと。
側音	受話器で通話中に自分の話した声が受話側に返ってくる音のこと。側音があることで、エコーを和らげる効果があります。
た	
チェンジオーバー	現在の通話相手(取次ぎ先)と保留中の相手(電話をかけてきた人)と交互に切り替えて話すことができる機能。
着信形式、 着信方式、 着信種別	外線からの着信に対して、どのような着信方法で着信させるかを指定した設定データ。 着信形式には、一般着信、DGL/MSA 着信、DIL 着信、着番号 DID、付加番号 DID、着信代行、i・ナンバー、発番号 DID、モデムダイヤルインなどがあります。 着番号 DID の場合は着番号ごとに着信形式を指定します。
ですく deRSS	RSS サイトより RSS コンテンツ(新聞見出しなど)を取得して、多機能電話機のディスプレイにスクロールして表示する機能。
テナント	電話機を運用する単位(例えば組織、店舗)で分けたグループのこと。 テナントに従うサービス:発信可能外線、着信可能外線、昼夜切替、祝祭日、留守番、自動外線転送(転送電話)
テナントグループ	複数のテナントをグループ化して、大きな運用単位を形成したグループのこと。 テナントグループに従うサービス:着信履歴、迷惑電話拒否、発信禁止番号
電話帳グループ	電話機に内蔵されている電話帳は、グループ 0 ~ グループ 15 の 16 のグループに分けることができます。 電話帳をグループ分けして、用途の違う使いかたができます。 参照:第 1 章の「電話帳グループ」(➡ P.26)
特定日	テナントごとに運用によって休日と平日を設定できるもの。例えば会社の創立記念日や部門ごとに変動する夏季休暇などを休日として特定日設定できます。

な	<p>特番 電話機から機能を指定する番号のこと。例えば、外線に発信する場合に一般的にダイヤルされる 0 も特番に相当します。内線番号も特番で指定します。 参照: 「A-2 特番一覧」(▶ P.166)</p> <p>特番展開 番号種別の一種。サービスメニューや Web 設定の操作で番号を入力するとき、種別が「特番展開」になっている場合は、通常、特番を含めて番号を入力します。</p>
は	<p>内線グループ 内線代表や内線音声呼出などで使用するグループ。テナントとは別のグループを設定します。</p> <p>内線メールボックス 内線にくくりつけられたメールボックス。メールボックス番号は内線番号と同じです(▶ 共通メールボックス)。代行時のメールボックスになります。また通話録音した場合のデフォルトのメールボックスになります。 参照: 第 5 章の「ボイスメールのシステム概要」(▶ P.122)</p> <p>ネスティング 電話帳の中に、別の電話帳番号を登録できる機能(主装置に保存されている電話帳の機能です)。</p> <p>乗り換え、外線乗り換え 現在通話中の呼を切断して、別の呼に乗り換える機能。 利用シーン: 外線と通話中に外線からの着信があり、現在の通話を終了して着信に応答しようとした場合、着信している外線ボタンを押すことで現在の通話を切断して、着信に応答できます。受話器をわざわざ戻す必要がありません。</p>
は	<p>ハウラ音 受話器を上げたまま放置した場合に受話器外れ状態を警告するために、受話器から送出される大きな音。</p> <p>パークシーケンス番号 パーク保留する際にパークボタンの番号をテナントごとに指定した番号。テナントが異なれば、同じシーケンス番号が指定できます。 利用シーン: テナント 1 でパークトランク 001、002、003 を使用しそれぞれパークシーケンス番号を 000、001、002 とします。テナント 2 でパークトランク 004、005、006 を使用し、それぞれのパークシーケンス番号を 000、001、002 に割り当てます。テナント 1 でもテナント 2 でもパークシーケンス保留特番 +000 の操作でテナント 1 ではパークトランク 001 にテナント 2 ではパークトランク 004 に保留できます。</p> <p>パークトランク番号 システム全体のパーク保留(パークボタンに保留された呼)を識別する番号。この番号で、保留をトランク(回線)と同じように見立てて管理します。</p> <p>発番号通知、外線発番号通知 ISDN 外線に発番号を通知するかどうかを指定するデータ設定。「通知可」「不可」「網契約に従う」の 3 つの設定があります。「網契約に従う」(電話会社との契約に従う)の場合は、電話会社との契約に従った発番号(通知する / しない)を電話網が付けてくれます。</p> <p>番号種別 オートダイヤルや電話帳に登録した番号がどんな番号であるかを、区別するもの。主装置に保存される電話帳の場合は、番号の登録と一緒に登録します。 例えば 123456 と登録された番号が市内番号なのか、専用線の番号なのか、PBX の内線の番号なのかは番号だけでは識別できないので、それを識別するために使用するものです。</p> <p>秘話解除 秘話モードを解除すること。電話機は通常 1 対 1 の通話で、他人が聞くことができない秘話モードになっています。これを解除することで、3 人以上で通話ができるようになります(多者通話)。 会議参加(最大 4 者)、または通話中に別の相手にダイヤルして会議通話(最大 4 者)を行うときに使用します。 参照: 第 4 章の「外線通話中に他者を割り込ませる(外線秘話解除)」(▶ P.94)</p> <p>プリセット 外線を捕捉してから発信するのではなく、あらかじめ番号を入力して番号がそろった所で発信する発信方法のこと。携帯電話での発信方法がこれにあたります。</p> <p>閉番号 専用線で複数のシステムを接続した場合、直接内線番号をダイヤルするだけで、他システムの内線に接続することができる番号です。</p>

ボイスメール(機能)	相手のメールボックスに電話で音声のメッセージを送ることができる機能。 Eメールのように相手が不在のときもメッセージを送っておくこと(留守番機能、代行機能)や、一度に複数の人にメッセージを送ることもできます。その他にも、通話を録音したり(通話録音)、外出先から自分のメールボックスを確認する(留守リモコン)など便利な機能があります。
ボイスワープ	NTT アナログ /INS 外線の付加サービスの 1 つ。転送電話機能のこと。
方路(方路番号)	同一の網に接続された外線の束をグループ化したもの。このグループを方路といい、グループ番号を方路番号といいます。 設定例: NTT 外線を方路 0、PBX 外線を方路 1、専用線を方路 2 とすることで、方路選局発信で NTT や PBX や専用線を区別して発信できます。
保留警報状態	保留状態(システム保留、パーク保留、自己保留、一時保留)が設定時間以上続いて、保留警告音が鳴っている状態。
ま	
メールボックス用電話帳	電話帳の一部で、メールボックスを登録した電話帳グループのこと。通話録音などの録音先の指定として使用します。 利用シーン: コールセンター業務で通話録音する際に、その録音内容を残すメールボックス(担当部署の指定のために)を電話帳から選択して指定します。
モード	機能の有効 / 無効を操作によって切り替えたときの状態のこと。 例えば不在モードとは不在状態になっている状態を示します。
や	
呼出音	電話をかけたときに自分に聞こえる呼び出し音のこと。 リングバックトーン(RBT: Ring Back Tone)
ら	
留守リモコン	外線から留守モードの設定 / 解除や留守録音された用件の再生 / 消去ができる機能。 参照: 第 3 章の「外出先から留守番電話機能を利用する(留守リモコン)」(→ P.81)

A-2 特番一覧

特番サービスを利用すると、オートダイヤルボタンのない電話機でも、以下のような機能を行うことができます。特番は 1 ～ 3 桁の番号で設定されています。

工事設定

特番の初期値が設定されていない機能を利用する場合や、すでに設定されている特番の初期値を変更する場合には、工事設定が必要になります。詳しくは販売店にご相談ください。

呼種別 No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
01	内線番号	S タイプ主装置： 10～39[2 桁] M タイプ主装置： 200～499[3 桁] L タイプ主装置： 2000～4999[4 桁]	内線番号桁数(1～4)	—
02	閉番号	—	方路番号(0～63)、 閉番号桁数(1～11)	—
03	拡張内線番号	—	拡張内線番号桁数(1～4)	—
04	共通メールボックス番号 (※)	S タイプ主装置： 50～59(2 桁) M/L タイプ主装置： 80～89(2 桁)	共通 MBX 番号桁数(1～8)	—
08	迂回閉番号	—	閉番号桁数(1～4)、 迂回グループ番号(0～29)	—
09	迂回方路選局	—	迂回グループ番号(0～29)	—
10	方路選局	—	方路番号(0～63)	—
11	固定選局	—	回線種別(1～3) 1:VoIP、 2:ひかり、 3:PHS	—
12	自動選局	0	—	—
13	指定外線捕捉	S タイプ主装置： 83 M/L タイプ主装置： 13	—	外線番号 / 専用線番号 (01～99、001～192)
14	指定 MSA 捕捉	—	MSA グループ番号 (00～99、000～254)、 または MSA シーケンス番号 (0～254)	—
15	リダイヤル	S タイプ主装置： 80 M/L タイプ主装置： 10	—	—
16	共通電話帳	6	—	電話帳メモリ番号 (0000～9999)
17	個別電話帳	—	—	電話帳メモリ番号 (0000～9999)
19	パークシーケンス保留 / 応答	—	—	パークシーケンス番号 (000～127)

呼種別 No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
20	パーク保留 / 応答	S タイプ主装置: 84 M/L タイプ主装置: 14	—	パークトランク番号 (000 ~ 127)
21	代理応答	S タイプ主装置: 81 (全て) M/L タイプ主装置: 11 (全て)	0:全て、 1:内線のみ、 2:内線 + 専用線、 3:外線のみ	—
22	任意パーク保留	—	—	—
23	グループ指定代理応答	9 * (全て)	0:全て、 1:内線のみ、 2:内線 + 専用線、 3:外線のみ	代理応答グループ番号 (00 ~ 99)、 * (全グループ)、 # (自分の所属するグループ 内)
24	集中着信	—	—	0:解除 1:登録
25	不在	—	—	不在理由を以下から選択。 0:解除、1:外出中、2:会議中、 3:来客中、4:食事中、 5:出張中、6:休暇中、 7:帰宅、8:直帰、 9:直行直帰
26	FAX 転送	99	—	—
27	DGL 呼数制限	—	—	0:解除、1:登録 + DGL グループ番号 (00 ~ 99、000 ~ 254)
28	最終保留応答	* 2	—	—
30	トーンオーバーライド (※)	—	—	—
31	フックフラッシュ送出	—	—	—
32	会議	—	—	—
33	内線割り込み通話	—	—	内線番号
35	内線予約	—	—	—
36	パークシーケンス保留	—	—	パークシーケンス番号 (000 ~ 127)
37	パーク保留	—	—	パークトランク番号 (000 ~ 127)
39	緊急一斉呼出	—	—	—
40	内線グループ音声呼出	* 0 (外部スピーカ無し)	0:外部スピーカ無し 1~6:外部スピーカ 1~6 7:全外部スピーカ	* (全グループ)、 内線グループ番号(000 ~ 127)
42	内線グループ音声呼出応答	# 0	—	* (全グループ)、 内線グループ番号(000 ~ 127)
43	外部スピーカ呼出	* 9	—	外部スピーカ番号 0:一斉(全スピーカ)、 M/L タイプ主装置の場合: 1~6、 S タイプ主装置の場合: 1~2
44	外部スピーカ応答	# 9	—	外部スピーカ番号 0:一斉(全スピーカ)、 M/L タイプ主装置の場合: 1~6、 S タイプ主装置の場合: 1~2

呼種別 No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
45	DGL グループ呼出	—	—	DGL グループ番号 (00 ~ 99、000 ~ 254)
46	メールアクセス	91	—	—
47	ドアホンアクセス	98	—	ドアホン番号 0:一斉(全ドアホン)、 M/L タイプ主装置の場合: 1 ~ 9、 S タイプ主装置の場合: 1 ~ 3
48	MSA グループ呼出(※)	—	—	MSA グループ番号 (00 ~ 99、000 ~ 254)
74	転送リモコン(※)	92	—	—
75	留守リモコン(※)	93	—	—
77	自動録音	—	—	自動録音モード 0:解除、1:設定
81	不在転送登録	—	—	着信回線種別 0:一括登録 1:内線着信 2:外線着信 3:専用線着信 4:発番号別 ※着信回線種別のあと、転送先 を入力。詳細は、第3章の「不 在転送先を設定する(不在転 送設定)」(➡P.73)を参照。

- (※)を付けた特番以外は、内線捕捉中に使用できる特番です。
- 共通メールボックス番号特番は、メールボックス指定時にのみ使用できます。
- トーンオーバーライド特番は、話中音(ビジートーン)が聞こえているときに使用できます。
- 内線番号特番、内線割り込み通話特番、内線予約特番は、内線捕捉中のほか、話中音(ビジートーン)が聞こえているときにも使用できます。
- 転送リモコンと留守リモコンは、SIP 専用線での付加番号 DID 着信時は無効な特番です。

A-3 各種機能の初期設定値

ここでは、特番サービスやオートダイヤルボタン以外の初期設定について、一覧でまとめて記載します。

機能名	初期設定値	操作説明の記載箇所
内線個別呼出 (音声 / 信号)	トーン(信号)呼出	第2章の「内線番号をダイヤルしてかける(内線個別呼出(音声/信号))」 (▶ P.37)
ダイヤル転送	オンフックでの転送が不可	第2章の「転送先と通話してから転送する(ダイヤル転送)」(▶ P.48)
転送中着信鳴動	鳴動しない	第3章の「外線自動転送の設定」(▶ P.69)
昼夜モードの 切替設定	自動優先	第3章の「時間帯により着信形式を切り替える(夜間モード切替)」(▶ P.86)
通話録音保留応 答時の MBX 切 替指定	保留前の録音先メール ボックス	第5章の「通話録音(通話メモ)」(▶ P.140)

■ メールボックスの録音メッセージの状況と着信ランプのつきかた

メールボックスの 録音メッセージの状況	着信ランプのつきかた(初期設定)
録音メッセージあり (新規メッセージあり)	点灯
録音メッセージあり (新規メッセージなし)	消灯
録音メッセージなし	消灯

■ ボイスメールシステムの動作条件([ボイスメール属性]メニュー)

番号	項目	設定範囲	初期値
1	自動再生指定	自動再生する / 自動再生しない	自動再生しない
2	自動消去指定	自動消去する / 自動保存する	自動保存する
3	再生順序指定	新しい順 / 古い順	新しい順
4	連続再生指定	連続再生する / 連続再生しない	連続再生しない
5	メッセージ録音最大時間	1 ~ 255 分	6 分
6	メッセージ録音最小時間	3 ~ 255 秒	3 秒
7	メッセージ再生スキップタイマ	5 ~ 60 秒	10 秒

操作説明の記載箇所: 第5章の「ボイスメールシステムの動作条件を設定する」(▶ P.153)

A-4 機能特番の一覧

 (機能)を押したあとに、番号をダイヤルすることにより、各サービスを実行することができます。これを機能特番と呼びます。機能特番の番号は固定です。

通常の特番サービス(➡P.166)とは違い、 (機能)を押して操作するため、通話中でも入力が可能です。また、機能特番を入力している途中で (機能)を押すと、機能特番の入力のキャンセルができます。

機能特番は、オートダイヤルボタンに (機能)を割り付けることにより操作できます。また、オートダイヤルボタンにワンタッチダイヤルとして機能特番を登録することにより、ワンタッチボタンを押すだけで実行することができます。ただし、機能特番には、ワンタッチボタンを押したあと確認画面が表示されるものもあります。その場合は、必要な操作を行ったあと、 (機能)を押して実行することができます。

MEMO

機能特番を利用するときは、あらかじめオートダイヤルボタンに (機能)を登録しておきます。登録方法については、第1章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(➡P.24)を参照してください。

機能特番の一覧は以下のとおりです。

機能特番の番号	機能名称	説明と参照先	備考
0	キーパッドファシリティ切替	キーパッドファシリティ送付モードをオンにすると、ISDN 回線通話中からのダイヤルをキーパッドファシリティとして送付することができます。 参照: 第4章の「迷惑電話お断りサービスを利用する」(➡P.106)	※ ISDN 外線のみ
3	外線捕捉時表示番号の確認	外線との通話中に、この操作を行うと、捕捉している外線の外線捕捉自己番号が電話機のディスプレイに表示されます(外線捕捉自己番号を設定している場合のみ)。	—
60X	ドアロック指定解錠	ドアホン通話中、内線通話中、内線捕捉中にドアロックを開錠することができます。 参照: 第4章の「電気錠を解錠する(ドアロックリリース)」(➡P.115)	機能特番の番号の X には、以下の電気錠番号を入力できます。 M/L タイプ主装置の場合: 1 ~ 9、 S タイプ主装置の場合: 1 ~ 3
84	回線使用制限(外線話中設定)の設定 / 解除	回線を閉塞状態にすることにより、一時的に回線の使用を制限することができます。複数の電話機から同一の外線 / 専用線 / MSA ボタンに対して閉塞の設定 / 解除ができます(その場合はあとの操作を反映します)。 参照: 第4章の「外線 / 専用線からの着信を一時的に制限する(回線使用制限)」(➡P.98)	機能特番を押したあと、閉塞の設定 / 解除する回線のボタンを押します。
87XX または 87XXX	DGL 一時呼数変更	指定した DGL グループの電話機に着信させる呼数を一時的に制限します。 ※この機能特番を登録したワンタッチボタンを押すと、DGL グループ番号を確認する画面が表示されます。実行するには、ダイヤルボタンで DGL グループ番号を入力したあと、  (機能)を押してください。 参照: 第4章の「DGL グループ電話機への着信呼数を制限する(DGL 呼数制限)」(➡P.99)	2 桁モードの場合 XX:00 ~ 99(DGL グループ番号) 3 桁モードの場合 XXX:000 ~ 254(DGL グループ番号)
881X	【W 機能特番】 ・外線自動転送モード ・留守番モード	2つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「外線自動転送モード」と「留守番モード」を一括でセット状態にすることができます。またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 参照: 第3章の「2つの機能を1つの操作で設定できるようにする(W 機能セット)」(➡P.89)	X:1 ~ 4(外線転送1 ~ 4) ※留守番電話機のみ

機能特番の番号	機能名称	説明と参照先	備考
882XY	【W 機能特番】 ・外線自動転送モード ・手動夜間設定	2つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「外線自動転送モード」と「手動夜間設定」を一括でセット状態にすることができます。またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 参照: 第3章の「2つの機能を1つの操作で設定できるようにする(W機能セット)」(⇒P.89)	X:1～4(外線転送1～4) Y:1～5(1:昼間、2:夜間 A-1、3:夜間 A-2、4:夜間 A-3、5:夜間 B)
883X	【W 機能特番】 ・留守番モード ・手動夜間設定	2つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「留守番モード」と「手動夜間設定」を一括でセット状態にすることができます。またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 参照: 第3章の「2つの機能を1つの操作で設定できるようにする(W機能セット)」(⇒P.89)	X:1～5(1:昼間、2:夜間 A-1、3:夜間 A-2、4:夜間 A-3、5:夜間 B) ※留守番電話機のみ
884X	【W 機能特番】 ・外線着信鳴動拒否設定 ・不在設定(不在モード)	2つの機能が登録できる機能特番です。この機能特番を操作することで、「外線着信鳴動拒否設定」と「不在設定(不在モード)」を一括でセット状態にすることができます。またセット状態中に同操作を行うことで、解除状態にすることができます。 参照: 第3章の「2つの機能を1つの操作で設定できるようにする(W機能セット)」(⇒P.89)	X:1～9(不在理由1～9)
98	緊急地震速報キャンセル	主装置に緊急地震速報配信システムを接続することにより、電話機のディスプレイおよび外部スピーカから緊急地震速報を確認することができます。地震速報中にこの操作を行うことで、地震速報の表示とガイダンスをキャンセルして、平常の状態に戻すことができます。 参照: 第4章の「緊急地震速報を受信する(緊急地震速報)」(⇒P.111)	—
99	機能ランプ強制解除(機能セット一括解除)	電話機ごとに設定されている機能のうち、不在モード(不在転送)、外線着信鳴動拒否、子機サイレントを一括して解除できます。 ※この機能特番を登録したワンタッチボタンを押すと、確認画面が表示されます。実行するには、  (機能)を押してください。	※ SIP 電話機以外の電話機

A-5 メロディー一覧

保留メロディー一覧

No.	保留メロディ	作曲者名
1	愛の挨拶	ELGAR EDWARD
2	さくら	森山 直太郎
3	夏を抱きしめて	春畑 道哉
4	秋桜	さだ まさし
5	Everything	松本 俊明
6	花	ORANGE RANGE
7	世界に一つだけの花	槇原 敬之
8	ニューヨーク・シティ・セレナーデ	ALLEN PETER W
9	組曲「惑星」の木星	Gustav Holst
10	カノン	Johann Pachelbel
11	ユーザーメロディ 1	—
12	ユーザーメロディ 2	—
13	ユーザーメロディ 3	—
14	ユーザーメロディ 4	—

MEMO

ここに記載している保留メロディは、システムに登録できるメロディです。

- IP 多機能電話機が保留されたときは、「嘆きのセレナーデ」が流れます。
- IP 多機能電話機が保留した相手には、システム(主装置)に登録されている保留音が流れます。

A-6 オートダイヤルボタン機能一覧表

各電話機のオートダイヤルボタンに割り付けできる機能(機能種別番号と機能名)および付加情報は、以下のとおりです。

機能種別 No	機能名	機能種別 No	機能名	機能種別 No	機能名
01	リダイヤル	27	用件操作	53	メールボックス
03	代理応答	28	ワン留守	55	集中着信
04	指定代理応答	29	通話録音	59	DGL 呼数制限
05	夜間切替	30	メールアクセス	60	機能
06	クラス切替	31	録音終了	62	W 機能(外線自動転送&留守録)
08	自己保留	32	一時停止	63	W 機能(外線自動転送&手動夜間設定)
09	着信ウェイト	33	録音転送 ※ 1	64	W 機能(留守番&手動夜間設定)
10	留守番	34	停電	65	W 機能(着信鳴動拒否&不在モード)
12	不在	36	着信拒否	66	外線 / 専用線
13	通話表示	37	コメント	67	ドアホン
14	会議	38	外線転送	68	DGL
15	内線予約	39	FAX	69	MSA
16	通話モニタ	42	MFP	70	方路発信
17	PB 信号	43	消耗品	71	応答
18	キーパッド	45	緊急一斉呼出	72	パーク
21	発信	47	サイレント		
24	録音通知	51	ワンタッチボタン		
26	着信表示	52	DSS		

※ 1 M/L タイプのみ割付可能

機能種別 No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
01	リダイヤル	—	—	—	—	—
02	—	—	—	—	—	—
03	代理応答	応答種別	全て 内線のみ 内線 + 専用線 外線のみ	—	—	代理応答グループ内の着信を代理応答
04	指定代理応答	応答種別	全て 内線のみ 内線 + 専用線 外線のみ	—	—	指定した代理応答グループ内の着信を代理応答(本ボタンを押したあとにグループ番号をダイヤル)
05	夜間切替	テナント番号	00 ~ 99	ワンタッチ切替	なし 夜間 A-1 夜間 A-2 夜間 A-3 夜間 B	—
06	クラス切替	—	—	—	—	—
07	—	—	—	—	—	—
08	自己保留	動作指定	乗り換え チェンジオーバー	—	—	初期設定で割付済

機能種別 No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
09	着信ウェイト	—	—	—	—	—
10	留守番	テナント番号	00 ~ 99	留守番動作指定	設定に従う ユーザ選択方式	—
11	—	—	—	—	—	—
12	不在	—	—	—	—	—
13	通話表示	—	—	—	—	—
14	会議	—	—	—	—	—
15	内線予約	—	—	—	—	—
16	通話モニタ	—	—	—	—	—
17	PB 信号	—	—	—	—	—
18	キーパッド	—	—	—	—	—
19	—	—	—	—	—	—
20	—	—	—	—	—	—
21	発信	—	—	—	—	—
22	—	—	—	—	—	—
23	—	—	—	—	—	—
24	録音通知	—	—	—	—	—
25	—	—	—	—	—	—
26	着信表示	—	—	—	—	—
27	用件操作	操作種別	前のメッセージ 次のメッセージ 頭出し 保存 消去 一時停止 早送り 巻戻し メッセージ転送	メールボックス 番号(1 ~ 4桁) ※付加情報 1 が 「メッセージ 転送」の場合 のみ設定	0000 ~ 9999	
28	ワン留守	—	—	—	—	ワンショット留守 番機能を起動する
29	通話録音	—	—	—	—	通話録音を開始す る。通話録音中に 押すと通話録音を 取り消す。
30	メールアクセス	—	—	—	—	メールアクセスする
31	録音終了	—	—	—	—	通話録音を終了する
32	一時停止	—	—	—	—	通話メモ録音を一 時停止する
33	録音転送	—	—	—	—	録音転送を実施する
34	停電	—	—	—	—	—
35	—	—	—	—	—	—
36	着信拒否	—	—	—	—	—
37	コメント	コメント番号	01 ~ 50	—	—	録音中に押すこと で録音メッセージ にタイトルかコメ ントを登録可能
38	外線転送	外線転送モード	1 ~ 4	テナント番号	00 ~ 99	—
39	FAX	FAX 番号(FAX1/ FAX2)	1、2	—	—	FAX への着信の有 無を表示

機能種別 No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
40	—	—	—	—	—	—
41	—	—	—	—	—	—
42	MFP	プリンタ No	01 ~ 30: プリンタ番号	—	—	プリンタ複合機 (MFP)の現在の状態を表示する
43	消耗品	プリンタ No	00:全プリンタ 01 ~ 30: プリンタ番号	—	—	プリンタ複合機 (MFP)の消耗品情報を表示する
44	—	—	—	—	—	—
45	緊急一斉呼出	—	—	—	—	—
46	—	—	—	—	—	—
47	サイレント	—	—	—	—	—
48	—	—	—	—	—	—
49	—	—	—	—	—	—
50	—	—	—	—	—	—
51	ワンタッチボタン	ダイヤル情報最大 32 桁(*) ※ネスティング入力可		(番号種別)	—	—
52	DSS	内線番号最大 4 桁	0000 ~ 9999	—	—	—
53	メールボックス	共通内線番号 (1 ~ 4 桁)	0000 ~ 9999	表示種別	詳細 一覧	メールアクセスする (クイックログオン) メールアクセス / クイックメッセージ録音でメールボックス番号を指定する
54	—	—	—	—	—	—
55	集中着信	—	—	—	—	—
56	—	—	—	—	—	—
57	—	—	—	—	—	—
58	—	—	—	—	—	—
59	DGL 呼数制限	DGL グループ番号	00 ~ 99/ 000 ~ 254	—	—	—
60	機能	—	—	—	—	—
61	—	—	—	—	—	—
62	W 機能 (外線自動転送 & 留守録)	外線転送モード	1 ~ 4	—	—	—
63	W 機能 (外線自動転送 & 手動夜間設定)	外線転送モード	1 ~ 4	夜間モード	夜間 A-1 夜間 A-2 夜間 A-3 夜間 B	—
64	W 機能 (留守番 & 手動夜間設定)	夜間モード	夜間 A-1 夜間 A-2 夜間 A-3 夜間 B	—	—	—
65	W 機能 (着信鳴動拒否 & 不在モード)	不在理由	1 ~ 9	—	—	—

機能種別 No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
66	外線 / 専用線	外線番号(回線 / 仮想 SC)	01.00 ~ 24.99 / 40.00 ~ 41.99	—	—	販売店による工事設定のみ可能。 外線ボタンは、初期設定で割付済
67	ドアホン	ドアホン番号	1 ~ 9(M/L タイプ主装置の場合)、 1 ~ 3(S タイプ主装置の場合)	—	—	販売店による工事設定のみ可能
68	DGL	DGL グループ番号	000 ~ 254	—	—	販売店による工事設定のみ可能
69	MSA	MSA グループ番号	000 ~ 254	シーケンス番号	000 ~ 254	販売店による工事設定のみ可能
70	方路発信	方路番号	00 ~ 63	—	—	販売店による工事設定のみ可能
71	応答	方路指定	指定無し 指定有り	(方路指定有りのときだけ) 方路番号	00 ~ 63	販売店による工事設定のみ可能
72	パーク	パーク番号	000 ~ 127	—	—	パーク保留 / 保留応答する。 販売店による工事設定のみ可能。
73	—	—	—	—	—	—
74	—	—	—	—	—	—
75	—	—	—	—	—	—

付録 B

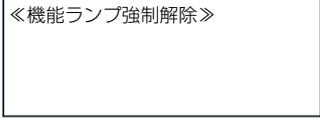
B-1 故障かな？とお考えになる前に	178
--------------------------	-----

B-1 故障かな？とお考えになる前に

こんなとき	お確かめください
すべての電話機の表示が消えている。 またはランプが点灯しない。	主装置の電源プラグが電源コンセントから抜けていませんか。
電話機の表示が消えている。 またはランプが点灯しない。	電源供給は正常ですか。ACアダプタの差し込み、または給電 HUB からの LAN ケーブルの差し込みを確認してください。
電話機の表示が消えている。 または黒く表示されている。	<ul style="list-style-type: none"> ● コントラストがかすれていませんか。 ● コントラスト調整を行ってください (➡ P.13)。
電話機の  (機能) のランプが消えなくなった。	誤って機能が登録されている可能性があります。機能セット一括解除の操作を行って解除してください(➡次項「機能ランプをリセットするには」)。

機能ランプをリセットするには

外線着信鳴動拒否、不在設定、不在転送などの設定で、機能ランプが点灯したままになることがあります。そのような場合は、機能ランプのリセットを行ってください。
機能ランプをリセットすると、各電話機に設定されている外線着信鳴動拒否、不在設定、不在転送のすべてが解除されます。
機能ランプをリセットするには、機能特番「機能セット一括解除」を利用します。機能特番については、「A-4 機能特番の一覧」(➡ P.170)を参照してください。

- 1  (機能) を押す
待受状態で使用します。
 (機能) ランプは点灯(赤)します。
- 2   を押す

 (機能) ランプが点滅(赤)します。

- 3  (機能) を押す

 (機能) ランプが消灯します。
しばらくすると、待受画面に戻ります。

MEMO

- この機能を使用する前に、あらかじめ  (機能) を  に登録しておきます。登録方法は、第 1 章の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」(➡ P.24)を参照してください。
-  (ワンタッチボタン) にワンタッチダイヤルとして機能特番 99 を登録することにより、ワンタッチボタンを押すだけで実行することができます。

索引

D

DGL 一時呼数変更機能特番	99
DGL グループ呼出特番	59
DGL 呼数制限	99
DGL 着信	62
DIL/DID 着信	41

F

FAX 着信お知らせ	90
------------	----

I

INS ナンバーディスプレイ	103
INS ボイスワープ	103
INS ボイスワープセレクト	103
IP 電話サービス	107
i・ナンバー	79, 81, 105

L

LAN インターフェース	108
LCD コントラストの調整	13
LCD バックライトタイマの調節	14
LCD バックライトの色の設定	14

M

MSA 着信	62
--------	----

P

PB エンド・ツー・エンド通信	67
PB 信号手動切替	67
[PB 信号] ボタン	67

S

SIP 専用線	109
---------	-----

V

VoIP 外線	107
---------	-----

W

WAN インターフェース	108
Web 設定	119
W 機能セット	89
[W 機能] ボタン	89

い

一般系無応答転送	76
一般ユーザ電話機	7
インターネット機能	111

お

応答ボタン	2, 77
オートダイヤルボタン	
機能や番号を割り付ける	24
オートダイヤルボタン機能一覧表	173
オートポーズ	110
オートリピート	54
音の種類一覧	7
オフフック外線自動応答	40
オフフック自動外線捕捉	32
オフフック自動ダイヤル	52
オフフック自動ダイヤル開始タイマ	52
音声呼出	42
オンフックダイヤル	52

か

会議通話	93
[会議] ボタン	93, 94
外線自動転送	69
設定項目	70
転送モードを自動で ON/OFF する	71
転送モードを手動で ON/OFF する	71
回線使用制限	98
回線使用制限機能特番	98
外線着信代行の設定	139
外線着信鳴動拒否	99
外線転送メール送信	111
外線に転送する	64
外線秘話解除	94
外線別個別着信(DIL)	41
外線別着信音種	61
外部音源との接続	117
外部スピーカ応答特番	113
外部スピーカ呼出特番	113
確認特番	106

き

キー操作音の切替	12
キーパッドファシリティ切替機能特番	106
機能特番の一覧	170
[機能] ボタン	24, 98, 170
キャッチホン	101
キャッチホンサービス	67
強制転送	49
強制転送警報	49
緊急地震速報	111
緊急ダイヤル発信	56

く

クイックメッセージ録音	154
クイックログオン	148
クリアボタン	35
グループ指定代理応答	43
グループ指定代理応答特番	43

こ

公一公接続	64
口頭転送	47
構内放送装置との接続	113
構内放送呼出応答	113
コールウェイティング	96
コールスピーカとの接続	117
コールピックアップ	43
故障かな？とお考えになる前に	178
コメント登録	142, 158
[コメント] ボタン	142, 158
コントラストの調整	13

さ

最終保留応答特番	45, 46
在宅モード	134
[サイレント] ボタン	99

し

自己保留	46
システムカレンダー	88
タイム連動設定	88
システム管理電話機	7
システム保留 / パーク保留	45
指定外線捕捉	53
指定外線捕捉特番	53
自動選局特番	32, 52
自動選局発信	32
自動通話録音	143

自動転送	68
自動録音特番	143
集中着信	87
集中着信特番	87
手動転送	47
受話音量調節	10
状態表示盤(MBD)との接続	112

す

スピーカ音量の調節	11
スピーカ受話	66
スピーカボタン	102, 103, 104, 106

せ

セレクトボタン	18, 35
---------	--------

そ

操作早見表	185
送話ミュート	66
側音量	12

た

代行機能	68, 137
タイマ連動機能	88
ダイヤル転送	48
代理応答(コールピックアップ)	43
代理応答特番	43
[代理応答] ボタン	43
多者通話	93

ち

チェンジオーバー	50
着サブ DID	79, 81
着信ウェイトガイダンス	77
[着信ウェイト] ボタン	77
着信ウェイトメッセージ	77
着信音量の調節	11
[着信拒否] ボタン	92
着信音色の選択	13
着番号 DID	41
昼夜モード	86
長時間保留警報	45

つ

通話モニタ	95
通話録音	140
通話録音(通話メモ)	140
[通話録音] ボタン	140, 141

て

ディスプレイ	
コントラストの調整	13
バックライトタイマの調節	14
バックライトの色の設定	14
ディスプレイ画面の例	5
ディスプレイの見かた	4
停電時の対応	118
転送開始特番	102
転送先ガイダンス	68
転送先種別	78
転送中着信鳴動	70, 169
転送停止特番	102
転送特番	103
転送元ガイダンス	68
転送元電話番号受信サービス	105
転送リモコン	79
転送リモコン特番	79
電話機独自機能	
LCD 濃度切替	13
キー操作音	12
受話音量	10
側音	12
着信音量	11
着信履歴	36, 39, 55
電話帳の登録	26
バックライトタイマ切替	14
バックライトベース色切替	14
発信履歴	36, 39, 55
ヘッドセット切替	116
メニュー項目	16
メニューを操作するボタンの使いかた	15
電話機の角度調節	8
電話帳	
削除する	29
電話番号を入力して登録する	27
登録できる項目	26
編集・削除	29
編集する	29
電話帳グループ	26
電話帳発信	35

と

ドアホン	114
ドアホン着信応答	114
ドアホン名称設定	114
ドアホンモニタ	115

ドアロック指定解錠機能特番	115
ドアロックリリース	115
トーンオーバーライド	97
トーンオーバーライド特番	97
特定日	88
特番一覧	166

な

内線 DGL 呼出	59
内線オートリピート	60
内線キャンプオン	60
内線(キャンプオン)ボタン	48, 50, 55, 63, 67, 101
内線グループ音声呼出	58
内線グループ音声呼出応答特番	58
内線グループ音声呼出特番	58
内線個別呼出(音声/信号)	37
内線に転送する	63
内線発信履歴	39
内線ハンズフリー応答	42
内線プリセット発信	38
内線名称の登録	25
内線予約特番	60
[内線予約] ボタン	60
内線リダイヤル	38
内線割り込み通話特番	94, 95
内線ワンタッチコール	57
ナンバーディスプレイ	100

に

任意外線着信応答	40
任意外線発信	32

は

バックライトタイマの調節	14
バックライトの色の設定	14
発信禁止番号登録	56
[発信] ボタン	32
発信履歴から電話帳に登録する	28
発番号 DID	79, 81
発番号ダイヤルイン	100
発番号の通知/非通知を切り替える	55
発番号別着信音	100
ハンズフリー通話	65

ひ

ビハインド	110
-------	-----

ふ

ファンクションカバーの取り付け / 取り外し	9
付加番号 DID	41, 84
不在代行の設定	137
不在転送	72
設定項目	74
不在転送先の設定	73
不在転送登録特番	73, 137
フッキング信号	67
フックフラッシュ送	67
プッシュ信号 (PB)	85
プリセットダイヤル	33

へ

ヘッドセット	116
電話を受ける	117
電話をかける	117

ほ

ボイスメール機能	122
ボイスメールシステムの動作条件	153
ボイスワープ	102
方路選局特番	53
方路選局発信	32, 53
ボタン押下音の切替	12
保留音の設定	30
保留機能	44
保留 / 転送操作	63
保留ボタン	2, 33, 38

ま

マイクをオン	42
--------	----

む

無応答代行の設定	139
無応答転送	76

め

鳴動電話機	59, 61, 62
迷惑着信拒否特番	106
迷惑電話お断りサービス	106
迷惑電話番号	92
迷惑電話番号の登録	92
メールアクセス特番	148, 149
[メールアクセス] ボタン	147, 154

メールサービス	146
メールボックス	122
他のメールボックスへ転送する	151
メッセージ再生中にできる操作	152
メッセージにコメントを追加する	142, 158
メッセージの一時停止	152
メッセージの早送り	152
メッセージの巻戻し	152
メッセージを再生する	150
メールボックスにログオン	
外線から利用する	149
内線から利用する	147
メールボックス用電話帳	144
メッセージ外部保存 (自動)	159
メッセージ外部保存 (手動)	159
メッセージ再生スキップタイマ	153
メッセージ録音通知	142, 155

も

文字入力	18
カナの入力	22
漢字の入力	21
修正 / 挿入 / 削除	23
濁点・半濁点の入力	19
ボタン一覧	20
モードの切り替え	18
文字の入力	19
モデムダイヤルイン	41, 79, 81, 101

や

[夜間切替] ボタン	86
夜間モード	86
自動で切り替える	87
手動で切り替える	86

よ

[用件操作] ボタン	150, 152
------------	----------

ら

ランプ表示	6
-------	---

り

リセットコール	57
リダイヤル	33
リダイヤル特番	38
リダイヤルボタン	54, 60
リモートコールバック	85
応答後の電話のかけかた	85
履歴の削除	36, 39
履歴発信	36

る

ルータ機能	108
留守番機能	68, 128
外出先から設定する	135
動作を設定する	132
留守番起動時間	134
留守番モード自動切替	134
[留守番] ボタン	129, 135
留守番モードの解除	130, 131
留守番モードの設定	129, 130
留守番録音用メールボックス	83
留守リモコン	81
留守リモコン特番	81

ろ

録音通知設定	156
録音通知方法	133, 155, 157
[録音通知] ボタン	142

わ

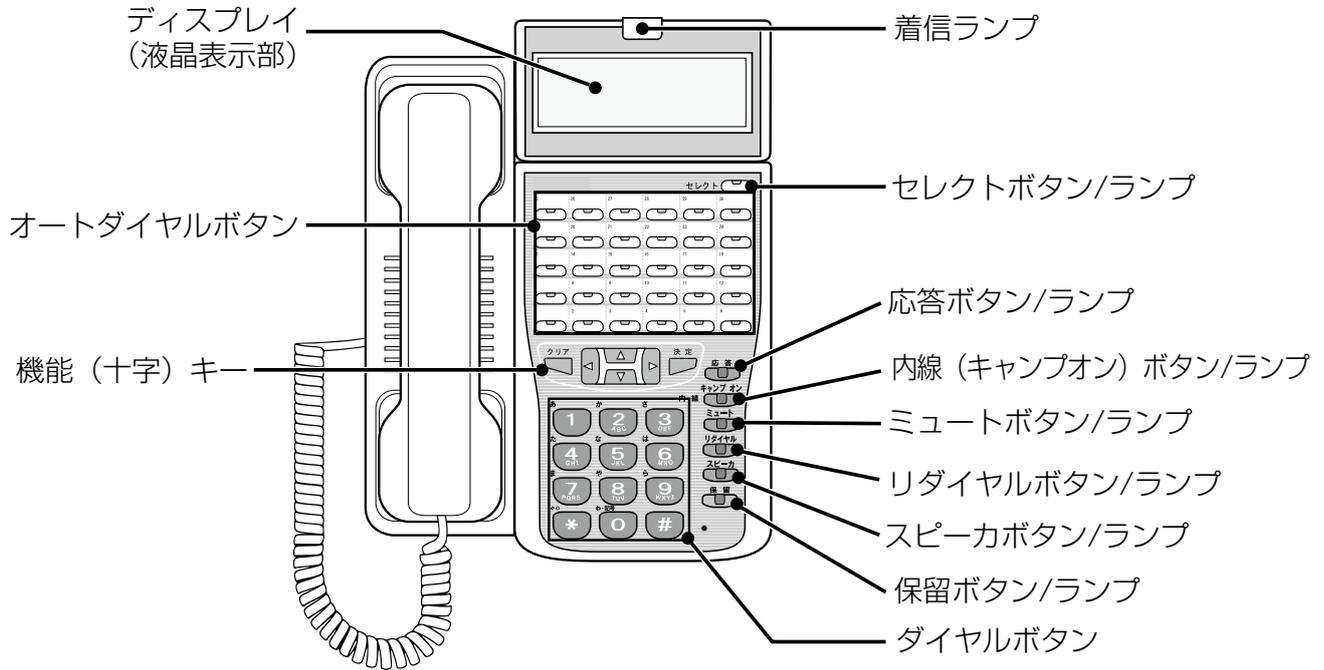
話中代行の設定	139
話中着信音	61
話中転送	78
割込通話	94, 95
ワンショット留守番	136
応答する	136
動作を設定する	136
ワンタッチダイヤル	34
[ワン留守] ボタン	136

操作早見表

電話をかける / 着信を受ける / 転送する / 電話帳登録 / カナ検索についての操作早見表です。
ここでは、以下の電話機の操作早見表を載せています。

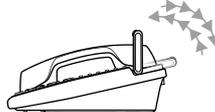
- IP 多機能電話機

●詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



音量の調節	
	▽:音が小さくなる ▲:音が大きくなる
受話音量を調節する	通話中に ▲ ▼ で音量を調節できます。 待受中に調節するには 決定 → 「音設定」 → 決定 → 「受話音量」 → 決定 → ▲ ▼ → 決定
スピーカ受話音量を調節する	スピーカ受話中にスピーカからの音量を ▲ ▼ で調節できます。 待受中に調節するには スピーカ → ▲ ▼ → スピーカ
着信音量を調節する	着信中に ▲ ▼ で音量を調節できます。 待受中に調節するには 決定 → 「音設定」 → 決定 → 「着信音量」 → 決定 → ▲ ▼ → 決定

ボタン / ランプについて	
ミュート 	ハンズフリー通話中に  を押して、マイクのON/OFFを切り替えることができます。 マイクをOFFにすると、  ランプが点灯(赤)して、こちら側からの音声は一時的に聞こえなくなります。

液晶表示部について	
液晶表示部の角度を調節することができます。	
角度を調節する	液晶表示部の角度を 5 段階に調節できます。 
● 液晶表示部の濃度やバックライトの調節については、取扱説明書または電話機に付属のマニュアルを参照してください。	

- 特番をダイヤルする箇所には、[] 欄を設けていますので、実際にご使用になる特番をご記入ください。
- 特番については販売店にお問い合わせください。

外 線		
電話をかける	受話器を取ってかける	 → ランプが消灯している  (外線) または 《自動選局特番 []》 → 電話番号 → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> ●  (ワンタッチボタン) などを押して電話をかけることもできます。
	電話番号を確認してからかける (プリセットダイヤル)	電話番号 → ランプが消灯している  (外線) → 相手の応答する音が聞こえたら  → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> ● 電話番号を間違えたときは  を押して待受状態に戻してから、あらためて入力してください。
	最後にかけた相手にかけ直す (リダイヤル)	 →  → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> ●  (外線) を押してから  を押すと、回線を指定して電話することができます。
電話を受ける		<着信音> →  → 点滅している  (外線) → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> ●  (外線) は初期設定で割り付けられています。 ● オフフック外線自動応答が設定されている場合は、 (外線) を押さなくても通話できます。
保 留	外線を一時的に保留する (一時保留)	保留するとき:  →  → <保留状態> →  → <呼び返し> →  → <通話> 通話に戻るとき:  → <通話>
	他の電話機で取れないように保留する (自己保留)	保留するとき:  (自己保留) →  通話に戻るとき: 点滅している  (自己保留) →  → <通話> <ul style="list-style-type: none"> ●  (自己保留) は初期設定で割り付けられています。保留した自分の電話機でのみ再応答できます。
	システムの中で取れるように保留する (システム保留)	保留するとき:  →  →  通話に戻るとき: 点滅している  (外線) →  → <通話> <ul style="list-style-type: none"> ● システム内の他の電話機から再応答できます。
	パークグループの中だけで取れるように保留する (パーク保留)	保留するとき:  (パーク) →  通話に戻るとき: 保留に使用した  (パーク) →  → <通話> <ul style="list-style-type: none"> ● パークグループ内の他の電話機からも再応答できます。 ●  (パーク) はあらかじめ登録しておく必要があります。 工事設定
転 送	口頭で取り次ぐ	転送する人: <通話中> →  →  → 口頭で呼びかけて用件を伝える 転送を受ける人:  → 点滅している  (外線) または  (パーク) → <通話>
	転送先と通話してから転送する (ダイヤル転送)	転送する人: <通話中> →  → 転送したい人の電話番号 → <通話> →  → 
	一斉・特定のグループを音声で呼び出して転送する	転送する人: <通話中> →  → 《内線グループ音声呼出特番 []》 → 内線グループ番号 → 音声で呼び出す → <内線通話> →  →  (相手が応答した場合) 内線グループ番号:    ~     <ul style="list-style-type: none"> ● グループに所属する内線電話とグループ番号はあらかじめ登録しておきます。 工事設定 ● 初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。 転送を受ける人: <音声呼出> →  → 《内線グループ音声呼出応答特番 []》 → 内線グループ番号 (呼び出されているグループの番号) → <内線通話> → 転送する人が  → <通話>

内線		
電話をかける	内線呼び出す (内線トーン(信号)呼出)	 → 内線番号 → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> 内線番号のあとに (*) を複数回押すたびに、音声での内線呼び出しと着信音での内線呼び出しを交互に切り替えることができます。 受話器を上げると自動的に外線に発信する設定(オフフック自動外線捕捉)を行っている場合、オフフックの前に  を押します。  (内線 DSS) にあらかじめ内線番号を割り付けておくとボタン1つで呼び出すことができます。
	音声で呼び出す (内線音声呼出)	 → 内線番号 → (*) → 呼びかける → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> 内線番号のあとに (*) を複数回押すたびに、音声での内線呼び出しと着信音での内線呼び出しを交互に切り替えることができます。
	内線番号を確認してからかける (プリセットダイヤル)	内線番号 →  → 相手の応答する音が聞こえたら  → <通話> →  <ul style="list-style-type: none"> 電話番号を間違えたときは  を押して待受状態に戻してから、あらためて入力してください。
	最後にかけた相手にかけ直す (リダイヤル)	 →  → <通話> → 
電話を受ける	<着信音または音声(着信ランプ点滅)> →  → <通話> → 	
保留	内線を一時的に保留する (一時保留)	保留するとき: <通話中> →  → <保留状態> →  → <呼び返し> →  → <通話> 通話に戻るとき:
	他の電話機で取れないように保留する (自己保留)	保留するとき: <通話中> →  (自己保留) →  通話に戻るとき: 点滅している  (自己保留) →  → <通話> <ul style="list-style-type: none">  (自己保留) は初期設定で割り付けられています。保留した自分の電話機でのみ再応答できます。
	パークグループの中だけで取れるように保留する (パーク保留)	保留するとき: <通話中> →  (パーク) →  通話に戻るとき: 保留に使用した  (パーク) →  → <通話> <ul style="list-style-type: none"> パークグループ内の他の電話機からも再応答できます。  (パーク) はあらかじめ登録しておく必要があります。 工事設定
転送	口頭で取り次ぐ	転送する人: <通話中> →  または  (パーク) →  → 口頭で呼びかけて用件を伝える 転送を受ける人:  → 点滅している  (パーク) → <通話> <ul style="list-style-type: none">  (パーク) はあらかじめ登録しておく必要があります。 工事設定
	転送先と通話してから転送する (ダイヤル転送)	転送する人: <通話中> →  → 転送したい人の内線番号 → <通話> → 内線  → 
	一斉・特定のグループを音声で呼び出す	 → 《内線グループ音声呼出特番[]》 → 内線グループ番号 → 音声で呼び出す → <内線通話> (相手が応答した場合) →  内線グループ番号: 000 ~ 1 2 7 <ul style="list-style-type: none"> グループに所属する内線電話とグループ番号はあらかじめ登録しておきます。 工事設定 初期設定では、グループ番号 000 には、すべての内線電話が登録されています。
受ける (呼び出しに答える)	 → 《内線グループ音声呼出応答特番[]》 → 内線グループ番号 (呼び出されているグループの番号) → <内線通話> → 	

検索して電話をかける

電話機に保存されている電話帳を検索して電話をかけることができます。

電話帳	1 メインメニューで [電話帳]を選び、 決定を押す	2 で [表示]を選び、 決定を押す	3 で [名前]を選び、 決定を押す	4 検索する名前の フリガナを入力 して決定を押す	5 電話をかける 相手を選び、 決定を押す	6 発信したい電話 番号を表示して、
	メインメニュー >電話帳 通話履歴 音設定	電話帳 登録 >表示	電話帳検索 >名 前 グループ No. メモリ No.	[カナ] 検 索 : 7	検索結果 >青木 青山 浅野	No. 010 GRP00 1/2 青木 1234567890123456

- メインメニューは、待受状態で を押して表示します。待受状態で、 を押すと「電話帳」画面を表示できます。
- 手順6の画面で右上に「1/2」や「1/3」のように表示される場合は、複数の電話番号が登録されています。 で表示を切り替えられます。
- 電話帳に登録されている外線の電話番号に自動選局特番が含まれていない場合は、手順6で の前に《自動選局特番[]》を入力する必要があります。

履歴から電話をかける／履歴を確認する

電話機に保存されている発信履歴から相手を選択して電話をかけることができます。

1 待受状態で を押す	2 で[通話履歴]を 選び、決定を押す	3 で[発信履歴] または[着信履歴]を選び、 決定を押す	4 で対象となる 発信履歴または着信履歴 を表示して、
	メインメニュー 電話帳 >通話履歴 音設定	通話履歴 >発信履歴 着信履歴	発信履歴 10/24 21:10 9876543210

- 待受状態で、 を押しても、発信履歴を表示することができます。 : 着信履歴 : 発信履歴
- 外線に発信する場合は、手順4で の前に、《自動選局特番[]》を押してください。
- 手順4で対象となる発信履歴を表示したあと、 を押すと、電話帳に登録したり、履歴を削除したりできます。

電話番号を登録する

電話機に保存されている発信履歴の電話番号を電話帳(電話機内蔵の電話帳)に登録することができます。

電話帳	1 待受状態で を 押す	2 で、 対象となる履歴を 表示する	3 を押す	4 で、 [電話帳登録]を選び、 決定を押す	5 名前を入力して、 決定を押す
		発信履歴 10/24 21:10 9876543210	発信履歴 10/24 21:10 9876543210	>電話帳登録 この履歴を削除 発信履歴全削除	[漢字] 名 前 : 青木
	6 フリガナを確認 または修正して、 決定を押す	7 表示された履歴の 電話番号を確認/訂正 して、決定を押す	8 グループNO.を入力 して、決定を押す (0~15)	9 メモリNO.を確認 または修正して、 決定を押す	
	[カナ] フリガナ : アオキ	電話番号1 : 9876543210	グループ NO.	メモリ NO. 10	登録しました 登録数 12件 残り 988件

- 文字を入力するとき、 を押すと入力モードを切り替えることができます。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お 買 い 上 げ 日	年 月 日	品 番	
販 売 店 名		電話 ()	-
お 近 く の 販 売 会 社		電話 ()	-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

1417BH | 173-2 | D

4438079400



リチウムイオン電池の
リサイクルに
ご協力ください

この装置は、クラス A 情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合は、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本製品は、外国為替及び外国貿易法で定める規制対象貨物・技術に該当する製品です。
この製品を輸出する場合または国外に持ち出す場合は、日本国政府の輸出許可が必要です。

This product designed for use in Japan is a strategic product regulated under the Japanese Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission from the Japanese Government.

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お 買 い 上 げ 日	年	月	日	品番	
販 売 店 名				電話 ()	-
お 近 く の 販 売 会 社				電話 ()	-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

1300BT 173-2 D